

第二項 關稅制度ノ沿革

第一目 清國時代以前ノ關稅

本島カ末々清國ノ版圖ニ屬セサル以前即チ西曆千六百二十四年(我カ寛永元年明ノ天啓四年)南部臺灣ヲ占領シタル和蘭人カ當時在任ノ支那人、日本人ニ對シ租稅ヲ課スルト同時ニ其ノ輸出入品ニ對シ關稅ヲ賦課セリ而シテ其ノ稅率等ハ詳カナラサルモ之本島ニ於ケル關稅ノ濫觴ナリトス而シテ右關稅ニ對シテハ支那人ハ異議ナク之ニ服從セルモ日本ハ先住者タルノ權利ヲ主張シテ容易ニ之ニ從ハス紛糾ヲ生シ遂ニ日本幕府ノ裁決ヲ仰クニ至レルモ瓜哇バタビヤノ和蘭總領事ハ之カ爲メ延イテ當時獨占的ニ有利ナル地位ニアリシ日蘭貿易ヲ阻碍スルノ不利ナルヲ慮リ遂ニ讓歩シテ調停セル爲メ右關稅ニ對シテハ日本人ノミヲ除外セルコトナリ爾來二十有餘年間本島貿易ノ實權和蘭人ニヨリ掌握セラレタル爲メ依然右關稅ハ存續セラレタルモ其後和蘭人ノ經營宜シキヲ經ス勢威次第ニ衰頽セルニ本國ノ戰禍ヲ避ケテ移住セル明人ノ産業ノ發展ト富強ハ自然和蘭人ノ勢力ヲ驅逐スルニ至リ西曆千六百六十一年明末ノ遺臣鄭成功ノ兵力強制成リ遂ニ和蘭人ハ本島ヨリ退去スルノ不得已ニ至レリ爾後清曆康熙二十二年西曆千六百八十三年鄭氏カ戰敗シテ清軍ニ降り清ノ正朔ヲ奉スルニ至ルマテ二十三年間本島ハ鄭成功其ノ子經其ノ孫克塽ニヨリテ島内諸事業ト共ニ貿易ノ實權モ握ラレ西曆千六百六十四年鄭經ノ代ニ於テハ英國人ニ對シ安平鎮及對岸厦門ノ兩地ニ於テ通商ヲ准スノ條約ヲ締結セルモ島内生産力ノ伴ハサリシ爲メ永續セス中絶シテ清國時代ニ迄ヘリ而シテ鄭氏カ此ノ間和蘭人ノ舊制ニ依リ關稅ヲ徵シタルヤ否ヤハ今日文獻ノ徵スルモノナク不明ナリ

第二目 清國時代ノ關稅

一、開港ニ付テハ既ニ貿易ノ沿革ニ於テ詳述セルヲ以テ再ヒ之ヲ贅セスト雖モ當時ノ關稅規則ノ如何ナルモノナリシ

ヤハ淡港港則(註七一)ニ付キ窺フコトヲ得ヘシ

(註七一) 淡水港則(臺灣稅務史上卷第五〇九頁)

(第一港域)淡水港區域ハサント、ポイントヨリホワイト、フアール迄北方及東方ニ一直線ヲ劃シタル線内ヲ指稱ス

(第二貨物ノ積卸ニ關スル場所)貨物ノ積卸ヲ爲シ得ル場所ハ卑仔頭ノサリウア、ポイントトホワイト、フアールトトノ中間ニ限定セラル

(第三入港報告)船長ハ入港後四十八時間以内ニ船積證書及輸入積荷目録ヲ自國領事ニ提供スヘシ自國領事在ラサルトキハ之ヲ海關ニ提出スヘシ

(第四輸入積荷目録)輸入積荷目録ニハ積載セル貨物ノ詳細ヲ記載シ船卸開始以前之ヲ海關ニ提出スヘシ

(第五貨物積卸ノ時間及場所)貨物ハ日出ヨリ日没迄ノ時ニ於テ陸揚及船積ヲ爲シ得ルノミニシテ日曜又ハ祭日ニハ特許ヲ得ルニアラサレハ之レヲ爲スヲ得ス總テ貨物ハ檢査ヲ受クルカ爲メ海關埠頭ニ運搬スヘシ

(第六貨物ノ陸揚)貨物ノ詳細ヲ支那語及英語ニテ記載シタル申告書ヲ海關ニ提出スヘシ然ルトキハ輸入船舶ヨリ同貨物ヲ荷船ニ移スヘキ免狀ヲ交付セラルヘシ荷物ハ貨物ヲ積入レタル後檢査前ニ課稅セラルル爲メ稅關埠頭ニ運搬セラルヘシ然ルトキハ『海關通知書』ヲ發セラルヘキニ依リ荷受人ハ之ヲ銀行ニ持參シ指定セラレタル稅金ヲ納付シ稅金領收證書ヲ受領シテ之ヲ海關稅金領收課ニ提出スルトキハ『稅金完納命令』ヲ交付セラルヘシ茲ニ於テ輸入貨物ハ海關埠頭ヨリ倉庫ニ運搬シ得ラルヘシ

(第七貨物ノ船積)貨物ヲ輸出セムトスルトキハ輸出人ハ檢査ノ爲メ之ヲ海關埠頭ニ送致シ船積免狀ヲ受クル爲メ支那語及英語ニテ詳細ノ記載ヲ爲シタル申告書ヲ提出スヘシ茲ニ於テ貨物ハ檢査セラレ『海關告知書』ヲ發セラルヘキニ依リ之ヲ海關領收課ニ提出スヘシ然ルトキハ船積ヲ認許セル『稅金完納命令』ヲ發セラルヘシ

(第八船積スル能ハサル貨物)船積免狀ヲ交付セラレタル貨物ト雖モ船積スル能ハサリシ場合ニハ其ノ再陸揚前檢査ヲ受クル爲メ海關埠頭ニ運搬セラルヲ得ス

(第九船移)船移ハ特許ヲ得サレハ之ヲ爲スヲ得ス

(第十輸出積荷目録及出港)海關へ出張ノ爲メ申告ヲ爲サムトスルトキハ先ツ輸出積荷目録ヲ提出スヘシ出港免狀ハ税金納入後交付セラルヘシ

(第十一荷船ノ登録)荷船ハ海關ニ登録スル支那字及英字ニテ明瞭ニ番號ヲ記スヘシ

(注意)海關執務時間ハ午前十時ヨリ午後四時迄トス

海關事務ニ關スル申告ハ海關長宛タルヘシ

二、元來清國ノ稅關ニハ(海關)洋關(Maritime Customs)常關(Native Customs or old Customs)及釐局(Likin Barrier)ノ三種アリ釐局ハ又釐金局トモ稱シ中央政府ニ屬スル常關トハ其ノ趣 異ニシテ各地方ノ長官ノ管轄ニ屬セル内國稅關ノ一種ニシテ内國輸送貨物ノ通過稅ト見ルヘキ性質ノモノニ屬シ現今形式上ハ統一セラレタルコトニナリ居ルモ支那本土各省殆ント獨立セルカノ觀アルモノニシテ之レカ本島ニ初メテ設置モラレタルハ咸豐十一年(西曆千八百六十一年)ナリトス(註七二)

(註七二) 釐金局ハ一八五〇年長髮賊亂ヨリ設ケラレタルモノニシテ現今其ノ數總局七百三十五分局二千餘ヲ超ユ稅率ハ從價百分ノ一ヲ原則トスルモ實際ハ二分ヨリ一割五分ニ至ル其ノ稅ノ名稱モ各省統一ナク貨物稅統捐、百貨統捐、雜貨釐金、產餉稅、百貨釐等ノ名稱アリ

常關(註七三)ハ舊關又ハ舊海關ト稱シ開港場、開市場陸路互市場及其他國內各地方ニ設置セラレ國內輸送ノ貨物並專ラ支那形船ニ依リ輸出セラル、貨物及其ノ船舶ニ對シ課稅スル所ニシテ地方ニ依リテハ或種ノ地方稅及消費稅等ヲモ徵收スルコトアリ本島ハ元來清政府ノ下ニ於テハ福建省ニ隸屬シ同省ノ首府福州ニハ閩海關ト稱スル常關アリシモ本島ハ清國內地ト事情ヲ異ニセルモノアルヲ以テ遂ニ常關ノ開設ヲ見ス其ノ事務ノ一部分ハ之ヲ海防ニ於テ取扱ヘリ海防トハ武力ヲ以テ防衛ノ任ニ當タルニ非スシテ船舶ノ出入ヲ取締リ文武口稅即船稅ヲ徵收スル所ニシテ釐金局ト共ニ島内安平庶港淡水等樞要ノ地ニ設置セラレタルカ如シ

(註七三) 民國四年ヨリ常關ナル統一的名稱ヲ使用セラル北清事變後其ノ最終議定書(International Protocol)ニヨリテ開港場ヲ中心トシテ五十支里(十五哩)ノ半徑ヲ以テ抽キタル圓形内ニ於ケル常關事務ハ海關稅務司ノ管理ノ下ニ置カル左ノ十九ヶ所ナリ

天津、牛莊、芝罘、蕪湖、宜昌、沙市、九江、上海、温州、寧波、三都灣、福州、廈門、汕頭、廣東、梧州、瓊州、北海、江川海關(洋關)ハ舊關又ハ舊海關ニ關シ新關(New Customs)又ハ洋海關(Foreign Customs)ト呼ビ所謂海關ト稱スルモノニシテ開港場及開市場ニ限リ設置セル稅關ニシテ外國輸出入品タルト内國貿易品タルトヲ問ハス西洋形船舶ニ依リ輸送セラル、貨物及其ノ船舶ニ對シ課稅スル所ナリ

(但シ支那形ト雖モ海關稅率ノ下ニ輸出入スヘキ許可ヲ經テ開港間ヲ往來スルモノハ洋關ニ於テ課稅セラル)而シテ本島ニ於ケル洋海關ノ最モ早く設立ヲ見タルハ淡水海關ニシテ即チ同治元年(西曆千八百六十二年)清國總稅務司サー、ロバート、ハート氏之ヲ管轄シ更ニ同氏ニ依リ清國總理衙門ト協議ノ上翌年八月基隆ニ翌同治三年安平及打狗ニ夫々海關ヲ開設セラレタリ

今序ヲ以テ海關ノ組織一斑ヲ述ヘンニ

清國ニ於ケル洋海關ハ總理衙門管下ニ在リテ南北洋大臣ニ隸屬シ其ノ事務ノ監督ハ各省總督巡撫又ハ將軍ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ督撫ノ監督ニ屬スルモノハ概ネ各關所在地ノ海關道、兵備道又ハ分巡、分守道ヲシテ之ニ當ラシメタリ而シテ督撫又ハ將軍カ所管各稅關ノ收入ヲ上奏スルニ當リテハ戶部及總理衙門ニ報告シ其ノ查閱ヲ受クルモノトセリ然ルニ實際ニ於テハ海關事務ハ總稅務司(英國人)統督ノ下ニ各關ノ稅務司之ニ當リ地方ノ監督ハ只其ノ收入ヲ受納スルニ過キス總稅務司ノ權限ハ頗ル重大ニシテ全國海關ノ全權ヲ握リ稅務司以下職員ノ任免黜陟ヲモ委任セラレタリ總稅務司ハ北京ノ總稅務司署ニ在リテ全國ノ海關事務ヲ統轄シ各關ニハ稅務司又ハ副稅務司一人ヲ置キ之カ長タラシメ幫辦、總巡、驗貨以下ノ職員若干ヲ置キ關務ヲ分掌セシメ稅務司以下樞要ノ職員ハ清國ト通商關係アル外國人ヲ以テ任セリ(註七四)

(註七四) 海關ノ管掌事務ハ左ノ如シ

- 一、稅務部(海關本來ノ主要事務ヲ掌ル)
- 輸出稅、沿岸貿易稅、通過稅、船泊噸稅、鴉片稅ノ釐金戻稅ニ關スル事項、船泊貨物ノ取締検査、各種倉庫ニ關スル事項、稅關規則違反者ノ處分ニ關スル事項

二、港務部

港灣水路及航路標識、燈臺、燈船、浮標ニ關スル事項

三、教育部

支那人ニ海關吏員タルニ必要ナル教育ヲ授ケ

四、郵便部

海關固有ノ事務ニ非スト雖モ政府ノ委任ニ依リ全國ノ郵便事務ヲ管理ス

臺灣最初ノ稅務司ハ淡水海關ノ英人ハウエル氏ニシテ米人センク氏之ヲ繼キ打狗初代ノ稅務司ハ英人ウヰリヤム、マクスウエル氏ナリ(註七五)

(註七五) 新開題名錄ニ基キ光緒十八年(西曆千八百九十二年)ノ淡水安平兩海關ノ職員ヲ掲ケテ參考ニ資セ

淡水海關職員

- | | |
|---------------|---------------|
| 稅務司 一人 (米國人) | 四等幫辦 一人 (英國人) |
| 頭等幫辦 一人 (英國人) | 同文供事 一人 (支那人) |
| 供事 一人 (獨逸人) | 書辦 一人 (支那人) |
| 文案 一人 (支那人) | |
| 雜項 一人 (支那人) | |

內事員

- | | |
|----------------|----------------|
| 總巡 一人 (英國人) | 二等驗貨 一人 (米國人) |
| 三等驗貨 一人 (英國人) | 頭等鈴字手 一人 (英國人) |
| 二等鈴字手 一人 (獨逸人) | 三等鈴字手 一人 (英國人) |
| 外 一人 | |

右ノ外清國人及本島人ノ雇傭人若干アリ

臺南 (安平) 海關職員

- | | |
|--------------------|----------------|
| 稅務司 一人 (獨逸人) | 四等幫辦 一人 (英國人) |
| 內事員 頭等幫辦 一人 (伊太利人) | 書辦 一人 (支那人) |
| 同文供事 一人 (支那人) | 三等總巡 一人 (獨逸人) |
| 頭等總巡 一人 (英國人) | 三等驗貨 一人 (獨逸人) |
| 二等驗貨 一人 (英國人) | 三等鈴字手 一人 (獨逸人) |
| 頭等鈴字手 一人 () | 二等鈴字手 一人 () |
| 外 二人 | |

右ノ外清國人及本島人ノ雇傭員若干名アリ

雇傭員ハ通事、書辦、看防、廳差、水手守吏等ナリ

俸給月額ハ稅務司四百五十兩、頭等幫辦二百五十兩、頭等總巡二百兩、二等驗貨百五十兩、三等驗貨八十兩又ハ六十兩、同文供事百二十兩、書辦三十兩ニシテ其ノ他ハ通事ノ六十兩又ハ八十兩ヲ最高トシ水手及守吏ノ各五兩ヲ最低トス

三、清國時代ノ關稅ニ付述ヘムトスルニ當リテハ先ツ之ヲ文武口稅、釐金稅、輸出入稅ニ分ツテ以テ便宜トスヘシ以下順テ述フテ説述ヒム

(一) 文武口稅

本税ハ清朝治下ニ於ケル本島最初ノモノニ屬シ出入船舶ニ對シ賦課セル一種ノ關稅ニシテ清政府カ本島ヲ征服シタル翌年即チ康熙二十四年安平ニ臺防廳ヲ設ケ海防同知ヲ置キ水師汛ト協力シテ出入船舶ノ查察ニ認シ且一定ノ稅ヲ徵セシメタルニ起源シ文口武口ノ二種ニ分レ文口稅ハ臺灣道ノ武口稅ハ水師汛ノ收入ニ歸シタルモノナリ今其ノ規定ノ大要ヲ記サムニ

- 一、凡ソ船舶ノ廈門ヨリ臺灣ニ渡航スルモノニハ泉防廳ヨリ又臺灣ヨリ廈門ニ還航スルモノニハ臺防廳ヨリ各々ノ渡航免狀ヲ下付ス該免狀ニハ舵工、水手ノ年齡、容貌、搭載貨物ノ數量、種目ヲ記載シ船舶出入ノ際之ヲ檢査スルモノトス若免狀記載ノ事實ハ符合セサルモノアルトキハ其ノ出入ヲ許ササルナリ
- 二、臺灣ヨリ支那本土ニ渡航スル船舶ニ倉米六十石以上ヲ積載シ及木材ヲ輸出スルヲ禁シ又支那本土ヨリ臺灣ニ渡航スル船舶ニハ新ニ家族ヲ携帶シテ移住スルモノノ搭載及銃器ノ輸入ヲ禁ス
- 三、臺灣沿海ノ各港ニ通航スル船舶ハ臺灣所屬ノ船舶ニ限リ且其ノ各港ニ於テ出入共ニ該地方官廳ノ檢査ヲ受クヘキモノトス
- 四、支那本土ヨリ臺灣ニ往キ臺灣ヨリ支那本土ニ還リ及臺灣ノ各港ニ出入スル船舶ハ毎回一定ノ稅ヲ納ムヘキモノトス該稅ハ分チテ文口、武口ノ二種トス臺灣道、武口ハ水師汛ノ收入ニ歸ス

右規定ハ清國政府カ當時臺灣ヲ目シテ轉逃ノ巢窟、叛亂ノ策源地ト看做シタル關係上之カ取締ヲ主トシタルノ觀アリ然レトモ逐年發達セル臺支間ノ貿易ハ右規定ヲシテ空文タラシムルニ至リ私ニ禁ヲ犯シテ他港ヨリ本島對岸間ヲ往來スルモノ多キヲ加ヘ到底一海防廳ヲ以テハ查察ノ不可且不利ナルヲ認メ遂ニ乾隆年間ニ庶港八里坌口ニ北路海防及分防ヲ設ケ泉州福州地方トノ交通ヲ許スニ至レリ

(一) 釐金稅

本島ニ於ケル釐金局ハ咸豐十一年(西曆千八百六十一年)始メテ設置セラレタルモノニシテ阿片ヲ以テ抽釐ノ大宗トセリ(註七六)

(註七六) 同治五年ニハ阿片一箱ニ對シ三十二兩ヲ徵シタリ

釐金制度ニ關シテハ吉田茂雄著支那關稅及釐金制度論、高柳松太郎著支那關稅制度論、宮脇賢之介著支那現行關稅制度概論並其通關手續參照

光緒十二年劉銘傳ノ本島ニ巡撫タルヤ臺北ニ釐金總局ヲ設置シ布政使ヲシテ之ヲ監督セシメ淡水安平基隆鹿港艋舺大稻埕等各所ニ三十八分局ヲ設ケ之ト同時ニ從來ノ區々一定セサリシ釐金徵稅法(註七七)ヲ廢シ清國本土ノ制ニ倣ヒ一律ニ釐金章程ニ依ルコトトシ百貨ニ釐金ヲ抽收セリ

(註七七) 輸出品ニ對スル釐金稅ハ茶及樟腦ノ二種ノミニテ輸入貨物ニ對シテハ百擔毎ニ銀二元四角ヲ抽收シ其ノ名稱モ新竹縣ニテハ抽分稅臺南ニテハ大小舢船稅等種々ノ徵稅法アリタリ

而シテ右釐金課稅ノ制カ清國本土ノ夫ト大ニ異ナル所ハ所謂劉銘傳ノ惠商主義ニ依ルモノニシテ即チ貨物ノ出口(輸出)ニ對シテハ百貨ノ釐金稅ヲ課セルモ其ノ入口(輸入)ニ對シテハ獨リ阿片ノミニ之ヲ課シ阿片ノ釐金稅ニ限リ釐金局ニ於テ之ヲ徵收セス洋海關ニ於テ收納セル點ニアリ

而シテ阿片ニ對スル稅率ハバトナ及ベナレス產ハ一箱ニ付百二十海關兩波斯產ハ一箱ニ付百海關兩ナリ今出口釐金稅ヲ百貨釐金章程中ノ臺灣出口百貨行商釐金科則ニ依リ大要ヲ述フレハ稅率ハ概ネ從價五分ヲ標準トシ藥劑類ハ庶茸外六品、雜貨類ハ細茶外三十品水果類ハ雪柑外二十四品糖類ハ冰糖外六品板類ハ樟楠枋外三品樟料類ハ白隱外五十一種アリ尙各類中未タ章程内ニ掲載セラレサル貨物ハ時價ニ從ヒ每百元ニ對シ征收釐銀五元ト規定シ光緒十二年增補出口百貨釐金科別ニ依リテ更ニ火柴外四十一品追補セラレタリ

(三) 輸出入税

清國ノ關稅ハ第十九世紀ノ中葉ニ至ル迄只内國關稅アルノミニテ外國貿易モ亦沿岸貿易ト同一ノ稅則ヲ適用シタルモノニシテ其ノ稅率ハ公示セラルルコトナク常關吏員ノ隨意徵收ニ一任セラレタルヲ以テ正稅ノ外種々煩苛ナル抽課アリテ其ノ弊夥カラサルモノアリシカ西曆千八百四十二年(道光二十二年)英清南京條約締結セラルルヤ英國政府ハ清國政府ニ對シ新ニ外國通商港トシテ開放モラレタル廣東、厦門、福州、寧波、上海ノ五港ニ於テ外國貿易ニ適用セラルヘキ公正ナル輸出入稅其他ノ稅率ヲ議定シ汎ク之ヲ公布スヘキコトヲ約サシメ茲ニ初メテ輸出入稅率ノ協定ヲ見ルニ至レリ其ノ稅率ハ輸出入共ニ從價五分ト定メ又貨物ニ依リテハ五分ヲ標準トシテ從量稅ヲ規定セリ然ルニ右稅率實施後物價下落シ從量稅率過重トナリタルヲ以テ西曆千八百五十八年(咸豐八年)英清天津條約ニ依リ從前ノ稅則ヲ改定スヘキコトヲ規定シ同年十一月同條約ノ附屬トシテ新ニ稅目ヲ協定シ同條約批准交換後直チニ實施セラレタリ

是レ即チ進口出口貨物新定稅則ニシテ我帝國領臺後ノ明治二十九年二月ニ至ル迄本島内ニ施行セラレタルモノナリ
(註七八)

(註七八) 臺灣總督府編臺灣稅務史參照

第三目 領臺後ノ關稅

臺灣全島カ帝國版圖ニ入り帝國稅關ノ開始ト同時ニ將ニ逢着セル問題ハ如何ナル關稅率ヲ本島ニ適用スヘキカニ在リ即チ清國舊制ニ依ル稅率ヲ一時襲用スヘキカ將タ内地ノ關稅率ヲ直ニ本島ニ施行スヘキカ或ハ新ニ稅率ノ制定ヲ爲スヘキカハ當面ノ一大問題ナリキ

而シテ右ニ對スル意見ハ區々ナリシカ結局帝國政府便宜ノ關稅政策ヲ施行スルコトニ決シ一ニ稅目ヲ除クノ外大體

ニ於テ清國洋海關ノ舊稅率ヲ一時襲用シ之ヲ基トシテ課稅スルコトナレリ抑モ帝國政府カ斯カル便宜政策ヲ採用シタル理由ニ付テハ一言ヲ費ササル可カラサルモノアリ

既ニ臺灣全島カ帝國ノ版圖ニ入りタリト雖モ帝國ハ未タ臺灣ノ統治ヲ以テ之ヲ締盟各國ニ宣言セサルヲ以テ締盟各國トノ條約ニ顧慮スルヲ要セスシテ而カモ各國ノ異議ナカルヘキ政策ヲ探ルノ要アリタルコト其ノ一ニシテ尙帝國領臺ノ當初一面ニハ兵馬控德諸般ノ施設緒ニ就カス他面本島民及本島ニ通商往來スル外國人久シク舊慣ニ安ンシテ俄カニ之ヲ變更スルニ便ナラサリシハ其ノ二ナリ

而シテ如上ノ外ニ又一ノ理由アリ即チ關稅率ノ阿片問題ト關聯セル點ナリ阿片吸食ハ帝國法律ノ嚴禁セル所ニシテ阿片其物ハ輸入禁制品ナリ今若帝國ノ關稅法ヲ本島ニ施行セムカ阿片ノ輸入ハ固ヨリ嚴禁セサルヘカラス之ヲ嚴禁スルトセハ阿片ノ吸食ヲ生命トセル島民ヲ奈何スヘキカニアリ之亦清國舊制ノ一時襲用ヲ便宜トセル理由ナリキ

明治二十八年末ニ至ルヤ曩ニ南部ニ蜂起シタル劉永福ノ亂全ク平定セラレ翌二十九年ノ初ニ至リテハ全島ノ統治漸ク緒ニ就キ本島將來ノ進運將ニ之ヨリ始マラムトスルノ時機ニ會セルニ本島ノ關稅政策依然清國ノ舊制ニ依レハ獨リ時運ノ許ササルノミナラス稅關將來ノ施設ニ對スル計畫モ亦遷延スルヲ免レサルヲ以テ總督府ハ關稅諸般ノ事項ニ關シ母國政府ト交渉ノ結果明治二十九年一月二十九日ノ帝國政府ノ締盟各國ニ對スル政府ノ締盟各國トノ條約規定ヲ臺灣ニ施行スヘキ宣言(註七九)トナリ右帝國現行條約ノ實施ニ依リ同年二月二十三日以後一時襲用セラレタル清國海關稅率ノ撤廢セラルト同時ニ當時帝國現行ノ運上目録所載ノ稅率適用セラレ且稅關法及稅關規則モ亦施行セラレ爾來關稅ニ關スル諸法規ハ内地ト本島ト概シテ同一ノモノヲ施行セラレルニ至レリ

(註七九) 宣言

臺灣地方既ニ平定ニ歸シタルヲ以テ日本帝國政府ハ同地ニ居住シ又ハ同地ニ往來スル各締盟國ノ臣民、人民及船舶ニ向テ左記特典便宜ヲ許與ス

第一、日本帝國ト通商及航海ノ條約ヲ締有スル各國ノ臣民及人民ハ淡水、基隆、安平、臺南府及打狗ニ於テ居住シ且商業ヲ營ムコトヲ得又右等諸國ノ船舶ハ淡水、基隆、安平及打狗ノ諸港ヘ寄港シ且積荷ヲ輸出スルコトヲ得

第二、臺灣ハ其ノ情形上特殊ナル所アリト雖モ日本帝國ト各締盟國トノ間ニ現在セル通商及航海條約稅則及其ノ他ノ諸取極メハ出來得ヘキ限リ臺灣ニ居住シ又ハ同地ニ往來スル各締盟國ノ臣民ノ人民及船舶ニモ之ヲ適用スヘシ但シ前記ノ特典便益ヲ享受スル者ニ於テハ常ニ臺灣ニ於テ施行セララルル所ノ法令ヲ遵守スヘキモノトス

右ノ宣言アルト同時ニ總督府民政局長ハ日本帝國ト締盟各國間ニ成立スル現行條約及協定事項ハ出來得ル限リ之ヲ臺灣ニ適用スヘキ旨ヲ本島駐在ノ各國領事ニ通知シ外務省ハ又告示(註七九)ヲ公布セリ

(註七九) 外務省告示第一號(明治二十九年二月二日)

通商航海條約アル歐米各國臣民及人臣ヲシテ臺灣ニ於テ淡水、基隆、安平、臺南及打狗ニ居住シ商業ヲ營ミ且右等諸國ノ船舶ヲシテ淡水、基隆、安平、打狗ノ諸港ヘ寄港シ且積荷ヲ輸入スルコトヲ得セシメ又ハ臺灣ハ特殊ナル情形アリト雖モ現行通商航海條約稅則及其ノ他ノ諸取極ハ出來得ル限リ臺灣ニ居住シ又ハ同地ニ往來スル歐米各締盟國ノ臣民人民及船舶ニモ之ヲ適用スヘシ

右告示公布同日總督府民政局長代理ヨリ各稅關ニ對リ命令電達(註八〇)セラレタリ

(註八〇) 此ノ命令到達ノ翌日ヨリ其ノ港ニ出入スル船舶及貨物ニ關シ可出來限リ外國人ニ對シテハ現行條約範圍ヲ內國人ヘ對シテハ稅關法及稅關規則ヲ適用スヘシ但シ本文期日前ニ外國港ヲ出港シタル船舶若クハ外國港ヨリ船積シタル貨物ハ從前ノ通り取扱フコトヲ得

上記ノ如ク明治二十九年二月二十三日以降内地現行稅關法及稅關規則ハ臺灣ニ施行セララルルニ至レルモ之カ施行ノ形式ハ臺灣總督軍事上ノ委任大權ニ基ケル命令ニ依リタルモノナリシカ同年三月三月法律第六十三號ヲ以テ臺灣ニ施行スヘキ法律ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メラルルコトナリ稅關法モ亦此ノ形式ヲ採リタリ(註八一)

(註八一) 臺灣ニ關稅法ヲ施行スルノ件(明治二十九年八月勅令二九三號)

明治二十三年法律第八十號稅關法ヲ臺灣ニ施行ス

而シテ右ハ形式上ノ問題ニシテ其ノ效力等ニ於テハ別ニ異レルトコナカリシカトモ右勅令ノ發布ヨリ先キ同年三月月發布セラレタル輸入棉花及輸入羊毛ノ關稅免除ニ關スル法律第五十七號同第五十八號ハ特ニ之ヲ臺灣ニ施行スル旨ノ勅令ナカリシカ爲メ總督府ニ於テハ之ヲ本島ニ適用スヘキ理由ナシトセシカ右勅令(勅令二九三號)發布ノ結果此ノ兩法ハ勿論其他輸入稅目ニ變更ヲ爲シタル一切ノ勅令布告等モ同様本島ニ適用セララルルニ至レリ

其後内地ニ於テハ明治三十二年三月法律第六十一號ニ依リ關稅法ヲ同年六月勅令第三百十九號ニ依リ關稅法施行規則ヲ發布セラレ之カ施行ト共ニ稅關法及稅關規則ハ廢止セララルルコトナリタルヲ以テ本島ニ於テハ同年七月律令第二十號ヲ以テ臺灣關稅規則ヲ同年八月府令第九十一號ヲ以テ臺灣關稅規則施行細則ヲ制定シ條約改正實施ノ直後即チ明治三十二年八月ヨリ之ヲ施行セリ

而シテ臺灣關稅規則ハ其ノ内容ニ於テ關稅法ニ依ルコトトシ只其ノ異ナル所ハ關稅法ニ於テ大藏大臣ノ職務ニ屬セシメタルモノヲ臺灣關稅規則ニ於テハ之ヲ臺灣總督ニ屬セシメ關稅法ニ於テ勅令ヲ以テ定ムル場合ヲ臺灣關稅規則ニ於テハ府令ヲ以テ定ムルコトトセル點ニ過キス又臺灣關稅規則施行細則モ大體ニ於テ關稅法施行規則ニ準據シタルモノニシテ只臺灣ト内地トノ官制上ノ相違ニ基ク二、三、ノ條項ニ付テ異レル所アルニ過キサルナリ

關稅率ニ付テハ從來締盟各國トノ條約ニ基キテ帝國ノ任意ニ之ヲ變更スルヲ得サリシカ條約改正ノ結果協定稅率ヲ除クノ外ハ國定率トシテ帝國ノ法令ニ依リ自由ニ之ヲ變更スルコトヲ得ルニ至リタルヲ以テ明治三十年三月法律第十四號ニ依リ關稅定率法發布セラレ翌三十一年九月勅令第二百十三號ヲ以テ同法ハ三十二年一月一日ヨリ本島ニモ施行セララルルニ至リ新稅率ハ明治二十九年二月二十三日以降即チ國際條約ノ本島ニ實施セララルルト共ニ適用セラレタル運上目録記載ノ稅率ニ代リ本島輸入稅ノ規矩トナレリ然レトモ同年八月ヨリ關稅法ヲ內容トセル臺灣關稅規則ヲ施行スルコトトナリタルノ結果輸入貨物ノミニ關稅ヲ課シ輸出稅ハ全廢セララルルコトトナリタレトモ本島ニ於テハ植民地經

營ニ必要ナル財源ヲ得ルカ爲メニハ輸出税ヲ存續セシムルノ要アルノミナラス當時本島産業進歩ノ程度ハ尙未タ幼稚ニシテ輸出税ノ存續カ生産力ニ影響スルカ如キモノアラサリシカ故ニ輸出税ヲ存續セシムルト共ニ尙之カ效果ヲ保全スルノ一手段トシテ内地ニ輸送セラルル一定ノ貨物ニ對シ出港税ヲ賦課スルコトトナリ臺灣輸出税及出港税則ノ發布トナリ同年七月十七日ヨリ之カ施行ヲ見ルニ至レリ(註八二)

(註八二) 輸出税率表

番號	品名	數量	從量稅率	從價稅率
一	第一類 染料	每百斤	一五〇	
二	第二類 穀物及飲食物	同		割、五〇
三	乾大麥	同	一五〇	
四	豆類	同	〇九〇	
五	乾魚類	同	七七〇	
六	鹹魚	同	二八〇	
七	花生豆	同	一五〇	
八	乾龍眼	同	三九〇	
九	肉龍眼	同	五四〇	
一〇	菜子	同	二五〇	
一一	米	同	二五〇	

番號	品名	數量	從量稅率	從價稅率
一二	胡麻子	每百斤	二一〇	
一三	鱈魚	同	七七〇	
一四	甲白製糖	同	二、三、一〇	
一五	乙黑製糖	同	一五〇	
一六	丙精製糖	同	一五〇	
一七	赤砂糖	同	一五〇	
一八	白砂糖	同	一五〇	
一九	小麥	同	一五〇	
二〇	第三類 皮骨類	同		五〇
二一	第四類 製茶	同	七七〇	
二二	烏龍茶	同	一、六〇〇	
二三	包種茶	同	一、二〇〇	
二四	香茶	同	五五〇	
二五	粉茶	同	五五〇	
二六	莖茶	同	五五〇	
二七	第五類 布帛材料	同		五〇
二八	麻皮	同	五四〇	
二九	麻皮	同	五四〇	

二六	麻	第六類雜品	同	、五〇〇	
二七	石炭及屑石炭		每一噸	、二五〇	、五〇
二八	鳳梨纖維				、五〇
二九	田菁子				、五〇
三〇	藍子				、五〇
三一	油糟		每百斤	、〇五〇	、五〇
三二	蓮草及蓮草紙				
三三	藤				
	甲 丸		同	、二三〇	
	乙 割		同	、三九〇	

出港稅率表

番號	品名	數量	從量稅率	從價稅率
一	乾魚	每百斤	、七七〇	
二	鹹魚	同	、二八〇	
三	龍眼	同	、三九〇	
四	龍眼	同	、五四〇	、五〇
五	鱈魚	同	、七七〇	

乙	白製	每百斤	、三一〇	
丙	精製	同		、五〇
六	生皮	同	、七七〇	
七	烏龍茶	同	、一〇〇〇	
八	包種茶	同	、六〇〇	
九	番茶	同	、五五〇	
一〇	粉茶	同	、五五〇	
一一	莖茶	同	、五五〇	
一二	苧麻	同	、五四〇	
一三	麻絲	同	、五〇〇	
一四	藤	同	、三九〇	

備考 第七、八號物品ノ外輸出稅ト同率ナリ出港稅ニ付テハ稅則第二條ニ其ノ賦課ナ『本島產物品』ト明示シアルヲ以テ問題ナキモ輸出稅ニ在リテハ稅則第一條ニ『本島ヨリ輸出スル物品』トアリ稍明瞭チ缺キタルモ稅關ハ出港稅同様本島產ニ限リ外國ヨリ輸入シタルモノヲ包含セサルモノト解釋シ取扱ヘリ。

明治四十一年十一月母國政府ヨリ關稅統一ノ名義ノ下ニ特別會計タル臺灣歲入ニ屬スル關稅收入中ノ輸入稅ヲ一般歲入ニ移スヘキ交渉アリ內務省ト總督府間ニ數回照覆ノ結果帝國現時ノ財政狀態ニ於テ又已ムヲ得サルモノトナシ遂ニ同年十二月詳細ナル協定(註八三)ヲ遂ケタリ

(註八三) 協定事項

一、輸出ニ關スル規定ヲ除キ勅令ヲ以テ關稅法ヲ臺灣ニ施行スルコト

第二章 關稅ノ根本觀念 第五節 關稅ノ沿革

- 一、船舶ノ出入及貨物ノ輸出ニ關スル律令ハ關稅法ニ依ルコトトシ同法中大藏大臣ノ職務ハ臺灣總督之ヲ行ヒ第九十九條ニ依リ開港ト爲スヘキ場所及其ノ開港ニ於テ輸出スヘキ貨物ノ種類ハ臺灣總督之ヲ定ムルコト
- 一、關稅法ニ依ル關稅事務ハ臺灣ニ於テハ臺灣總督府稅關ヲシテ取扱ハシムル旨ノ勅令ヲ發スルコト
- 一、關稅法ニ依ル關稅收入ノ內輸入稅ノ收入ヲ限リ一般會計ノ收入ト爲スコト
- 一、關稅法ニ依ル輸入稅純收入ノ內四十二年度ニ於テハ六十五萬圓ヲ除キタル殘額ハ總テ臺灣公債ノ利子トシテ支拂フコト
- 一、關稅徵收ノ費用ハ總督府ノ特別會計ニ於テ負擔スルコトトシ其ノ負擔額ニ相當スル臺灣公債利子ヲ一般會計ヨリ支拂フコト

一、關稅法ニ依ル輸入稅收入ノ內四十三年度ニ於ケル分配額ニ關シテハ更ニ協定スルコト

右協定ノ結果トシテ明治四十二年三月勅令ヲ以テ關稅法ヲ臺灣ニ施行セラレ之ト同時ニ船舶ノ出入及貨物ノ輸出ニ關シテハ臺灣關稅規則ヲ改定シ施行細則ニ代ヘテ施行規則ヲ制定セリ(註八四)

(註八四) 關稅法ヲ臺灣ニ施行ノ件(明治四十二年三月勅令五五六號)

第一條 關稅法ハ船舶ノ出入及貨物ノ輸出ニ關スル規定ヲ除クノ外之ヲ臺灣ニ施行ス

前項ニ依ル關稅法ノ施行ニ關スル事務ハ臺灣總督府稅關ヲシテ之ヲ行ハシム

第二條 關稅法第三十五條ノ關稅通商並第九十九條ニ依リ開港ト爲スヘキ貨物ノ種類ハ臺灣ニ於テハ之ヲ定ム

附 則

本令ハ明治四十二年一月ヨリ之ヲ施行ス

臺灣關稅規則(明治四十二年三月律令一號)

船舶ノ出入及貨物ノ輸出ニ關シテハ關稅法ニ依ル但シ同法中大藏大臣ノ職務ハ臺灣總督之ヲ行ヒ第九十九條ニ依リ開港ト爲スヘキ場所及其ノ開港ニ於テ輸出スヘキ貨物ノ種類ハ臺灣總督之ヲ定ム

附 則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣關稅規則施行規則(明治四十二年五月府令第三八號)

(條文書)

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

上述ノ如ク明治四十一年協定實行ノ結果ハ勅令ヲ以テ關稅法本島ニ施行セラレ船舶ノ出入及貨物ノ輸出ニ關シテハ關稅法ヲ内容トスル臺灣關稅規則制定セラレタルヲ以テ結局實質ニ於テ關稅法ノ全部カ本島ニ行ハルルコトトナリタルモ形式ニ於テハ二箇ニ分レ從而其施行ニ當リテモ輸入ニ關スル部分ハ關稅法施行規則ニ依リ船舶ノ出入及貨物ノ輸出ニ關シテハ臺灣關稅規則施行規則(府令)ニ依ラサルヘカラサルコトトナリ執務上不便尠カラサルモノアリシヲ以テ偶々關稅法カ施行以來幾多ノ歲月ヲ閱シ稅關執務上ノ變遷ト之ニ關聯セル諸法規ノ改廢等ニ依リ改正ノ必要迫リ明治四十四年三月法律第四十四號ヲ以テ改正セラレ之ニ伴フ施行規則ノ改正セラルルヲ機トシ從來臺灣特施ノ施行規則ニ代フルニ内地施行ノ施行規則ヲ以テスルコトトセリ(註八五)

(註八五) 關稅法施行規則ニ關スル件(明治四十四年六月府令四五號)

臺灣關稅規則ノ施行ニ關シテハ明治三十二年勅令三一九號關稅法施行規則ニ依ル但シ同令大藏大臣トアルハ臺灣總督ニ才判所トアルハ法院ニ市町村役場トアルハ區長役場ニ該當スルモノトス

本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ關稅法施行規則三四條及三五條中改正ニ關スル規定ハ明治四十四年七月七日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年五月府令三十八號臺灣關稅規則施行規則ハ之ヲ廢止ス

而シテ右施行規則ニ關スル件ハ明治四十二年三月勅令第五十六號ニ依リ關稅法ヲ臺灣ニ施行ノ件ト共ニ存續シテ今日

ニ至レルモノナリ

以上關稅法規ノ現在ニ至ル沿岸ノ大略ト之ニ時々關聯セル關稅率等ニ付輸出稅ノ存續ト出港稅ノ創設セラレタル迄ノ經過ヲ記述セリ更ニ其ノ後ノ關稅率等ニ關シ今日ニ至ル迄ノ大略ヲ述ヘムトス

明治三十二年七月新條約實施ニ伴ヒ關稅法ヲ內容トセル臺灣關稅規則ノ施行トナリ輸出稅ハ當然廢止ノ運命トナリタルモ總督府ニ於テハ植民地經營財源ヲ得ルカ爲メ依然輸出稅ヲ存續セシメ更ニ之カ效果ヲ保全スルカ爲メ出港稅ヲ創設シタルコトハ既ニ述ヘタルカ如シ其後出港稅ニ在リテハ數度課稅品目ノ增減課稅率ノ變更等ノ改正アリタルモ元來右兩稅ハ主トシテ植民地經營ノ財源ヲ得ムトスル總督府歲入增收ノ目的ヲ以テ制定セラレタルモノニシテ爾來十有餘年ヲ經過シ總督府財政狀態モ漸次堅實ニ赴ケルト且本島ノ產業ハ其ノ後隆々トシテ發展シ制定當時ト其ノ趣ヲ異ニシ殊ニ精糖ノ販路擴張ト製茶ノ輸出獎勵等痛切ニ其ノ要ヲ感スル機運ニ際會シ貿易ノ發展ト產業ノ發達ヲ幾分タリトモ阻害スル右兩稅ノ存續ノ不利ナルヲ認メ明治四十三年十一月律令第九號(臺灣輸出稅及出港稅則ノ廢止)ノ廢止ノ發布トナリ輸出稅及出港稅ハ此處ニ全ク廢セラレタリ

次ニ移入稅ニ付テハ全然内地ト同一經路ヲ辿リタルヲ以テ更メテ之ヲ記サヌ輸入稅ニ關シテハ曩ニ條約改正ノ結果トシテ關稅定率法ノ發布トナリ更ニ勅令ヲ以テ同法ハ明治三十二年一月一日ヨリ本島ニ施行セララルルニ至リタル以來其ノ改正ニ追從シ何等異ナルモノナシ内地ノ夫レト異ナルハ歹錢ノ輸入禁止ト外國補助貨ノ輸入制限ナリ抑モ本島ノ貨幣制度ハ明治三十年十月内地ニ於テ金本位制採用セラレタル後ト雖モ尙特殊ノ事情ニ依リ銀貨ノ流通ヲ認メラレタルヲ以テ茲ニ金銀複本位ノ狀態ヲ呈シ銀貨ハ公定相場ノ外市井ニ於テハ本島人間ノ取引ニ使用スル一種ノ相場アリ此相場ニシテ對岸支那ヨリ高キトキハ自ら銀貨ノ流入ヲ促シ低キトキハ之カ流出ヲ誘ヒ其結果銀貨ハ貿易上ノ決濟ニ使用セラルルノ外恰モ一種ノ商品トシテ取扱ハラルルニ至リ投機ノ財利ノ目的ヲ以テ輸出入セララルルノ狀ヲ呈シ一般ノ投機心ヲ助長スルノミナラス物價ノ變動ヲ激發シ取引ヲ阻害シ金融ヲ攪亂スル等其ノ弊又夥カラサリシヲ以テ總督府ハ之

カ禍根ヲ除カムカ爲メ金本位制實行ノ準備ニ著手スル一方當時本島ニ於ケル流通貨幣カ各種日本貨幣ト臺灣銀行券ノ外メキシコ弗銀香港弗銀支那鑄造ノ補助貨、銀貨、方孔錢等アリテ頗ル混淆ヲ極メ殊ニ市井私ニ極印ヲ施セル圓銀、弗銀(粗銀)ト粗惡ナル方孔錢ノ輸入多ク本島幣制ヲシテ益々紊亂セシムルノ虞アルヲ以テ之カ輸入ノ禁止乃至制限ヲ必要トシ先ツ明治三十六年律令ヲ以テ歹錢(方孔錢)ノ輸入ヲ禁スルト共ニ粗銀ニ輸入稅ヲ賦課シ更ニ翌三十七年律令ヲ以テ外國補助貨ノ輸入ヲ制限セリ(註八六)

(註八六) 歹錢ノ輸入禁止ニ關スル件(明治三六年九月) 歹錢(方孔錢)ノ輸入ヲ禁止ス

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

粗銀ノ輸入ニ輸入稅ヲ課スルノ件(明治三五年九月) 律令五五號

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

外國補助貨幣ノ輸入禁止ニ關スル件(明治三七年三月) 律令五五號

帝國貨幣ニ換算シテ三圓以上ニ達スル外國補助貨幣ノ輸入ヲ禁止ス本令ハ明治三十七年六月一日ヨリ施行ス

而シテ右律令發布後總督府ハ臺灣銀行ヲシテ金券ヲ發行シ銀券ヲ回收セシムル等著々金本位制實行ニ著手シタルカ同七、八月ヨリ四十年八、九月ニ至ル世界の銀價騰貴ノ持續ハ本島銀貨ノ海外流出トナリ更ニ同年十月以降ノ銀價暴落ハ却テ島内市場銀ノ高價ヲ示シタルヲ以テ之カ價值稍ヲ利セムトスル貿易商ノ對岸ノ圓銀及香港銀ノ輸入ヲ誘發シ明治四十一年ノ如キ之カ輸入ノ爲メ一月ヨリ五月ニ至ル間ニ約二百七十萬圓ノ入超ヲ來スニ至レリ此處ニ於テ總督府ハ如上ノ現象ハ本島幣制改正ノ趣旨ニ反スルノミナラス却而本島幣制ヲ紊亂スルノ因ナリトシ遂ニ明治四十一年十月ニ至リ殆ムト輸入禁止ノ律令ヲ發布シ爾來右律令ハ存續シ今日ニ迄ヘリ(註八七)

(註八七) 銀貨幣並ニ粗銀ノ移入及輸入禁止ニ關スル件(明治四十一年十月)

(律令十五號)

帝國貨幣ニ換算シテ百圓ヲ超過スル一圓銀貨幣及外國銀貨幣三圓ヲ超過スル外國補助貨幣並粗銀ノ移入及輸入ハ之ヲ禁止ス一圓銀貨幣ヲ外國銀貨幣ニシテ通シテ百圓ヲ超過スルモノ亦同シ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十六年律令第五號及明治三十七年律令第五號ハ之ヲ廢止ス

更ニ今一ツノ例外ハ本島ニ於ケル特別ノ輸入税ナリ由來臺灣ハ内地ト風俗習慣其他ノ事情ヲ異ニセルカ爲メ其ノ輸入品モ亦内地ト其ノ趣ヲ異ニセルモノ尠カラス且同一品名ニシテ内地ニ輸入セラルルモノト品質價格ヲ異ニシ或ハ彼我産業經濟ノ事情ヲ異ニセル爲メ定率法ノ輸入税率ヲ其儘本島ノ輸入品ニ適用シ難キモノ往々アリ

依テ之ヲ本島諸般ノ事情ニ適合セル税率ニ改正ノ要ヲ認メ案ヲ具シテ議會ニ提出ノ結果明治四十年三月本島ニ輸入セラルル種魚外十品ノ特別輸入税設定ノ法律ノ公布トナレリ(註八八)

(註八八) 臺灣ニ於ケル特別ノ輸入税ニ關スルノ件(明治四〇年三月)

(法律三十號)

外國ヨリ臺灣ニ輸入スル物品ニシテ別表ニ掲ケルモノハ別表ノ税率ニ依リ輸入税ヲ課ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(明治四〇年三月勅令八五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行セラル)

別 表

輸入税表

品 名	單 位	稅 率
魚介類ノ内	從 價	一割
種 魚	同	三割
蔬菜(砂糖糖蜜糖水又蜂蜜ヲ以テ貯藏シタルモノヲ除ク)内	同	二割
罐詰瓶詰又ハ壺詰ニ非サルモノ	每百斤	二、二五
麥製及米製ノ支那麵類	每百斤	六、〇〇
人 蔘	每 斤	一、〇〇
一斤三十根ヲ超エサルモノ	同	一、三〇
其 他	每百斤	〇、五五
生綿及織綿	同	一、二〇
屑綿及故綿	每百箇	一、〇〇
故ガンニ一袋	每百斤	〇、一〇
書畫用ニ非サル唐紙	同	無 稅
丸類ノ内	同	〇、一〇
丸(湖藥ヲ施シタルモノヲ除ク)	同	無 稅
陶磁器破片及碎丸	同	無 稅

而シテ右特別輸入税ハ明治四十四年七月十六日ヲ以テ帝國ト聯盟各國トノ通商航海條約ノ期間滿了スヘキヲ機トシ帝國政府ハ從來ノ片務的協定税率ニ代フルニ雙務的相互協定税率ヲ以テセムトシ先ツ之カ準備トシテ明治四十三年四月、法律第五十四號ヲ以テ關稅定率法及附屬輸入稅表ヲ改正セリ之カ改正ニ當リ同法輸入稅表中ニ右臺灣特別輸入稅率ヲ參酌掲載セルニ依リ同法カ四十二年七月勅令第三一三號ヲ以テ法律第三十號臺灣特別輸入稅率ハ廢止セラレタリ

第二章 關稅ノ根本觀念

第五節 關稅ノ沿革

第三章 關稅行政機關

第一節 總 說

關稅行政機關ハ其ノ執行ノ任ニ直接スルモノト之レヲ監督スルモノト其ノ執行官署ト貿易當事者トノ間ニ立ツ補助機關トアリ而シテ其ノ直接ノ執行機關ニアリテモ上級下級ノ別アリ各々統一セラレテ一ノ監督官廳ニ屬スルモノトス、其ノ監督機關ニ付テモ内地ハ大藏大臣、朝鮮ハ朝鮮總督、臺灣ハ第一次ニ臺灣總督第二次ニ大藏大臣トス而シテ監督機關ハ關稅行政ト直接交渉スル所尠キヲ以テ特ニ論述スルノ要ヲ見ス、茲ニ執行機關タル關稅及補助機關タル關稅貨物取扱人ヲ述ブルニ止メントス

第二節 内地ニ於ケル關稅行政機關

第一款 關稅行政機關ノ沿革

關稅ヲ掌ル機關ノ我國ニ於ケル最初ハ前述ノ長崎會所ヲ以テ嚆矢トス此ノ時代ニ於テハ單ニ長崎地役人及町人間ニ於テ其ノ收入金ヲ分配セシテ以テ今日ノソレト異ナリシハ明カナリ其後ハ開港ニ至ル迄何等特筆スヘキ變化ヲ見ス稅關ノ中央機關ハ明治初年ヨリ同四年八月ニ至ル間ハ外務事務局、外國官、外務省ノ所轄スル所ナリキ明治四年八月ヨリ同八年九月迄ハ大藏省租稅寮同八年九月ヨリ大藏省ノ直轄トナレリ地方機關トシテ明治初年ヨリ同五年十一月迄ハ運上所ト稱シ同五年十一月以降凡テ稅關ト改稱セリ而シテ運上所ノ所

轄ハ明治初年ヨリ同八年九月迄ハ各縣ニ分屬セシメ同八年九月以降大藏省ノ直轄トシ同十九年九月整然タル稅關官制ノ制定ヲ見爾來今日ニ至ルマテ幾多ノ改正アルモ大體ハ此ノ十九年ノ稅關官制ニ基クモノトス

第二款 關稅行政機關ノ組織及權限

現行稅關官制ハ明治三十二年四月二十二日勅令第一六一號ニヨリ定メラレ其後毎年多少ノ改正ヲ見以テ現在ニ及ヘリ今其ノ大要ヲ記述スレハ左ノ如シ

稅關官制 明治三十二年四月勅令第六十一號
大正十三年十二月二十日勅令三三三號改正

第一條 稅關ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、關稅噸稅關雜收入ニ關スル事項
- 二、保稅倉庫保稅工場其ノ他ノ保稅地域ニ關スル事項
- 三、船舶及貨物ノ取締並ニ貨物ノ收容ニ關スル事項
- 四、關稅法及噸稅法犯則者ノ處分ニ關スル事項
- 五、輸出入貨物ノ戻稅及交付金ニ關スル事項
- 六、運送通路ノ取締ニ關スル事項
- 七、輸入ノ砂糖又ハ織物消費稅及骨牌ノ課稅ニ關スル事項
- 八、輸出入又ハ移出入ノ植物ニ關スル検査取締及病菌害蟲ノ研究調査ニ關スル事項
- 九、開港港則ニ關スル事項
- 十、開港港則ノ施行ニ直接必要ナル港内ノ行政警察ニ關スル事項
- 十一、海港檢疫ニ關スル事項

十二、輸入又ハ移入ノ獸畜其ノ他ノ貨物ニ對スル家畜傳染病豫防法又ハ畜牛結核病豫防法ニ依ル檢疫検査ニ關スル事項

税關ハ内地産獸毛ノ消毒ニ關スル事務ヲ掌ルコトヲ得

第一項第八號乃至第十二號及前項ノ事務ヲ掌ル税關ハ大藏大臣之ヲ告示ス

第二條 左ノ六港ニ税關ヲ置ク

横濱、神戸、大阪、長崎、門司、函館

第三條 税關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

税關長	六人内 四人勅任 二人奏任
事務官	專任九人 奏任
關稅官	同 七人 同
鑑査官	同 十六人 同
植物検査官	同 四人 同
港務官	專任九人 奏任
醫官	同 八人 同
獸醫官	同 六人 同
事務官補	同 三〇四人 列任
監視	同 八四人 同
港吏	同 二五人 同
鑑査官補	同 一五三人 同

植物検査官補	同 二二人 同
醫官補	同 六人 同
獸醫官補	同 十七人 同
藥劑手	同 五人 同
監吏	同 五六〇人 同
技手	同 六七人 同

手数料ヲ徴シテ保税地域其ノ他關稅上特殊ノ取扱ヲ爲ス場所ニ常時派出スル税關官吏ハ之ヲ定員外トス

第四條 税關長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ税關ノ事務ヲ掌理ス但シ第一條第一項第四號及第十二號及同條第二項ノ事務ニ付テハ各其ノ主務大臣ノ指揮監督ヲ承ク

第五條 事務官ハ税關ニ分屬シ税關長ノ命ヲ承ケ税關ノ事務ヲ掌ル

第六條 關稅官ハ税關支署長タル者ヲ除クノ外上官ノ命ヲ承ケ税關ニ於ケル經理ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 監査官ハ上官ノ命ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 植物検査官ハ上官ノ命ヲ承ケ植物ノ検査及病菌害蟲ノ研究調査ヲ掌ル

第九條 港務官ハ上官ノ命ヲ承ケ開港港則及檢疫ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 醫官ハ上官ノ命ヲ承ケ海港檢疫及醫務ヲ掌ル

第十一條 獸醫官ハ上官ノ命ヲ承ケ獸畜ノ檢疫検査及醫務ヲ掌ル

第十二條 事務官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十三條 監視ハ上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ従事ス

第十四條 港吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ開港港則及檢疫ニ關スル事務ニ従事ス

- 第十五條 鑑査官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物検査鑑定ニ従事ス
- 第十六條 植物検査官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ植物検査及病菌害蟲ノ研究及調査ニ従事ス
- 第十七條 醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ海港検査及醫務ニ従事ス
- 第十八條 獸醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ獸畜ノ検査検査及醫務ニ従事ス
- 第十九條 藥劑手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ従事ス
- 第二十條 監吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分關港港則及検査ニ關スル事務ニ従事ス
- 第二十一條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス
- 第二十二條 稅關ニ監視部及港務部ヲ置ク
- 監視部ニ部長ヲ置キ事務官又ハ監視ヲ以テ之ニ充ツ
- 稅關長ノ命ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌ル港務部ニ部長ヲ置キ事務官又ハ港務官ヲ以テ之ニ充ツ
- 港務部長ハ稅關長ノ命ヲ承ケ開港港則及検査ニ關スル事務ヲ掌ル
- 港務部長ハ港長ノ事務ヲ行ヒ第一條第十號事務ニ關シテハ水上警察署長ヲ指揮監督ス
- 港務部長事故アルトキハ稅關長ハ稅關官吏ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム
- 第二十三條 稅關管轄區域内必要ナル場所ニ稅關支署稅關出張所及稅關支署出張所及稅關監視署ヲ置ク
- 稅關出張所稅關支署出張所及稅關監視署ノ位置並第一條第一項第八號乃至第十二號及同條第二項ノ事務ヲ取扱フ稅關支署稅關出張所稅關支署出張所及稅關監視署ハ大藏大臣之ヲ告示ス
- 第二十四條 稅關支署長ハ關稅官又ハ事務官補ヲ以テ之ニ充ツ稅關長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ掌理ス
- 第二十五條 稅關監視署長ハ監視又ハ監吏ヲ以テ之ニ充ツ稅關長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ掌理ス
- 第二十六條 稅關ニハ海港検査費豫算定額内ニ於テ臨時左ノ職員ヲ置クコトヲ得

檢 疫 員	判任官待遇
檢 疫 醫	奏任官待遇又ハ判任官待遇
檢 疫 獸 醫	判任官待遇

前項ノ規定ニ依ル奏任官待遇ノ檢疫醫ノ數ハ通シテ十三人以内トス
 檢疫員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ檢疫ニ關スル事務ニ従事シ檢疫醫及檢疫獸醫ハ上官ノ指揮ヲ承ケ檢疫ニ關スル技術ニ従事ス

第三節 朝鮮ニ於ケル關稅行政機關

第一款 關稅行政機關ノ沿革

始メ韓國カ殆ント三百年ニ涉レル鎖國主義ヲ脱却シテ通商條約ヲ結ヒタルハ實ニ開國四百八十五年(明治九年)ノ日韓修交條約ヲ嚆矢トシ次テ明治十三年元山港ヲ明治十六年仁川港ヲ光武元年(明治三十年)鎮南浦及木浦ヲ光武三年(明治三十二年)群山馬山及城津ヲ光武十年(明治三十九年)新義州ヲ隆熙二年(明治四十一年)清津港ヲ開放シ何レモ稅關又ハ稅關支署ヲ開設セラレタルコト既述ノ如シ而シテ朝鮮ニ於ケル關稅ノ機關ハ初メ外務衙門ノ管理シタリシカ開國五一四年(明治二八年)衙門ヲ部ト改稱スルト共ニ度支部大臣ノ管轄ニ移シタリ爾後英人ブラオン氏ノ總稅務司タルニ及ヒ度支部ヲ放レテ獨立シ中央機關ヲ京城ニ置キテ總稅務司廳ト稱シ地方ニ海關ヲ置キ稅務司ヲシテ事務ヲ司掌セシメタリ

其後此ノ事務ハ我國ヨリ派遣セラレタル財政顧問目賀田種太郎氏ノ手ニ引繼カレシト雖モ總稅務司廳ノ名稱ハ尙存シ隆熙二年(明治四一年)一月各部官制改正ト共ニ廢セラレ關稅官署ハ新ニ度支部大臣管理ノ下ニ置カルコトトナ

レリ爾來明治四十三年ニ至ル迄變化ナク度支部關稅局ノ下ニ仁川釜山元山鎮南浦ノ四稅關、稅關ノ下ニ群山木浦馬山城津清新津義州ノ六支署、京城南大門平壤ノ三出張所、龍塘浦碧瀾渡城山浦舊馬山長承浦統營三千浦多太浦蔚山浦項雄基會寧慶興龍岩浦義州望東浦何日里浦夢金浦ノ十九監視署ヲ設置シタリシカ明治四十三年十月大邱龍岩浦ヲ出張所トシ明治四十五年三月三十一日ノ改正ニヨリテ鎮海(行嚴)ニ支署ヲ新設シ碧瀾渡舊馬山多太浦慶興ノ監視署ヲ廢止シ大正二年四月一日ヨリ日支陸接國境貿易ノ機關トシテ其ノ國境ニ於ケル慶興新阿山慶源訓戎穩城鐘城會寧茂山惠山鎮(以上元山稅關管轄)玉江浦私倉浦碧團新島場高山鎮中江鎮(以上鎮南浦稅關管轄)ニ稅關出張所ヲ大正二年八月一日ヨリ鎮南浦稅關管轄内ニ清城鎮舊邑滿浦鎮慈城江口ヲ大正三年五月一日ヨリ土里古邑龍洞下社地西江村三長面仁遷堡羅暖堡新忽坡鎮(以上元山稅關管轄)忠興里豆滿江口舊城洞厚州古邑(以上鎮南浦稅關管轄)ニ夫々稅關出張所ヲ新設シ重要ナル交通地點ニハ專任稅關監吏ヲ配置シ其他ハ其地駐在ノ憲兵下士卒ヲシテ兼務セシメ之レカ大正九年憲兵制度廢止後ハ巡查ヲシテ之レヲ兼務セシメ今日ニ及ヘリ而シテ大正十二年四月一日ヨリ内地側ニ於ケル移入稅撤廢セラレタルヲ以テ茲ニ關稅行政機關ニ一大刷新ヲ必要トシ南鮮及東海岸地方ニ於テ新昌新浦西湖津長箭注文津(以上元山稅關管轄)浦項九龍浦方魚津蔚山(長生浦)鎮海道洞馬山長承浦三千浦麗水統營巨文島城山浦彌助島ヲ指定港トシ此所ニ稅關出張所ヲ設ケ移入有稅品ノ取扱ヲ開始スルコトトシタリ其後大正十三年十二月二十五日一般行政整理ニ依ル官制改正ノ結果三稅關トシ出張所モ西湖津、浦項、道洞、方魚津、鎮海、馬山、統營、麗水及城山浦ノ九ヶ所ニ限定セラレタリ

第二款 關稅行政機關ノ組織及權限

朝鮮總督府稅關官制(明治四十三年九月勅令第三六二號)

第一條 朝鮮總督府稅關ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ左ノ事項ヲ掌ル

- 一、關稅 噸稅、移入稅、出港稅及稅關諸收入ニ關スル事項
 - 二、保稅倉庫、保稅工場其ノ他ノ保稅地域ニ關スル事項
 - 三、船舶及貨物ノ取締ニ關スル事項
 - 四、關稅、噸稅、移入稅等ニ關スル犯則處分ニ關スル事項
 - 五、關稅通路ノ取締ニ關スル事項
 - 六、輸入又ハ移入ノ貨物ノ消費稅及輸出又ハ移出貨物交付金ニ關スル事項
- 前項ノ外朝鮮總督ノ指定スル稅關ニ於テハ輸出及移出ノ海藻及水產製造品ノ品質檢査並輸入及移入ノ苗木類ノ消毒ニ關スル事項ヲ掌ル

第二條 左ノ三港ニ稅關ヲ置ク

京畿道 仁川
慶尙南道 釜山
平安北道 新義州

第三條 稅關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

稅關長	三人	奏任
關稅官	四人	同
監査官	三人	同
技師	一人	同
事務官	補	
監視		

監査官補 二八九人 判任
技手
監吏

第四條 税關長ハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ税關ニ關スル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第五條 事務官ニ關スル規程ナリシモ大正十三年十二月之レヲ削除セリ

第六條 關稅官ハ上官ノ命ヲ承ケ税關ノ事務ヲ掌ル

第七條 鑑査官ハ上官ノ命ヲ承ケ貨物ノ檢査鑑定ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第九條 削除

第十條 削除

第十一條 事務官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

監視ハ上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス

鑑査官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ檢査鑑定ニ從事ス

技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

監吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス

第十二條 税關ノ管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム

朝鮮總督ハ税關ノ管轄區域内ニ於テ必要ト認ムル地ニ税關支署又ハ税關監視署ヲ置クコトヲ得

税關支署又ハ税關監視署ノ位置及管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十三條 税關支署ニ支署長ヲ置ク關稅官又ハ事務官補ヲ以テ之レニ充ツ

第十四條 税關監視署ニ署長ヲ置ク監視又ハ監吏ヲ以テ之ニ充ツ

第十五條 朝鮮總督ハ必要ト認ムル地ニ税關出張所ヲ置キ税關事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第十三條ノ規定ハ税關出張所ニ之レヲ準用ス

第四節 臺灣ニ於ケル關稅行政機關

第一款 關稅行政機關ノ沿革

明治二十七年日清交戰帝國戰勝ノ結果トシテ臺灣及澎湖列島ノ割讓ヲ見臺灣全島ノ我帝國ノ版圖ニ入ルヤ明治二十八年五月京都大本營ニ於テハ臺灣總督府假條例ヲ定メ雇員ノ名ヲ以テ勅任待遇、奏任待遇、判任待遇以下ノ總督員ヲ任命シ臺灣ニ派遣シタリ而シテ税關事務ニ從事スヘキ雇員等ハ野村才二氏指揮監督ノ下ニ樺山總督ニ隨從シ同年五月二十四日横濱丸ニテ字品ヲ發シ同月二十八日淡水沖ニ到著セルモ當時同地方ハ匪賊出沒シテ形勢不穩ナリシヲ以テ先ツ基隆沖ニ廻航シ清國全權委員李徑芳ト臺灣授受ノ式ヲ了シタル後淡水ニ上陸スルヲ得翌六月九日淡水税關、同月十日ニハ基隆税關ノ開關ヲ見ルニ至レリ

南部臺灣ニ於テハ劉永福等ノ兇徒カ臺灣民主國ヲ唱ヘテ反抗セルアリテ之カ鎮定ニ數ヶ月ヲ要シ税關、開關モ亦遲延セシカ漸ク同年十二月二十八日平安税關ヲ同月二十九日ニハ打狗税關ヲ開關セラレ此處ニ清國時代ノ舊制ニ依ル全島四開港ノ帝國税關ハ全ク開關セラレタリ

而シテ全島四税關ハ南北二税關長(兼任ヲ許セリ)ニ依リテ統轄セラレタル爲メ關稅行政上統一ヲ缺キ不便尠カラサリシカ帝國領臺後六年時恰モ臺灣統治ノ成績大ニ舉リ産業ノ發達、交通機關ノ整備等漸ク其ノ緒ニツキ本島ノ大事業タル港灣ノ修築、鐵道敷設及土地調査ノ如キ著々進捗シ各般行政機關ノ整備ト共ニ臺灣税關制度ノ一大革新ヲ要スヘキ

時機ニ遭遇シ遂ニ明治三十四年四月ノ臺灣稅關官制ノ改正トナリ從來ノ淡水基隆安平打狗ノ四稅關ハ改メテ淡水安平ノ二關トナリ基隆ハ淡水稅關ノ支署ニ打狗ハ安平稅關ノ支署トナリ舊制ニ於テ全島稅關ヲ通シテ二稅關長ナリシヲ改メ淡水稅關長ハ當然安平稅關長ヲ兼ヌルコトトナリテ全島ノ稅關事勢ハ一稅關長之ヲ統轄スルコトトナリ關稅行政統一テフ目標ノ下ニ根本的革新ヲ見タリ

其後明治三十五年十月一般行政改革即チ廢縣置縣ニ伴ヒ更ニ稅關官制一部ノ改正ヲ見爾後全島ノ諸般ノ事情ノ變遷ハ稅關管理事項等ニモ相當改廢ヲ餘儀ナクセシムル等アリ數次改正ノ結果現行ノ官制トナリ全島一稅關即チ基隆ニ之ヲ置キ淡水外八支署、臺北臺南二出張所、蘇澳外二十監視署ノ設置トナリ今日ニ至レリ

第二款 關稅行政機關ノ組織及權限

臺灣總督府稅關官制(大正十三年十一月二十五日改正)

- 第一條 臺灣總督府稅關ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、關稅、噸稅及稅關諸收入ニ關スル事項
 - 二、保稅倉庫、保稅工場其ノ他ノ保稅地域ニ關スル事項
 - 三、船舶及貨物ノ取締並貨物ノ收容ニ關スル事項
 - 四、臺灣關稅規則、臺灣噸稅規則及稅關ニ於テ發見シタル臺灣間接國稅犯則者ノ處分ニ關スル事項
 - 五、輸出入貨物ノ戻稅及交付金ニ關スル事項
 - 六、運送通路ノ取締ニ關スル事項
 - 七、製藥稅ニ關スル事項
 - 八、輸入ノ砂糖、織物ノ消費稅及骨牌ノ課稅ニ關スル事項

第二條 稅關之ヲ臺北州基隆港ニ置ク

第三條 削除

第四條 稅關ニ左ノ職員ヲ置ク

稅關長	奏任
事務官	專任 三人
鑑定官	一人
屬	四十五人
監視	十八人
鑑定官補	十九人
技手	一人
監吏	百二十一人

特別手數料ヲ徵シテ保稅地域其他關稅上特殊取扱ヲ爲ス場所ニ常時派出スル稅關官吏ハ之ヲ定員外トス

第五條 稅關長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ稅關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第六條 事務官ハ稅關監視部長又ハ稅關支署長タルノ者ノ外稅關長ノ命ヲ承ケ稅關ノ事務ヲ掌理ス

第七條 鑑定官ハ稅關長ノ命ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ關スル事務ヲ掌理ス

第八條 屬ハ稅關支署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條 監視ハ稅關監視部長若ハ稅關監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則者ノ處分ニ關スル事務ニ

從事ス

第十條 鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ從事ス

第十條ノ二 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スルニ事務ニ從事ス

第十一條 監吏ハ稅關監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則者ノ處分ニ關スル事務ニ從事ス

第十二條 稅關ニ稅關監視部ヲ置ク

稅關監視部ニ部長一人ヲ置キ監視官又ハ監視ヲ以テ之ニ充ツ

稅關監視部長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則者ノ處分ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十三條 臺灣總督ハ必要ナル場所ニ稅關支署、稅關出張所、稅關支署出張所及稅關監視署ヲ置クコトヲ得

稅關支署ノ管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十四條 稅關支署ニ支署長一人ヲ置キ事務官又ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ稅關支署長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ其ノ管轄内ノ

稅關事務ヲ掌理ス

第十五條 稅關監視署ニ署長一人ヲ置キ監視若ハ監吏ヲ以テ之ニ充ツ稅關監視署長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及

犯則者ノ處分ニ關スル事務ヲ掌理ス

附 則

本令ハ明治三十四年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス

舊令 明治三十二年勅令第三百七十一號臺灣總督府稅關官制

第五節 關稅行政機關ノ名稱、位置及管轄

(内地)

稅關管轄區域 大正六年六月勅令第五十八號

橫濱稅關管轄區域

東京府 神奈川縣 埼玉縣 茨城縣 群馬縣 栃木縣 千葉縣 靜岡縣 山梨縣 長野縣 新潟縣 福島縣 宮城縣
山形縣 神戶稅關管轄區域

兵庫縣 岡山縣 鳥取縣 島根縣 廣島縣 香川縣 德島縣 高知縣 愛媛縣

大阪府 京都府 和歌山縣 奈良縣 三重縣 滋賀縣 福井縣 石川縣 富山縣 岐阜縣 愛知縣
長崎稅關管轄區域

長崎縣 佐賀縣 福岡縣ノ内 (久留米市、大牟田市、浮羽郡、三井郡、三潞郡、八女郡、山門郡、三池郡)
熊本縣 宮崎縣 鹿兒島縣 沖繩縣

山口縣 大分縣 福岡縣 (但シ久留米市、大牟田市、浮羽郡、三井郡、三潞郡、八女郡、山門郡三池郡ヲ除ク)
函館稅關管轄區域

北海道 秋田縣 岩手縣 青森縣 樺太

稅關支署名稱、位置及管轄區域 (大正六年六月勅令第五十九號)

所管稅轄名稱	名稱	稅 關		支 署	
		位 置	管 轄	區 域	域
橫 濱	東京	東京府	東京市	東京府ノ内	東京市、南葛飾郡、南足立郡、北豐島郡、豐多摩郡、荏原郡
	新潟	新潟縣	新潟市	新潟縣但シ佐渡郡ヲ除ク	山形縣

大 阪				神 戸								
伏木	七尾	敦賀	宮津	四日市	名古屋	武 豊	今 治	境	濱 田	糸 崎	夷 港	清 水
富山縣射水郡伏木町	石川縣鹿島郡七尾町	福井縣敦賀郡敦賀町	京都府與謝郡宮津町	三重縣四日市市	愛知縣名古屋市	愛知縣知多郡成岩町	愛媛縣今治市	鳥取縣西伯郡境町	島根縣那賀郡濱田町	廣島縣御調郡糸崎町	新潟縣佐渡郡兩津町	靜岡縣清水市
富山縣	石川縣	福井縣	京都府 與謝郡 加佐郡 中郡 竹野郡 熊野郡	三重縣 但シ阿山郡 名賀郡 北牟婁郡及南牟婁郡ヲ除ク	愛知縣ノ内 名古屋市内 一宮市 愛知郡 東春日井郡 西春日井郡 丹羽郡 栗郡 中島郡 海部郡 岡田町 三和村及上野村ヨリ常滑町ニ至ル沿 海各町村	愛知縣ノ内 豐橋市 岡崎市 北設樂郡 南設樂郡 東加茂郡 西加茂郡 知多郡 美濃郡 寶飯郡 額田郡 幡豆郡 碧海郡 三和村及上野村ヨリ常滑町ニ至ル沿 海各町村ヲ除ク	愛媛縣	鳥取縣ノ内 鳥取市 八東郡 美方郡 出石郡 養父郡 朝來郡	島根縣ノ内 安芸郡 那賀郡 美濃郡 鹿足郡	廣島縣ノ内 尾道市 深安郡 沼隈郡 豐田郡 高田郡 賀茂郡	新潟縣ノ内 佐渡郡	靜岡縣但シ田方郡及加茂郡ヲ除ク

長 崎				門 司									
唐津	住ノ江	口ノ津	三池	三角	鹿兒島	嚴原	那 霸	若 松	博 多	德 山	萩	青 森	小 樽
佐賀縣東松浦郡唐津村	佐賀縣杵島郡福富村	長崎縣南高來郡口ノ津村	福岡縣三池郡三川町	熊本縣宇土郡三角町	鹿兒島縣鹿兒島市	長崎縣下縣郡嚴原町	沖繩縣那 霸市	福岡縣若 松市	福岡縣福岡市	山口縣都漣郡德山町	山口縣阿武郡萩町	青森縣青森市	北海道小樽市
佐賀縣ノ内 長崎縣ノ内 北松浦郡 西松浦郡	佐賀縣ノ内 佐賀市 佐賀郡 小城市 杵島郡 藤津郡 神崎郡 三養基郡	長崎縣ノ内 南高來郡 北高來郡	福岡縣ノ内 久留米市 大牟田市 深羽郡 三井郡 三潁郡 八女郡 山門郡	熊本縣ノ内 鹿本郡 菊池郡 阿蘇郡	鹿兒島縣 鹿兒島市 宮崎縣 下縣郡	長崎縣ノ内 下縣郡	沖繩縣	福岡縣ノ内 若松市 八幡市 戸畑市 遠賀郡 鞍手郡 嘉穂郡 朝倉郡 宗像	福岡縣ノ内 福岡市 糟屋郡 筑紫郡 早良郡 糸島郡	山口縣ノ内 大島郡 玖珂郡 能毛郡 都漣郡 佐渡郡 吉敷郡	山口縣ノ内 阿武郡 美濃郡 大津郡	青森縣 青森市 秋田縣 岩手縣	北海道ノ内 札幌市 小樽市 旭川市 石狩郡 厚田郡 濱益郡 久遠郡 岩内郡 白尻 古宇郡 小樽郡 高島郡 忍路郡 余市郡 古平郡 美濃郡 積丹郡

琉球國八重山 八重山税關監視署 對馬國佐須奈 佐須奈税關監視署 羽後國土崎港 土崎税關監視署
 千島國紗那 紗那税關監視署 北見國稚內 稚內税關監視署 北見國鷺泊 鷺泊税關監視署
 後志國壽都 壽都税關監視署 樺太名好郡名好村 安別税關監視署 樺太內路村 內路税關監視署

(朝鮮)

税關管轄區域 大正十三年十二月府令第七九號

税關管轄區域左ノ通定ム

仁川税關管轄區域

京畿道、忠清北道、忠清南道、全羅北道、黃海道(海州郡、延白郡、金川郡、平山郡、襄津郡、長淵郡(海安面、薪花面、蕪澤面ヲ除ク))

釜山税關管轄區域

江原道、咸鏡南道、咸鏡北道、全羅南道、慶尙北道、慶尙南道

新義州税關管轄區域

黃海道 新溪郡、長淵ノ内海安面、薪花面、蕪澤面、松禾面、殷栗郡、安岳郡 信川郡、載寧郡、黃州郡、鳳山郡、瑞興郡、遂安郡、
 谷山郡、平安南道、平安北道

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年朝鮮總督府令第四百十七號ハ之ヲ廢止ス

税關支署ノ名稱、位置及管轄區域 大正十三年十二月府令第八十號

税關支署ノ名稱、位置及管轄區域左ノ通り定ム

名稱	位置	管轄區域
京城税關支署	京畿道京城府	京畿道京城府、高陽郡、廣州郡、漣川郡、抱川郡、加平郡、楊平郡、始興郡(秀岩面、岩子面ヲ除ク)

群山税關支署	全羅北道群山府	忠清北道沃川郡、永同郡、忠清南道公州郡、大田郡、論山郡、扶餘郡、舒川郡、保寧郡、青陽郡、全羅北道
元山税關支署	咸鏡南道元山府	江原道、咸鏡南道(利原郡、端川郡ヲ除ク)
咸鏡南道支署	咸鏡南道利原郡、端川郡	咸鏡北道、吉州郡、城津郡
咸鏡北道支署	咸鏡北道清津府	咸鏡北道清津府、鏡城郡、明川郡、富寧郡、茂山郡
雄基税關支署	咸鏡北道慶興郡雄基面	咸鏡北道慶源郡、慶興郡
會寧税關支署	咸鏡北道會寧郡會寧面	咸鏡北道會寧郡、鐘城郡、穩城郡
大邱税關支署	慶尙北道大邱府	慶尙北道(慶州郡、迎日郡、盈德郡ヲ除ク)
木浦税關支署	全羅南道木浦府	全羅南道
鎮南浦支署	平安南道鎮南浦府	黃海道新溪郡、長淵郡ノ内海安面、薪花面、蕪澤面、松禾郡、殷栗郡、安岳郡、信川郡、載寧郡、黃州郡、鳳山郡、瑞興郡、遂安郡、平安北道鎮南浦府龍岡郡、江西郡、平原郡、安州郡
平安南道支署	平安南道平壤府	黃海道遂安郡、谷山郡、平安南道(鎮南浦府、龍岡郡、江西郡、平原郡、安州郡ヲ除ク)
龍殿浦支署	平安北道龍川郡龍川面	平安北道宣川郡、鐵山郡、龍川郡

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十二年朝鮮總督府令第五十四號ハ之ヲ廢止ス

税關出張所ノ名稱位置 大正一二年三月 改正 大正一三年一月 府令第五五號 府令第八一號 府令第七六號

税關出張所ノ名稱、位置左ノ如シ

名稱	位置
斗流税關出張所	平安北道龍川郡龍川面新興洞
西望税關出張所	平安北道龍川郡揚西面西望洞
鴨綠江橋側税關出張所	平安北道新義州府鴨川町

北下稅關出張所
 西湖稅關出張所
 義州稅關出張所
 龍雲稅關出張所
 義州稅關出張所
 水口鎮稅關出張所
 玉江浦稅關出張所
 清城稅關出張所
 甲殿浦稅關出張所
 廟洞稅關出張所
 私倉浦稅關出張所
 大吉稅關出張所
 鳳谷稅關出張所
 三朴稅關出張所
 陽平稅關出張所
 內淵稅關出張所
 雲海川稅關出張所
 新島場稅關出張所
 舊邑稅關出張所
 江界江口稅關出張所
 平安北道義州郡威下面下端洞
 平安北道義州郡州內面西湖洞
 平安北道義州郡州內面元化洞
 平安北道義州郡水鎮面龍雲洞
 平安北道義州郡州內面元化洞
 平安北道義州郡水鎮面雲川洞
 平安北道義州郡加山面玉江洞
 平安北道義州郡廣坪面清城洞
 平安北道昌城郡昌城面甲殿洞
 平安北道昌城郡昌城面廟洞
 平安北道昌城郡昌州面私倉洞
 平安北道昌城郡昌州面昌坪洞
 平安北道滄郡松西面四西洞
 平安北道滄郡碧瀆面一洞
 平安北道滄郡大平面陽平洞
 平安北道楚山郡城面內淵洞
 平安北道楚山郡楚山面雲海川洞
 平安北道楚山郡楚山面中央土洞
 平安北道渭原郡密山面舊邑洞
 平安北道渭原郡密山面松榛洞

高山鎮稅關出張所
 美他稅關出張所
 滿浦鎮稅關出張所
 玉洞稅關出張所
 雲峰稅關出張所
 照牙稅關出張所
 慈城江口稅關出張所
 土城浦稅關出張所
 中江鎮稅關出張所
 富興稅關出張所
 金昌稅關出張所
 葡三稅關出張所
 厚州古邑稅關出張所
 新聖坡鎮稅關出張所
 仁德堡稅關出張所
 惠山鎮稅關出張所
 三上稅關出張所
 茂山稅關出張所
 梁永鎮稅關出張所
 四江村稅關出張所
 平安北道江界郡高山面浦上洞
 平安北道江界郡高山面美他洞
 平安北道江界郡文玉面文興洞
 平安北道江界郡文玉面玉洞
 平安北道慈城郡三興面雲峰洞
 平安北道慈城郡三興面照牙洞
 平安北道慈城郡慈下面法洞
 平安北道慈城郡長土面土城洞
 平安北道慈城郡閔延面中坪洞
 平安北道厚昌郡厚昌面富興郡
 平安北道厚昌郡厚昌面金昌洞
 平安北道厚昌郡東新面葡三洞
 平安北道厚昌郡東與面古邑洞
 咸鏡南道三水郡江鎮面堡里
 咸鏡南道三水郡好仁面堡城里
 咸鏡南道甲山郡普惠面惠山里
 咸鏡北道茂山郡三長面三上洞
 咸鏡北道茂山郡邑面城川洞
 咸鏡北道茂山郡永北面梁永洞
 咸鏡北道茂山郡永北面西湖洞

陸接國境稅關

下社地稅關出張所	成鏡北道茂山郡豐溪面溪下洞
上水湖稅關出張所	成鏡北道會寧郡雲頭面雲淵洞
遊仙稅關出張所	成鏡北道會寧郡雲頭面遊仙洞
永綏稅關出張所	成鏡北道會寧郡碧城面永綏洞
金生稅關出張所	成鏡北道會寧郡八乙面金生洞
龍堂稅關出張所	成鏡北道慶源郡安農面承真洞
新阿山稅關出張所	成鏡北道慶源郡阿山面新阿山洞
下汝坪稅關出張所	成鏡北道慶興郡慶興面下汝坪洞
慶興稅關出張所	成鏡北道慶興郡慶興面慶興洞
古邑稅關出張所	成鏡北道慶興郡慶興面古邑洞
龍峴稅關出張所	成鏡北道慶興郡慶興面龍峴洞
土里稅關出張所	成鏡北道慶興郡慶興面土里洞
西湖津稅關出張所	成鏡南道咸興郡西湖面西湖里
浦項稅關出張所	慶尙北道迎日郡浦項面浦項里
道洞稅關出張所	慶尙北道豐陵島南面道洞
方魚津稅關出張所	慶尙南道蔚山郡東方面魚里
鎮海稅關出張所	慶尙南道昌原郡鎮海面日出通
馬山稅關出張所	慶尙南道馬山府濱町二丁目
統營稅關出張所	慶尙南道統營郡統營面吉野町
麗水稅關出張所	全羅南道麗水郡麗水面西町

指定港

城山浦稅關出張所 全羅南道濟州島旌義面城山里
前項中新昌稅關出張所以下ノ稅關出張所ニ於テハ大正十二年制令第六號第四條及第五條ニ依リ移出又ハ移入スル貨物ニ關スル稅關事務ニ限リ之ヲ行フ

附則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
大正十年朝鮮總督府令第九十七號ハ之ヲ廢止ス

大正三月十月 改正大正七年五月 同八年八月 同九年八月
府令第一四九號 府令第四三號 同第一二九號 同第一二三號
同一年五月 同二年三月 同一年二月 昭和二年七月
同第六九號 同第五六號 同第七號 同第七七號

稅關監視署ノ名稱、位置及管轄區域左ノ通改正ス
附則

本令ハ大正十三年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス	
漢川浦稅關監視署	平安南道平原郡及同道江西郡ノ沿岸及島
新安州稅關監視署	平安南道安州郡一圓但シ沿岸及島ヲ除ク
南陽洞稅關監視署	平安北道定州郡安興面ヨリ同道同郡阿耳浦面ニ至ル沿岸及島
宣川稅關監視署	平安北道宣川郡一圓但シ沿岸及島ヲ除ク
龍湖島稅關監視署	黃海道慶津郡龍湖島ヨリ長淵郡大牧面ニ至ル沿岸及島嶼
夢金浦稅關監視署	黃海道長淵郡新花面及海安面沿岸及島嶼
何日里浦稅關監視署	平安北道定州郡葛山面ヨリ平安南道安州郡立石面ニ至ル沿岸及島嶼
望東浦稅關監視署	平安北道鐵山郡及宣川郡ノ沿岸及島嶼

(臺灣)

稅關支署名稱位置及管轄區域
明治四三年一〇月臺灣總督府令第七一號

名稱	位置	管轄區域
臺灣總督府稅關舊港支署	新竹州新竹郡舊港庄	新竹州ノ内新竹郡、中壢郡桃園郡、大溪郡、竹東郡
臺灣總督府稅關後龍支署	新竹州竹南郡後龍庄	新竹州ノ内竹南郡、苗栗郡、大湖郡、
臺灣總督府稅關梧棲支署	臺中州大甲郡梧棲街	臺中州ノ内臺中市大屯郡、豐原郡、東勢郡、大甲郡
臺灣總督府稅關鹿港支署	臺中州彰化郡鹿港街	臺中州ノ内彰化郡、員林郡、北斗郡、南投郡、新高郡、能高郡、竹山郡
臺灣總督府稅關東石支署	臺南州東石郡東石庄	臺南州ノ内新營郡、嘉義郡、斗六郡、虎尾郡、北港郡、東石郡
臺灣總督府稅關安平支署	臺南州臺南市安平	臺南州ノ内臺南市、新營郡、新化郡、曾文郡、北門郡
臺灣總督府稅關高雄支署	高雄州高雄市	高雄州ノ内高雄市、岡山郡、鳳山郡、旗山郡、屏東郡、潮州郡、東港郡、恆春郡
臺灣總督府稅關馬公支署	高雄州澎湖郡馬公街	高雄州ノ内澎湖郡
臺灣總督府稅關淡水支署	臺北州淡水郡淡水街	臺北州ノ内淡水郡、新莊郡
蘇澳稅關監視署	臺北州蘇澳郡蘇澳庄	
頂清水稅關監視署	臺北州羅東郡五結庄	
社里稅關監視署	臺北州基隆郡貢寮庄	
金山稅關監視署	臺北州基隆郡金山庄	
許厝港稅關監視署	新竹州桃園郡大園庄	
中港稅關監視署	新竹州竹南郡竹南庄	
通霄稅關監視署	新竹州苗栗郡通霄庄	

稅關監視署名稱及位置
大正九年九月 府令第一〇四號
政正 大正一二年二月 府令第二九號

大安稅關監視署	臺中州大甲郡大安庄
沙山稅關監視署	臺中州北斗郡沙山庄
海口稅關監視署	臺南州虎尾郡海口庄
口湖稅關監視署	臺南州北港郡口湖庄
布袋稅關監視署	臺南州東石郡布袋庄
北門稅關監視署	臺南州北門郡北門庄
灣裡稅關監視署	臺南州新豐郡永寧庄
東港稅關監視署	高雄州東港郡東港街
枋寮稅關監視署	高雄州潮州郡枋寮庄
車城稅關監視署	高雄州恒春郡車城庄
大板埕稅關監視署	高雄州恒春郡恒春庄
漁翁島稅關監視署	高雄州澎湖郡西嶼庄
臺東稅關監視署	臺東廳臺東街
花蓮港稅關監視署	花蓮港廳花蓮港街

附則
本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
大正十二年一月 府令第二十九號
本令ハ大正十二年二月一日ヨリ之ヲ施行ス
大正六年七月 府令第三三號
改正 大正一一年三月 府令三六號
稅關又ハ稅關支署出張所ノ名稱位置ノ件

臺灣總督府稅關臺北出張所 臺北州管下臺北市
第三章 關稅行政機關 第五節 關稅行政機關の名稱位置及管轄

附 則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス (大正十一年府令第三六號)

税關及税關監視所設置 明治四〇年六月二十六日
關東都督府告示第四五號

明治四十年七月一日ヨリ税關ヲ大連ニ税關監視所ヲ金州及尊蘭店ニ設置ス

明治四〇年一〇月三十一日
關東都督府告示八八號

明治四十年九月七日ヨリ税關監視所ヲ貔子窩ニ設置シタリ

明治四十三年七月一日
關東都督府告示百七號

明治四十三年七月一日ヨリ大連税關旅順口監視所ヲ廢シ大連税關分關ヲ旅順ニ設置ス

第六節 關稅行政機關ノ事務分掌

税關ニ於ケル内部ノ事務分掌ハ時代ニヨリ多少ノ變更ヲ見ルハ已ムヲ得サルノ勢トス特ニ統計及貿易調査事務ノ如キハ或時代ハ税關長官房ニ屬シ或ハ總務課ニ屬シ或ハ兩者ニ分屬シタルモ最近ハ之レヲ總務課ニ屬スルコトナリタリ今内地、朝鮮及臺灣ニ於ケル各課分掌規程ヲ示スコト左ノ如シ

(内地) 税關分課規程

大正四年二月二十九日官報
大正一三年一二月二二日官報改正
大正一三年一二月二〇日ヨリ施行

- 第一條 税關ニ監視部及港務部ノ外税關長官房總務課、検査課、植物検査課及會計課ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム
- 第二條 税關長官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、機密ニ關スルコト

- 二、官吏ノ進退身分ニ關スルコト
- 三、官印於廳印ノ管守ニ關スルコト
- 四、文書ノ授受發送編纂保管ニ關スルコト
- 五、翻譯ニ關スルコト
- 六、異議訴願及訴訟ニ關スルコト
- 七、外國貿易船不開港出入ノ特許ニ關スルコト
- 八、保税倉庫假置場其ノ他保税地域ノ設置變更廢止ニ關スルコト
- 九、他ノ部課ニ屬セサルコト

第三條 總務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、船舶貨物及船用品ニ關スル文書ノ調査ニ關スルコト
- 二、船舶貨物及船用品ニ關スル特許認許其ノ他ノ處分ニ關スルコト
但シ開港々則、海港檢疫法、家畜傳染病豫防法、畜牛結核病豫防法、輸出入植物取締法、輸出獸毛製刷子取締規則及内地產獸毛消毒規則ニ關スルモノヲ除ク
- 三、検査スヘキ貨物ノ指定ニ關スルコト
- 四、諸税及諸收入ノ賦課徵收並ニ豫算決算ニ關スルコト
- 五、税金ノ擔保ニ關スルコト
- 六、統計及諸表ノ作成ニ關スルコト

第四條 検査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、貨物及船用品ノ検査鑑定ニ關スルコト
- 二、見本品ノ採取保存ニ關スルコト

三、仕入書ノ整理保存ニ關スルコト
等四條ノ二 植物検査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、輸出入又ハ移出入植物ニ關スル検査取締ニ關スル事項

二、輸出入又ハ移出入植物ノ病菌及害虫ノ研究調査ニ關スルコト

第五條 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、經費ノ豫算決算及會計ニ關スルコト

二、官有財産及物品ニ關スルコト

三、交付金及諸拂戻金ニ關スルコト

四、營繕ニ關スルコト

第六條 監視部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、船舶貨物及船用品ノ取締ニ關スルコト

二、保税地域及運送通路ノ取締ニ關スルコト

三、貨物ノ整理及收容處分ニ關スルコト

四、倉庫事務ニ關スルコト

五、犯則事件ノ調査處分ニ關スルコト

六、旅客携帯品ノ検査ニ關スルコト但シ輸出入植物取締法ニ依ルモノヲ除ク

七、船内船用品ノ検査ニ關スルコト

八、船口申告書旅客氏名表船内船用品目録ノ調査ニ關スルコト

九、税關構内ノ取締ニ關スルコト

第六條ノ二 港務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、開港々則ニ關スルコト

二、開港々則ノ施行ニ直接必要ナル港内ノ行政警察ニ關スルコト

三、海港檢疫ニ關スルコト

四、輸入又ハ移入ノ獸畜其ノ他ノ貨物ニ對スル家畜傳染病法又ハ畜牛結核病豫防法ノ檢疫検査ニ關スルコト

五、内地産獸毛ノ消毒ニ關スルコト

第七條 税關長ハ必要ト認ムルトキハ部課ノ事務ニ關スル文書ニ接受

發送テ其ノ部課ニ掌ラシムルコトヲ得

第八條 税關長ハ税關支署ノ分課規定ヲ定メ認可ヲ受クヘシ

函館税關ニハ當分ノ内植物検査課ヲ置カス監視部ニ於テ其ノ事務ヲ掌ル

(朝鮮) 朝鮮總督稅關事務分掌規程 明治四五年三月訓令二二號
大正一二年三月訓令二二號改正

第一條 朝鮮總督府稅關ニ庶務課、監視課、稅務課及検査課ヲ置ク課長ヲ置ク

第二條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、官印及廳印ノ管守ニ關スル事項

二、人事及機密ニ關スル事項

三、文書ノ接受、發送及編纂、保管ニ關スル事項

四、異議、訴願及訴訟ニ關スル事項

五、會計及營繕ニ關スル事項

六、官有財産及物品ニ關スル事項

七、交付金及諸拂戻金ニ關スル事項

八、他課ニ屬セサル事項

第三條 監視課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、船舶、貨物及船用品ノ取締ニ關スル事項
- 二、保税地域及運送通路ノ取締ニ關スル事項
- 三、犯則事件ノ調査及處分ニ關スル事項
- 四、輸口申告書、旅客氏名表及船内船用品目錄ノ調査ニ關スル事項
- 五、船内船用品ノ検査ニ關スル事項
- 六、旅客携帯品ノ検査ニ關スル事項
- 七、倉庫事務ニ關スル事項
- 八、貨物ノ整理及收容ニ關スル事項
- 九、船舶ノ繫留及曳船ニ關スル事項
- 十、税關構内ノ取締ニ關スル事項

第四條 税關課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、船舶、貨物及船用品ニ關スル文書ノ調査ニ關スル事項
- 二、船舶、貨物及船用品ニ關スル免許、特許及認許ニ關スル事項
- 三、検査スヘキ貨物ノ指定ニ關スル事項
- 四、税金ノ擔保ニ關スル事項
- 五、諸税及諸收入ノ賦課、徵收並豫算決算ニ關スル事項
- 六、統計及諸表ニ關スル事項
- 七、貿易及經濟狀況ノ調査ニ關スル事項

第五條 検査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、貨物及船用品ノ検査、鑑定ニ關スル事項
- 二、見本品ニ關スル事項
- 三、輸出及移出ノ海藻、水産製造品ノ品質検査ニ關スル事項
- 四、輸入及移入苗木類ノ消毒ニ關スル事項

附 則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(臺灣)

臺灣總督府税關分課規程 明治三十七年一月訓令一四號
大正六年七月訓令九四號改正

第一條 税關ニ監視部ノ外庶務課、検査課ヲ置ク

第二條 監視部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、船舶貨物及關内ノ取締ニ關スル事項
- 二、犯則事件ノ調査及處分ニ關スル事項
- 三、輸口申告書、旅客氏名表及船用品目錄ノ調査ニ關スル事項
- 四、船用品、旅具及携帶品ノ検査ニ關スル事項
- 五、貨物ノ收容ニ關スル事項
- 六、貨物ノ整理ニ關スル事項
- 七、保税地域ノ取締ニ關スル事項
- 八、保税倉庫ノ取締ニ關スル事項
- 九、假置場ノ取締ニ關スル事項

第三章 關稅行政機關

第五節 關稅行政機關ノ事務分掌

十、運送通路ノ取締ニ關スル事項

第三條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、職員ノ進退、機密、統計其ノ他他課ノ主管ニ屬セサル事項
- 二、免許、特許及認許ニ關スル事項
- 三、異議、訴願及訴訟ニ關スル事項
- 四、會計及諸收入ニ關スル事項
- 五、擔保ニ關スル事項

第四條 検査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、貨物ノ検査鑑定ニ關スル事項
- 二、見本品ニ關スル事項

第五條 各課ニ長ヲ置キ高等官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

課長ハ上官ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ掌理ス

第六條 税關出張所及税關支署出張所ニ長ヲ置キ判任官ヲ以テ之ニ充ツ出張所長ハ上官ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ掌理ス

第七條 税關長ハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ支署ノ分掌規程ヲ定ムルコトヲ得

第七節 關稅官吏ノ職權及義務

一、行政機關ヲ構成シ之レヲ充實セシムルモノハ行政官吏ナリ税關行政ノ執行ニ當ルモノヲ税關官吏(Customs Officer)ト稱スル(註八九)官吏ニ對スル國家ノ使用權ハ君主國ニアリテハ專ラ君主ニ依リテ爲サレ皆直接又ハ間接ニ君主

ノ下ニ隸屬シ君主ハ總テノ官吏ニ對シテ其ノ使用主トシテノ權利ヲ總攬ス我國ニ於テモ亦總テノ官吏ハ天皇ノ下ニ隸屬スルモノニシテ其ノ任免ハ直接又ハ間接ニ天皇ニ基カサルナシ憲法第十條ハ之ヲ明言ス約言スレハ天皇ノ使用人ナリ

官吏ハ臣民トシテノ法律上ノ義務ニ基クニアラスシテ特ニ勤務ニ服スルカ爲ニ選任セラレ而モ其ノ勤務ハ單純ナル經濟上ノ勞務ノ給付ニ止マラスシテ國家ニ忠實ナルヘキ論理的ノ義務ヲ包含シ又限ラレタル特定ノ行爲ニ止マラスシテ國家ノ命スル所ニ從ヒ無定量ノ勤務ニ服スヘキ義務ヲ負フモノナリ(註九〇)

此ノ意義ヨリスルトキハ官廳ニ於ケル雇員ノ如キモノヲモ包含スルカ如キモ之ハ形式上定メラレタル親任官、勅任官、奏任及判任官(註九一)ニ屬セサルヲ以テ官吏ニアラサルモノト云ハサル可ラス

(註八九)私設ノ保税倉庫保税工場及上屋ニ派出スル所謂特派税關官吏ハ只經費支出上ノ區分ニ過キスシテ他ノ税關官吏ト其ノ資格ニ於テ異ナルモノニアラサモノトス

(註九〇)美濃部博士日本行政法總論三一三頁

(註九一)明治四三年勅令一三四號高等官官等俸給令明治四三年勅令二六七號文武判任官官等俸給令

二、官吏ニ任用セララルルニハ一定ノ要件ヲ備フルコトヲ要ス其ノ要件ニハ能力要件ト資格要件トノ二種アリ能力要件ハ即チ官吏ニナリ得ヘキ能力ニシテ此ノ要件ヲ備ヘサルトキハ官吏トナリ得ヘキ權利能力ナク假令官吏ニ任セララルコトアルモ其ノ任命ハ法律上ノ不能ニ基キ當然無効ナリ資格要件ハ官職ヲ受クヘキ者ノ資格ニ關スル條件ニシテ此ノ資格ナキ者ト雖モ敢テ官吏ニ成リ得サルニアラサルモ誤テ無資格者ヲ任用シタリトセハ其ノ任命當然無効トナルニ非ラス唯法律上ノ瑕疵アルモノニシテ正當ナル官吏トシテノ地位ノ保證ヲ有セス何時ニテモ免官セララルコトアルヘキノミ

從ツテ前者ハ人民ノ權利能力ニ關スル事項ナルヲ以テ唯法律ヲ以テノミ定ムルコトヲ得後者ハ天皇ノ文武官任免大

權ニ淵源ヲ有スルモノナルヲ以テ勅令又ハ其ノ特別ノ委任ニ依ル命令ヲ以テ定ムルコトヲ得ルモノトス官吏トナルヘキ能力ヲ有セサル者左ノ如シ

- (一) 死刑無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルモノ及舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者(刑事施行法三四條三七條)即チ舊刑法ニ於ケル公權剝奪ニ該當スルモノナリ
- (二) 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者はレ舊刑法ノ公權停止ニ該當スルモノナリ(同三六條三七條)
- (三) 外國人、外國人ノ官吏能力ニ關シテハ何等法律上明文ナケレトモ外國人ハ一般ニ參政權能力ヲ有セサルコト國籍法三十四條及官吏恩給法第十二條ニ於テ官吏ト國籍トテ不可分ノ關係ニ置キタルコト等ヨリ之レカ能力ナキモノト推斷スルコトヲ得ヘシ

- (四) 歸化人、歸化人ノ子ニシテ國籍ヲ取得シタルモノ及日本人ノ養子又ハ人夫ト爲リタル者ハ國務大臣、樞密院議長、同副議長、顧問官、特命全權大使、陸海軍將官、大審院長、會計検査院長又ハ行政裁判所長官トナルノ能力ヲ有セス(國籍法第十六條)是レ生來ノ日本人ニアラサル者ニ右重要官職ニ就カシムルハ好マシカラサルニ依ル
- (五) 文官懲戒令ニ依リ免官ノ處分ヲ受ケ其ノ官職ヲ失ヒタル日ヨリ滿二箇年ヲ經過ゼサルモノ(文官懲戒令)以上缺格者ヲ除ク其ノ男女ノ性年齡ノ別ハ關係ナシ即チ女子又ハ未成年者モ官吏トナルヲ妨ケス但シ未成年者ニ付テハ議論アリ未成年者ハ民法ニ於テ能力發達不充分ナルノ故ヲ以テ單獨ニ法律上有效ニ法律行為ヲ爲シ得サルモノトセルニ是レヨリ更ニ重要ナルヘキ國家意思ノ決定ニ參與セシムルカ如キハ不穩當ナリト主張スル者アルモ(例ヘハ織田萬博士)茲ハ具體的事例ニ直面シテ決定サルヘキ事實問題ニ屬シ未成年者ナルカ故ニ一概ニ法律上無能力ナリトスルハ聊カ失當ナリ故ニ未成年者カ實際ニ於テ公務ヲ擔任シ之レカ意思決定ヲ爲シ得ルヤ否ヤノ問題ハ寧ろ資格要件ニ於テ制限ヲ受クルモノナルニ鑑ミ法律論トシテハ未成年者ハ官吏タルノ權利能力アリト言ハントス

三、資格要件

現行ノ制ニ依レハ官吏ノ任用ハ(一)詮衡任用(二)自由任用(三)官歴任用(四)試験任用(又ハ之レニ相當スル學歷)ノ四種ニ別ツコトヲ得(註九二)

- (一) 自由任用ハ其ノ任用資格ニ何等ノ制限ナキモノニシテ之ニ屬スルモノハ親任官(大審院長、行政裁判所長官、會計検査院長、陸海軍大臣朝鮮總督、臺灣總督ヲ除ク)特別全權公使、辨理公使、内閣書記官長、法制局長官、各省政務次官、各省參與官、内務省警保局長、警視總監、貴族院書記官長、衆議院書記官長、秘書官
- (二) 詮衡任用ハ試験委員ノ詮衡ヲ經テ任用セラルルモノナリ即チ文官任用令第二條ニ於ケル一年以上ノ勅任文官、若ハ二年以上職ニアリタル者ヨリ勅任文官ニ任シ教官技術官其他特別ノ學術技藝ヲ要スル文官ハ官歴又ハ試験ヲ要セス試験委員ノ詮衡ヲ經テ任用スルカ如シ

(三) 官歴任用

陸海軍大中將カ陸海軍大臣ニ二年以上奏任教官ノ職ニアリタル者ハ文部省部内ノ奏任文官ニ二年以上文官ノ職ニ在リタル者及四年以上雇員タル者ヲ判任官ニ任用スルカ如シ

(四) 試験任用

是レ官吏任用ノ原則ナリ即チ普通試験高等試験ニ合格シタルモノヨリ任用スル場合ト一定ノ學歷ヲ有スル者ヨリ任用スル場合トアリ

(註九二)大正二年勅令二六二號任用分限又ハ官等ノ初級階級ノ規定ヲ適用セサル文官ニ關スル件、大正二年勅令二六一號文官任用令、大正四年文部省令第二號文官任用令上學校認定ニ關スル件、同告示二十五號文官任用令上學校認定ニ關スル件ニ依ル認定諸學校、大正九年勅令一六〇號奏任文官特別任用令、大正九年勅令三五七號判任文官特別任用令

而シテ税關監吏ニ關シテハ一般判任官資格ヲ有スルモノノ外別ニ特別任用規程存セリ(註九三)

(註九三) 大正九年大藏省令第六〇號稅關監吏特別任用令、明治四十五年府令一六號朝鮮總督府稅關監吏特別任用ニ關スル件、大正九年府令第七四號臺灣總督府稅關監吏任用規則、大正一一年府令一〇七號朝鮮總督府稅關監吏ノ特別任用ニ關スル件

四、官吏ハ國家ノ命スル勤務ニ服スル義務ヲ有スルヲ以テ國家ノ單意ニ依リテ轉職轉任ヲ命セラレコトアルモ官吏個人ノ意思ニ反シテ國家ハ現官ノ官吏ヲ同等官以下ニ轉官セシメ又ハ種類ノ異ナル官職ニ轉官セシメラルコトナシ蓋シ種類ヲ異ニスル官職ニ轉セシムルハ既存ノ義務ニハ含まレサル新ナル義務ヲ命スルモノニシテ本人ノ同意ヲ要スレハナリ

五、一般官吏トシテハ種々ノ權利ヲ享有ス即チ(一)官職ヲ稱シ及其ノ官職ニ相當スル制服及禮服ヲ着用シ得ルコト(二)位勳ヲ授ケラレルコト(三)俸給恩給退官賜金遺族扶助料及一時扶助金ヲ受クルコト(四)職務ノ執行ニ付キ刑法上ノ保護ヲ受クルコト等之レナリ而シテ稅關監吏ハ右一般官吏トシテノ權利ノ外關稅行政法上尙諸種ノ權利ヲ有スルモノトス職務上有スル權利ヲ職權(Competency)ト云フ其ノ職權ハ稅關官吏一般ニ對スルモノト特ニ稅關長ノミニ對スルモノトアリ後者ハ一般ノ稅關官吏ハ之レヲ行ヒ得サレトモ稅關長ノ命令ニ依リ之レヲ行使スルハ妨ケサルモノトス又前者ハ稅關長ニ於テ之レヲ行使シ得ルハ言テ俟タス

六、稅關長ニ與ヘラレタル職權ハ他ノ稅關監吏ニ與ヘラレタルモノヨリモ比較的重大ナル事項ニ屬スル場合多シ(一) 船車差止權、之レ關稅法第五十三條ノ定ムル所ニシテ稅關長ハ職務ノ執行上必要アリト認ムル時ハ船車ノ出發ヲ差止メ又ハ進行ヲ停止スルコトヲ得ルモノトス而シテ時宜ニアリテハ稅關長ハ海軍ノ援助ヲ求メ得ルモノナリ此ノ權利行使ハ人民ノ權利利益ニ重大ナル影響ヲ與フルモノナルヲ以テ之レカ行使ニ當リテハ輕々ニ爲スヘカラサルモノトス重大犯則ノ嫌疑アル場合又ハ國家ノ治安ヲ害スル貨物又ハ旅客ヲ運送セムトスル場合ニ其ノ船車ニ對シテ行フカ如シ此ノ命令ニ對シテ船車ノ船長又ハ車掌等ハ之レヲ拒ムコトヲ得サルモノトス尙船車トアルヲ以テ一切ノ船舶及車ヲ指稱シ軍艦、電車等ヲモ含ムモノトス

(二) 書類提出強要權、稅關長ハ職務執行上必要ナリト認ムル時船舶若ハ貨物ニ關スル書類ノ提出ヲ命シ得ルコト關稅法第五十四條ノ定ムル所ナリ茲ニ謂フ書類ハ關稅法其他ノ特法ニ於テ提出ヲ命セラレ書類以外ノ謂ニシテ例ヘハ船積明細表引取届等關稅行政ニ交渉アル船舶若ハ貨物ニ關シテノ書類ヲ提出セシムル如キ場合ナリ

(三) 運送貨物處分權、稅關長ハ必要ト認ムル時ハ運送貨物ニ對シ監督上必要ノ處分ヲ爲ス事ヲ得ルコト關稅法第五十五條ニ定メラル此ノ處分ナル語ハ普通ノ用語例ニ從ヘハ物質的措置ヲ謂フモノナルカ茲ニ謂フ處分ナルモノハ毀却等ヲ指稱スルニアラスシテ運送ニ關シ監督上必要ナリト思料スル方法ヲ採リ得ルノ意味ナリトス即チ運送貨物ハ運送ノ途上ニ於テ抜取り又ハ差換スル等ノ虞アリト思料スル場合ニ監督上人ヲ之レニ付シ又ハ積卸配置等ニ付キ命令スルカ如キ場合ヲ云フ

(四) 見本收受權、稅關長ハ必要ト認ムル時キハ輸出入貨物ノ見本ヲ納付セシメ得ルコト關稅法第五十六條ノ定ムル所ナリ之レ検査鑑定上ノ參考ニ資セムカ爲メニ稅關ニ於テ收納スル場合ニシテ單ニ稅關ニテ陳列標本ノ爲メニスルカ如キ場合ハ許サレサルモノトス斯カル場合ニハ本條ニ依ルニアラスシテ貨主ト稅關トノ契約ニ依リテ貨主カ任意ニ寄贈スルモノトス而シテ本條ニ依ル見本收受ハ其ノ分量個數等ニハ其ノ用途ヨリシテ自ラ制限アルコト勿論ナリ貨物ノ検査鑑定ノ資料ヲ超エ多量ニ收納スルカ如キハ不可ナリ此ノ場合ニハ「納付セシムル」トアルヲ以テ個人ノ所有權ヲ強制的ニ剝脱スルモノニシテ其代價ハ賠償セサルヘキハ勿論ナリ

(五) 差押物件公賣權、稅關長ハ犯則ニ係ル差押物件カ腐敗其他損傷ノ虞アリト認ムル時キハ之レヲ公賣ニ付シ其ノ代金ヲ供托スルコトヲ得(註九四)

(註九四) 關七條、關六五條九〇條三項

(六) 結核畜牛處分權、明治四十三年法律第三五號畜牛結核病豫防法第七條第八條及第七十條ニ依レハ稅關長ハ外國ヨリ輸入スル畜牛及農林大臣ノ指定シタル地方(朝鮮等)ヨリ移入スル畜牛ニシテ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑ヒアルト

キハ是等畜牛ニ對シ輪移入ノ禁止繋留其他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得ルモノトス此ノ場合ノ處分中ニハ物質的處分ヲモ含ミ之レヲ燒却スルカ如キヲ云フナリ

七、一般税關監吏ニ與ヘラレタル職權ハ上官タル税關長ノ命ニ依ル場合ハ勿論其他税關長ニ於テ特ニ其ノ行使ヲ禁セサル限リハ税關官吏ニ於テ爲シタルモノトス然レトモ税關長ニ依リテ職權ニ基ク處分ヲ取消シ又ハ停止スヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ税關官吏ハ之レニ服従スヘキコト勿論ナリ次ニ一般税關官吏ニ與ヘラレタル職權ヲ列述セム

(一) 船車ニ對スル處分權、税關官吏ハ船車ニ乘込ミ監督上必要ノ處分ヲ爲シ得ルコト關稅法第五十七條ノ定ムル所ナリ船車ニ乘込ミ爲ス監督ナルヲ以テ主トシテ監督行政ヲ執行スル監視官吏ノ職權ニ屬スルモノトス此ノ處分ナル文言ハ頗ル明瞭ヲ缺クモ物質的破壊等ハ含マサルヘク單ニ監督上爲ス各種ノ處置ナルヘシ即チ輸出積戻及運送貨物ノ船積ニ對シ當該免狀ヲ提示セシメ或ハ普通貨物ノ船卸ニ付キテ船卸通知票ヲ旅客携帶品ノ船卸ニ付キテ當該附紙ヲ發シ、船陸間ノ貨物運搬ニ伴フ監督ノ方法處置ヲ爲スカ如キ船員及旅客ヲシテ所持煙草表ヲ提出セシムルカ如キ沖賣商ヲ監督スルカ如キハ本條ニ係ルモノナルヘシ

(二) 検査封鎖權、關稅法第五十八條ニ依レハ税關官吏必要ト認ムル時ハ貨物ヲ検査若ハ封鎖シ又ハ船車倉庫其他貨物藏置場ヲ封鎖スルコトヲ得即チ船用品及船員所持品等ニ對シテ封鎖ヲ爲スカ如キ場合之レナリ其他監視ノ爲メ乘監セル官吏ナキ場合ニ船口ニ對シテ封鎖ヲ行フカ如キモ之レナリ

(三) 私設保税倉庫ノ貨物及帳簿類検査權、保税倉庫法第二十五條第三十四條等ニ依レハ税關官吏ハ其ノ藏置貨物及備付ノ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得其ノ貨物運搬中ニアルモノニ付テハ其ノ所在ニ付キ検査ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

(四) 保税工場出入者ニ對スル權、保税工場法第七條第十七條ニ依レハ税關官吏ハ保税工場ニ出入スルモノノ身體及之ニ屬スル物件ニ付キ搜索ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

(五) 犯則事件ノ調査ニ對スル職權、此ノ權力行使ニ關シテハ監視行政中ニ於テ評論スルコトトスヘシ

(六) 臘虎臘腸獸ニ對スル職權、明治四五年法律二一號臘虎臘腸獸獵禁禁止ニ關スル件第一條乃至第四條ニ依レハ税關官吏ハ必要アリト認ムル時ハ船舶、店舖其他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ検査シ又ハ本法ニ違反スル行爲アリタリト認ムルトキハ船舶具、獵具、船籍證明書若ハ獵獲物ヲ差押ヘ船員ヲ抑留シ若ハ之レヲ相當官吏ニ引致スルコトヲ得トセラル

(七) 輸出入植物ニ對スル職權、輸出入植物取締法第八條ニ依レハ税關官吏ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反スル者アリト認ムル時ハ臨檢尋問搜索若ハ差押ヲ爲シ又ハ其ノ違反ニ係ル物ヲ消毒若ハ燒棄シ其他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得トセラレ其ノ臨檢、尋問、搜索又ハ差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ストセラルルヲ以テ此ノ範圍内ニ於テ各種ノ強制權ヲ行使シ得ルモノトス

八、官吏ノ義務ニ關シテハ官吏服務紀律(明治二〇年勅令三九號)ノ定ムル所ニシテ此ハ俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル雇員ニモ適用アルモノトス之レカ詳細ニ涉リテハ一般行政法學ニ於テ論究スヘキモノナルヲ以テ茲ニハ其ノ大體ヲ記スニ止ム(註九五)

(註九五) 美濃部博士著日本行政法總論三三九頁乃至三五三頁

(一) 職務執行ノ義務、官吏ハ其ノ命セラレタル職務ヲ擔任シ其ノ擔任スル職權ヲ執行スルノ義務ヲ負フ其ノ職務ノ範圍ハ法律命令ニ依リテ定マリ法令ノ範圍内ニ於テハ本屬長官又ハ其他ノ上官ノ命令ニ依リテ定マル其ノ定マリタル所ニ從ヒ勤勉ニ其ノ職務ヲ盡スヘキ義務ヲ負フモノトス

(二) 從順ノ義務、官吏ハ其ノ職務ニ付キ本屬長官ノ命令ヲ遵守スルノ義務ヲ負フ茲ニ謂フ本屬長官トハ職務上ノ上官ノ謂ナリ下級官吏ハ上官ヨリ發セラルル文書又ハ口頭ノ職務命令ニ對シテ個人トシテ之レニ違フノ義務ヲ負フ而シテ職務命令ハ必スシモ職務ノ執行ヲ命スルノ外職務ニ妨ケアル行爲ヲ禁止シ職務ノ忠實ナル執行ニ必要ナル行爲

ヲ命スルハ等シク職務命令ナリ然レトモ職務ヲ離レテ上官下官ノ區別ナキヲ以テ職務ノ範圍ニ屬セサル事務ノ執行ヲ命シ上官ノ私事ヲ命シ職務ニ關係ナキ私生活ニ干涉スルカ如キハ皆職務命令タル事ヲ得ス有效ナル職務命令ト言ハンニハ正當ノ權限アル上官ヨリ發セラレタルコト内容ノ可能確定ナルコト上級ノ職務命令ニ牴觸セサルコトヲ要ス

職務命令カ此等ノ有效要件ヲ備フルヤ否ヤハ官吏自ラ之レヲ審査スヘキ權利ト義務トヲ有ス其ノ無効ナルモノニ付テハ之レニ違フノ義務ナキト共ニ若シ之レニ從ヒタル場合ニ於テハ自ラ其ノ責ニ任スルヲ要シ上官ノ命令ナルカ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルヲ得ス其ノ有效ナルモノニ付キテハ常ニ之レニ從フ義務ヲ負ヒ假令其ノ法例ニ違背シ又ハ公益ニ反スルト信スルモ違由ノ義務ヲ免ルルヲ得サルト共ニ之ニ違ヒテ爲シタル行爲ニ付キテハ自ラ其ノ責ニ任スルコトナシ

(三) 忠實義務、官吏ハ其職務ニ關シテ單ニ上官ノ命令ニ服スルノ義務アルノミナラス其ノ命令ナキ事項ニ付テモ自己ノ見ル所ニ依リ努メテ國家ノ利益ヲ計リ不利益ヲ避クヘキ義務ヲ負フ之ヲ忠實ノ義務ト謂フ從順ノ義務ハ命令ヲ違フノ義務ニシテ忠實ノ義務ハ命令ナキ場合ニ於テ存スルモノナリ故ニ其ノ義務ニ屬スル事項ニ關シテハ政府ノ方針ニ反對シ其ノ施政ヲ妨クルノ行爲ヲ爲スカ如キハ忠實ノ義務違反ナリ然レトモ職務ニ關係ナキ私生活ニ付テハ政府ノ政策ニ反對スルノ意見ヲ公表スルモ敢テ忠實ノ義務ニ反スルコトナシ

(四) 秘密嚴守ノ義務、官吏ハ自己ノ職務ニ屬スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハス官ノ秘密ヲ漏洩スヘカラサルノ義務ヲ負フ

(五) 品位ヲ保ツノ義務、官吏ハ其ノ職務上ハ勿論職務外ノ私生活ニ於テモ官吏タル品位ヲ辱メサルノ義務ヲ負フ官吏ハ國ノ用人ナルヲ以テ官吏ノ素行修マラス其ノ威嚴ヲ損シ信用ヲ害スルノ所爲アレハ延テ國家ノ利益ヲ害スルモノナレハナリ

(六) 其ノ他官吏カ職務ヲ充タスニ妨ケアル行爲ヲ禁止シ以テ義務ヲ負ハシメタリ例ヘハ本局長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコト職務ニ關シテヨリ贈遺ヲ受クルコト本職外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコト勅裁ヲ得ルニアラサレハ外國ノ君主又ハ政府ヨリ勳章榮賜俸給並ニ贈遺ヲ受クルコト官吏及其ノ家族ハ本局長官ノ許可ヲ得スシテ直接又ハ間接ニ商業ヲ營ムコト政府ノ請負ヲ爲スモノ其他政府ヨリ財産上ノ利益ヲ受クル者ト職務上直接ノ關係アル官吏ハ此等ノ者ヨリ鑿應テ受クルコト取引相場會社ノ社員タルコト私立ノ船車會社ヨリ無償券ヲ受クルコト上官ハ所屬ノ官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコト等ヲ禁止セラレタリ

第八節 税關貨物取扱人

一 關稅行政上税關貨物取扱人 (Customs broker: Zoll-Kommissionär; fripier de douane) ト稱スルハ貨主ノ爲メニ自己又ハ其ノ貨主ノ名ヲ以テ關稅ニ對シ貨物ニ關スル手續ノ取扱ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ
即チ税關ト貨主トノ間ニ立チテ税關ニ交渉スル貨物ニ付キ貨主ニ代リテ其ノ手續ヲ爲スヲ業トスルモノナリ
茲ニ所謂貨主トハ税關ニ交渉ヲ有スル輸移出入貨物ニ關シテ所持又ハ所有スルモノニシテ取引上、出荷主又ハ單ニ荷主ト稱スルモノヲ指稱ス貨物ニ關スル手續ト稱スルヲ以テ輸移出入通關ハ勿論其他貨物ニ付キ税關ニ對シテ爲スコトヲ要スル一切ノ行爲ヲ爲スモノトス

業トスル者ハ之レヲ營業トスル者ノ謂ナリ營業 (Erwerbsgeschäft) トハ自己ノ計算及危險 (Risiko speculation; Steigungsver-Spekulation; Spéculation à la hausse) ニ於テ營利ノ目的即チ收入ヲ得ルノ目的ヲ以テ換言スレハ所得ノ通常ノ根源ト爲スノ目的ヲ以テ繼續的ニ連絡アル一團ノ行爲ヲ爲スコトヲ謂フ即チ同種ノ行爲ヲ統一的ニ爲スコトヲ要ス統一的ニ爲スコトハ箇々ノ行爲ヲ爲スニ非ラス不定數ノ一團ノ行爲ヲ爲スノ目的ヲ以テ之レニ屬スル同種ノ行爲ヲ繰返

シ行フコトナリ故ニ或ル行爲ヲ統一の且繼續的ニ行フト云フニハ多少長キ期間之レヲ行フコトヲ要スト雖モ必スシモ長年月間タルコトヲ要セス營利ノ目的ハ營業全體即チ一團トシテノ行爲ニ付キ存スルヲ以テ足レリトシ之レニ屬スル各個ノ行爲ニ付キ存スルコトヲ要セス若之レニ反シ營利ノ目的ナキ場合ハ繼續的ニ數多ノ行爲カ爲サルモ之レヲ以テ營業ト云フコトヲ得ス營利ノ目的アル以上ハ實際ニ於テ利得シタル否ヤヲ問ハス亦箇々ノ行爲ニ付キ營利ノ目的アルコトヲ要セス營業者ノ生計ノ資料又ハ主要ノ源泉タルヲ要セス又社會上ノ地位ノ基礎タルヲ要セス其取得セラレタル利益カ如何ナル目的ノ爲メニ費消セラルルヤ至ク問フ所ニ非ラス營利ノ目的ノ外他ノ目的カ共存スルモ營業タルヲ妨ケス而シテ貨物取扱人ノ業務カ商法ノ所謂取次營業ニ屬シ其ノ貨主トノ關係ハ取次契約 (Commission contract; Commissionskontrakt; Contrat de Commission) ナルコト疑ナキモノノ如シ其事務ノ態様ヲ見ルニ其ノ自己ノ名ヲ以テ他人ノ計算ニ於テ爲シ法律上ハ自己ノ名ヲ以テシテハ稅關ニ對シテ權利義務ノ主體トナルモ經濟上ハ他人タル貨主ノ計算ニ於テスルモノナルヲ以テ所謂間接代理ニ相當スヘシ是等貨主對貨物取扱人ノ私的關係ハ本書ノ論究スル限ニアラサルヲ以テ詳論ヲ避クルモ兩者ノ間ハ必スシモ法律行爲ニアラサルヲ以テ準委任關係ヲ以テ律セラレヘキモノナルヘシ(註九六)

稅關貨物取扱人ト稅關トノ間ノ關係ハ全然公法關係ニ立ツモノトス稅關貨物取扱人カ稅關ニ對シテ爲ス各種ノ手續ハ公法行爲ニ屬シ私法上ノ行爲ニ非ラス此ノ公法行爲ノ結果トシテ貨主トノ間ノ私法關係ヲ生スルコトアルハ別論ナリ

(註九六) 商法第二六四條、民法第六四三條乃至第六五六條參照、貨第八條ニ委託者ナル字句ヲ使用シヨリ

二、稅關貨物取扱人タラムト欲スル者ハ其ノ業務ニ從事セムトスル地ヲ管轄スル稅關長ノ免許ヲ受クヘシト定メラル茲ニ謂フ免許ハ又所謂營業ノ警察許可ニ類スルモノニシテ公企業ノ特許ヲ以テ目スヘキモノニアラス營業ノ自由權ハ我憲法第二章臣民ノ權利及義務中ニ定メラレ其ノ居住及移轉ノ自由權中ニ包含セラルルモノトナス(註九七)故ニ此ノ

自由權ヲ制限スルニハ他ノ自由權ト同様法律ヲ以テセサル可ラス稅關貨物取扱業ニ關シテハ稅關貨物取扱人法ニヨリ之レカ營業ノ自由權ヲ制限シ稅關長ノ許可ヲ受ケスシテ之レヲ爲スコトヲ禁止セリ免許ハ此ノ禁止ヲ實在ノ場合ニ除キ適法ニ之レヲ爲スコトヲ得セシムル行政權ノ行爲ヲ謂フナリ

稅關貨物取扱業ハ常ニ公益ニ障害ヲ及ボスモノニ非スト雖モ之レヲ爲ス人、場所、時期、方法等ノ如何ニ依リテハ障害ナシトセサルヲ以テ一般ニハ之レヲ禁止シ實在ノ場合ニ付テ稅關長ヲシテ其ノ社會公益上ニ及ボス影響ヲ審査セシメ何等ノ障害ナキ場合ニ於テノミ其ノ禁止ヲ解除シテ以テ適法ニ之ヲ爲スノ權能ヲ得セシムルニ在リ免許ハ實在ノ場合ニ付キ稅關長ヲシテ其ノ所爲カ社會公益上ノ障害ナキヤ否ヤヲ審査セシムルコトヲ目的トス隨テ出願ニ係ル貨物取扱人ノ爲ス所爲カ社會ノ一般事情ニ照シテ其ノ必要アリヤ否ヤヲ審査スルモノニシテ其ノ審査ノ要點ハ出願者ノ身體又ハ精神上ノ能力、社會上ノ地位等ノ一般條件社會カ此ノ如キ事業ヲ需要スルヤ否ヤヲ通常ノ條件トス而シテ稅關貨物取扱人法ニ依レハ右審査ヲ要スル諸點カ之レニ明示セラレサルヲ以テ一定ノ法定缺格者ニアラサルコトヲ審査シ其他ハ稅關長ノ自由才量ニ依ルモノトス若シ右法定缺格者ニアラス且公益上何等ノ障害ナキニ拘ハラズ之レカ免許ヲ拒絕スルハ不必要ニ人民ノ營業ノ自由權ヲ侵害スルモノニシテ違法ノ行政行爲タルモノトス然レトモ公益上ノ才量ハ稅關長ノ自由ナル判斷ニ由ル所ナルヲ以テ公益上、許容スヘカラサルモノトシテ之レヲ拒否スルモ權利ノ侵害トナラス出願者ハ許可ヲ受クルノ權利ヲ有スルモノニアラサレハナリ免許ハ出願ニ對シテ與ヘラル而シテ稅關長ハ前言ノ如ク場合ニアリテハ免許セサルコトヲ得ルモノナルヲ以テ不免許ヨリモ輕キ制限的ノ免許ヲ爲シ得ルコトハ當然其ノ權限中ニ包含スルモノトス免許ヲ得タルトキハ適法ニ其ノ業務ヲ爲シ得ヘキ權能ヲ取得スルモノトス免許ノ效力ノ及フ範圍ハ免許シタル稅關長ノ管轄區域内ニ限ルモノトス

免許ハ特定人ニノミ其ノ效果ノ及フモノナレハ當該取扱人死亡スルトキハ其ノ效果ハ當然ニ消滅スヘク亦其ノ效果ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得サルモノトス從テ營業ノ相續又ハ讓渡アリタルトキハ新ニ免許ヲ受クヘキモノトス

此ノ業ヲ免許營業トナセル所以ハ稅關手續ノ如キ特殊ナル行政手續ヲシテ一般ニ之レカ知悉困難ナルコト貨物カ内外人ノ所有ニ屬スル場合多キコト貨主カ必スシモ稅關所在地ニアラサルコト及關稅ノ賦課徵收ヲ完全ニ行ハシムルコト等ニ存スルモノトス

此ノ法ニ於テ缺格者ト定メタルモノ左ノ如シ(貨三條)

- 一、剝奪公權者及停止公權者
- 二、身代限リノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分産若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權スルニ至ル迄ノ者
- 三、國稅滯納處分ヲ受ケ滿一ケ年ヲ經過セサル者
- 四、重禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及關稅法第七十四條乃至第七十六條ノ規定ニ違反シ處罰ヲ受ケ滿三ケ年ヲ經過セサルモノ

(註九七) 伊藤博文著帝國憲法義解

三、免許手續ノ出願ニ關シテ別ニ定ムル所ナキモ此ノ免許カ人的條件ニ重キヲ置ク關係上稅關貨物取扱人タラムトスル意思表示ノ外其ノ履歷書、身元證明書、戶籍謄本及店舖ノ位置ヲ示シタル圖面(其ノ稅關構内ニ店舖ヲ設ケムトスル場合ニハ表示スルノ要ナシ)等ヲ添付シテ出願スヘキモノナルヘシ而シテ營業人カ會社又ハ外國會社ノ支店ナルトキハ此ノ願書ニ其ノ定款ノ謄本ヲ添フコトヲ要ス(註九八)

稅關長ハ審査ノ結果免許ヲ與ヘムトスルトキハ本人ニ告知シ所定ノ免許料二十圓ヲ納付セシメ免許狀ヲ交付スルモノトス(註九九) 免許ニ附款ヲ附スル場合ニアリテハ其ノ免許狀ノ末尾ニ附記スルモノトス

免許出願ハ所轄稅關長ノ異ナル毎ニ爲スヘキモノナレハ其ノ本店、支店又ハ代理店ヲ設クル場合又ハ同一管轄區域内ト雖モ營業所ヲ増設セムトスルトキハ同様出願ヲ要スヘキモノトス(註一〇〇)

免許料ノ法律上ノ性質ハ公ノ手数料ナルコト疑ヒナシ

(註九八) 貨施一條、朝貨一條

(註九九) 貨施二條三條、朝貨施二條三條

(註一〇〇) 貨施一條、朝貨施一條

四、免許ヲ受ケタルモノニシテ其ノ免許ノ實施ヲ爲スト爲ササルハ自由トナルモノトス此ノ點ニ於テ私設ノ保稅倉庫及保稅工場ノ如キ公企業特許トハ大ニ異ナル免許ヲ實施セムトスルニハ先ツ其ノ免許狀ヲ受ケタル日ヨリ二週間以内ニ身元保證トシテ各營業所毎ニ金五千圓又ハ之ニ相當スル國債ヲ提供スヘシ國債ハ其ノ額面價格ヲ以テ足ルモノトス朝鮮ニアリテハ其ノ土地ノ經濟程度ニ應シ仁川釜山及京城ハ各二千圓元山及鎭南浦ノ各一千五百圓其ノ他ハ千圓トス(註一〇一) 此ノ保證物ハ何レモ供托局又ハ供托事務ヲ取扱フ金庫ノ發給スル供托受領證ヲ稅關ニ提供シ稅關ハ之レカ保管ノ證トシテ供托受領證受取書ヲ免許人ニ交付スルヲ例トス登錄國債ノ提供ニ在リテハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅關ニ提出スヘシ登錄國債ニシテ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノハ尙記名國債證券ヲ供托シ其ノ供托受領書ヲ提出スヘキモノトス(註一〇二)

此ノ身元保證物ハ稅關ニ納付スヘキ金錢ヲ納付セサルトキハ稅關ニ於テ之レヲ以テ充當スルモノナルカ斯カル場合ニ其ノ額ノ減少ヲ來タスヘキヲ以テ稅關ハ本人ニ告知シ一ケ月以内ニ其ノ不足額ニ相當スル金錢又ハ國債ヲ提供セシムルモノトス

(註一〇一) 貨五條、貨施四條、朝貨施四條

(註一〇二) 貨施六條、朝貨施六條

五、貨物取扱人ノ提供スル身元保證物ノ法律上ノ性質ハ私法上ノ夫レト異ナル所ナキモ只取扱人カ貨主ニ代リテ稅關トノ間ニ於テ各種ノ公法行爲ヲ爲シ從テ生スル各種ノ公ノ債權ヲ履行スルノ責務ヲ有スルヲ以テ國家課稅權ノ圓滿ナ

ル遂行ヲ期スル爲メ一定ノ保證物ヲ提供セシメ萬一關稅移入稅及消費稅等ノ租稅並ニ繫船料等ノ公ノ使用料等ニ付キ不履行アリタル場合ニ於テ充當セムカ爲メナリトス即チ將來生スルコトアルヘキ公ノ債權ヲ保證スルモノト云フコトヲ得ヘシ

更ニ他面貨物取扱人ハ貨主ニ代リテ關稅上各種ノ公法行爲ヲ爲シ之レヨリ生シタル公ノ債權ヲ更ニ貨主ニ轉嫁シ私ノ債權トシテ貨主ヨリ辨濟ヲ受クルモノナルカ時ニ貨主ノ意思ニ反シ又ハ貨主ニ不測ノ損害ヲ與フルコトナキヲ保セス例ヘハ貨主ニ於テ臨時開聽ヲ要求セルニ係ハラス故意又ハ過失ニヨリ之レカ申請ヲ怠リ爲メニ貨主カ取引上ノ機會ヲ失シ損害ヲ蒙ルコトアルヘク或ハ不當ニ高價ナル價格ヲ申告シ以テ通關手續ヲ了スルカ如キ貨主ニ損害ヲ與フルコトアルヘキヲ慮リ貨主ハ此等損害賠償債權ニ付キ他ノ債權者ニ先チ身元保證物ニ依リ辨濟ヲ受クルノ權利即チ先取特權ヲ法ハ附與シタリ(貨六條二項)

右損害賠償債權ハ過失損害賠償債權ニ限ルモノト定メラレタルヲ以テ稅關貨物取扱人ノ業務上ノ過失ニ因ルコトヲ主張スル貨主タル債權者ニ於テハ其ノ舉證責任ナク債務者タル貨物取扱人ニ於テ其ノ業務上過失ナカリシコトヲ立證スルノ責任アルモノト解ス(貨六條二項七條)

此ノ場合ノ先取特權ハ關稅若ハ內國消費稅ト競合スル場合ニ於テハ之レニ順位ヲ讓ラサル可ラス(註一〇三)

六、稅關貨物取扱人ハ所轄稅關長ノ認可ヲ受ケテ貨主ヨリ其ノ取扱ニ係ル貨物ノ手數料ヲ受クルノ權利ヲ有ス而シテ其ノ取扱ニ付キ貨物ノ受取、引渡保管又ハ運送ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非ラサレハ其ノ貨物ノ取扱料ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス取扱人對貨主ノ關係ハ私法上ノ準委任ナルコト前述ノ如ク從テ受任者タル取扱人ハ其ノ業務處理ニ當リテハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ爲スヘキコト勿論ナリ(民法六四四條)

取扱人ハ其ノ取扱貨物ニ關シ受取ルヘキ取扱料、税金其ノ他委託者ノ爲メニ爲シタル立替ニ付テノミ其ノ貨物ヲ留置スルコトヲ得ト定メラル(貨八條)

貨物取扱人ハ其ノ貨主ノ委託ニ係ル貨物ニ關シテ私法上ノ占有權ヲ有スルハ疑ヒナクサスレハ其ノ貨物ニ關シテ生シタル債權ニ付キテハ其ノ之レカ辨濟ヲ受クル迄ハ其ノ貨物ヲ留置シ得ルコト民法第二百九十五條ノ示ス所ナリ

之レニ依リテ見ルトキハ稅關貨物取扱人法第八條ハ蛇足ノ感ナキニアラサルモ其ノ留置ノ原因タル債權ヲ取扱料、税金其ノ他委託者ノ爲メニ爲シタル立替ニ限りタルコト並ニ此等ノ債權ハ主トシテ公法原因ニ依リ發生シタル公ノ債權ノ代行人依ル債權ナル點ヲ民法ノ夫レト異ニスルヲ以テ特ニ定メラレタルモノナルヘシ此ノ留置權行使ハ民法ニ定メラレタル所ニ從フヘキハ言ヲ俟タス(註一〇四)

(註一〇四) 民法二九五條乃至三〇二條參照

七、前言ノ如ク此ノ取扱人ハ稅關ト貨主トノ間ニアリテ稅關事務ノ遂行ヲ容易ナラシムル一種ノ關稅行政ノ補助機關ナル以上之レカ監督ハ相當嚴重ナラサル可ラサルハ當然ナリ

今之レニ加フル監督方法ヲ述フレハ左ノ如シ

稅關貨物取扱人支店又ハ代理店ニ於テ業務ヲ開始セムトスル時ハ擔當人ヲ定メ其ノ所在地ノ稅關、稅關支署又ハ稅關出張所ニ届出ツルコトヲ要シ亦其ノ營業所ヲ閉鎖シ若ハ移轉シ又ハ擔當人ヲ變更シタルトキモ亦同シ而シテ稅關貨物取扱人又ハ擔當人ハ其ノ從業者ノ氏名ヲ届出テ其ノ變更アリタルトキモ亦同様トス(註一〇五) 稅關ニヨリテハ更ニ是等ノ從業人ノ履歷書、戶籍謄本又抄本ノ提出ヲ命令スルコトアルモノノ如シ貨物取扱料ニ付テモ暴利ヲ貪ラシメサル爲メニ其ノ最高額ニ付キ稅關長ノ認可ヲ受ケシム此ノ認可取扱料ハ最高額ナルヲ以テ之レ以上ニ貨主ヨリ受ケタルトキハ本法違反トシテ後述ノ如ク刑罰ニ處セラルコトアリ、此ノ額以下ニ於テ貨主ノ間ニ自由ニ契約ヲ以テ定ムルハ私法上ノ手數料ナルヲ以テ稅關ノ關スル所ニアラス

稅關貨物取扱人其ノ業務ニ關スル法令ニ違反シ又ハ稅關長ノ職權ニ基ケル命令(多クハ免許ノ附款トシテ發セラル)ニ違反シタルトキハ稅關長ハ其ノ營業ヲ三月以内停止シ若ハ其ノ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得ルモノトス此ノ稅關長

ノ爲ス營業停止處分及免許取消處分ニ不服ナルモノハ訴願ヲ提起スルコトヲ得亦此ノ處分ニ因リテ不法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ト定メラル(貨一〇條十一條)右訴願及行政訴訟ハ訴願法、行政訴訟法ニ依リテ處理セラルコトハ勿論ナリ

尙貨物取扱人カ免許後第三條ニ定メタル法定ノ缺格者ト爲リタルトキハ當然免許ハ取消サルヘキモノトス

(註一〇五) 貨四條、貨七條、八條、朝貨七條、八條

八、税關ニ於テ前項ノ如キ各般ノ厚キ監督ヲ爲スト雖モ尙非違ナキヲ保シ難ク茲ニ述ヘムトスル如ク之等違反行爲ニ對シテ刑罰ヲ科スルコトトシ以テ其ノ維持ヲ圖ルモノトス(貨十二條十三條)

(一) 免許ヲ受ケスシテ税關貨物取扱人ノ業務ヲ行ヒタル者

(二) 法定ノ身元保證物ヲ提供セスシテ其ノ業務ヲ行ヒタル者

(三) 貨物取扱料ノ認可ヲ受ケス若ハ之レカ認可ニ違反シテ取扱料ヲ取得シタル者

右ノ所爲アルトキハ何レモ千圓以下ノ罰金ヲ處セラルルモノトス

尙税關貨物取扱人ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ税關貨物取扱法ニ違反シタル行爲アリタルトキハ税關貨物取扱人ノ行爲ト看做サレ其ノ刑事責任ニ代リテ負擔スヘキモノトス

税關貨物取扱人ノ代理人、雇人其他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ關稅法第七四條乃至第七六條ノ規定ニ違反シタルト

キハ税關貨物取扱人ヲ處罰スルモノトセラル此ノ場合ニ税關貨物取扱人カ未成年者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰

シ只其ノ營業又ハ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限りニ在ラストス(註一〇六)

保税工場ニ於テ無免許ニテ貨物ヲ移出シ或ハ規定ヒラレタル作業以外ノ行爲ヲ爲シ又ハ保税工場法第十七條ニ依ル

搜查、検査ヲ拒ミタル等ノ場合其ノ貨物ノ取扱ヲ税關貨物取扱人ニ於テ爲シタルトキハ之レヲ處罰シ且其ノ代理人、

雇人其ノ他從業者ノ行爲モ税關貨物取扱人ノ行爲ト看做シ本人カ未成年者(成年者ト同一ノ能力ヲ有スル場合ハ別トス)

又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス(註一〇七)

法人處罰ニ關スル明治三十三年法律第五十二號ハ本法ニ準用アルモノトス

(註一〇六) 關八十二條ノ二八十二條ノ三

(註一〇七) 從來保税倉庫法ニハ此ノ如キ他人ノ刑事責任ヲ負擔スル場合ノ定メナカリシカ昭和二年九月一日ヨリ保税工場法及關

稅法等ト同様ニ認メラルコトナリタリ

九、税關貨物取扱人ハ其ノ法ノ示ス如ク貨主ノ爲メニ自己又ハ其ノ貨主ノ名ヲ以テ税關ニ對シ貨物ニ關スル手續ノ取扱ヲ爲スヲ業トスル者ニ限ラレタルモ實際關稅行政ノ運用上船舶積卸業(Steward; Schiffslader; Arrimeur)其ノ他船長又ハ運送人ノ爲メニ税關手續ヲ要スル貨物ノ引取引渡其ノ他ノ取扱ヲ業トスルモノニ及ホスヲ可トスヘク亦船舶ノミノ出入港手續 陸上ニ於ケル貨物ノ運搬其ノ他ノ取扱並ニ輸出スヘキ貨物又ハ關稅法ニ依リ運送スル内國貨物ノ取扱ヲ業トスル者ヲモ此ノ法律ノ適用内ニ置クヲ便宜トス是等ハ立法論トシテ考究ノ價値アル問題ナリトス(註一〇八)

(註一〇八) 朝鮮ニ於テハ最初ハ貨物取扱人ノ業務ヲ免許營業トセザリシ爲メ弊害多カリシヲ以テ隆熙二年(明治四一年)貨物取扱

人ノ資格ヲ定メ從來ノ弊ヲ艾除シ貨物通關ノ敏速ヲ期シ貨主ノ利便ヲ圖リタリ(荒井賢太郎氏著韓國財政施設綱要)

十、廢業ニ關シテハ何等定ムル所ナシ供托物返還請求ノ關係上之レカ申請ニ依リ免許ノ取消ヲ爲スヘキモノトス勿論監督作用トシテノ免許取消トハ別箇ノ問題ナリ

第四章 輸移入行政

第一節 總 說

一、輸入行政ハ關稅行政法上ニ於ケル中樞ヲ爲スモノニシテ保護貿易政策ヲ採ル國家ニアリテハ最モ重要視スヘキ點ニ屬ス以下輸入ノ意義ヨリ筆ヲ起シ其ノ行政ノ實際運用ニ涉リ詳述スル所アラムトス

二、輸入(Importation; Einfuhrung; Importation)トハ物ノ空間ニ於ケル移動ノ狀態ヲ謂フ此ノ意味ヨリスレハ廣義ニ於テハ一國內ニ於ケル甲地ヨリ乙地ニ貨物ヲ移動スルモ輸入ト稱セラルヘキモノトス然レトモ關稅行政上ニ於ケルモノハ外國ヨリ内國ニ貨物ノ入り來ル場合ノミニ限リ輸入ト稱ス茲ニ注意スヘキハ關稅行政上特別ノ法域ニアル朝鮮南洋群島ヨリスルモノニ對シテハ別ニ移入ナル名稱ヲ稱ヒ之レテ區別ス以下移入ニ關シテモ併説スルコトトスヘシ

觀念上輸入ハ前述ノ如ク一ノ事實狀態ヲ指稱スルモ其ノ事實タルヤ人ノ行爲ニ因ルモノナルヲ以テ輸入行爲ノ着手ヨリ終リマテテ一貫シテ輸入ト稱スヘキヤ將又其ノ行爲ノ進行中ニ於ケル一階段タル事實狀態ノミニ限リ輸入ト稱スヘキヤニ關シ諸説アリ一定スル所ナシ從來我大審院ノ採用スル輸入ノ意義ハ外國貨物ヲ開港ニ陸揚スルコトニ因リテ既遂ナリトス即チ陸揚説(註一〇九)ヲ採用スルモ一面外國貨物カ領海ヲ超エ關稅線ヲ超エルコトニヨリテ輸入既遂ナリトス即チ外國貨物積載ノ船舶カ入港スルコトニヨリテ輸入アリト解スルモノニシテ之レヲ入港説ト稱ス(註一一〇)然レトモ外國貿易船ノ入港事實ニヨリテ其積載貨物カ輸入セリトスルハ實際輸入手續ヲセサルモノ迄モ輸入ト看做サルカ如キ結果ヲ見ルニ至リ餘リニ實際ヲ遠サカル説ナルヲ以テ此ノ説ハ失當ナリ(註一一一)

(註一〇九) 明治四十年九月二七日大審院判例第六八七號明治四十五年七月九日同例第三三六五號

輸入ト陸上ニ在テハ國境線ヲ陸揚シ海上ニ在テハ船舶ヨリ陸揚シテ外國貨物ヲ我國内ニ運入ルル行爲ヲ指稱ス從テ外國貨物ヲ

積載シタル船舶カ我領海ハ勿論我港内ニ入ルモノヲ以テ直ニ貨物ノ輸入アリタルモノト云フヲ得ス

(註一〇九) 泉二新熊著日本刑法各論第一〇五七頁

(註一一〇) 北米ニテハ貨物カ陸揚ノ意思ヲ以テ開港内ニ到着シタル時ニ輸入ヲ完了スト解ス太田博士著關稅行政之研究第三二八頁ハ外國貨物ヲ内國貨物ニ化セムトスル行爲ヲ輸入ト云フ

我關稅法上ニ於テハ貨物ノ輸入ニハ免許ヲ必要トスル點ヨリシテ輸入申告ヲ爲シ之レカ免許ヲ得テ現實ニ外國貨物ヲ内國貨物化シタル時ニ於テ始メテ輸入行爲ノ完了セラルルモノト解スルヲ妥當トス(關三一條)即チ輸入ハ入港ニ始マリ輸入免許ニ終ルモノトス此ノ故ニ外國貨物カ關稅線ヲ超エ保稅地域内ニ藏置セララルルモ未タ輸入セラレタルモノニアラス即チ關稅行政法上ニ於テハ陸揚説及入港説共ニ採用スル餘地ナシ然レトモ關稅犯則ノ場合ニ於ケル輸入シ又ハ輸入セムトスルトキ等ノ解釋ニ當リテハ輸入未遂ヲモ研究スルノ要アルヘキニ因リ斯ル場合ハ陸揚ノ目的ヲ以テ港界線ヲ超エタルトキヨリ輸入ノ着手アリト解スヘキモノトス

右ノ定義ニ從ヘハ(一)外國貨物ナルモノカ(註一一一)(二)開港ニ入り(三)陸揚セラレ(四)輸入申告ヲ爲シ(五)貨物ノ検査ヲ受ケ關稅ヲ課スヘキモノハ其ノ賦課徵收セラレ(六)輸入免許ノ順序ニヨリ終始スルモノトス

(註一一一) 之レカ例外ト見ルヘキハ内國貨物カ保稅工場ニ於テ外國貨物ト混合加工又ハ製造セラレタルトキハ外内國貨物ノ區別困難ナルヲ以テ擬制的ニ外國貨物ト看做サル場合ナリ

而シテ輸入行爲ハ輸入免許ニヨリ完了スルモ更ニ之レカ搬出ニツキ引取免許ヲ受クルヲ要ス茲ニハ此ノ引取ノ爲メノ免許迄ヲ含メ論述スルコトトスヘシ

第二節 保稅地域ヘノ搬入

普通ノ貨物ハ既述ノ如ク必ス一度保稅地域ヲ通過スヘキヲ原則トス船舶ヨリスルモノニ付テハ船長ノ提出ニ係ル積

荷目録ニ依リ保稅地域内ニ於テ其ノ陸揚ノ場所ヲ指定シ當該貨物ヲ陸揚セシム陸揚ニ當リテハ貨物係官吏ハ該積荷目録ト對照シテ外裝ニヨル點檢ヲ行ヒ全部陸揚ヲ認メタル後當該貨物ニ對シ陸揚日附印ヲ押捺シ他日引取及收容ノ際ニ於ケル藏置日數ノ起算日ヲ明ニスルモノトス此ノ保稅地域内ニ貨物ヲ搬入スルニ關シテハ時間上ノ制限及特許ニヨリ時間外ニテモ取扱得ルコト等ニ付テハ既述ノ如シ茲ニ再說セス

第三節 輸入申告

輸入申告ハ普通貨物ニ付テハ(註一一二)輸入申告書ニ其ノ貨物ノ積載船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕入地、積出地產出地又ハ製造地、記號、番號、品名、箇數、數量及價格ヲ記載シ之レニ當該貨物ニ對スル仕入書ヲ添付シ稅關總務課又ハ係(朝鮮ニアリテハ稅務課又ハ係、臺灣ニアリテハ庶務課又ハ係)ニ提出スヘキモノトス關東州ニアリテハ租地稅關假規則第十七條ニヨリ此ノ輸入申告書ト同一内容ヲ有スル文書ヲ報告書ト稱シ二通ヲ作成シ稅關ニ提出スルモノトス(註一一三)普通貨物トハ特別貨物ニ對スル名稱ニシテ貨物ノ種類、性質若ハ輸入ノ目的又ハ用途等ニ依リ關稅行政上特殊ノ取扱又ハ免稅ノ取扱ヲ受ケルモノヲ特別貨物又ハ特殊貨物ト稱シ其他ノ普通貨物ト稱ス

輸入申告書ニ添付スヘキ仕入書ハ貨物ノ仕入國ニ於テ作成シ貨物ノ賣渡人ノ署名アルモノナルコトヲ要ス(註一一三)仕入書ハ關稅賦課ノ決定上有力ナル資料ナルヲ以テ特ニ其ノ添付ヲ強要シ稅關官吏ニ於テ仕入書ヲ添付スルコト能ハサル理由アリト認メ許容シタル場合ノ外之レカ添付ナキトキハ關稅賦課ニ關シ異議ヲ申立ツルコト能ハサルモノトセラル(關三二條二項)尙仕入書ニ關シテハ後述スヘシ

(註一一三) 關三二條、關三三條、關三七條三三條、關三三條

亦仕入書ノ外協定稅率ノ便益ヲ受ケムトスルモノニシテ百圓ヲ超ユル場合ニハ產原地證明書ヲ關東州生產ノ貨物中大正十四年法律第五十一號ニヨリ免稅セラルヘキ貨物ニシテ免稅ヲ受ケムトスルモノニ對シテハ關東州民政署長又

ハ同支署長ノ製產原地證明書ヲ添付スルヲ要ス(註一一四)之等ニ關シテモ後述スヘシ

(註一一四) 關三一條二條、朝關三一條二條、大正一四年法律第五一號、同年六月一七日勅令第三三二號、同年七月二八日勅令二

六〇號、同勅令第二六一號

稅關ニ於テ輸入申告書ヲ受理シタルトキハ(一)各其ノ記載事項ニ缺クル所ナキヤ(二)法令其他ニ依リ申告者ノ資格ヲ限定シタル物品ニアリテハ申告者ノ資格ニ缺クル處ナキヤ(三)申告貨物ニ積荷目録又ハ運送目録收容目録若クハ殘荷目録ト一致スルヤ(四)輸入禁制品ニアラサルヤ(五)正當仕入書ノ添付ノ有無及添付不能ノ理由ノ記載ノ有無(六)申告貨物カ法令ニ依リ免稅セラルヘキモノナルトキハ輸出免狀、稅關ノ證明書又ハ當該官廳ノ認可若ハ其他必要書類添付ノ有無(七)申告貨物カ他官廳ノ許可又ハ檢疫ヲ經ルニ非ラサレハ輸入スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ其手續履行ヲ證スヘキ書類ノ添付有無(八)申告貨物カ植物ナルトキハ輸出入植物取締法(朝鮮ニアリテハ植栽又接木用果樹、櫻樹並其ノ枝幹及根ノ輸移入取締ニ關スル件)ノ手續ヲ履行セルヤ否ヲ調査シ是等ノ完備セルモノニ對シテ輸入申告簿ニ記載シ申告書及其ノ附屬書類(貨物引取ノ際ニ利用スル海關通、引取屆等稱スル書類ヲモ含ム)ニハ申告受理番號ヲ記載シ一部檢査ニ止ムヘキ性質、貨物ニ對シテハ指定番號及其ノ箇數ヲ申告書ニ表示シ之レヲ檢査官吏ニ回付スルモノトス檢査スヘキ貨物書面上ニ於ケル指定ハ總務課(朝鮮ニアリテハ稅務課臺灣ニアリテハ庶務課)ノ事務ニ屬ス指定方法ハ稅關貨物係員ニ於テ總量ノ内ヨリ指定ノ本旨ニ從ヒ受檢貨物ヲ選擇シ之レニ指定ノ毛判ヲ押捺シ貨物ヲシテ貨物檢査場又ハ此ノ設備ナキトキハ檢査シ得ル場所ニ搬入又ハ移轉セシムルモノトス其ノ貨物ノ種類ニ付テハ各稅關必スシモ一定セサルモ大體ニ於テ貨物ノ性質上一部分ヲ檢査スルコトニ依リテ全體ヲ的確ニ認定シ得ルモノニ限ラルヘキモノトス例ヘハ穀物、小麥粉、片栗粉等ノ穀粉、澱粉類、砂糖、肥料、染料、清酒飲料、酒精、麥酒其他ノ酒類、綿絲、棉花、シーチング、シャーチング、天竺、油脂類、木炭、果實、鹽乾魚、コンデンズドミルク、曹達灰、コークス、石炭、窓硝子、燐寸、鋸力板、鐵釘、カーバイト等ニシテ其ノ包裝及内容品ノ品種數量劃一ナル二箇以上

ノモノニツキ行ハル而シテ其ノ指定箇數ハ各税關ニテ輸入數量等ニ鑑ミ便宜ニ從ヒ各箇ニ定ムル所ニ係リ一定セサル
モ大約總箇數ノ一分五厘乃至一割位ノ範圍内トス

第四節 關稅ノ賦課

輸入申告ニ次テ爲サルルハ賦課處分トス關稅ノ賦課トハ法律ニ依リ一定ノ課稅物件ニ對シ一定ノ課稅標準ニ依リ稅
率ヲ適用スル行政行爲ナリ即チ第一ニ法律又ハ之レニ代ハルヘキ勅令ニ依ルコトヲ要シ第二ニ課稅物件ニシテ如何ナ
ルモノニ課稅シ免除シ又ハ無稅トスルヤノ問題ニシテ輸入禁制品トモ關聯ス第三ハ課稅標準ニシテ從量稅從價稅ニ關
スル問題ナリ第四ハ稅率適用ニシテ國定協定ノ何レノ稅率ヲ適用スヘキカノ問題ニシテ減稅處分ニモ關聯ス而シテ課
稅處分ニ關聯スル異議訴願ニ付テモ併述セムトス

第一款 賦課處分ノ法令

一、租稅ノ賦課ハ凡テ法律ニ依ラサル可カラサルハ帝國憲法ノ定ムル所ニシテ(憲法八二條)日本臣民ハ法律ノ定ムル
所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有スル事モ亦帝國憲法ノ定ムル所ナリ(憲法二二條)而シテ關稅ハ租稅ノ一種ナレハ同様ニ其制
定變更改正ハ凡テ法律ニ依ラサル可ラス即關稅法第一條ニ「輸入貨物ニハ關稅定率法ニ依リ關稅ヲ課ス」トシ亦關稅定
率法第一條ニモ外國ヨリ輸入スル物品ニハ別表ニ依リ關稅ヲ課スト定メタルハ其故ナリ而シテ關稅法ハ其賦課方法ニ
關シ關稅定率法ニ讓リタルモ必スシモ二法ヲ別箇ニスヘキ筋合ノモノニ非スシテ寧ろ關稅法ノ一部トシテ一法系ヲ爲
サシムヘキ物ニ屬ス而シテ關稅ノ改廢ニ關スル事項カ憲法第八條ニ依リ緊急勅令ニテ定メラル事アルハ勿論ナリ
二、協定稅率カ直ニ國民ニ對シ拘束力ヲ有スルヤ否ヤハ法律勅令ノ形式ノ效力ノ優劣問題ニ屬シ法理上相當理論ノ餘
地アルヘキモ我帝國憲法上ノ解釋トシテハ之レヲ積極ニ解スルヲ妥當トス然レトモ關稅法ニ於テハ其第一條但書ニ於

テ「條約ニ依リ特別ノ協定アル貨物ハ其ノ協定ニ依ル」ト定メタレハ其ノ疑義ヲ生スル餘地ナク其ノ效果ハ獨リ關稅
法制定當時ニ止マラス將來ノ協定稅率ノ改廢ニ及フヘキモノトス

三、關稅賦課處分中又ハ其ノ引取前ニ於テ課稅法規ニ改廢アリタル場合如何ニスヘキヤ即チ關稅法ノ週及效ニ關シテ
ハ其ノ第三條ニ依リ之レヲ定メタリ今左ニ分說セム

(一) 輸入申告ヲ爲シタル後ニ法律ノ改廢アリタルトキハ輸入申告ノ日ニ行ハルル法規ニ從ヒテ課スヲ原則トス(關
三條)此ノ立法ノ趣旨ハ貨主カ輸入申告ヲ爲スニ當リ其ノ申告當時ノ法令ノ施行ヲ信シ爲サルモノナルノ意思ヲ
尊重シテ取引ノ安全ヲ圖リ且行政官廳トシテモ既ニ着手セル賦課處分ヲ取消ス等ノ手數ヲ避ケムトスルニ在ルヘシ
而シテ輸入申告ハ普通ノ場合ニ於テハ貨物カ開港ニ到着シ陸揚セラレタル後ニ於テ行ハルル原則トスルコト前言
ノ如シ然レトモ茲ニ例外視スヘキハ(甲)大正十三年九月關東地方ノ大震災ノ場合ニ於ケル緊急勅令第四百十七號ニ
ヨル生活必需品並土木又ハ建築ノ用ニ供スル器具機械及材料ノ輸入稅 低減又ハ免除ニ關スル件(乙)大正十三年七
月三十日醫藥品等ノ關稅ニ關スル法律ノ適用ニ關スルモノトス(甲)ニ於テハ其ノ輸入稅減免期間内ニ本邦ノ一港ニ
到着セル他港仕向ノ貨物ニシテ該船カ仕向港ニ入港ノ上輸入申告ヲ爲ストキハ輸入稅減免期間滿了後トナルヘキモ
ノニ付キ貨主等ノ申請アルトキハ特ニ法令ノ根據ニ基カス稅關長ノ責任ヲ以テ左ノ如ク取扱ヘリ

(イ) 船舶到着港ノ稅關ハ輸入稅減免期間内ニ限り若港船舶ニ搭載セル他港仕向貨物ノ輸入申告ヲ受理シ之レヲ仕
向港稅關ニ送付スルコト

(ロ) 仕向港稅關ハ前項ニヨリ送附ヲ受ケタル輸入申告書ヲ輸入稅減免期間内ニ受理シタルモノトシテ其ノ貨物ニ對
シ輸入稅ヲ減免スルコト

(ハ) 輸入稅減免期間内ニ運送手續ヲ爲スモノニ付テハ其ノ輸入申告ハ運送申告ト同時ニ之レヲ爲シタルモノト看
做シ運送先稅關ニ於テハ運送申告ノ日ヲ以テ之レヲ提出セシムルコト(運送先稅關ニ於テ運送申告ノ日不明ナル

トキハ運送免許ノ日ヲ以テ申告ノ日ト推定ス

(ニ) 朝鮮ニ於ケル移入ハ輸入ト同様ニ取扱フコト

(ホ) 輸入小包郵便物ニ付テハ大正十一年税關長會議ニ於テ郵便物目錄ニ依ル通知ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ課スルコトヲ決定セルモ將來ハ之レヲ改メ輸入小包郵便物ノ最初本邦ノ港ニ到着シタル日(内地ヲ經由シテ朝鮮ニ到着スルモノニ付キテモ亦同シ)又ハ陸接國境ヲ通過シタル日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ課税スルコトニシタルコト又(ニ)ノ法律ニ關シテハ本法公布ノ日以後ニ本邦ニ到着スルモノト雖モ大正十三年七月六日(即チ本法案ノ議會ニ提出セラレタル日)以前ニ當該物品カ仕向港ヲ出帆シタル船舶ニ積載セラレタルモノニシテ本法公布ノ日ノ日前迄ニ輸入申告ヲ爲シタルモノニ付テハ其ノ申告ヲ受理シ税關長ノ責任ノ下ニ舊税率ヲ適用スルコトニ取扱ハレタリ此ノ取扱例ハ其後一般の慣例トナリ輸入税率ノ改正等ニ因リ課税ニ變更ヲ來タサムトスル場合ニ適用セラルルコトトナレリ而シテ尙本法律公布前本邦ノ一港ニ到着シタル貨物ニシテ目的港ニ到着カ公布後トナルモノニ對スル申告書ノ受理方ニ付テハ(甲)ノ場合ト同様ニ取扱ハレタリ

(二) 貨物保税倉庫ニ庫入シタル後ニ法規ノ改廢アリトセハ其ノ貨物庫出ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒテ課税ス改正前ノ保税倉庫法ニ於テハ其ノ發行スル庫入證書カ流通證書ニシテ庫入當時ノ關稅ノ如何ニ關係アルコトヲ重要視シ其ノ庫入ノ日ニ於テ施行セラルル法律ニ依ルモノトセラレタルモ改正法條ハ庫出ノ日ニ行ハルル法律ニ依ルコトトセリ蓋シ其ノ趣旨ハ關稅率改正ノ場合ニ於テ多ク見越輸入ヲ爲スモノナルヲ以テ之レヲ防止セムカ爲メニアルモノノ如シ茲ニ庫出ノ日トハ庫出免許ノ日即チ貨物輸入免許ヲ受ケタル日ト解釋シ來リシモ大正十五年税關長會議ニ於テ決議ノ結果庫出免許ノ日ニハ輸入免許前引取貨物ニ於ケル引取認許ノ日ヲモ含ムコトニ解釋ヲ擴張セラレタリ

(三) 藏置期限又ハ運送期限ノ經過ニ依リ關稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ其ノ期間滿了ノ日ノ翌日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ之レヲ課ス(關三條)藏置期限ハ法定ノ藏置期限ニシテ税關構内保税倉庫ニテハ滿三ヶ年假置場ニテハ滿一ヶ

年等トス運送期間ハ關稅法第三十九條ノ三ニ所謂相當期間ヲ意味シ此ノ期間大藏大臣又ハ税關長ノ訓令ヲ以テ定メラルモノトス

(四) 收容貨物ニシテ公賣ニ付スルモノノ關稅ハ公賣ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ之レヲ課ス(關三條)收容貨物ノ公賣ノ日ハ税關ノ都合ニヨリ延期スルコトアルヘキヲ以テ聊カ妥當ヲ缺クカ如キモ素ト税關ハ私益公益ノ何レニモ遍セス公平ナル見地ニテ行フヲ以テ公賣ノ日カ多少延期スルコトアリトスルモ大ナル不都合ナカルヘシ通常ノ貨物ノ輸入ニ相當スルハ此ノ公賣ナレハナリ

(五) 犯則ニ依リ關稅ヲ追徵スル場合(關八三條三項)ニ於テハ犯則ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ依リ之レヲ課スモノトス犯則ノ日トハ犯則成立ノ日ト解ス(註一一五)

(註一一五) 英國關稅法ノ稅率變更ノ際ニ於ケル適用ニ關スル件

一九〇一年財政條例第七條ニ依レハ輸入商品ニ付キ其ノ關稅率ニ變更若ハ廢止アリタル場合ハ現實ニ輸入商品通關ノ日ニ行ハルル關稅條例ヲ適用ス

千九百年財政條例第七條ニ依レハ關稅又ハ消費稅倉庫ニ藏置セラレタル商品ニ付テハ其ノ税金ハ之等ノ品物カ該倉庫ヨリ解除セラレタル際ニ於ケルモノトス而シテ其ノ解除以前ニ税金ヲ納付シタルモノナル時ハ之レト事實負擔スヘキ税金トノ差額ヲ支拂フカ若ハ拂戻スモノトス但シ千九百十一年財政條例第三條ニ依レハ商品カ再入庫ノ爲メニ保税ノ下ニ解除サレ再入庫シ又ハ再入庫セサル場合ニ於ケル其ノ商品ノ關稅ハ庫出シノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從テ負擔スヘキモノトス

從量稅品ニ付テハ其到着セル時ニ有スル實際重量ニ依ルモノニシテ總重量ヨリ實際風袋ノ重量ヲ減シタル純量ニ依ルモノトス

第二款 課稅物體

一、課稅物體トハ關稅ヲ賦課セラルヘキ客體ヲ謂フ課稅物體ニハ二様ノ意義アリ一ハ輸入セムトスル貨物其ノモノヲ

指シ一ハ貨物ノ輸入行爲若ハ輸入ノ事實ヲ指稱スルモノトス而シテ關稅行政法上ニ於テハ其ノ法規上ヨリ見レハ此ノ兩者ノ意義ヲ混淆使用セラルレトモ物ノ其ノモノニ課ス如ク見ユル場合ニ於テモ納稅義務ナルモノハ國家ニ對スル財ノ給付ナルニ依リ人ヲ離レテ存立スルモノニアラス必ス特定ノ義務者ニ對シテ物ニ關シテ課スヘキモノナリ例ヘハ關稅法第一條ニ於テ「輸入貨物ニ關稅ヲ課ス」トセルカ如キハ一見貨物其ノモノカ義務者ノ如クレトモ義務カ人ヲ放シテ存在シ得サル點ヨリ考フルトキハ其ノ輸入行爲若ハ輸入事實ニ對シテ課スルモノナルコトヲ解シ得ヘシ此ノ點ニ於テハ他ノ租稅ニ於ケルト異ナラス地租ハ土地ニ所得稅ハ所得ニ課スト云ヘルト同意ナリ之レヲ要スルニ賦課カ行政處分ナル以上其ノ處分ヲ受クルモノハ人ナラサル可カラス之レヲ稱シテ納稅義務者ト云フ

二、關稅法上納稅義務者ハ原則トシテ輸入申告者ナリ輸入申告者ハ必スシモ貨物ノ眞ノ所有者ト一致セス寧ロ其ノ一致セサル場合多シ關稅法第四條ニハ「關稅ハ輸入申告者ヨリ之レヲ徵收ス」トセルヲ以テ一點ノ疑ナシ關稅法第一條ト第四條トハ關係法條ナリ

右輸入申告者主義ノ例外ト見ルヘキハ(イ)關稅法第三十九條ノ三ノ場合ニ於ケル運送申告者(ロ)保税倉庫法第九條第二項ノ場合ニ於ケル運搬人(ハ)保税倉庫法施行規則第三十八條ノ場合ニ於ケル庫主(ニ)保税工場法第十三條ノ場合ニ於ケル私設保税工場ノ被特許者等カ納稅義務者タル場合ナリトス

三、關稅ニ於ケル物體ハ貨物ノ輸入ナル事實ナルヲ原則トスルモ例外トシテ其ノ然ラサルコト前言ノ如シ今(一)輸入事實ナクシテ關稅ヲ課スル場合及(二)輸入事實アルニ拘ハラズ關稅ヲ課セサル場合ニ分チ詳説スヘシ

(一) 適確ナル輸入事實ナクシテ關稅ヲ課スル場合
此ノ場合ニハ輸入事實ノ有無カ適確ニ稅關ニ知レサル場合ニシテ結局輸入事實ヲ認定スヘキ客觀的事情ノ存セサル場合ナリ而シテ關稅ヲ賦課スルモ輸入免許處分ナルモノナシ

(イ) 運送貨物不到達ノトキ

關稅法第三十九條第三項ニヨレハ運送貨物カ稅關ノ定メタル相當期限内ニ運送先ニ到達セサルトキハ當該貨物ノ運送申告者ヨリ關稅ヲ徵收スルモノトセラル然レトモ此ノ場合ニ於テハ貨物ハ其ノ不到達ナル事實ヨリ直ニ輸入事實アリタルモノト推定スルモノナルカ實際ニ於テハ其ノ貨物ノ運命ハ或ハ内國ニ齎ラササル内ニ消滅シ或ハ再ヒ外國ニ向ヒシモノナルカモ計ラレサルヘシ斯カル場合ニ常ニ運送申告者ニ責任ヲ負擔セシムルハ聊カ苛酷ナルヘキヲ以テ其ノ貨物カ災害ニ因リ滅失シ又ハ稅關ノ認許ヲ得テ滅却シタルトキハ關稅ノ免除ヲ爲ス旨同條但書ニテ定メラレタリ災害トハ天災事變ニ因ル場合ニシテ盜難等ノ場合ヲ含マス亦稅關ノ認許ヲ以テ滅却スル場合トハ當該貨物カ其ノ性質自體ヨリ運送ノ目的ヲ達 得サルカ又ハ運送機關等ノ故障ニヨリ一般社會通念上ヨリ運送不能ト看ラルヘキ場合等ニシテ無制限ニ認許モラルヘキモノニアラスト解ス

(ロ) 外國貨物ヲ他ノ保税倉庫ニ庫移セムトシテ稅關長ノ指定期間内ニ仕向地ニ不到達ノトキハ運送貨物不到達ノ場合ト同シ但シ災害ニ依リ滅失シタルモノニシテ稅關ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ輸入稅ハ免除セラル(保九條)

(ハ) 私設保税倉庫藏置貨物カ盜難ニ罹リ又ハ紛失シ若ハ藏置期限ヲ經過シ貨主其ノ貨物ヲ引取ラサルトキハ前同様輸入アリタルモノトシテ保税倉庫法第二十條ニ依リ庫主其ノ責任ヲ以テ關稅ヲ納付スヘキモノト定メラレタリ

(註一一六)

(ニ) 私設保税工場ニ藏置シタル貨物盜難ニ罹リ又ハ紛失シタルトキハ前同様輸入アリタルモノトシテ被特許者ニ於テ其ノ貨物ニ對スル輸入稅ヲ納付スヘキモノト定メラレタリ

(ホ) 關稅法第七十五條ノ犯則ニ係ル貨物ニシテ沒收シ能ハサルトキ此ノ場合ニハ犯則當時ノ貨物ノ所有者又ハ犯則者ヨリ追徵スルモノナルカ必スシモ輸入事實ノアリタル場合ノミニ限ラサルヘシ

(註一一六) 保稅三三四條、朝保稅三三四條、臺保稅三三四條

(註 同) 工施二三三條、朝工施二四四條、臺工施二三三條

(二) 輸入事實アルモ關稅ヲ課セサル場合

(イ) 異議申立貨物ヲ買上ケタルトキ

關稅法第六十三條ニ依レハ從價稅品ノ賦課處分ニ付キ其ノ課稅ヲ不相當ナリトスル貨主ハ當該稅關長ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得其ノ異議判定ノ結果貨主ノ申立カ不當ナリト認ムルトキハ稅關長ハ其ノ貨物ヲ強制買上スルコトヲ得ト定メラル此ノ場合ニ於テハ買上ニヨリ其ノ貨物ノ所有權ハ國家ニ歸屬スルヲ以テ輸入ノ事實ハ明カナルモ之レカ關稅徵收ノ手續ナキヲ以テ課稅スルコト能ハサルモノトス

(ロ) 關稅法第七十四條第七十五條ノ犯則物件ノ沒收ノトキ

此ノ場合ニ於テモ(イ)ノ場合ト同様沒收處分ニヨリ其ノ貨物ハ國家ニ歸屬スルヲ以テ輸入ノ事實ハ明カナルモ徵收方法ナキ爲メ課稅スルコト能ハサルモノトス

(ハ) 輸入ヲ圖リ又輸入ヲ遂ケタル輸入禁制品ヲ破毀若ハ消費シタルトキ此ノ場合ニ於テ犯則物件トシテ沒收シ能ハサルモノナレハ關稅ヲ追徵スヘキ筋合ノモノナルモ關稅定率法附屬稅表ハ禁制品以外ノ物品ニ付キ定メラレタルモノナルヲ以テ禁制品ヲ擬率スル方法ナキヲ以テ關稅徵收ノ途ナシトスルノ說(註一七)アレトモ余輩ヲ以テスレハ輸入禁制品ト雖モ貨物タル以上關稅定率法別屬稅表中ニ類別セラルヘキ性質ノモノナルヘク若シ特掲項目ナキニ於テハ其ノ他ノ物品タル第六四七號ニ編入課稅スヘク之レヲ免除スルノ規定ナキ以上課稅スルヲ妥當ナリト解ス

(二) 配達不能ノ郵便物ナルトキ

郵便物ハ之レヲ名宛人ニ交付スル前ニ賦課スルモノナルモ名宛人ニ於テ之レヲ受取ラサルカ若ハ名宛人ノ所在不明ナルトキハ之レヲ差出人ニ還付スルノ外途ナシ即チ此ノ場合ニハ賦課處分アリタルモ徵收シ得サルモノナルヲ以テ輸入ノ事實アリタルモ關稅ヲ賦課シ能ハサルナリ亦配達又ハ還付不能ノ郵便物ハ郵便局ニ於テ保管シ其ノ貨

物カ減失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ保管ニ過分ノ費用ヲ要スルモノナルトキハ之ヲ賣却シテ其ノ代金ヲ保管スルモノトス而シテ其ノ貨物及賣却代金ハ保管開始ノ日ヨリ一箇年内ニ交付請求者ナキトキハ國庫ニ歸屬ヘル定メナリ此ノ場合ニ於テモ輸入事實アルモ關稅ノ賦課處分ヲ行フ能ハス(註一八)

(註一七) 太田博士著關稅行政之研究第三五六頁

(註一八) 郵便法第十四條第十五條

收容貨物公賣ノトキニハ其ノ納稅義務者、關稅徵收ノ法律上ノ性質ニ關シ議論ノ餘地アリ、關稅法第五十條第二項ニヨレハ「收容貨物公賣ノトキハ其ノ公賣代金ハ關稅敷料其他ノ貨物ニ關スル一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之レヲ貨主ニ交付ス」ト定メラレ「關稅……ニ充テ」トアルニ依リ關稅ヲ徵收スルノ義ナルコト擔保物ヲ以テ關稅ニ充當スルト同一ノ性質ナルハ明カナリ此ノ場合ニ於テハ客觀的輸入ノ事實ハ存スルモ關稅義務者存セス稅關長カ充當スルヲ以テ稅關長ヲ以テ納稅義務者ト稱スル說アルモ稅關長ハ關稅ノ徵收權者ナルヲ以テ之レカ同時ニ公ノ同一資格ニ於テ納稅義務者タリト爲スハ矛盾ノ觀アリ余輩ハ其ノ「殘餘アルトキハ貨主ニ交付ス」ト法文ニ定メラレタルヨリ貨主ノ任意意思ニヨル關稅納付ハ覺束ナキヲ以テ強制輸入ヲ爲サシメ強制的ニ關稅ヲ徵收スルモノト解シ矢張普通 場合ト同様ニ貨主ヲ納稅義務者トシタル法意ナリト解ス稅關長ノ爲ス充當行爲ハ強制處分上ノ便宜ニ基クモノナルヘシ尙公賣代金カ關稅額ニ充ツサル場合ニ於テ疑問アルモ之レ不能ニ屬スルコトナルヲ以テ止ムヲ得サル措置トシテ爲スモノト解ス尙競落人ヲ以テ納稅義務者ナリトスルモノアレトモ之レ失當ナリ何ントナレハ競落人ハ單ニ相當代金ニテ買受クルノ意思ノミヲ有シ之レカ關稅等ニ充當スルト否トハ一切關スル所ニアラサルノミナラス競落代金カ關稅額ニ充タサル場合ニ於テ何等ノ納稅責任ヲ負ハサルニ於テチヤ

以上所論ヲ總括スルニ賦課ノ物體ハ貨主等ノ自由意思ニ基ク行爲ニ依ル輸入事實ナリト云フテ適切ナリト信ス

四、次ニ他ノ意義ニ於ケル賦課ノ客體即チ輸入ノ貨物ノ分類ニ關シ述フル所アラムトス

關稅行政ノ目的タル貨物ハ既ニ述ヘタル如ク(一)外國貨物、內國貨物ニ分ツノ外(二)禁制品ト其他ニ別ケ更ニ禁制品ヲ常時禁制品ト戰時禁制品トニ其ノ他又ハ自由貿易品ヲ有稅品、無稅品及免稅品ニ別ツコトヲ得更ニ其ノ通關手續上ノ差違ヨリ(三)普通貨物ト特別貨物トニ分類スルコトヲ得ヘシ

(一) 外國貨物ト內國貨物

外國貨物ナルトキハ關稅行政上ノ物體タルコトヲ得ルモノ內國貨物ハ否ラサルニ依リ此ノ區別ハ關稅行政上重要ナル意義ヲ有ス通俗ノ意義ニ於テハ其ノ原產地ノ内外ニヨリテ區別ヲ爲スモ關稅法上ニ於テハ之レト異リ通關手續ノ濟否ヲ標準トス即チ關稅法第二十九條ハ「輸出シタル貨物ハ外國貨物トシ輸入シタル貨物ハ內國貨物トス」トシ之レヲ明ニセリ關稅法上ニ於テハ其ノ原產地ノ如何ハ一切問ハサルモノトス之レニ依レハ外國貨物トハ內國ニアリシ貨物ニシテ輸出シタルモノ及外國ヨリ來リシ貨物ニシテ未タ輸入セサルモノヲ謂ヒ又內國貨物トハ外國ヨリ來リシ貨物ニシテ輸入シタルモノ及內國ニ在ル貨物ニシテ未ダ輸出セサルモノヲ謂フナリ

(二) 禁制品ト自由貿易品

往時マーカンチリズムノ行ハレタル時代ニ於テハ極端ナル保護貿易制度ヲ採リタルノ結果輸入禁止及通過禁止ニ依リテ內國産業ニ對スル外國ノ競争ヲ防過シ又輸出禁止ニ依リ國內供給ノ潤澤ヲ計レリ然レトモ此ノ方法タルヤ通商自由ノ原則有無交換ノ原理ニ反シ却テ國內産業ノ發達ヲ妨ケ物資ノ騰貴ヲ招來シ國家經濟ノ進歩ヲ阻害スルモノアルヲ以テ近世ノ多クノ國家ハ如上ノ極端ナルマーカンチリズムヲ捨テ國內産業ノ保護ハ保護稅ニヨリテ其ノ目的ヲ達シ財政關稅ニ依リテ國庫收入ノ増加ヲ圖ルヲ得策トシ概ネ輸出入並通過禁止ノ制度ヲ採用セス故ニ貨物ハ凡テ貿易品タルヲ原則トス只一國ノ政治上又ハ經濟上ノ必要ニ基キ貿易自由ノ原則ニ對シテ例外ヲ認メ其ノ輸出入ヲ禁制スル貨物若干アルノミトス之レヲ稱シテ輸出入禁制品ト謂ヒ分テ常時禁制品及戰時禁制品トナス

(甲) 常時禁制品

常時禁制品トハ平時戰時ノ別ナク輸出入ヲ禁止セララルル貨物ニシテ關稅定率法ニテ定メラレタルモノト其他ノ特別法規ニ依リテ定メラレタルモノトアリ

(イ) 關稅定率法ニヨル輸入禁制品ハ其ノ第十條ニ於テ列記セラレタリ即チ其ノ目的ヲ見ルニ一ハ公共ノ衛生保持上ヨリ二ハ取引ノ安全ノ保障上ヨリ三ハ公安若ハ良俗ノ維持上ヨリ四ハ工業所有權等ノ精神的產出物ノ保護上ヨリ定メラレタルヲ知ル

- 一、阿片及阿片吸煙具但シ政府ノ輸入スルモノヲ除ク
- 二、偽造變造又ハ模造ノ貨幣紙幣銀行券及有價證券
- 三、公安又ハ風俗ヲ害スヘキ書籍圖書彫刻物其他ノ物品
- 四、特許權、實用新案權、商標權及著作權ヲ侵害スル物品(註一一九)

阿片ハ我刑法第十四章ニ記載セラレタル阿片煙ト同意義ナリト解ス刑法ニ於ケル阿片煙トハ單ニ直ニ吸煙ニ適スル阿片煙膏ノミヲ指稱スルモノナリトノ說(大審院)ト阿片煙膏ノ外粉末阿片、生阿片(一名阿片土)ヲモ包含スルモノトナス說(例ヘハ泉二氏著日本刑法各論第一〇五五頁)トアリ然レトモ生阿片ハ阿片法ノ適用ヲ受クルヲ沿革上(註一二〇)妥當トスヘク從テ粉末阿片、阿片煙膏ノ二種ヲ指スモノトスルヲ可トス故ニ阿片煙ノ輸入行爲アリタルトキハ關稅法第七十四條但書ニヨリテ刑法ニ照シテ處斷スヘキモノニシテ關稅法ノ罰金又ハ科料ニ處スヘキモノニアラスト解ス是等關稅定率法ニ列記セラレタル輸入禁制品ニ付キ何カ偽造變造模造ナルカ又ハ公安良俗ヲ害スヘキ物品ナルカ等ノ認定ニ當リテハ刑法ニ定メラレタルモノト同一ノモノナルヲ以テ司法官ノ見ル所ト一致スルヲ望ムヘキモ稅關トシテハ司法當局ノ意見ヲ離シテ單獨ノ解釋ヲ採ルモ差支ナシ

明治三十九年舊關稅定率法ニ於テハ「法令ニ依リ輸入ヲ禁止セラレタル物品」トシタリシモ現行法ニテハ之レヲ削除セリ蓋シ關稅法第七十四條ニ於テ輸入禁制品一般ニ對スル罰則ヲ定メ之レヲ取締ル以上ハ當然他ノ法令ニ於テ輸入

ヲ禁止セラレタル場合ヲモ含マルヘキヲ以テナリ

(註一九) 明治三十年舊關稅定率法附屬稅表第三種禁制品目ニ於テハ「特許、意匠、商標及版權ニ關スル帝國ノ法律ニ違反シタル物品トアリキ故ニ違反ト規定シタル爲メニ稅關ニ於テ明カニ權利侵害ノ事實ヲ認ムルモ報告罪ナル故告訴ナキ時ハ之レカ輸入ヲ禁止シ得サリキ依テ之レヲ第二次及現行關稅定率法ニ於テハ侵害ト改メ侵害ノ有無認定ヲ稅關ニ於テ爲スコトトシ其ノ犯罪ノ決定ヲ待タズシテ輸入ヲ禁止シ得ルコトトセリ

(註二〇) 之レヲ沿革ニ徵スルニ明治三年八月布告及刑法ノ前身タル新律綱領等ニ於テ鴉片烟ニ關スル規定ヲ設ケタルニ拘ハラヌ同年別ニ生阿片取締規則ノ制定ヲ見ルニ至リタルモノナルカ故ニ生阿片ハ刑法ノ適用ヲ受クヘキモノニ非ラヌト思料セラレ

(ロ) 關稅定率法以外ノ法令ニ於テ輸入ヲ禁セラレタルモノ左ノ如シ

- 一、銃砲火藥類(明治四三年法律五三號銃砲火藥類取締法九條一六條、大正元年制令三)
- 二、輸入禁止處分ヲ受ケタル新聞紙(明治一一年法律四一號新聞紙法二四條、大正六年律令二號臺灣新聞紙令一六號)
- 三、公安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財產ヲ害セムトスル目的ニ供スル爆發物若ハ其ノ使用ニ供スヘキ器具(明治一七年大政官布告三二號爆發物取締規則一條三條)
- 四、模造印紙(大正五年大藏省令第一八號印紙模造取締規則)
- 五、貨幣、紙幣、銀行券、國債證券、地方債券及勸業債券ニ紛ラシキ外觀ヲ有スルモノ(明治三六年律令一四號通票及證券模造取締規則)
- 六、偽造變造ノ印紙印紙金額ヲ表彰スヘキ印影若ハ消印ヲ除去シタル印紙(明治四二年法律三九號印紙犯罪處罰法二條)
- 七、偽造肥料及他物ヲ混和シタル肥料(明治四一年法律五一號肥料取締法九條)
- 八、許可ヲ受ケサル賣藥 大正三年法律一四號賣藥法大正元年臺灣總督府令一六號臺灣賣藥營業取締規則)
- 九、モルヒネ、コカイン及其鹽類(大正九年朝鮮總督府令一九四號モルヒネコカイン及其鹽類ノ取締ニ關スル件大正九年臺灣總督府令一八四號モルヒネコカインノ取締規則、大正四年關東都督府令五號モルヒネコカインノ取締ニ關スル件)

令一八四號モルヒネコカインノ取締規則、大正四年關東都督府令五號モルヒネコカインノ取締ニ關スル件)

十、傳染病豫防ノ爲メ輸入禁止ノ物件(明治三二年勅令四三四號傳染病豫防ノ爲メ物件輸入禁止ニ關スル件)

十一、結核病ニ罹リ又ハ疑アル畜牛、明治四三年法律三五條畜牛結核病豫防法七條一七條)

十二、外國有病地ヨリ輸入スル獸類其他ノ物品(明治二九年法律六〇號獸疫豫防法大正四年制令一號獸疫豫防令明治三二年律令四號臺灣獸疫豫防規則明治三九年農商務令一號)

十三、家畜並ニ其ノ屍體及肉骨皮毛類其他傳染病傳播ノ虞アル物品(大正一一年法律二九號家畜傳染病豫防法一九、二〇條)

十四、偽造又ハ變造ニ係ル外國ニ於テノミ流通スル金銀貨紙幣銀行券帝國官府發行ノ證券及之レニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノ並ニ之レカ偽造又ハ變造用ノ器械又ハ原料(明治三八年法律六六號二條四條五條及刑法一四九條)

十五、煙草(明治三七年法律一四號煙草專賣法大正十年制令五號朝鮮煙草專賣令、明治三八年律令一號臺灣煙草專賣規則)

十六、鹽及鹽水合鹽礦物(明治三八年法律一一號鹽專賣法明治三九年大藏省令一三號、明治三二年律令七號臺灣食鹽專賣規則)

朝鮮ニアリテハ鹽ニツキ專賣制度存セサレトモ青島鹽ノ輸入ニ關シテ朝鮮總督府令ヲ以テ輸入手續ヲ定メ之レカ輸入ニハ專賣局長ノ承認ヲ必要トシ以テ鮮内ニ於ケル鹽ノ需給價格ノ維持ヲ圖リ居レリ(大正一五年三月二十五日府令第二四號)

十七、植物又ハ其ノ容器包裝ニ使用シタルモノ(大正九年農商務省令二一號輸出入植物取締法第七條ニ依リ植物又ハ其ノ容器包裝ニ使用シタル物ノ輸入移入又ハ收受禁止ノ件)

十八、植木又ハ接木用果樹櫻樹並ニ其枝幹及根(朝鮮ノミ、大正九年朝鮮總督府令一三四號)

十九、染料コールドール及其ノ誘導化學の生成品(醫藥及石炭酸ヲ除ク)(朝鮮ノミ、大正一三年朝鮮總督府令四五號染料等輸入許可ノ件)

二十、臘虎臘熊獸又ハ其ノ獸皮(明治四五年法律二二號臘虎臘熊獸臘禁止ニ關スル件)

第四章 輸移入行政 第四節 關稅ノ賦課

二七三

- 二十一、度量衡器(朝鮮ノミ、隆熙三年法律第二十號度量衡法三條八條)
- 二十二、蠶種(明治四四年法律四七號蠶絲業法一七條三八條大正八年制令第十號朝鮮蠶業令第十三條)
- 二十三、煙草製造專用ノ器具機械及卷紙(前掲十五參照)
- 二十四、生阿片(明治三十年法律二七號阿片法三條大正八年制令一五號朝鮮阿片取締令五條明治三十年律令二號臺灣阿片令二條)
- 二十五、偽造變造シ若ハ使用ノ痕跡ヲ除去シタル郵便切手其他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票(明治三十三年法律五四號郵便法四十八條二項)

- 二十六、虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券(刑法一六三條)
- 二十七、紅蔘及人蔘ノ種子(大正九年制令二四號紅蔘專賣令二條)
- 二十八、黃燐々寸(大正十年法律六一號黃燐々寸製造禁止法二條)
- 二十九、臺灣帽子原料(大正十一年臺灣總督府令一六一號臺灣帽子原料取締規則一條)
- 三十、酒類(大正十一年律令三號臺灣酒類專賣令三條二一條及大正十一年律令四號臺灣酒精令五條)
- 三十一、銀貨幣並粗銀(明治四一年十月二十日臺灣總督府律令十五號)
- 三十二、夕錢(明治三六年九月二六日臺灣總督府律令四號)

以上ノ内九、十六、十七、十八、十九、二十一、二十二、二十三、二十四及二十九ハ一定ノ條件ノ下ニ輸入ヲ許可サルヘキモノニシテ其他ハ絕對ノ輸入禁制品ナリ尙郵便法第四十二條及外國郵便規則第二條ニ規定スル如ク一般ニハ輸入シ得ルモノモ郵便ニ依ルカ故ニ輸入シ得サルモノアリ注意ヲ要ス

(乙) 戰時禁制品

戰時禁制品トハ戰時ニ於テ輸出入ヲ禁制セラルル貨物ヲ云フ普通ニ所謂戰時禁制品トハ國際法上ノ原則ニ依リ一國カ其ノ國法ニテ定メタル禁制品ヲ指稱シ(註一一一)戰時中ニ於テ或種ノ貨物ニシテ對手國ノ軍用ニ供セラルモノ又ハ

其ノ虞レアルモノヲ其ノ輸送ノ途上ニ於テ之レヲ防遏スルニアルヲ以テ其ノ貨物ノ所有者カ中立國民タルト敵國民タルト自國民タルトヲ問ハサルモノナリ而シテ多クノ場合海上輸送ノ途上ニ於テ捕獲スルモノナルヲ以テ關稅行政法上之等ヲ詳論スルモ其ノ實益ニ乏シ只戰時禁制品中輸出品ニ關シ在內國ノ商人カ之レヲ取扱フ場合ニ於テ意義多キモ其ハ輸出行政ノ章下ニ於テ述フルコトトスヘシ(註一一二)

(註一一一) 我國ニ於ケル戰時禁制品ニ關シテハ一九〇九年倫敦宣言ノ精神ヲ採リ大正三年軍令海戰法規ニ於テ詳細ニ定メラレタ

(註一一二) 大正六年四月勅令四十一號對敵取引禁止令ニ依リ歐洲大戰中敵國敵國人又ハ敵國法人敵國內ニ住所又ハ居所ヲ有スル

モノ又ハ敵地内ニ於テ事業ヲ營ムコトヲ主タル目的トスル者事業ノ全部又ハ一部カ敵國人ニヨリ管理セラレ其他事業カ敵ノ勢力ノ下ニ置カレルモノトシテ農商務大臣ノ指定シタル者等ト取引スルコトヲ禁シラレタリ

輸人禁止品ハ各國共ニ之レカ違反ニ對シテハ嚴罰ヲ加ヘテ取締ルヲ常トシ其ノ體刑ヲ以テセルモノ少ナカラス亦輕キハ罰金若ハ科料ニ科セラル輸入禁止品ハ陸揚スルコトヲ得サルモノナルヘキモ其ノ之レヲ檢査スルニ非サレハ果シテ禁止スヘキモノナリヤ否ヤ不明ナルモノモアルヘク又嚴格ナル意味ニ於テハ通過ノ場合ト雖モ陸揚ヲ禁スヘキ筋合ノモノナルモ其ハ稅關構内ニ限り特ニ認ムル行政慣例ナリ而シテ之等ノ禁止品ハ犯則ニ依ルモノ及收容處分トナリタルモノハ格別トシ其他一般ニハ自由ニ處分シ得サルモノニシテ積戻ヲ命スルカ又ハ稅關吏立會ノ下ニ滅却處分ニ附スヘキモノナルヘシ

其ノ他(自由貿易品)ニ關シテハ重要ナルヘキヲ以テ別項ニ於テ論スヘシ

五、自由貿易品(輸入自由品)

自由貿易品ヲ其ノ課稅セラルルト然ラサルト及一定ノ條件又ハ狀態ノ下ニ免稅セラルルトニ依リ之レヲ有稅品、無稅品及免稅品ニ別ルヘキコト前述ノ如シ

甲、有税品、無税品

有税品無税品ノ内容ニ關シテハ關稅定率法附屬稅表ニ之レヲ求ムル外ナシ茲ニ問題視スヘキハ稅表ニ分類シタル物品ニ當テ箝マラサル貨物ノ輸入セラレタル場合ニ於ケル擬率ノ方法ナリトス今日ノ如ク新規商品ノ現出多ク貿易交通ノ自由ナル時代ニアリテハ稅表制定當時ニ於テ豫想セサル貨物ノ輸入セラルコト頻々タルハ明白ナル事實ナリトス此ノ場合ニ何レヲ無稅トスヘキカ有稅トスヘキカニ依リ關稅免除主義(Principle of duty immunity; Prinzip der zoll-freiheit; Principle dimmunité)ト稱シ後者ヲ關稅義務主義(Taxation principle; Prinzip der Zölpflicht; Assiette des impôts)ト稱ス而シテ我國ハ明治三十年關稅定率法制定以來皆關稅義務主義ヲ採リ關稅定率法第六四七號ニ於テ別號ニ掲ケサル物品トシテ總括シ未製品其他ニ別チテ稅率ヲ定メタリ

之レヲ沿革ニ見ルニ第一次舊關稅定率法ニ於テハ生粗若ハ未製品又ハ全製品若ハ半製品ニ分チ(稅表四九七號)第二項改正法ニ於テ未製品半製品全製品ノ三種ニ分チタレトモ現行關稅定率法ハ之レヲ二種ニ分チ左ノ如ク定メタリ

- 一、未製品.....從價一割
- 別號ニ掲ケサル物品
 - 甲、貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金物、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、象牙又ハ鼈甲.....同五割
 - 乙、其ノ他.....同四割

右ノ規定ニ依リ自由貿易品中關稅定率法附屬稅表 無稅ト定メラレタル以外ノ物品ハ全部有税品トシテ右第六四七號ノ適用ヲ受クヘキモノトス我國ニ於テハ各種ノ輸入貨物ヲ具體的ノ場合ニ於テ如何ナル稅目ノ下ニ擬率スヘキヤニ付テハ當該稅關官吏ノ認定ニ依ルコトトナリ居レトモ之レ法律ノ適用問題ニシテ事實問題ニアラス此種ノ法律問題ニ關スル自由裁量ハ何か公益ニ適スルカノ裁量ニアラスシテ何か法規ノ要求スル所ナルカノ裁量(Judgement of lawfulness; Ermessen der Rechtsamssigkeit; Jugement de la régularité en loe)ナリ故ニ關稅吏ハ唯各個ノ場合ニ付何か關

稅定率法ノ命スル所ナルカヲ考察シテ之レヲ認定スルコトヲ得ヘキニ止マリ若其ノ認定ヲ誤リタルトキハ裁量權ノ誤用(Abusive judgement; Ermessensmissbrauch; Abus de Jugement)ニシテ違法ノ行爲トナルヘシ(註I II III)從テ其擬率カ不法ニ行ハレタルトキハ別ニ定ムル所ニ從ヒ訴願ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス

而シテ其ノ實際ノ取扱ハ新規輸入品ニ付擬率ヲ爲シタル又ハ爲サムトスル稅關ヨリ大藏省ニ通信シ大藏省ニ於テ各稅關ノ意見ヲ徵シ之レヲ決定スルモノトス其他毎年一回開催セラルヘキ鑑査官會議ニ於テ是等擬率ニ關シ打合せ決定ヲ爲スヲ例トセリ(註I II IV)

(註I III) 太田正孝博士著關稅行政之研究第二七〇頁

(註I II IV) 輸入稅表ニ於テ其ノ分類ヲ明カニシタルモノハ神戸市機邊通四ノ四〇内外同志會發行ニ係ル大和龍藏、小倉正、井上達子共著改正輸入稅表(分類附)ヲ以テ可トス

乙、免稅品

有税品ニシテ一定ノ法律原因アルモノハ其ノ關稅ヲ免除ス免稅ヲ爲スハ國家權利ノ拋棄ナルヲ以テ唯立法ニ依リテノミ之レヲ爲スコトヲ得ヘク行政權ノ自由裁量ノ範圍ニ屬セス從テ法律又ハ條約ニ明記セル根據アルヲ要スルモノトス

A 法律ノ根據ニ基ク免稅

法律ニ依ル免稅ハ關稅定率法第七條第八條第十條大正十二年九月(緊急)勅令第四一號生活必需品並土木又ハ建築用器具機械及材料ノ輸入稅ノ低減又ハ免除ニ關スル件大正十四年六月十七日法律第五一號關東州生産ニ係ル物品ノ輸入稅免除ノ件(註I II V) 及大正六年法律第二七號製鐵業獎勵法第十二條ニ掲ケラレタリ元來免稅ハ國家權利ノ拋棄ナルヲ以テ常ニ嚴正解釋ヲ探ルヲ要スルモ行政慣例ニテ中ニハ擴張解釋ヲ探ルモノアリ

(註I II V) 内地ハ即日、朝鮮及臺灣及南洋群島ニアリテハ大正十四年七月二十八日ヨリ施行セラレタリ

(イ) 關稅定率法第七條ニ掲クルモノ

(一) 御料品 關定七條一號)

皇室ニ於テ使消セララルル貨物ニシテ獻上品ノ如キハ其ノ輸入ノ當時ニ於テハ未タ御料品タラサルモ御料品ニ準シ免除セララルル行政慣例ナリ

朝鮮李王家ニ付テハ問題ナルカ事ノ事實ハ本號ニ據ルモノトス

(二) 本邦ニ來遊スル外國ノ元首及其ノ一族並ニ其ノ從者ニ屬スル物品(同二號)元首トハ皇帝、王、大統領、大總統等一國ノ統治ノ總攬者ヲ謂フ

(三) 陸海軍ノ輸入スル兵器、彈藥及爆發物(同三號)

兵器トハ武器ト云フモ同シク軍用品ヨリハ其ノ範圍狹ク直接戰闘ノ用ニ供セララルルモノヲ意味ス而シテ其ノ部分品及半製品モ之レニ含マシムル行政慣例ナリ

(四) 政府ノ輸入ニ係ル燃料用礦油(同四號)

(五) 直接燃料ニ供スル礦油ニシテ攝氏十五度ニ於ケル比重〇・九〇四ヲ超エタルモノ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケ輸入スルモノニ限ル

此ノ命令ハ内地ニアリテハ勅令ニテ定マリ朝鮮及臺灣ニアリテハ總督府令ニ依ルモノトス(註二二六)而シテ右命令ノ定ムル所ニ依レハ其ノ用途ハ(一)鑛業、工業、運輸業又ハ漁業ノ爲メ使用スル發動機用又ハ汽罐用(二)製鍊用(三)窯業用(四)金屬加熱用ニ限ラル朝鮮ニ於テハ水利組合ニテ使用スル發動機又ハ汽罐ヲ工業用ト認メ之レニ使用スル礦油ニ對シ本號ニヨリ許可スル取扱ナリ而シテ之レカ免除ヲ得ムトスル者ハ其ノ(一)輸入セムトスル礦油ノ數量及豫定價格(二)用途貯藏場使用場所及其ノ設備ノ説明(三)積出地輸入地及輸入豫定價格(四)消費豫定期間ヲ具シタル許可申請書ヲ所轄稅關ヲ經由シテ農商務大臣朝鮮及臺灣ニアリテハ總督ニ提出シ其ノ許可ヲ受クル

ヲ要ス(註二二七)之レカ輸入申告ニ當リテハ礦油使用者ノ名ヲ以テシ輸入申告書ニハ當該許可書ヲ添付スルモノトス右ニ依リ免除ヲ受ケタル礦油ヲ目的タル用途ニ供セサルトキハ其ノ輸入稅ハ追徵ス但シ之レヲ同様輸入稅免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ他ノ用途ニ供セムトスル場合ニ於テハ更ニ許可ヲ受ケ稅關ニ申告スルコトヲ要スルモノトス目的タル用途ニ供シ又ハ供セサルニ至リタルトキハ遲滞ナク輸入地ノ稅關ニ届出スルモノトス稅關ニ於テ使用者別ニ其ノ使用ノ方法及在庫品等ヲ取締ル必要上帳簿ノ檢閱實地ノ檢査ヲ爲スノ外使用成績報告書ノ如キモノヲ徵スルモノトス

(註二二六) 大正九年勅令第五百五十號關稅定率法第七條第四號ノ二ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ礦油ニ關

スル件大正九年農商務省令第四一號同件(朝鮮)大正九年府令第一九五號關稅定率法第七條第四號ノ二ニ依ルコトヲ得ヘキ礦油ニ關スル件(臺灣)大正十一年府令第三二號輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ礦油ニ關スル件

(註二二七) 朝鮮ニテハ本件許可ヲ大正十五年六月ヨリ輸入地ノ稅關長、支署長ニ委任セリ

(六) 軍艦(同五號)

其ノ部分品及水雷艇ノ解體セラレタルモノノ如キモ軍艦籍ニ在ルモノハ之レニ依ル

(七) 本邦ニ派遣セラレタル外國ノ大使、公使其他之ニ準スヘキ使節ニ屬スル自用品及在本邦外國大使館又ハ公使館ニ屬スル公用品但シ本邦ヨリ派遣シタル大使、公使其他之ニ準スヘキ使節ニ屬スル自用品又ハ本邦大使館又ハ公使館ニ屬スル公用品ニ對シ免稅ニ制限ヲ附スル國ニ付テハ相互條件ニ依ル(同六號)

右ニ屬スル自用品又ハ公用品ナル旨ノ外務省ノ證明書ヲ添付シタル場合又ハ特別ノ旅券ヲ以テ其ノ身分ヲ證明シタル場合ニハ無檢査無稅通關ト爲スノ慣例ナリ又上屋敷料ノ如キヲモ徵收セス尙代理大使又ハ代理公使ノ自用品ヲモ認ムルヤ否ヤニ關シ異論アルヘキモ之レヲ含マスト解スルヲ妥當トス(註二二八)

之レニ準スヘキ使節トハ羅馬法王使節、講和、禮讓等ノ爲メ元首(ローマ法王ヲ含ム)又ハ國ヲ代表シテ本邦ニ派

遣セラレタル使節ヲ謂フ、大正十五、十一、二十七日外務次官ヨリ大藏次官宛ノ協定ニヨレハ關稅定率法第七條第六號中ノ其他ニ準スヘキ使節ハ次ノ如シ

イ、元首又ハ羅馬法王ヲ代表スル特派使節長

ロ、國際會議ニ於ケル各國政府代表者

ハ、國際聯盟總會ニ於ケル各國全權委員、聯盟理事及聯盟事務局高級職員(聯盟規約第七條第四項參照)並勞働總會ニ於ケル代表者勞働理事會員勞働事務局高級職員(對獨平和條約第三九二條第三八七條第二項、第三九九條聯盟規約第七條參照)

ニ、常設國際司法裁判所裁判官(同所規定第十九條參照)及常設國際仲裁裁判所裁判官(國際紛爭平和的處理條約第四六條參照)

本邦大使館又ハ公使館ノ公用品ニ制限ヲ附スル國ハ現在露國、ベルー、チリーノ三ヶ國トス右三ヶ國ニ對シテハ本號但書ニ依リ相互條件ニ依ルヘキモ事外交ニ關スルヲ以テ之レカ取扱前ニ於テ稅關ト外務省ト打合スル慣例ナリ

(註二二八) 太田正孝著關稅行政之研究第三七三頁、昭和二、歲稅第一一四四號主稅局長通牒

(八) 本邦大使館又ハ公使館ノ館員ニ屬スル自用品ニ對シ關稅ヲ免除スル國ノ在大邦大使館又ハ公使館ノ館員ニ屬スル自用品及本邦領事館ニ屬スル公用品ニ對シ關稅ヲ免除スル國ノ在本邦領事館ニ屬スル公用品 同七號 其ノ取扱ニ關シテ(七)ト同様ナリ代理大使又ハ代理公使ハ本號ニ依ルヘキモノトス免稅ニ關シテハ相互主義ヲ採用セルニ依リ之レニ關スル各國ノ取扱振テ知悉スルノ要アリ外務省ノ調査セル處ニ從ヒ(大正十四年末現在)國別ニ例記スレハ左ノ如シ(註二二九)

獨國 大使館參事官、書記官、通譯官、外交官補、同館附陸海軍武官ノ自用品及領事館ノ公用品ニ對シ免稅ス

米國 大使館書記官、同館附陸海軍武官其ノ他ノ館員ノ自用品及領事館ノ公用品ニ對シ免稅ス

(領事館ノ建築又ハ修繕材料ハ含マス)

英國 領事館ノ公用品ニ對シ免稅ス

暹羅國 公使館館員ノ自用品及領事館ノ公用品ニ對シ免稅ス

瑞西國 領事館ノ公用品ニ對シ免稅ス

智利國 公使館書記官ノ自用品ニ對シ免稅ス

西國 公使館館員ノ自用品及領事館ノ公用品ニ對シ免稅ス

中華民國 公使館館員ノ自用品及領事館ノ公用品タル筆墨紙類ニシテ本邦政府ヨリ送付スルモノニ對シ免稅ス

瑞典國 領事館用ノ國旗、館印並ニ領事館ノ印シアル用紙ニ對シテ免稅ス

諾威國 公使館參事官、書記官、外交官補、同館附陸海軍武官ノ自用品及領事館ノ徽章、國旗、書籍、館印、領事館ノ印シアル

用紙並ニ領事ノ大禮服ニ對シ免稅ス

墨國 領事館用門章、國旗、印章、事務所用品ニ對シ免稅ス

露國 大使館附陸海軍武官ノ自用品、領事館用トシテ必要ナル印章、事務所用書類、公文式紙、扁額、國旗及職員ノ制服ニ對シ

免稅ス

佛國 大使館員及大使館附陸海軍武官着任ノ際ニ於ケル落付キ所用印(Pour la première installation)ニ對シ免稅ス

和蘭國 大公使館參事官、書記官及外交官補ノ自用品及領事館用國旗及扁額ニ對シ免稅ス

白國 領事館ノ公用品中國旗、官印、徽章、其他之レト同種類ノ物品家具、文具等ヲ含マス(ニ對シ免稅ス)

奧國 大公使館員自用品及領事館公用品中國旗(Drapeau)徽章(Empleme)印章(Estampille)印刷物(imprime)ニ對シ免稅ス

洪國 右ニ同シ

亞爾然丁國 大公使館書記官及其他ノ外交官並ニ其ノ家族ノ公私用品、正式總領事及領事着任ノ際輸入スル私用品、設備品、領

事館ノ公用品ニシテ當該國公使宛到着シ又ハ當該國使臣ヨリ自由通關ノ請求アリタルトキハ之レニ對シ免稅ス

智利國 外交代表者ニ屬スル私住所又ハ公使館ノ建物並ニ其ノ家具ニ對シ免稅ス
玫瑰國 大公使及代理大公使ノ自用及家族用品、大公使、代理大公使、大公使館附陸海軍武官及其他ノ大公使館員政府派遣ノ高官及總領事ノ自用品又ハ其ノ家族及從者ノ所有品ニシテ上陸ノ際携帯スルカ或ハ入國後相當ノ期間内ニ到着スルモノニ對シテ免稅ス

葡國 大公使又ハ代理公使ノ輸入スル物品其他ノ外交官ノ着任ノ際携帯輸入スル物品又ハ領事館ノ使用ニ充ツル物品ニ對シテ免稅ス

波蘭國 全權公使、代理公使、領事及領事代理等ノ使用スル物品ニシテ自己ノ使用ニ必要ナル限度ニ於ケル家具、住宅ノ設備食料品等但シ公使館及領事館ノ他ノ館員及外國使節ノ隨員ニ對シテハ波蘭ニ居住ヲ定ムル必要ナル家具及器具等ニ對シ一度限リ免稅ス

國旗、紋章、官印及外交代表者又ハ領事館ニ宛テタル印刷物ノ公用ニ對シ免稅ス
伯刺西爾國 大公使及一般外交事務ニ從事スル凡テノ官吏カ到着ノ際其ノ携帯荷物ト認定スヘキ自用品大公使、辦理公使、代理大公使ノ取寄セ輸入スル物品大公使館員ノ輸入スル自用品及領事館ノ公用品ニシテ館長ヨリ請求アリタルトキ正式總領事及領事カ最初着任ノ際自用ノ爲輸入スル家具及其他ノ物品及領事館員着任ノ際携帯スル荷物ニシテ當該國大公使ノ請求アリタル場合ニハ免稅ス

暮里比亞國 外交使節、書記官及公使官附武官ノ使用又ハ消費スル貨物ニ對シ免稅ス
領事ノ用品ニシテ當該國外交官ヨリ豫メ交渉アル場合ニ於テ免稅ス
致順國 公使館參事官、書記官、外交官補、公使館附武官及外國人タル其他ノ館員ニ對シ引取荷物、新調ノ道具及衣類其他ノ自用品並ニ上記諸員ノ同居家族ノ私用品ニシテ公館長ノ證明アルモノニ限リ免稅ス
領事館公用品ニ對シテハ免稅セス

佛國 大使、代理大使其他ノ駐劄使臣又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル物品巴里駐在仲裁裁判所ノ裁判官及國際委員會委員、大使館參事官、書記官、外交官補ノ引取荷物、領事副領事、領事事務官ニ宛テ送付スル紋章、國旗、國章、使用ノ書籍記録等及文書ニ對シ免稅ス

加奈陀 總領事及領事館ノ公用品ニ對シ免稅ス
伊國 外交代表者(Capi di Missioni)及外交團員參事官、書記、官陸軍武官、陸軍武官、航空武官及商務官(Corriglieri, Segretari, Addetti, Militari, Navali, Aeronautice commerciali) ニシテ伊國外務省ニ對シ正規ノ通告ヲ爲シタル者ニ屬スル物品領事館創立ノ際ニ於ケル正式領事ノ携帶品及家具並ニ領事館宛ニ送付シ來リタル禮服、國旗、徽章、及領事館用品ニ對シ免稅ス

(註二二九) 大正九年十月外務大臣官房人事課編『外交官及領事官ト關稅ノ免除ニ參照』
領事館公用品中ニハ Kitchen Range ナ含ムモ公宴用食料品ヲ含マシメサル行政慣例ナリ

(九) 本邦在住者ニ贈與スル勳章、賞牌及記章(同八號)
(十) 記錄、文書其他ノ書類(同九號)

文書(Document)トハ文字又ハ之ニ代ルヘキ(即チ發音シ得ヘキ)符號ヲ以テ或ル物體ノ上ニ記載シタル意思表示ナリ從テ文字又ハ文句ヲ個々ニ羅列スルモ意思表示ヲ包含セサルトキハ文書ニアラスシテ記錄又ハ其他ノ書類ト解スヘキモノナルヘシ意思ヲ表示スル以上略式ニ依ルモノ特別ノ知識ヲ有スルモノノ間ニ通用スルモノト雖モ文書ナリ故ニ電信ノ暗號者ノ使用スル凹凸文字及速記符號ニヨリ記載サレタルモノ、支拂傳票、手荷物ノ驛名札、白紙委任狀、乘車券、電車回数乘車券、略式ノ入場券、切手、印紙、銀行券等モ文書ナリ然レトモ畫幅、扁額、下足札、名刺、門札、墾標等ノ如キハ文書ニアラス而シテ或ル物體ニ記載サレタルヲ以テ足り其ノ物體ノ材料ノ如何ハ問ハス亦作成名義ヲ必要トセス

(十一) 官立公立ノ學校、博物館、物品陳列所等ノ營造物及命令ヲ以テ指定シタル私立ノ學校ニ陳列スル標本又ハ參考品ニシテ大藏大臣ノ認許シタルモノ(同十號)輸入主體タル私立學校ノ指定ニ關スル命令ハ内地ニアリテハ大正十五年三月大藏省令第十四號、朝鮮ニアリテハ大正十五年四月府令第三十二號、臺灣ニアリテハ大正十五年四月府令第一三號ニ依リ其ノ現行教育行政上認メラレタル各種ノ學校ヲ指定シ尙特ニ指定セサル學校ニ付テハ其ノ學校長學校長ナキトキハ其ノ管理者(内地)又ハ學校設立者朝鮮ニ於テ其ノ指定ヲ申請シ得ヘキモノトセラレタリ而シテ右陳列標本又ハ參考品トシテ免稅ノ取扱ヲ受ケムトスルニハ大藏大臣(又ハ總督)ノ認許ヲ要スルモノトシ從來ノ如ク稅關長ノ認定ニテ取扱ハサルニ至レリ之レカ認許申請書ハ輸入地所轄稅關ヲ經由スヘキモノト定メラル其ノ詳細ニ付テハ大正十五年三月二十九日大藏省告示第三十八號及同年四月朝鮮總督府告示第二百二十八號ヲ参照スルヲ要ス

陳列品又ハ參考品ハ一時的ノモノ又ハ使用スルモノニアラサルヲ要シ醫學學校ニ於ケル醫療器若ハ工業試驗場水產試驗場等ニ於ケル標本機械ノ如キモノ之レナリ博覽會、共進會ノ如キ一時的ノモノハ本號ノ營造物ト認メサル慣例ナリ茲ニ所謂營造物トハ列記セラレタルモノニ類似ノモノニシテ人ト設備(物)トヲ合セタル實際直接公衆ノ用ニ供スル營造物ヲ謂フヲ以テ農事試驗所、學校附屬ノ病院及動植物園、獨立ノ動植物園、授産場等ヲ指ス帝國大學内ノ航空研究所ノ如キハ之ヲ認メサル慣例ナリ、本號ノ免稅品ヲ大藏大臣又ハ總督ノ認許ヲ要スルコトトシタル理由ハ舊法ニ於テハ各稅關ノ取扱區々ニ亘リ其ノ統一ヲ缺キタリシヲ以テナリ今大正三年稅關長會議ニテ本號適用ニ關シ決定セラレタル取扱振テ示セハ左ノ如シ

一、陳列スヘキ標本トシテ輸入スル物品ハ其ノ種類ヲ制限スルコトナカルヘキモ輸入者ノ資格ニ鑑ミテ其ノ數量ニ制限ヲ加フルコト又標本トシテ輸入スル物品ハ陳列スルモノノミニ限ルモノナルヲ以テ輸入者ノ資格ニ鑑ミ使用ノ憂アルモノハ標本トシテ之カ輸入ヲ許可セサルコト

二、陳列スヘキ參考品トシテ免稅輸入ヲ許可スルモノ左ノ如シ

甲、單ニ陳列シテ參考ニ供スルモノ例ハ公立動物園ニ飼養ノ爲メ輸入スル動物ノ如キモノ
乙、參考ニ供スル爲メ使用スルコトアルモ普通ハ參考品トシテ陳列シ置クモノ
例ハ工業學校ニ輸入スル原動力機、諸機械類、農學校ニ輸入スル農具等ノ如キモノ
但シ前記ノ物品ハ輸入者ノ資格及程度ニ鑑ミ參考ノ價值ナキモノト認メタル場合ニハ參考品トシテ輸入ヲ許可セス

三、參考ノ爲メ使用スルモノト認メサルモノ左ノ如シ

甲、生産ヲ主タル目的トシテ使用スルモノ
例ハ工業試驗所カ自己使用ノ瓦斯ヲ製造スル爲メ輸入スル瓦斯製造裝置ノ如キモノ
乙、使用シテ其ノ効果ヲ得ルノミヲ目的トシテ使用スルモノ
例ハ病院ヘ輸入スル外科器ノ消毒器械、顯微鏡及微菌ノ貯藏裝置、工業試驗所ニ輸入スル試驗機械ノ如キモノ
丙、營造物及營造物ニ備付クヘキ家具ニ取付ク又ハ附屬シテ其ノ使用ノミヲ目的トスルモノ
例ハ各種ノ建築材料、屋内裝飾材料、煖爐、「ラチエーター」及附屬ノ鐵管、戸窓及家具用金具類、窓掛「テ

ブル」掛、地氈、絶緣電線、電燈、避雷針等
尙參考資料トシテ各種ノ物品ニ付キ其ノ適用例ヲ示セハ左ノ如シ
イ、左記ノ物品ノ如キ陳列シ並一部ヲ繁殖セシメテ參考ニ供スルモノハ參考品トシテ公量ヲ制限シ輸入ヲ許可スルコト
菌類、穀類、種子等

ロ、左記ノ物品ノ如キ消費物ハ輸入者ノ資格ニ鑑ミ陳列スヘキ標本ト認メタルモノニ限り分量ヲ制限シテ輸入ヲ許スコト

穀類、澱粉、麥芽、酒類、砂糖類、菓子類、香味料、茶、珈琲類其ノ他各種ノ飲食物、煙草類、酒精、食用油脂類、石鹼類、香水、香油、化粧品、薰香類、調劑藥等

ハ、左記物品ノ如キモノハ標本ト認メタル場合ニ限り數量ヲ制限シテ許可スルモ輸入者ノ資格ニ依リテハ其ノ一部分ヲ比較試驗效力試驗ノ爲消費スルヲ妨グスト雖陳列スル標本タル性質ヲ全ク失フカ如キ消費ヲ爲スモノト認メタルトキハ輸入ヲ許可セサルコト

油、脂、蠟、藥材、化學藥、爆發藥「セリユロイド」、染料、顔料、塗料等

ニ、左記ノ物品ハ輸入者ノ資格及程度、輸入品ノ形狀、性質、構造効力等ニ鑑ミ參考上必要ト認メタル場合ニ限り參考品トシテ箇數ヲ制限シ之カ輸入ヲ許スコト

幻燈器、活動寫真器、寫真器、蓄音機、樂器、特種ノ車輛（傷病者運搬車等ノ如キ）「クロノメーター」、鐵盤、雙眼鏡及望遠鏡、權衡尺度類、各種ノ計量器、原動力機、各種ノ機械類、機械裝置及其ノ一部分但シ完全ナルモノ、調帶類

ホ、左記物品中ニハ器械又ハ器械裝置ト見ルヘキモノ（X光線裝置、經緯儀、縮圖機、顯微鏡「ミクロトーム」、蒸餾裝置、分子測定裝置、自記晴雨計、風力計、屈折計、分光計等）ト單純ナル器物（外科用刃物、體溫計、製圖用「コンパス」、測量用鎚、蒸發皿、結晶皿、「ピーカー」、硝子管類、硝子壺類等）ト見ルヘキモノトノ二種アリ前者ニ屬スルモノハ輸入者ノ資格及程度、輸入品ノ形狀性質、構造、効力等ニ鑑ミ參考トナルヘキモノト認定シタル場合ニ限り參考品トシテ箇數ヲ制限シ之カ輸入ヲ許シ後者ニ屬スルモノハ之カ輸入ヲ許ササルコト但シ其ノ性質、狀形、構造、効力等ニ於テ尋常ノモノト認メ難キモノ又ハ尋常ノモノト認メタル場合ニ於テモ輸入者ノ程度

ニ鑑ミ參考トナルヘキモノト認メタル場合ニ限り參考品トシテ箇數ヲ制限シ輸入ヲ許スコトヲ得ヘシ

工匠具（尺度類ヲ含ム）、農具、醫療品、製圖器、測量器、理化學器（寒暖計、電信機、電池、化學用天秤等ヲ含ム）

ヘ、左記物品ノ如キモノハ標本トシテ輸入スル場合ニ限り分量ヲ制限シテ輸入ヲ許スコト但シ輸入者ノ資格及程度物品ノ形狀、性質、構造等ニ鑑ミ參考トナルヘキモノト認メタルトキハ參考品トシテ箇數ヲ制限シ輸入ヲ許スコトアルヘシ

金屬製品、石墨製品、耐火性粘土製品、木製品、機械及器具類ノ部分品

ト、左記ノ物品ノ如キモノハ標本トシテ輸入スル場合ニ限り數量ヲ制限シテ輸入ヲ許スコト

皮、毛、骨、角、齒、牙、甲、穀類、革類、礦物、草木ノ稈幹、葉、枝、木材、絲纜、繩索（調帶ヲ除ク）布帛類、「フェルト」類、「メリヤス」類、紙類、陶磁器、硝子及硝子器、金屬、石絨製品、雲母製品、「セメント」製品、及物類（稅表第四九九號ニ列記スルモノ）、釘類、車輛類、皮革製品、骨角齒牙甲殼類製品、布帛製品、「フェルト」製品、衣類、紙製品、礦物製品、稈製品、經木製品、「インヂアラツバー」製品、「セリユロイド」製品、其他各種ノ全製品

大正十五年四月以降大藏省ニ於テ取扱ヒタル事例ニヨレハ小學校ニ於テ輸入ノ人體模型、毛皮及實物幻燈器、活動寫真機、中學校輸入ノ實物幻燈器、商品陳列所輸入ノ支那雜貨、女學校輸入ノ活動寫真機等ハ認許シタルモ醫科大學輸入ノ顯微鏡及エツキス光線裝置、實業學校用機械類、女學校小學校用ピアノ等ハ認許セス

此等ノ物品ニ對シテハ輸入申告ノ際學校長館長又ハ陳列所長カ各其ノ陳列又ハ參考品タル旨ヲ證明シタル書類ノ添付ヲ要スルモノトス茲ニ問題トナルハ輸入引取後ニ於テ前記ノ證明書ヲ提出シ之レカ免稅ノ請求アリタル場合ノ取扱トス稅關ニヨリテ異ナルモノアルモ其ノ使途明カナル場合ハ既納關稅ノ拂戻ヲ爲スヲ穩當ト信ス

(十二) 慈善又ハ救恤ノ爲メニ寄贈セラレタル給與品及孤兒院、養老院、施療院等ノ慈善團體ニ寄贈セラレタル物品ニシテ直接慈善ノ用ニ供スルモノ(同十一號)

本號ニ依ルヘキ物品ハ寄贈者ニ於テ慈善又ハ救恤ノ爲メニスル意思ヲ以テ寄贈スルヲ要スルモ其ノ寄贈者ノ意思ノ知レサル場合ニ於テモ寄贈ヲ受ケタル者カ慈善事業ヲ爲スモノナルトキハ寄贈者ニ於テ其ノ意思アルモノト推定シ本號ニ依ルノ行政慣例ナリ受贈主體カ慈善又ハ救恤事業ト營利事業トヲ兼ヌル場合ニ於ケルトキ之レニ對シテ寄贈シ來リタル物品ハ本號ニアルヘキヤ否ヤニ關シ實際例トシテ問題トナルモノ多キモノノ如シ此ノ場合ニハ輸入物品ノ性質及其ノ輸入者ノ事業ニ鑑ミ認定スヘキ事實問題ナルヘケレハ一概ニ論斷シ能ハサルモ主トシテ慈善又ハ救恤事業ノ爲メ使用スルモノナレハ本號ニ依ルヘキモノナルヘシ宣教師ニ寄贈シタルモノ又クリスマスノ贈品ノ如キハ本號ヲ適用セサルモノトス之レカ輸入申告ニ當リテハ寄贈ヲ證スヘキ書類、慈善又ハ救恤ノ爲メナルコトヲ證スルニ足ル書類ノ添付ヲ要スルコト言テ俟タス(註一三〇)

(註一三〇) 大正十五年度内地稅關長、鑑査官會議ニ於テ略一定シタル本號ニ關スル解釋左ノ如シ

- (一) 本號前般ノ給與品ハ其ノ給與カ間接ナルモ差支ナク給與ヲ受ケル主體ハ經濟上自立シ得サル程度ノモノナルヲ要シ餘リ有ル程有福者ニ對スル給與ハ認メス
- (二) 本號後般ノ慈善團體ノ認定ハ内務省ノ方針ニ從ヒ施療病院ニ於テ其ノ施療ニ要スル費用ヲ償フ爲メ有料患者ヲ收容スルコトアルモ差支ナク從テ有料施療病者ニ共通シテ使用スル醫療器醫藥等ノ如キハ本號ノ免稅品ト認ム
- (三) 本號ニ於ケル『直接』ノ意義ハ可成狹義ニ解スルコト
- (イ) 宣教師ノ自由品、建築用材ノ如キハ本號免稅物品ト認メス
- (ロ) 孤兒院ニ於ケル孤兒慰安用ノ玩具、遊戲具、幻燈機、活動寫真機及樂器並ニ孤兒院ニ與フル衣類、食料等ハ本號ノ免稅品ト認ム

(ハ) 施療病院ニ於ケル乗用自動車ハ免稅セサルモ患者運搬専用ノ特種構造ヲ有スル自動車ハ免稅ス

(十三) 慈善團體ニ寄贈シタルタイプライター、椅子、卓子等ノ如キハ間接ト認メ免稅セス

(註一三一) 本號ニ關シ大正十五年度内地稅關長會議、鑑査官會議ニ於テ採リタル解釋左ノ如シ

- (一) 式典用具及禮拜用具トハ主トシテ祭壇用キヨク口ク、簾、幕、燭臺等ノ如キヲ云フ
- (二) 禮拜者ノ用フル椅子及机、事務用ノ椅子及机、黒染衣、葬式用自動車、垂簾等ハ本號ノ免稅品ト認メス
- (三) 本號ノ免稅物品中ハ蠟燭、葡萄酒ノ如キ消耗品ヲ含マス
- (四) 坊主ニ寄附シ來リタルモノノ如キハ假令式典用具又ハ禮拜用具ナリトスルモ免稅セス

(十四) 政府ノ輸入ニ係ル政府專賣品(同十二號)
現行ノ專賣品ハ鹽、煙草、樟腦及阿片トス此等ノ輸入申告ニ當リテハ當該官廳ノ輸入證明書ヲ添付スルヲ要ス

(十五) 商品ノ見本但シ見本用ノミニ適スルモノニ限ル(同十三號)
見本トハ商品ノ取引賣買ノ爲メニ供セラルル參考品ニシテ夫レ自身ハ賣買又ハ使消シ得サルモノヲ謂フ通俗ニ商業上所謂見本ハ實用ニ適スルモノヲモ指稱スレトモ本號ニテハ特ニ但書ヲ以テ之レヲ除外シ單ニ見本トシテノミ供用スルコトヲ得ルナルモノヲ要ストセリ例ヘハ實用ニ適セサル程小ナル洋服地ノ切片、吳服太物ノ小切片若ハ紙片ノ如キモノヲ云フ又靴、靴下、手袋ノ如キ對テ爲スモノニ付テハ其ノ片足又ハ片手分タルヲ要シ而シテ是等ノモノハ時又ハ場所ヲ異ニシテ輸入ヲ見ルヲ保シ難キヲ以テ其ノ實用ニ適セサル程度ノ切斷又ハ毀損ヲ與ヘ以テ實用ニ適セサルノ措置ヲ採ルヲ常トス

商品見本ノ範圍ノ實例ハ左ノ如シ

染料

二オンス罐入

寫真用乾板

一枚紙包(上包ニExampleト記セリ)

寫真用紙

四枚袋入(同上)

Kepler's solution of cod-liver oil

一 壺 (總量七十六匁)

Quinine bisulphate tabloid

(同 一匁五分) } 一組トス

Hazeline snow

一 壺(同七 匁)

Whisky and liquors

少量壺入

右數量ヲ超ユルモノハ課税ス其他ハ右ニ準シ實用ニ適スルモノト雖モ少量ノ場合ハ免稅取扱ヲ爲ス慣例ナリ
其他ハ具體的事例ニ付キ當該稅關吏ノ認定ニ依ルノ外ナシ

(十六) 旅客ノ用品及旅客ノ職業上必要ナル器具但シ旅客ノ身分ニ相當スルモノニシテ稅關カ適當ト認メタルモノニ
限ル(同十四號)

旅客ノ用出トハ旅行用ノ物即チ旅行ノ時ノ身邊品ノ謂ニシテ旅行ニ必要ナラサル犬、馬、自働車、飛行機等ハ包含
セス、朝鮮ノ陸接國境ニ於テハ旅客カ寫真機ヲ携行出入スルコト多キヲ以テ之レニ關シテ其ノ輸出ノ際稅關ニ於テ輸
出通關證ナルモノヲ發給シテ旅客ニ便益ヲ與ヘル取扱ナリ(大正一五年五月二五日朝鮮總督府財務局長通牒)

旅客ノ職業上必要ナル器具トハ旅客ノ職業上使用スル器具ヲ謂フモ機械ニ屬スヘキモノ又ハ過大ニ失スルモノノ如
キハ普通ニ認メサル慣例ナリ例ヘハ飛行士ノ飛行機、乘馬師ノ馬若ハ軌道工運車等ノ如シ本號ノ物品ハ必スシモ其ノ
旅客カ自ラ携行スルヲ要セサルモ餘リニ時期ヲ異ニスルハ旅客タル資格ノ認定上困難ナルノミナラス之レカ弊害アル
ヘキニ鑑ミ相當期限經過後ハ認メサルヲ可トスヘシ(註一三二)本號適用ノ物品ニ對シテハ内國消費稅ヲ免除ス亦消
耗品ハ旅客ノ職業上必要ナル器具ト認メス例ヘハ畫工ノ携帶シ來リタル「アーティストカラー」ノ如シ(註一三三)
甲地ヨリ來タル旅客カ渡來後乙地ヨリ職業上必要ナル器具ヲ輸入スルカ如キハ本號適用ノ限リニアラサルヘシ

携行ノ自用煙草ニ付テハ葉卷煙草ハ五十本、紙卷煙草ハ百本、其他ハ三十匁迄免除セラレ右數量超過ノ煙草ニシテ
製造煙草輸入許可申請書ヲ提出スルモノアルトキハ葉卷煙草三百本以内、紙卷煙草八百本以内其他ニ封度以内ニ限り
煙草專賣法第三十二條ニ準シ徵稅ノ上自用煙草證票ノ印ヲ捺押シ通關ヲ許可セラル

(註一三二) 伊國ニテハ旅客ノ入國後三ヶ月以内ハ認ム

(註一三三) 米國ニテハ旅客ノ職業 (Trade, occupation, or employment) 上必要ナル器具ハ本邦同様ニ免稅取扱ヲ爲スモ其範

圍ニ機械 (Machinery) 又ハ製造工場ニテ使用スル物品又ハ他人ニ屬スル物品劇用ノ背影、小道具衣裳、建具等ヲ除外セリ

(Customs Regulations of the united States Art. 385, 1938.)

亦旅客ノ用品ニ付テハ先ツ其ノ旅客ヲ(一)米國ニ住所有スルモノト(二)然ラサルモノトニ別チ(一)ニ付テハ凡テ
ノ衣類、身邊裝飾品、化粧品其他ノ自用品ニシテ賣品ニアラス又ハ他人ニ屬セサルモノニ限ル但シ細貨類及身邊裝飾
品ハ三百圓弗内外ニ限ラレ而シテ到着後三箇年以内ニ之レヲ賣却シタルトキハ其ノ到着當時ノ輸入稅率ニ依リ課稅セ
ラル亦(一)ニ付テハ(a)自己又ハ家族用ノ土産物又ハ骨董品ニシテ百弗ヲ超エサルモノ及(b)凡テノ衣類及自己又ハ
家族用ノ物ハ免除セラレ而シテ以上ハ(a)及家族タル父母、配偶者子供ハ一人ニ付各百弗宛免除セラル尙携帶ノ自用
煙草ニ付テハ葉卷煙草ハ五十本紙卷煙草ハ三百本其他ハ三封度ヲ超エサル範圍内ニテ輸入稅外内國消費稅ヲ免除セラ
ル茶ハ五封度迄亦然リ而シテ是等ハ前記百弗ノ範圍外トス (Customs Regulation of the united states Art. 387, 388,
389, 1938.) ソヴェート社會主義共和國聯邦ノ旅客携帶品ニ關スル取扱ニ依レハ旅客カ無稅携帶シ得ル物品ハ從來
ヨリノ使用品又ハ旅行上必要品タルモノニ限ラレ、而シテ携帶ヲ許可セラルル品ハ帽子及外套各一箇宛、頭髮用品ハ二
箇靴一足、男服二着、婦人服二着下着、半打トス但シ上記ノ物ト雖モ新品ナルトキハ課稅ス

(十七) 在外軍隊、軍艦又ハ公館ヨリ送還シタル物品(同十五號)

軍隊、軍艦、陸海軍衙ハ勿論在外本邦ノ大使館、領事館官立商品陳列館、郵便局所等ヨリ送還スル場合ヲモ含ム

モノトス在外商業會議所ハ公館ト認メラレス送還トハ一度内地ヲ出タルモノニシテ還リ來タルモノノ謂ナルヲ以テ勝
利品ノ如キハ含マサルヘキモ國家ノ軍事行動ニ依ルモノナレハ本號ニヨリ課稅セサルノ行政慣例ナリ此ノ場合ニ於テ
モ陸海軍衙ノ證明書ヲ輸入申告書ニ添付スルヲ要ス

(十八) 個人ニ屬スル引越荷物但シ既ニ使用セラレタルモノニ限ル(同十六號)

個人トアルヲ以テ法人ヲ含マス引越荷物トハ生活ノ場所ヲ移轉スル際ノ荷物ヲ謂フ必スシモ生活ノ本據ノ移轉ニ限
ルノ要ナシ然レトモ一時的滯留スル場合ハ含マス又引越荷物ハ普通直接個人ノ衣食住ニ關スルモノニ限り營業用ノモ
ノハ含マス骨董品、嫁入道具ノ如キモ其ノ身分相當ノモノハ本號ヲ適用スヘキモノナルヘシ

引越荷物ハ(十六)ト同様本人ト同時ニ輸入スルヲ要セス然レトモ其ノ到着ノ時期カ非常ナル差アルトキハ引越荷物
タルノ證明困難トナリ或ハ本號ノ適用ヲ受ケサルニ至ルヲ保シ難シ

本號適用上ノ取扱ハ稅關ニヨリ異ナルヘキモ引越荷物ナルコトヲ證スル爲メ輸入者ノ身分職業家族數前居住所及現
在又ハ豫定居住所移轉年月日及移轉ノ理由貨物ノ種類既ニ使用セラレタルモノナルコトヲ記載シタル文書ヲ輸入申告
書ニ添付セシムルヲ可トスヘシ

(十九) 輸入シタル物品ニシテ五年以内ニ輸入セラレ輸出ノ時ノ性質及形狀ヲ變セサルモノ但シ酒精、酒類、砂糖及第
八條又ハ第九條ニ依リ輸入稅ノ免除又ハ拂戻ヲ受ケタル物品ヲ除ク(同十七號)

輸出ノ時ノ性質及形狀ノ程度トハ内容品ニ於テ其ノ性質及形狀ヲ變セサルヲ以テ足り外裝ノ變更若ハ其ノ使用シタ
ルト否トニハ關セス從テ自然破損又ハ自然變質シタルモノニシテ輸出ノ際ノ原質及原形ヲ認定シ得ヘキモノト雖モ本
號ヲ適用スヘキモノニアラスト解ス本號ノ適用ヲ受クヘキモノニ二種アリ一ハ外國產貨物ニシテ他ハ內國產貨物ナリ
トス外國產貨物ノ再輸入ニ當リテハ最初輸出ノ際其ノ輸出申告書ニ特ニ輸出ノ目的及再輸入ノ場所ヲ記載スルヲ要シ
其ノ場所ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ輸出港稅關ニ申告スヘク(註一三四)且之レカ輸入ノ際ハ申告書ニ當該輸出免

狀又ハ之レニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ添付スルヲ要ス輸出免狀ニ代ルヘキ稅關ノ證明書トハ輸出免狀ト同一ノ内容ヲ
表示セラレタルモノヲ意味ス內國產貨物ニ對シテハ輸出ノ際ハ何等特別ノ手續ヲ要セス其ノ輸入ノ際ニ稅關官吏ニ
於テ輸出免狀又ハ之レニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ提出スル能ハサル理由アリト認ムルモノニ限り他ノ證憑書類ヲ以
テ之レニ代ルコトヲ得ルモノトセラレタリ(註一三五)他ノ證憑書類トハ輸出シタルモノナルコトヲ證シ得ルモノ例
ヘハ帳簿、往復書狀等ニテ可ナルヘク必スシモ輸出免狀ト同一ノ内容ノモノタルヲ要セス尙郵便ニヨルモノニ對シテハ
申告ノ事實ナキヲ以テ再輸入ノ關係ニ付テハ事實ヲ認定シテ免稅スルノ外ナカルヘシ即チ普通ニハ輸出當時ノ小包
郵便物受領證又ハ其ノ寫ヲ提出スルヲ以テ稅關ニテハ之レヲ以テ免除決議書ヲ作成シ本號ヲ適用スルヲ妥當トスヘ
シ

(註一三四) 關稅三四條三項四項、朝關稅三四條三項四項

(註一三五) 關稅三九條、朝關稅四〇條

但書ヲ以テ除外例ヲ設ケタルハ酒精酒類ハ輸出ノ際造石稅ノ下戻ヲ受ケタルモノナルカ故ニ再輸入稅ヲ課スニアラ
サレハ造石稅ヲ負擔シタルモノト權衡ヲ失フヘク砂糖ハ再輸入品ナリヤ否ヤノ認定困難ナルカ故ニ例外トシテ輸入稅
ヲ免セラレサルナリ其他織物骨牌等輸入ノ際消費稅等ノ免除ヲ受ケタルモノハ輸入ノ際消費稅等ヲ課スヘキハ勿論亦
定率法第八條及第九條ノ規定ニヨリ免稅又ハ戻稅セラレタルモノハ輸出ヲ條件トナシタルモノナルヲ以テ再輸入ハ即
チ條件ノ不成就ナルカ故ニ之レニ課稅スヘキハ當然ナリ

(二〇) 命令ヲ以テ指定シタル輸出貨物ノ容器ニシテ再輸入スルモノ但シ第八條ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル物品
ヲ除ク(同十八號)

(内地)明治三十九年大藏省令第四四號改正大正六年大藏省令第六號大正十五年大藏省令

一、礦水、清涼飲料水、清酒、ビール又ハ醋酸ノ容器トシテ使用シタル樽、但シビール樽ニ付テハ大正十年勅令第

- 一、三三八號ニヨリ輸入税ノ拂戻ヲ受ケタルモノヲ除ク
- 二、清酒樽、ビール又ハ醬油ノ容器トシテ使用シタル樽
- 三、硫酸、鹽酸、硝酸又ハ醋酸ノ容器トシテ使用シタル壺又ハ罐
- 四、壓搾瓦斯ノ容器トシテ使用シタル鐵製シリンダー
- 五、穀粉又ハセメントノ容器トシテ使用シタル綿製袋

(朝鮮) 大正九年府令第一二四號、改正大正十一年府令第一三六號

- 一、礦水壺及清涼飲料水壺
- 二、麥酒樽
- 三、硫酸壺及硫酸罐
- 四、鐵製壓搾瓦斯容器
- 五、綿製又ハ黃麻製ノ穀粉袋及セメント袋
- 六、清酒醬油又ハ味噌ノ容器トシテ輸出シタル木製樽但シ朝鮮ヨリ輸出シタルモノニ限ル

(臺灣) 大正十三年府令第四三號

- 一、酒精容器木製樽及鐵製「ドラム」
 - 二、糖密容器木製樽及鐵製「ドラム」
- 本號ハ輸出勸奨ノ爲メ設ケラレタル規定ニシテ其ノ輸入ニ際シテハ第十七號ノ物品ト同様輸出免狀又ハ之レニ代ルヘキモノヲ提出スルニアラサレハ免稅サレサルモノトス内國産品ニ付テハ他ノ證憑書類ニシテモ足ルコト既述ノ如シ(註一三六)本號ノ物品ノ積戻ノ期限ニ付テハ何等ノ制限ナク何年後ニ於テ輸入スルモ適用セラルヘキモノトス

(註一三六) 關施三九條 朝關施四〇條

(一一) 本邦ヨリ出漁セル船舶ヲ以テ捕獲採取シタル魚介類、海獸、海藻其他ノ水産物及其ノ製品ニシテ工程ノ簡單ナルモノ但シ當該船舶又ハ之ニ附屬セル船舶ヲ以テ輸入シタルモノニ限ル(同十九號)

工程ノ簡單ナルモノトハ乾魚、鹽魚、鯨油、鯨油及簡單ナル罐詰ニシテレールヲ貼付セサルモノ、貝殻ノ燒キ灰擬眞珠製造用大刀魚ノ外皮ヲ搔取り之レテ礦油(揮發油)ニ浸漬シタルノ如キモノヲ云フ之レカ輸入申告ニ當リテハ申告者又ハ本號ノ適用ヲ受クヘキ旨ヲ記載シタル書面ノ提出ヲ爲スヘキモノトス

(一二) 外國航行ノ艦船ニ船用ノ爲メ引渡ス物品但シ第十條ヲ掲クル物品ヲ除ク(同二十號)

此ノ種物品ハ事實ニ於テ内國ニ入ラス公海又ハ外國ニ於テ消費使用セラルルモノナルヲ以テ免稅セラルヘキモノナリ之レカ輸入申告ニ當リテハ申告者又ハ船長ヨリ其ノ旨ヲ記載シタル文書ノ添付ヲ爲スヘキモノトス

(一三) 難破シタル本邦船舶ノ解體材及鐵製品(同二十一號)

難破及本邦船舶ノ何タルカニ付テハ後述第十二章ニ於ケルカ如シ遭難ノ事實カ外國領海ニ於テ生シタルト公海ニ於テ生シタルトヲ問ハス本品ヲ輸入スルニ當リテハ難破地附近駐割ノ帝國領事又ハ稅關其他ノ官公署ノ證明書ヲ添付スルヲ要ス

(一四) 本邦ヨリ出港シタル船舶ニ搭載シタル輸出貨物ニシテ該船舶難破シタル爲メ積戻リタルモノ但シ第八條又ハ第九條ニ依リ輸入税ノ免除又ハ拂戻ヲ受ケタル物品ヲ除ク(同二十二號)

本號ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前述(十九)ニ於ケル如ク其ノ輸出免狀若ハ之レニ代ルヘキモノノ提出ヲ要ス

(註一三七) 關施三九條、朝關施四〇條

(二五) 國道府縣其他ノ公共團體政府ノ指定スル産業ニ關スル法人又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ノ輸入スル種用動物獸疫免疫血清及獸疫豫防接液(同二十三號)

本號ノ免稅主體ハ國道府縣等ニシテ本邦ニ於ケル公共團體ハ市町村水利組合、水利組合聯合會、商業會議所、農會
北海道土功組合、耕地整理組合、森林組合ニシテ産業ニ關スル法人ニシテ政府ノ指定セルモノハ左ノ如シ
(内地) 大正九年大藏省告示一八七號

- 一、畜産組合
- (朝鮮) 大正十年告示一四號

- 一、朝鮮重要物同業組合ニ依ル畜産同業組合
- 一、朝鮮重要物同業組合令ニ依ル畜産同業組合聯合會
- 政府ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ豫メ申請書ニ

- 一、輸入セムトスル種用動物ノ種類、(内地ハ牛、馬、綿羊、山羊、豚、兔、犬、雞、鶩、七面鳥、鴿、雉、蜜蜂、
狐黑貂、ミンクニ限定セリ)性、年齢及頭數又ハ輸入セムトスル獸疫免疫血清及獸疫豫防接種液ノ種類及數量
- 二、輸入ヲ必要トスル理由

- 三、蕃殖計畫
- 四、種用動物ノ飼育設備
- 五、購買地、輸入豫定地及輸入豫定期

ヲ記シ輸入豫定地所轄ノ稅關ヲ經由シテ大藏大臣又ハ總督ニ之レヲ提出シ其ノ許可ヲ得タルトキハ其ノ許可書ヲ輸
入申告書ニ添付シテ稅關ニ提出スルヲ要スルモノトス(註一三八)

(註一三八) 大正十年大藏省告示一八七號同年朝鮮總督府告示第一四號
以上免稅品中ノ砂糖、織物等ノ如ク消費稅ノ附隨スルモノニ付テハ御料品、外國渡來ノ元首大使公使等ニ屬スル物

品ヲ除ク外消費稅ハ之レヲ納付セサルヘカラス

- (ロ) 朝鮮ニアリテハ以上ノ外向左記免稅物品アリ(註一三九)
- (一)、國道府面其他ノ公共團體又ハ朝鮮總督ノ指定スル産業ニ關スル法人ノ輸入スル播種用ノ種子
- (二)、朝鮮ニ於ケル金銀銅ノ掘採、採取又ハ製鍊ノ事業ニ必要ナル器具機械、爆發藥錠解劑トシテ使用スル鹽基性礦
物又ハ化學藥料ニシテ自己ノ使用ニ供スル爲礦業者又ハ製鍊業者ノ輸入スルモノ但シ稅關カ相當ト認メタルモノニ
限ル

金銀銅ト共ニ礦物ノ採掘權ヲ得タル礦物ニ於テ金銀銅ト他ノ礦物トニ共通シテ使用スル物品モ本號ニ依ルモノト
ス

(三)、朝鮮ニ於ケル鐵、石炭ノ掘採ノ事業ニ必要ナル器具機械、爆發藥又ハ化學藥料ニシテ自己ノ使用ニ供スル爲メ
礦業者ノ輸入スルモノ但シ稅關カ相當ト認メタルモノニ限ル

以上(二)及(三)ハ共ニ朝鮮ノ特種ノ事情即チ礦業用品ノ自給能力ナク且其ノ礦業技術ノ幼稚ニシテ相當保護ノ必要
アルニ鑑ミ特ニ設ケラレタル規定ナリトス從テ公ノ礦業登錄簿ニ依リ知レタル礦業者又ハ製鍊業者カ輸入スル場合ニ
ハ特ニ其ノ證明書ヲ徵セス若シ夫レ不明ナルモノ又ハ疑アルモノニ付テハ別ニ道府郡ノ證明書ヲ徵スルコトアルヘシ
如何ナル物品カ本號ニ依ルヘキカニ付テハ個々ノ場合ニ決定ヲ見ルヘキモノナルヘシ(註一四〇)

- (四)、旅客又ハ貨物ヲ運搬スル爲メ國境ヲ出入スル車輛其他ノ運搬具其ノ備品、附屬品
- (五)、前項ノ車輛内ニ於テ消費スル食料品、燃料其他ノ消耗品但シ稅關カ相當ト認メタル數量ニ限ル
- (六)、朝鮮ニ於テ從來關稅免除ノ特許ヲ受ケタル者ノ輸入スル免稅品

本號ニ依ルヘキモノハ所謂舊韓國政府時代ニ其ノ宮中ヨリ特權ヲ得タルモノニシテ其後期間ノ滿了又ハ權利者ノ變
更ニヨリ消滅シタルモノアリテ現存ノモノハ厚昌鑛山 (Oriental consolidated mining Co.) 雲山鑛山 (Societa Itali-

anaminiere corea)(米國) 逐安鑛山 (Corean agnificate Ltd. (英國) 昌城鑛山 (E. Sattarel)(佛國) 及甲山鑛山 (Do-Ibran Bostwick development company)(米國)ノ五トス

(註一三九) 大正九年八月法律五三號關稅法關稅定率法保稅倉庫法及假置場法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル法律

(註一四〇) 朝鮮總督府編輸入鑛山用品參照

(七)、朝鮮總督ハ凶作其他已ムヲ得サル事由アルトキハ期間ヲ指定シ朝鮮ニ輸入スル米、穀、大麥、小麥、小麥粉、粟、高粱、大豆、小豆、玉蜀黍及稗ノ輸入稅ヲ低減又ハ免除スルコトヲ得(朝關四條)

(八)、陸接國境(平安北道義州郡水口鎮ヨリ咸鏡北道豆滿江口ニ至ル)ニ於ケル鐵道旅客以外ノ旅客ノ用品及職業上必要ナル器具

(九)、朝鮮總督ノ定ムル陸接國境隣接地域内ノ住民カ其ノ地域内ニ於テ收穫又ハ生産シタル物品ニシテ自ラ輸入スルモノ

(十)、前號ノ住民カ前號ノ地域内ニ於テ爲ス作業ニ必要ナル物品ニシテ自ラ輸入スルモノ

(八)(九)及(十)ノ物品ニ對シテ關稅法ノ適用ナク其ノ輸入申告ノ如キモ文書ニヨラスシテ口頭ヲ以テス(朝關施三九條)

(十一)、加工又ハ修繕ノ爲輸出シタル物品ニシテ一年内ニ輸入スルモノ(舊朝鮮關稅定率令三條二七號)本號ハ朝鮮ノ工業幼稚ナル爲メ認メラレタル制度ニ屬シ其ノ物品ノ種類ハ相當廣キ範圍ニ及フモノトス即チ輸出ノ時ノ性質及形狀ヲ全然變シ別種ノ商品ト化スル場合ヲモ包含ス例ヘハ可織纖維ノ染色漂白等ノ如シ然レトモ加工ニ止マルヲ以テ製造ニ及ハス修繕モ改造ノ程度ニ達セサルヲ要ス加工又ハ修繕シタル爲メ新シキ有稅物品ノ附加アリタルモノハ其ノ附加セル部分ニ對シテ課稅スルモノトス(註一四一)本號物品ハ輸入ノ時ニ於テハ其ノ輸出ノ時ト異ナルヲ以テ同一物ナルコトヲ認識スルニ足ル措置ヲ豫メ其ノ輸出ニ當リ施スノ要アルヘク從テ之レカ措置ヲ施スコトヲ得ル種

ノ物品ニ限ラルヘキモノト解ス例ヘハ織物類ニアリテハ末端ニ緒ヲ附シテ鉛封ヲ施スカ如シ新品ト取り換ヘ輸入スルノ疑アルモノハ修繕ノ爲メノ輸出ヲ許ササルモノトス

(註一四一) 此ノ點ニ關スル獨乙ノ制度ニ於テモ同様附加シタル有稅物品ニ對シ課稅ス

(ハ)、關稅定率法第八條ニ依ルモノ

本條ニ依ル物品ハ再輸出ノ目的ヲ以テ輸入スルニシテ各特別ノ條件及取締ヲ設クルノ外一般ニ輸入ノ日ヨリ一年以内ニ輸出スルコトヲ要シ且輸入ノ際稅金ニ相當スル擔保ヲ提供スルコトヲ要スルモノトス擔保ニ關シテハ後述スル所アルヘキモ本條ニ依ル物品ノ擔保ニ付テハ稅關貨物取扱人ノ名ニ於テ輸入申告ヲ爲ス場合ニハ其ノ身元保證金ノ限度ニ於テ無擔保ニテ輸入スルコトヲ得ルモノトス(註一四二)(一)

(註一四二)(二) 北米合衆國ニテハ機械其他ノ物品ニシテ交換又ハ修繕ノ爲メ輸入シ輸入ノ日ヨリ六ヶ月内ニ輸出スル時ハ其ノ

物品カ販賣又ハ販賣ノ目的ヲ有セル場合ニ限リ輸入稅ヲ免除セラル(U. S. T. C. Dictionary of Tariff Information 1924

p. 227)

(一)、加工ノ爲メ輸入スル物品ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノ(八條一號)

本號ハ内國ニ於テ加工賃ヲ利得セムカ爲メニ認メラレタル制度ニ屬ス此ノ加工ノ爲メノ輸入ヲ學者ハ加工輸入又ハ假輸入(Temporary admission; Veredlungsverkehr; Admission Temporaire)ト稱シ之レヲ動的加工輸入(Activeredlungsverkehr)ト通過的加工輸入(Transitveredelungsverkehr)ト別ツ前者ハ輸入シタル貨物ニ加工シ再ヒ其ノ輸入國ニ再輸出スルモノヲ謂ヒ後者ハ加工後第三國ニ仕向ケル場合ヲ謂フ此ノ二種ノ上ニ加フル加工國ノ取締ニ關シテハ彼我兄弟ナシ右二種ノ外現在朝鮮ニテ認ムル制度即チ自國ヨリ輸出シタル貨物ヲ他國ニテ加工セシメタル後再輸入スル場合ヲ稱シテ受動的加工輸入(Passiveredlungsverkehr)ト稱スルモノアリ此ノ制度ハ一國ノ加工業ノ發達ヲ阻害スル虞アルヲ以テ獎推スヘキモノニアラス勿論其ノ加工物品ノ種類ヲ制限スルニ於テ差シタル影響モアラサルヘ

加工輸入ハ一度國內ニ入りテ再輸出スルコトヲ條件トスルヲ以テ之レニ一定ノ制限アルヘク且取締ヲ要スヘシ即チ加工輸入品目及種類、加工者、再輸出ノ期間、輸出入港等ニ制限ヲ設ケ且條件附免稅トシテ稅額相當ノ擔保ヲ提供セシムル如シ而シテ重要ナル點ハ輸入品ト輸出品トカ同一品ナルコトヲ證明セシムルニ在リ之レヲ同一主義 (Identity principle: Identitätsprinzip; Principe d'identité) ト云フ我國及獨逸、奧國ノ採用スル所ナリ此ノ主義ニ依レハ其ノ事實認定困難ナルヘキヲ以テ佛國ノ如キ同質、同量ノ貨物ナレハ可ナリトシ内外原料品ヲ代用スルコトヲ許セルモノアリ之レヲ等量主義 (Equivalent principle: Aequivalentsprinzip; Principe d'équivalent) ト云フ

我國ノ加工輸入制度ニ關スル沿革ヲ見ルニ明治三十三年法律第八十五號加工ノ爲メ輸入スル物品關稅免除ニ關スル件ノ發布アリ同年勅令第三九九號ニ依リ其ノ物品ヲ指定セルニ始マル其後明治三十九年並ニ明治四十三年ノ關稅定率法ノ改正ニ當リ之レヲ同法ニ編入シ且明治三十九年九月勅令第二六一號ニ依リ加工物品ヲ指定セリ現行ノ制度之レナリ朝鮮及臺灣ニアリテハ稍遲レ前者ハ明治四十五年ニ始メテ採用シ更ニ大正九年内地ト同様ノ制度ニ改メタリ後者ハ大正十年ニ於テ同様ノ制度ヲ採用セリ今其ノ指定セラレタル物品及其ノ取扱ヲ示セハ左ノ如シ

物品ノ種類(註一四二)

- 一、彫刻、七寶、象眼、珊瑚、塗漆、繪畫、模様、現像、彩色若ハ印刷ヲ施シ又ハ金屬ヲ鍍スル爲メ輸入スル製品
- 二、繪畫又ハ模様燒附ノ爲メ輸入スル磁器及陶器
- 三、精練、漂白、色染、捺染、友禪染又ハ摺ヲ施ス爲メ輸入スル絲縷、布帛及布帛製品
- 四、絲、拔、絨、刺繡又ハ縁縫ヲ施ス爲メ輸入スル布帛及布帛製品
- 五、絨、色染、裏付又ハ義眼等ヲ施ス爲メ輸入スル毛皮及獸皮

(註一四二) 明治三十九年九月二六日勅令二六一號一條、大正九年八月二八日朝鮮總督府令一二五號、大正十年九月二二日臺灣總

督府令一四八號

右ノ如ク加工ノ程度及種類並ニ物品ノ種類ヲ制限セリ而シテ之レカ取締ノ方法トシテハ輸入ニ際シ輸入申告書ニ輸入ノ目的、加工ノ種類及加工者ノ氏名ヲ附記セシメ輸出ニ際シ輸出申告書ニ加工者ノ作製セル加工證明書ヲ添付シ輸入シタル開港ニ由リ輸出スルヲ要ス但シ輸入シタル手續ヲ爲シタル稅關ノ承認ヲ受ケタルモノハ他ノ開港ヨリモ輸出スルコトヲ得ト定メラル加工證明書ニハ物品ノ名稱、物質、數量、加工ノ種類及該證明書作成ノ年月日ヲ記載シ加工者之レニ署名又ハ記名捺印スルモノナルヲ要ス(註一四三)

(註一四三) 明治三十九年九月勅令二六一號二條三條四條

別ニ朝鮮ニアリテハ大正二年以降朝鮮關稅定率令第四條ノ二ニ依リテ此ノ制度ヲ採用セラレ而カモ其ノ範圍ハ加工ニ止マラス製造ヲモ加ヘタル點ニ於テ廣シ現ニ内地、臺灣、樺太及南洋群島ト朝鮮トノ間ニハ一部移入稅ノ存置セラルル關係上今尙右ハ朝鮮ト内地及其ノ他トノ間ニ於テ適用セラル即チ左ノ如シ

第四條ノ二加工又ハ製造ノ爲メ輸入シ輸入ノ日ヨリ一年內ニ加工品又ハ製造品トシテ輸出スル物品ニシテ朝鮮總督府令ヲ以テ指定シタルモノニハ輸入稅ヲ免除ス

而シテ右指定ニ關スル府令ニ依レハ其ノ加工ノ種類及品名左ノ如シ

- 一、絲、拔、絨、刺繡若ハ縁縫ヲ爲シ又「レース」ヲ製作スル爲メ輸入スル布帛、布帛製品及絲縷
- 二、精練、漂白又ハ染色ノ爲メ輸入スル布帛、布帛製品及絲縷
- 九、洋服ヲ製造スル爲メ輸入スル表地及裏地用織物

其ノ手續及取締ニ付テハ大體前言ノ夫レト異ナラサルモ輸出手續ハ必スシモ輸入手續ヲ爲シタル稅關ニ必ラス稅關長ノ承認ヲ得テ之レヲ異ニスルコトヲ得ルコト及稅關官吏カ原品、加工品、製造品、加工又ハ製造用器具、器械及帳簿書類ニ付キ檢査スルノ權ヲ明記シタルヲ異ニス(註一四四)

(註一四四) 大正二年十月府令九五號舊朝鮮關稅定率令四條ノニ依リ加工又ハ製造ノ爲メ輸入スル物品ニ關スル件參照

(二) 輸入貨物ノ容器ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノ(同二號)
其ノ指定セラレタルモノハ壓搾瓦斯ヲ填充セル鐵製容器ノミナリ(註一四五)之レ其ノ價格高ク其ノ重量モ重ク内容物ノ運搬ニ必要ニシテ且往復ヲ數回繰リ返スモノナルヲ以テ之レニ課稅スルハ聊カ苛酷ナルヘキヲ慮リタルニ由ル而シテ此ノ適用ヲ受クルニハ輸入申告書ニ輸入ノ目的及輸入港ヲ特記シ輸出港ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ輸入港稅關ニ申告スヘキモノトス此ノ手續ヲ以下述フル(三)乃至(八)ノ凡テノ場合ニ適用セララル(註一四六)

(註一四五) 明治四四年六月九日大藏省令二七號大正九年八月朝鮮總督府令一二六號大正十年九月二日臺灣總督府令一四八號
(註一四六) 關稅四十條、朝鮮關稅四十一條

(三) 輸出貨物ノ容器ニ使用スル物品ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノ(同二號ノ二)
其ノ指定セラレタル物品左ノ如シ(註一四七)

- 一、壓搾瓦斯ノ容器ニ使用スル鐵製「シリンダー」
- 二、油類、酸類又ハ糖密ノ容器ニ使用スル鐵製「ドラム」
- 三、砂糖ノ容器ニ使用スル「アムベラ」袋
- 四、石炭タールノ容器ニ使用スル木製樽

朝鮮ニアリテハ右ノ外砂糖ノ容器ニ使用スルガンニ一袋及セメントノ容器ニ使用スルガンニ一袋(但シ朝鮮ニ於テ使用スルモノニ限ル)ヲモ加ヘタリ臺灣ニアリテハ酒精ノ容器ニ使用スル木製樽及鐵製ドラム糖密ノ容器ニ使用スル木製樽ノニテ指定セリ

(註一四七) 大正五年大藏省令八號大正九年八月朝鮮總督府令第一二七號大正十三年五月臺灣總督府令四二號
(四) 修繕ノ爲メ輸入スル物品(同三號)

(五) 學術研究ノ爲メ輸入スルモノ(同四號)

(六) 試験品トシテ輸入スルモノ(同五號)

(七) 注文取集ノ爲メ輸入スル見本品(同六號)
關稅定率法第七條第十三號ノ商品見本ト稍々異ナリ一年內ノ法定期間内ニ輸出セサレハ課稅セラルヘキ性質ノモノナリ故ニ前者カ見本用ニノミ適スルモノニ限ルニ反シ後者ハ實用ニ適スルモノナリ本號ニハ試賣ノ爲メニスルモノハ包含セス

(八) 製作見本品トシテ輸入スルモノ(同六號ノ二)

(九) 本邦ニ渡來スル巡回興行者カ輸入スル興行用物品(同七號)
興行者ノ興行用物品ハ旅客ノ職業上必要ナル物品ト認メラレサルモノ多ク本號ノ適用ヲ受クルヲ常トス

(十) 博覽會、展覽會、共進會又ハ品評會等へ出品スル爲メ輸入スル物品(同八號)

(三) 關稅定率法第十條ニ依ルモノ
(一) 船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用スル鐵鋼材、鐵製品、鐵裝品部分品、機關又ハ機關部分品ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輸入稅ヲ免除スルコトヲ得

本號ノ命令ハ大正十年五月三十日勅令二三九號關稅定率法第十條ニ依ル命令ノ件ニテ定メラレタリ(註一四八)右ニ依レハ左ノ如シ

(免稅物品ノ種類)左ニ掲クルモノニシテ鐵鋼船ノ建造又ハ修繕ニ使用スルモノニ限ル
一、鐵鋼材 船體用、機關用又ハ鐵裝用ノモノ)

鋼塊及鋼片(鍛造用ノモノ)ハ條及竿(テー)形、アングル形等ノ形狀ヲ有スルモノ及及タービンブレードイング(含ム)板、筒及管(鑄タルモノヲ除ク)

二、鐵裝品

操舵用テレモーター及テレモーター付操舵装置、水壓式支水隔戸及其ノ裝置ウエリン式ボートダビット及其ノ裝置、クロノメーター、厨房裝置、洗濯裝置

三、機關部分品

タービン用ノフォージドインゴットディスク、フォージドリング、ホローブルームロートルドラム及エキスパンションリングコルゲートッドボイラーアーネスチューブハウチン式アーネスフロント、マツケネール氏マンホールドア及マンホールドアサツドルプレート

四、新規發明品又ハ本邦ニ於テ製作困難ナル特殊ノ物品ニシテ逓信大臣(朝鮮及臺灣ニテハ總督)ノ認許ヲ得タル鐵裝品部分品機關又ハ機關部分品

(手續)

右ニ掲ケタル物品ヲ使用シテ鐵鋼船ノ建造又ハ修繕ヲ爲ス者ハ(甲)建造ノ場合ニアリテハ建造セムトスル船舶ニ使用スヘキ物品ノ種類及數量、同上物品中輸入税ノ免除ヲ受ケントスルモノノ種類及數量工場ノ名稱及位置、起工日及竣工期限(乙)修繕ノ場合ニアリテハ各工場ニ於テ一定期間内ニ修繕ノ爲使用スヘキ物品ノ種類及數量同上物品中輸入税ノ免除ヲ受ケムトスルモノノ種類及數量、工場ノ名稱及位置(註一四九)等ヲ具シタル承認申請書ヲ豫メ管海官廳ニ提出シ(臺灣ニアリテハ工場所在地ヲ管轄スル地方官廳ニ提出スルモノトス)其ノ承認ヲ受ケ其ノ承認書ヲ輸入税ノ免除ヲ受ケムトスル物品ノ輸入手數ヲ爲ス税關ニ提出スルヲ要ス其ノ承認ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスル時亦同シ(註一五〇)

船舶ノ建造又ハ修繕竣リタルトキハ其ノ旨管海官廳ニ申告シテ承認ヲ受ケ承認書ヲ税關ニ提出スルヲ要ス右船舶建造竣工承認申請又ハ船舶修繕竣工承認申請ニハ其ノ申請者ノ氏名又ハ名稱、工場ノ名稱、船舶ノ製造番號又ハ名稱、

竣工ノ年月日ヲ記載シ之レニ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用シタル物品並其ノ物品中輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品及獎勵金ノ交付ヲ受クヘキ鋼材ノ種類並ニ數量ヲ記載セル明細書ヲ添付スルヲ要ス(註一五〇)之レカ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ノ場合ニ於テハ大正十年海軍省令十五號大正十年勅令二三九號ニ依ル海路艦船建造及修繕用物品承認規則ニ依ル

(註一四八) 關係法令ハ内地ニアリテハ大正十年大藏省令十九號關稅定率法十條施行ニ關スル件、大正十年海軍省令十五號大正十年勅令二三九號ニ依ル海軍艦船建造及修繕用物品承認規則、大正十年逓信省令三十一號同上規則、大正十年大藏省令二十八號大正十年勅令二三九號三條ニ依ル手數料

朝鮮ニアリテハ大正十年府令一〇三號關稅定率法九條及十條施行ニ關スル件同年府令百三十五號大正十年勅令二三九號第一條第四號ニ依ル物品認許ニ關スル件同年府令一〇四號大正十年勅令第二三九號ニ依ル船舶建造及修繕用物品承認規則

臺灣ニアリテハ大正十年府令第一二二號關稅定率法第十條施行ニ關スル件、同年府令第一四八號關稅定率法中免稅貨物ノ指定ニ關スル大藏省令ヲ臺灣ニ適用ノ件、同年府令第一二二號輸入税免除品使用工場又ハ藏置場ニ稅關官吏常時派出ノ手數料ニ關スル件

(註一四九) 關稅定率法第十條ニ依ル命令ノ件第二條(内地)關稅定率法第十條施行ニ關スル件第一條(朝鮮)關稅定率法第九條及第十條ノ施行ニ關スル件第十九條(臺灣)關稅定率法第十條施行ニ關スル件第三條

(註一五〇) 關稅定率法第十條ニ依ル命令ノ件二條

(註一五一) (内地)大正十年五月逓信省令三一號、大正十年勅令二三九號ニ依ル船舶建造及修繕用物品承認規則(朝鮮)大正十年府令一〇四號同規則、(臺灣)大正十年府令一二二號關稅定率法第十條施行ニ關スル件

輸入申告ハ管海官廳ノ承認ヲ受ケタル者ノ名ヲ以テシ且其ノ申告書ニハ承認書ノ番號ヲ附スモノトス(監督)免稅物品ハ稅關ノ承認シタル場所ニ之ヲ藏置シ他ノ物品ト混淆スルコトヲ得ス

工場毎ニ帳簿ヲ備付ケシメ輸入税免除物品ニ付キ一定事項ノ記入ヲ強制シ管海官廳又ハ税關長ハ船舶ノ建造又ハ修繕ニ關シ調査及監督ニ必要ナル書類ノ提出ヲ命シ且常時税關官吏ヲ特派シテ實地ニ付キ現場監督ヲモ行フモノトス

(ホ) 大正十二年勅令四一一號ニ依ルモノ

本緊急勅令ハ大正十二年九月一日ニ於ケル關東地方大震災ニ因リ其ノ復興上生活必需品並ニ土木又ハ建築ノ用ニ供スル器具機械及材料ノ輸入税ノ低減又ハ免除ヲ必要トシタル爲メニ發布ヲ見タルモノニシテ其ノ施行期間及物品ノ種類等ハ命令ニ委任セラレ同年九月十二日勅令第四一七號ニ依リ大正十三年三月三十一日迄約六十餘種ノ輸入品ニ對シ關稅ノ低減又ハ免稅ヲ行ヒタリ

(ハ) 大正十四年法律第五十一號ニ依ルモノ(註一五二)

本法律ハ關東州内ニ於ケル産業ノ保護ノ爲メ認メラレタルモノナリ本法ニヨリ輸入税ノ免除ヲ受クル物品ニ付テハ命令(大正十四年勅令二三二號)ノ定ムル所ニ依リ其ノ關東州ノ生産ニ係ルモノナルコトヲ證明スルコトヲ要スルモノトス即チ此ノ規定ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ輸入申告書ニ當該物品ノ産出地又ハ製造地ヲ管轄スル民政署長又ハ民政支署長ノ證明シタル製造原地證明書(註一五三)ヲ添付スルモノトス

(註一五二) 此ノ法律ハ内地ニ於テハ公布ノ日即チ大正十四年六月十七日ヨリ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニハ大正十四年七月二八日ヨリ施行セラレタリ

(註一五三) 製産原地證明書ノ様式ハ左ノ如シ

第 號 製産原地證明書
申請者ノ住所氏名
品 名

數量
價格
記號及番號
包裝及個數
産出地又ハ製造地
仕出地
仕向地
備考
右證明ス

年 月 日 發給官署長氏名 印

備考 黃麻布、天鰯織、ブラツシユ、其他ノバイル、織物以外ノ毛織物及毛織交織物大正十四年法律第五十一號所定ノ物品ヲ原料トシタルモノナルコトヲ明記スルヲ要ス

本證明書ノ有効期限ハ發給ノ日ヨリ六十日間トス

(註〇〇) 本法律ニヨル免稅物品ニ付テハ第二章第五節第十項ヲ参照スヘシ

(ト) 米穀法第二條ニ據ルモノ(大正十年四月法律三六號)(註一五四)

内國ニ於ケル食糧調節ノ意味ニ於テ行ハルル法規ニシテ其ノ施行期間ハ大正十年四月ヨリ數次延期ニ延期ヲ重ネ本書刊行ノ日(昭和四年八月)ニ至ルモ尙繼續免稅ノ取扱ヲ爲サレタリ朝鮮ニハ別ニ大正九年法律第五十三號ノ規定アルヲ以テ行ハレス

(註一五四) 沿革上ヨリ見ルニ大正七年十月(緊急)勅令三七三號ヲ以テ米及穀ノ輸入税低減又ハ免稅ノ件ヲ定メラレ大正八年十月三十一日マテ施行セラレタリ

(チ) 大正九年三月二四日(緊急)勅令五二號ニ依ルモノ(註一五五)本號ハ前號同様ニ食糧調節ノ目的ヲ以テ發布セラレタルモノニシテ生牛肉及鳥卵ノ免税ヲ爲スモノナリ其ノ施行期ハ同年三月二十四日勅令第五三號ニ依リ大正九年十一月三十日迄行ハレ其後數次ノ延期ニ由リ大正十三年三月三十一日行行ハレタリ

(註一五五) 沿革ニ見ルニ其ノ基本タル緊急勅令ニ於テハ大豆、生牛肉、鳥卵、綿織糸及綿織物ノ輸入税ノ低減又ハ免除ニアリ最初ノ程ハ右各品ニ免除ヲ及ホシタルモ中程ヨリ生牛肉及鳥卵ノ二種ニ限定セラレタリ

(リ) 製鐵業獎勵法(大正六年法律二七號)ニ依ルモノ

一ノ場所ニ於テ一ヶ年三萬五千佛噸以上ノ製鐵若ハ製鋼能力ヲ有スル製鐵事業ノ設備又ハ同能力ヲ増加スル設備ヲ爲ス必要ナル器具機械其他ノ材料ヲ輸入スルトキハ本法施行ノ日(大正六年八月勅令一二五號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行更ニ大正十五年勅令第五七號ニ依リ大正十五年四月一日ヨリ施行)ヨリ十五年間勅令(大正十五年勅令五八號)ノ定ムル所ニ依リ輸入税ヲ免除セラルルモノトス此ノ法律ノ施行ノ際既ニ製鐵事業ヲ營ム者本法施行後三年内ニ一ノ場所ニ於テ三萬五千佛噸以上ノ製鐵若ハ製鋼能力ヲ有スルニ至ル爲必要ナル設備ヲ爲ス場合モ亦同シ(大正六年製鐵業獎勵法一二條)輸入税ノ免除ヲ受ケルコトヲ得ヘキ器具機械其他ノ材料ノ種類ハ鉄鐵、鋼鐵、壓延鋼材、鍛鋼製品ノ素材又ハ商工大臣(又ハ總督)ノ指定シタル副生物ノ製造ニ關スル事業ノ爲メ必要ナルモノニシテ商工大臣(總督)ノ指定シタルモノニ限ラル(大正十五年勅令五八號製鐵業獎勵法施行令第一一條)

(一) 副生物ノ種類ハ左ノ如シ(大正十五年四月商工省令二號製鐵業獎勵法施行規則一條、同朝鮮總督府令第三五號二條)

鑛滓綿、鑛滓煉瓦、高爐セメント、タール、無水タール、輕油、中油、重油、ビツチ、安母尼亞、安母尼亞水、硫酸安母尼亞、粗製ナフタリン、アンストラシン、ベンゾール、キシロール、トルオール、ソルベントナフサ

(二) 免税ヲ受クルコトヲ得ヘキ物ノ種類(鐵施一條、朝鐵施三條)

- 一、碎鑛機、鐵鑛選別機、選機並燒結機、原料壓搾機及其ノ附屬裝置
- 二、製鉄爐、熱風爐、骸炭爐、混鉄爐、製鋼爐、瓦斯發生爐、均熱爐又ハ加熱爐ノ構成金物及其ノ附屬機械(但シ送風機ハ毎分二百立方米以上ノ送風能力ヲ有スルモノニ限ル)
- 三、製鉄爐、熱風爐、骸炭爐、混鉄爐及製鋼爐ノ耐火材料
- 四、鑄 鉄 機
- 五、乾風裝置及其ノ附屬機械
- 六、瓦斯清淨裝置(瓦斯除塵機ヲ含ム)及其ノ附屬機械
- 七、洗炭裝置及其ノ附屬機械
- 八、骸炭爐副生物捕集裝置及其ノ附屬機械
- 九、壓延用ロール機(引拔機ヲ含ム)及其ノ附屬裝置
- 十、壓延工場用ノ輸送テーブル、鋸斷機、剪斷機、卷束機及機械的冷却裝置
- 十一、精整用ノ錐孔機、穿孔機、矯正機、鋸斷機、剪斷機及鋼管螺絲切機
- 十二、ロール仕上機
- 十三、鋼材鍛鍊用ノ機鏈、水壓機及其ノ附屬裝置
- 十四、五百馬力以上ノ瓦斯機關、瓦斯發電機、排汽發電機及其ノ附屬裝置
- 十五、壓延用ロール機(引拔機ヲ含ム)ノ附屬原動機及其ノ原動機ノ附屬裝置
- 十六、原料又ハ製品輸送用ノ起重機及連續的輸送裝置
- 十七、材料強弱試驗機
- 十八、前各號ニ掲クル機械ノ部分品(但シ壓延用ロールハ徑七百五十耗以上ノチルドロールニ限ル)並其ノ機械ト

共ニ一組トシテ輸入セラルル附屬品、附屬原動機及其ノ原動機ノ附屬裝置

十九、直徑百五耗以上ノ電氣爐用炭素電極

而シテ此ノ輸入税ノ免除ヲ受クヘキ物ヲ輸入セムトスル者ハ商工大臣又ハ朝鮮總督ニ申請シテ其ノ認可ヲ受ケ之レカ輸入申告ノ際其ノ認可書ヲ添付シ且製鐵業者ノ名ヲ以テ申告スルコトヲ要スルモノトス免除品ヲ目的タル用途ニ供シタルヤ否ヤニ付テハ商工大臣又ハ朝鮮總督ニ届出テ其ノ之レヲ目的タル用途ニ供セサルトキハ輸入税ヲ追徴セラルヘキモノトス但シ其ノ物ヲ製鐵業獎勵法ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ他ノ用途ニ使用セムトスル場合ニ於テ商工大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ旨税關ニ申告シタルトキハ此ノ限リ在ラステラル(註一五六)

(註一五六)大正六年八月勅令一二六號製鐵業獎勵法施行令大正六年八月農商務省令一八號製鐵業獎勵法施行規則、大正十年十月

海軍省令十七號製鐵業獎勵法施行令第五條ノ四ニ依ル海軍艦船建造及修繕用鋼材使用證明規則、大正十一年二月朝鮮總督府々令

一九號製鐵業獎勵法施行規則、大正十五年四月勅令五九號

朝鮮ニアリテハ別ニ大正九年法律第五三號關稅法關稅定率法保稅倉庫法及保稅工場法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件第三條ニ依リ内地ト殆ムト内容ヲ同フスル製鐵業獎勵ノ目的ヲ以テ定メラレタリ(註一五七)是内地ニアリテハ關稅上ノ保護ノ外内國稅ノ免除獎勵金ノ交付等ニ迄及フモ朝鮮ニアリテハ内國稅免除ノコトナク單ニ關稅上ノ保護及獎勵金ノ交付ノミナリ

(註一五六) 大正十五年四月朝鮮總督府令三五號製鐵業用品ノ輸入税免除ニ關スル件

尙朝鮮ニ於テハ右法律第四條ニ朝鮮總督ハ凶作又ハ其他已ムコトヲ得サル事由アルトキハ期間ヲ指定シ朝鮮ニ輸入スル米、粳、大麥、小麥、小麥粉、粟、高粱、大豆、小豆、玉蜀黍及稗ノ輸入税ヲ低減又ハ免除スルコトヲ得ルコトニ定メラレタリ此ノ規定ニ依リ粟等ノ免税ヲ行ヒタル事例アリタリ

(B) 條約ノ根據ニ基ク免税

(イ)、明治四十年九月條約第五號日露漁業協約第十二條ニ依リ沿海州及黑龍江縣ニ於テ漁獲又ハ採取シタル魚類及

水産物ニ對シテハ關稅法第一條但書ヲ適用シ何等ノ輸入税ヲ課セス(註一五八)

(ロ) 明治四十五年一月條約第四號陸戰ノ法規慣例ニ關スル條約第十六條ニ依リ俘虜ニ宛テタル贈與品及救恤品ハ輸入税其他ノ諸稅及國有鐵道ノ運賃ヲ免除セラル

(註一五八) 大正十四年二月二十七日條約第五號日本國ソヴイェト社會主義共和國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本法則ニ關スル條

約第二條第三條參照、之レカ適用ヲ受クルハ生産原地證明書又ハ露國稅關ノ發給スル證明書類ノ提出ヲ要ス

有稅品及無稅品ノ鑑別ハ單ニ其ノ物品ノ性質等專ラ品種ニ依リ行ハルルモ免除處分ハ前述ノ各種ノ條件ヲ充タスコトヲ要スルモノニシテ其ノ間稅關官吏ノ認定ニ俟ツ所多シ從テ其ノ明文アルモノハ之レニ從ヒ其手續ノ定メアルモノハ之レニ依リ其ノ輸入者ノ定メアルモノハ之レニ限ラレ各ノ其ノ據ル所ニ從フヘキモノトス而シテ免税處分ニ關シテ條理ニ由リ其ノ之レニヨル受益主體タル申告者ニ於テ證明又ハ證明スルノ責任ヲ有スルヲ原則トス故ニ免税ノ請求ナキ時ハ之レヲ一般貨物トシテ課稅スヘキモノトス蓋シ免税ハ貨物ノ性質ニ依ルヨリモ主トシテ其ノ輸入者ノ資格、使用ノ目的等諸種ノ條件ニ依ルモノナレハナリ

免税品ニ準シ論スヘキハ一部免除即チ減稅ノ場合ナリトス

五、減 稅 品

減稅ハ一部免除ニシテ免除ノ一種ナルヘキヲ以テ條約若ハ法律ニ根據ヲ有セサルヘカラス現行法ニテ認メラレタルハ大正十三年法律第二十四號釐澤品等ノ輸入税ニ關スル件第二項ニ掲クル貴石、半貴石又ハ琥珀ノ輸入税ニ關シテ大正十四年三月三十一日勅令第五十六號ニ依ルモノトス此ノ勅令ニ依レハ左ノ割合ノ輸入税ヲ免除ス

貴 石 輸入税ノ九割五分

半貴石 輸入税ノ八割

手續及監督ノ方法ニ關シテハ大正十年五月三十日勅令第二三八號關稅定率法第九條ニ依ル命令ノ件第三條第二項第四條第一號第三號第五號第五條及第六條ノ規定ノ準用ヲ見ル(第二條)

六、戻税品

戻税品トハ或貨物ニ付一旦輸入税ヲ賦課シ關稅義務ノ消滅シタル後ニ於テ法定ノ停止條件ノ成就ニ因リ其ノ輸入税ノ全部又ハ一部ニ相當スル金額ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得ル物品ヲ指稱ス從テ其ノ實質ニ於テハ關稅ノ低減又ハ免除ト同シ然レトモ法律上ノ意義ニ於テハ關稅義務カ履行ニ依リ一旦消滅シタル後ニ於テ法定ノ條件ヲ満足サルルニ因リ其ノ輸入税納付義務者タリシモノニ還付サルルモノナリ現行關稅行政上ニ於テ認メラルル戻税制度ハ關稅定率法第九條ノ定ムル所ニ係リ或種ノ輸入原料ヲ以テ(一)一定ノ物品ノ製造ニ供セラルルコト及(二)一定ノ物品ノ原料ニ使用セラレ且其ノ製品カ外國ニ輸出セラルルコトヲ法定ノ停止條件トシテ其ノ輸入原料品ノ輸入税カ拂戻サルルモノトス

(一) 亞鉛薄板及油又ハ油槽ノ製造ニ供スル輸入原料(註一五九)

關稅定率法第九條第二項ニ定ムル所ニシテ其ノ原料品及之ニ對スル輸入税ノ免除率左ノ如シ(大正十年五月勅令第二三八號第二條大正十五年勅令第五五號改正昭和二年四月勅令第五九號改正)

製造品	輸入原料品	免除率
一、茶 鉛	鉛ノ塊又ハ錠	四十 錢
二、厚〇・一七ミリメートルヲ越エサル亞鉛鍍板	亞鉛ノ塊、錠及粒	三 圓
三、落花生油	落花生	一圓二十五錢 一圓八十錢
	イ、脱殻セサルモノ ロ、其ノ他	每百斤 每百斤

四、油 槽

イ、大豆油槽	大豆	每百斤	七十 錢
ロ、胞麻子油槽	胡麻子	每百斤	十一 錢
ハ、荏胡麻子油槽	荏胡麻子	每百斤	十一 錢
ニ、菜子油槽又ハ芥子油槽	菜子又ハ芥子	每百斤	四十五 錢

右製造品ノ製造ニハ輸入原料品ト同種ノ内國原料品ヲ混淆使用スルコトヲ得サルヲ原則トスルモ稅務官署ノ承認ヲ受ケタルトキハ使用スルコトヲ得製造場ハ豫メ稅務官署ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス輸入原料品ヲ他ノ用途ニ供シタルトキ稅務官署ノ承認ヲ受ケタル製造場ニテ製造セサルトキ及其ノ承認ヲ受ケスシテ内國原料ヲ混淆使用シタルトキ若ハ原料品輸入ノ日ヨリ一年内ニ製造ヲ終ヘサルトキニ於テハ輸入税ノ免除ヲ受ケタル原料品ノ使用申告者ヨリ輸入税ヲ徴收スルモノトス(註一六〇)

當該稅關官吏ハ隨時其ノ製造場又ハ藏置場ニ付キ原料品、製造品、副産物、製造用機械器具又ハ帳簿書類ノ檢査ヲ爲シ若ハ之等ニ封印ヲ施シ其他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

(註一五九) 沿革品上ヨル見ルニ此ノ原料品ノ免除又ハ拂戻ノ制度ハ舊關稅定率法第九條ニテ肥料ノミニ限ラレ其ノ命令ハ明治三十九年勅令第二六六號ニテ定メラレ其ノ製造ノ種類、原料品ノ種類及戻税率モ現行ト異ナリ僅ニ大豆油槽ニ對スル大豆每百斤三十錢棉子油ニ對スル棉子每百斤七十錢ニ限ラレタリ

(註一六〇) 大正十年勅令二三八號關稅定率法第九條ニ依ル命令ノ件第五條第六條

(二) 輸出製造品用ノ輸入原料(關定九條一項)(註一六一) 製造品並ニ輸入原料品及之レニ對スル輸入税ノ免除又ハ拂戻ノ左ノ如シ(註一六二)

第一種

製造品

輸入原料品

拂戻

三一四 率

一、硝子

鏡

無色平面硝子板(厚四ミ
リメートルヲ超エサルモノ
ヲ除ク)
イ、千平方センチメートル
ヲ超エサルモノ
ロ、千平方センチメートル
ヲ超エタルモノ

使用原料ニ付每平方メー
トル
使用原料ニ付每平方メー
トル

七十六圓五十錢
百八十五圓

二、掛時計又ハ置時計

金屬ヲ兼セサル鐵線
鋼リボン
時計用樂器

製造品中ノ構成量ニ付
製造品中ノ構成量ニ付
製造品中ノ構成量ニ付
製造品中ノ構成量ニ付

納付シタル輸入税ノ全部
納付シタル輸入税ノ全部
二十五錢

三、飲食物罐詰葉鐵

製造品中ノ構成量每百斤

七十錢

四、木箱用金具葉鐵

製造品中ノ構成量每百斤

七十錢

五、葉鐵製ノ罐、箱蓋具、鈕
鈕、卷煙草入若ハ石鹼
入若ハ葉鐵ヲ用ヒタル
鏡

製造品中ノ構成量每百斤

七十錢

六、罐入礦油又ハ罐入酒精

五ガロン罐每二箇

二錢五厘

七、平紐、丸紐又ハ總類
金屬入鐵線又ハ鍍金銀シタ
ル金屬紐

製造品中ノ構成量ニ付

納付シタル輸入税ノ全部
百二十五圓

八、人造絹絲製品人造絹

製造品中ノ構成量每百斤

百二十五圓

九、衣

服

毛織物又ハ毛織交織物(天
蠶絨、ブラツシユ其他ノバ
イル織物ヲ除ク)
イ、一平方メートルノ重量
百グラムヲ超エタルモノ
ロ、一平方メートルノ重量
五百グラムヲ超エサルモ
ハ、一平方メートルノ重量
五百グラムヲ超エタルモ

製造品中ノ構成量每百斤
製造品中ノ構成量每百斤
製造品中ノ構成量每百斤
製造品中ノ構成量每百斤

五十二圓五十錢
六十圓四十錢
三十二圓六十錢

七、洋

傘

關稅定率法別表第二百九
八號ノ八ノ丙又ハ九ノ丙ニ
關スル染色又ハ捺印シタル
綿織物
百平方メートルニ付二十キ
ログラムヲ超エサルモノ
シテ五ミリメートル平方
ニ於ケル經緯ノ糸數
イ、二十七ヲ超エ三十五
ヲ超エサルモノ
ロ、三十五ヲ超エ四十三
ヲ超エサルモノ
ハ、四十三ヲ超エタルモノ
金屬ヲ兼セサル鐵線

製造品中ノ構成量每百斤
製造品中ノ構成量每百斤
製造品中ノ構成量每百斤
製造品中ノ構成量每百斤
製造品中ノ構成量ニ付
硝子器每百斤

十八圓三十錢
二十二圓
四十七圓
納付シタル輸入税ノ全部
八錢四厘

十一、硝子
十二、硝子
イ、厚四ミリメートル
ロ、其ノ超エサルモノ
他

硝子器
硝子板
硝子器
硝子板
硝子器
硝子板

硝子器每百斤
硝子板每百平方
メートル

四十五錢
七十五錢

十三、珙瑯鐵器

金屬ヲ兼セサル鐵板(全重
量中百分中珙瑯ノ重量一以
上ノ珙瑯鐵板ヲ除ク)
厚、七ミリメートルヲ超エ
サルモノ
酸北コバルト

使用原料ニ付每百斤
珙瑯鐵器
イ、片面上絹色ノモノ每
百斤
ロ、其ノ他每百斤
珙瑯鐵器每百斤

一圓九十五錢
四十九錢
一十一錢

十四、鑒入麥酒曹

達

大罎(三合以上ノモノ)每
百打
小罎(三合未滿ノモノ)每
百打

七十九錢
五十一錢

十五、オルガンリード

鐵管

製造品中ノ構成量每百斤

二十八圓

第四章 輸移入行政

第四節 關稅ノ賦課

三一五

十七、アルミニウムノ條、
心ノ有無ヲ別タスハ其
ノ製品

製造品中ノ構成量每百斤

三圓二十錢

十八、自動車又ハ自働自轉
車用インナーチユイブ

每一個

納付シタル輸入税ノ全部

十九、花梨木一鐵刀木黃楊
木、紅木、紫檀又ハ黒紫
檀(縹黒檀ヲ除ク)ノ製
品

使用原料ニ付

納付シタル輸入税ノ全部

二〇、過酸化曹達苛性曹達

過酸化曹達每百斤

二圓五十錢

第二種

製造品

輸入原料品

免除

除

率

一、精製糖角砂糖、棒砂糖
其他類似ノモノ(骨炭濾
過又ハ稅務官署ノ承認シ
タル之ニ代ルヘキ方法ニ
依リタルモノ)ニ限ル

イ、糖	和蘭標本色相第十一號	每百斤	二圓五十錢
ロ、糖	和蘭標本色相第十五號	每百斤	三圓十錢
ハ、糖	和蘭標本色相第十八號	每百斤	三圓三十五錢
イ、砂	和蘭標本色相第十一號	每百斤	一圓九十錢
ロ、砂	和蘭標本色相第十五號	每百斤	二圓四十錢
ハ、砂	和蘭標本色相第十八號	每百斤	二圓六十錢
ホ、糖	和蘭標本色相第二十一號	每百斤	三圓六十錢

二、氷砂

ホ、糖	和蘭標本色相第二十一號	每百斤	三圓六十錢
-----	-------------	-----	-------

三、胡麻子油	胡麻子	每百斤	三十九錢
四、荏胡麻子油	荏胡麻子	每百斤	三十九錢
五、菜子油又ハ芥子油	菜子又ハ芥子	每百斤	四十一錢
六、小麥粉(末粉ヲ含ム)	小麥	每百斤	一圓五十錢
七、麥	麥	每百斤	二圓七十錢
八、錯	錯	每百斤	四十一錢
九、硫化染料	石炭酸	每百斤	十五圓七十錢
十、銅ノ塊、錠、條、管	銅ノ塊又ハ錠 (改造用ノミニ適スルモノ)	每百斤	七圓
十一、眞鍮又ハ青銅ノ塊、錠、條、管	眞鍮又ハ青銅ノ塊又ハ錠 (改造用ノミニ適スルモノ)	每百斤	七圓
十二、鉛ノ板又ハ管	鉛ノ塊又ハ錠	每百斤	四圓
十三、錫ノ板又ハ管	錫ノ塊又ハ錠	每百斤	四圓
十四、鉛白、鉛丹又ハリサ	鉛ノ塊又ハ錠	每百斤	四圓
十五、亞鉛白(酸化亞鉛及 硫化亞鉛)	亞鉛ノ塊、錠又ハ粒	每百斤	三圓
十六、白色ペーント	鉛ノ塊又ハ粒	每百斤	三圓

第四章 輸移入行政

第四節 關稅ノ賦課

十七、亞鉛鍍鐵板	金屬鍍鐵板(全重量百分中鍍鐵重量一以上)	每百斤	一圓九十五錢
十八、亞鉛鍍鐵線	亞鉛ノ塊、錠又ハ粒	每百斤	一圓八分
十九、箔	塊(錫ノ塊又ハ錠)	每百斤	三圓七十五錢
二十、織	蠶絲	從價	四割五分

此ノ制度ニ關シテモ舊關稅定率法第九條ニ基キ明治三十九年九月勅令第二六五號ニ依リ前記ノ製造品ヲ第一種第二種ニ區分シタルハ其ノ取締ノ程度ヲ異ニスルニ依リ生シタルモノニシテ(一)第一種ノ製造品ニアリテハ之ニ使用スル原料品ハ内國ニ産セス專ラ外國ヨリノ輸入ニ係ルモノナルヲ以テ其ノ輸入稅ノ拂戻ニ付テハ製造者ノ作成セル製造證明書ヲ輸出申告書ニ添付スルヲ以テ足レリトシ政府ハ其ノ原料品ノ輸入、製造及輸出ノ經路ヲ追隨シテ監視スル所ナシ(二)第二種ノ製造品ニアリテハ其ノ使用原料品カ内國ニ於テモ産出スルモノナルヲ以テ内國産原料品ヲ使用シテ之ヲ輸入原料品ト許稱シ拂戻ヲ騙取スル者ヲ生スル虞アルカ故ニ所謂同一戻稅主義ニ依リ輸入稅ヲ課セラレタル原料品ト輸出製造品ニ使用セラレタル原料品ト同一物タルコトノ確認ヲ必要トスルヲ以テ原料ノ使用ヨリ製品ノ輸出ニ至ル迄ノ經路ニ追隨シ周到ナル取締規定ヲ設ケラレタリ

(註一六一) 從來ハ戻稅制度ノミナリシヲ大正十年ヨリ免稅ヲ爲シ得ルコトトセリ工業ノ大小ニ應ジテ區別ヲ設ケ比較的大工業ニシテ輸入者カ製造者ト同一ナル見込ノ物品ニ對シテハ免稅トシ輸入製造輸出ノ間ニ於テ其ノ物品カ仲買人、小賣人等ヲ轉々スル如キ類ノモノニハ從來ノ如ク戻稅ノ方於ニ依ルコトト爲ス意味ヲ以テ免稅ト戻稅トノ兩法ヲ採用セルナリ

(註一六二) 大正十五年五月勅令二三八號關稅定率法九條ニ依ル命令ノ件一條

即チ第二種製造品ノ製造ニ付テハ(イ)原則トシテ内國産原料ノ混淆使用ヲ禁シ只豫メ稅務官署ノ承認ヲ受ケタル場合ニ於テノミ之レヲ許サレ(ロ)其ノ原料輸入ノ日ヨリ精製糖、角砂糖、棒砂糖其他類似ノモノ及氷砂糖ニ付テハ一年其他ノ製造品ニ付テハ二年内ニ輸出スルニ非ラサレハ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ノ輸入申告者ヨリ輸入稅ヲ追徵セラレ(其ノ製品ハ輸出以外ノ目的ニ供シタルトキモ輸入稅ヲ追徵セラレ)(ハ)原料品使用前ニ其ノ原料品ノ名稱、種類、用途ヲ所轄稅務署ニ申告シテ承認ヲ受ケ又製造ヲ終リタルトキハ其ノ製造品ノ検査及製造ノ承認ヲ受ケ更ニ輸出ノ際ハ所轄稅務署ノ製品検査書(註一六三)ヲ輸出申告書ニ添ヘ稅關ニ提出スルコトヲ要シ(ニ)製造品ノ輸出ニアリテハ輸入手數ヲ爲シタル稅關ノ承認ヲ受ケタル場合ノ外必ス原料品ニ付輸入手數ヲ爲シタル稅關ヲ經由スルヲ要ストセラル等各種ノ制限ヲ受ク

(註一六三) 製品検査書ニハ原料品ノ輸入免狀番號及輸入手續ヲ爲シタル關稅名製造品ノ名稱及數量其ノ製造ニ使用シタル輸入原料品ノ名稱種類及數量但シ大正十年勅令二三八號三條ノ規定ニヨリ輸入原料品ト同種ノ原料品ヲ混淆使用シテ製造シタル製造品及副産物ニ付テハ各原料品ノ割合製造場及検査書ノ作成年月日ヲ記載スルヲ要ス

戻稅品ニ關スル手續等ノ詳細ハ大正十年五月大藏省令第十八號(改正大正十五年四月大藏省令第十八號)關稅定率令第九條施行ニ關スル件大正十五年四月朝鮮總督府令第三六號關稅定率法第九條施行ニ關スル件及大正十年七月臺灣總督府令第一二〇號關稅定率法第九條施行ニ關スル件ニテ定メラレタリ

朝鮮ニアリテハ大體ニ於テ大正十年勅令第二三八號ニ依ルモ其ノ製造品ノ種類ハ僅ニ左記二種ニ限ラレ内地ニ於ケル稅務官署ノ事務ハ府郡島ニテ之レヲ行フ等若干ノ差アリ

製造品	輸入厚料品	免除	率
鹽	入棉子	油葉	鐵
製	品	每百斤	七十錢
革	品	牛革、水牛革、馬革、綿羊革及山羊革	

一、塗りタルモノ	從價	十割
二、染メタルモノ又ハ着色シタルモノ(ローラ・レザールヲ除ク)	每百斤	百四十五圓
三、其 他		
甲、牛革、水牛革及馬革		
イ、靴 底 革		
イノ一、バック、ベント、ストリツプ	每百斤	二十七圓十錢
其他之ニ類似スルモノ及靴底形ニ裁チタルモノ		
イノ二、其ノ他	每百斤	十五圓二十錢
ロ、其ノ他	從價	二割
乙、綿羊革及山羊革(ローラ・レザールヲ除ク)	每百斤	二十四圓

拂戻金ノ料ハ原料品ニ對シ從量式ニ幾干ト定メラレタルヲ以テ其ノ輸入稅率カ從量ヲ以テ定メタル場合ニハ原料品ノ數量ハ其ノ製造品中ニ存在スル數量又ハ其ノ製造ニ使用シタル數量若ハ其ノ製造品ヲ構成スル現數量ニ依リ亦從價稅ノ原料品ナルトキハ原料品ノ價格ハ其ノ製造品ヲ構成スル現數量ノ輸入ノ際ニ於ケル課稅價格ニ依ルモノトス斯ノ如ク拂戻金ノ率カ從價ヲ以テ定メラレタル製造品ニ付テハ其ノ製造品ヲ構成スル原料品ノ現數量ノ輸入當時ノ課稅價格ヲ知ルノ必要アルヲ以テ其ノ製造品ヲ輸出セムトスルトキハ第一種タルト第二種タルトヲ問ハス其ノ製造品ヲ構成スル輸入原料品ノ輸入免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書及輸入稅ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ輸出申告書ニ添付スルコトヲ要スルモノナリ

第三款 課稅標準

一、本款ハ上來述タル課稅物體ニ對シ如何ナル課稅標準ニ據リ課稅スヘキカヲ論究セムトスルニ在リ此ノ意義ニ於ケル課稅標準ハ二種アリ一ハ從價稅主義 (Principle of Ad Valorem Duties; Wertzell Prinzip; Principé de la douane à valeur)ト稱シ貨物ノ價格ヲ標準トシテ課稅スルモノニシテ他ハ從量稅主義 (Principle of Specific Duties; Masszell-Prinzip od. Spezifischesol-Prinzip; Principe des impôts spécifiques)ト稱シ貨物ノ重量容積若ハ個數ヲ標準トシテ課稅スルモノニシテ何レモ一得一失ヲ免レス次ニ其ノ長短ヲ比較論詳シ我國現行法規ニ説キ及ホサントス尙重量ニ依ルモノヲ Duties by weight; douane au poids Gewichtzolle; 個數ニ依ルモノヲ duties by piece; Stückzille; douane à la pièce ト云フ

二、從價稅ノ長所及短所

- (A) 從價稅ノ長所トスル所ハ左ノ如シ
 - (a)、負擔ノ公平ナルコト 輸入貨物ノ價格ニ依リ課稅スルモノナルヲ以テ貨物ノ負擔力ニ相應スルコトヲ得ルコト
 - (b)、關稅收入ノ動搖少ナキコト
 - 價格ノ高低ニ因リ輸出入ハ反比例スル傾向アルヲ以テ他ノ條件同シトセハ稅額ハ略ホ一定スヘク從テ國庫ニ確定收入ヲ齎スヘシ
 - (B)、從價稅ノ短所トスル所ハ左ノ如シ
 - (a)、正當價格ヲ定メ難キコト
- 萬般ノ貨物ニ付キ其ノ正當ノ價格ヲ知り難キノミナラス之レヲ阻止スル不正仕入書ノ慣行等アリテ一層課稅價格

ノ決定ニ困難ヲ感スヘシ

(b)、通關手續等ニ煩雜ヲ來タスコト

正當ナル課稅價格ノ決定ノ爲メニ勢ヒ複雑ナル行政上ノ手段ニ出アルノ要アルヘク從テ通關手續等ノ上ニ於テモ煩累アルモ免レス

三、從量稅ノ長所及短所

(A) 從量稅ノ長所ハ左ノ如シ

(a)、課稅方法明確ナルコト

重量、尺度、容積等ヲ標準トスルヲ以テ課稅物體ノ總量サヘ算出セハ頗ル簡明ニ決定シ得ルノ利益アリ殊ニ近來貨物ノ包裝等モ一定セルモノ多クレハ自然之レカ算定ハ容易ナルモノアリ

(b)、取引上ノ採算ニ便利ナルコト

通關取引上ニ於テ當業者カ關稅ヲ豫メ採算スルニ極メテ便利ニシテ彼ノ從價稅主義ニ於ケルカ如ク検査官吏ノ認定ヲ以テ始メテ課稅價格ノ決定ヲ見ル如キ採算上ノ不便ナシ

(c)、通關手續モ迅速ニ行ハル、コト

現實ノ數量ニ依ルヲ以テ之レカ査定ハ極メテ簡單ニシテ爭議又ハ不公平ヲ來タスコト少ナク從テ之レカ通關手續ニ於テモ極メテ機敏ニ行フコトヲ得ヘシ

(B) 從量稅ノ短所トスル所左ノ如シ

(a)、負擔ノ公平ヲ缺クコト

高價品、精製品ノ如キモノハ原料品日用品ニ比シ其ノ重量輕キ爲メ比較的低率トナリ貨物ニ對スル負擔不公平ナルヲ免レス

(b)、收入ニ彈性性ヲ缺クコト

貨物ノ價格ノ騰落ニ關セサルヲ以テ物價騰貴ノ時ニ於テモ國庫ノ收入増加ヲ圖リ得サル缺點アリ

(c)、特掲アル物品ト特掲ナキ物品トノ間ニ負擔ノ公平ヲ缺クコト

特掲ナキ貨物ニ付テハ特掲物品ノ基礎稅率ト同率ノ從價稅ニ依ルノ外ナク然ルトキハ稅表制定當時ト輸入當時トノ日時ノ經過多クレハ多キ丈ケ其ノ差額大ナルモノアルヘク自ラ負擔ノ公平ヲ缺クノ嫌アルヘシ

四、之レヲ要スルニ兩主義ノ利害ハ相反シ何レモ一得一失アルヲ免レス然レトモ此ノ兩者ノ短所ヲ補正スルノ途ナキニシモアラス即チ從價稅主義ノ短所トスル所ノ正當價格ヲ得ントスルニハ

(一) 虛偽ノ價格ヲ申告スルモノニハ處罰ヲ加フルコト

(二) 仕入書ニ記載セル價格ノ正當ナリヤ否ヤニ關シテハ自國ノ在外領事等ノ證明ヲナサシメ且在外商務官又ハ財務官ヲシテ其ノ貨物ノ輸出國ニ於ケル物價ノ報告ヲ徵シ是等ヲ參考トスルコト

(三) 舊關稅定率法第六條但書ニ於ケルカ如ク貨物ノ原價及諸費ニ疑アルトキハ其ノ貨物ノ輸入港ニ於ケル價格ヨリ輸入稅ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トスルコト

(四) 課稅價格ニツキ爭ヒアルトキハ政府ニ買上權 (Right of preamble bargain Preemption; Vorkaufsrecht; Droit d'achat préalable)ヲ留保スルカ若ハ適當ナル第三者ニ詳價セシムルコト

右ノ諸法ノ併用ニ依リ比較的正當ナル價格ヲ知り得ルトスルモ行政手續ノ煩雜ハ免レサルヘク而カモ取引ノ敏活ヲ妨クルノ缺點ヲ除ク方法ナシ

亦從量稅主義ノ短所トスル負擔ノ不公平ヲ避クル方法トシテハ

(一) 可成物品ノ類別ヲ細別シ同價若ハ極メテ近似ノ價格ヲ有スルモノノミヲ同一項目ニ依ラシムルコト
即チ價格相當ノ從量稅率トナスヲ理想トスルヲ以テ從量稅率ニ換算スルニ當リ同價物品若ハ近似價格ノ物品ノミヲ

同一項目ニ分類スルヲ可トス物品ノ類別ヲ細目スルコト即チ等級關稅 (Gradual duties; Staffinzoile od. Gradation-szölle; donane graduelle) ト爲スコトヲ必要トス

(二) 收入ノ彈力性ヲ缺クテ避クル方法トシテハ物價ノ變動ニ依リ必要ニ應シ時々其ノ從價率ノ基礎ヨリ換算シテ之レヲ更正スルヲ可トス

五、斯クシテ從價稅及從量稅共ニ其ノ短所ヲ補正シ得ル方法アレトモ前者ハ正當課稅ノ決定ニ行政上煩雜ナルヲ免レス而カモ其手數ノ結果豫期ノ目的ヲ達シ得ルヤ否ヤ疑問ト云ハサルヘカラス後者ハ其ノ稅率ノ決定ニハ行政上相當ノ手數ヲ要スルモ之レカ適用上ハ頗ル簡單ニシテ負擔ノ公平ヲ期シ得ルノ利益アリ故ニ主義トシテハ後者 前者ニ優ルモノト云フコトチ得ヘシ論者或ハ言ハン品目ヲ餘リニ細別スルニ於テハ當業者ニ採リテ其ノ適用項目ノ何レニ依ルヘキヤニ關シ疑義ヲ多カラシメ仲ヒテ採算ニ困難ヲ與フルノ虞アルヘシト然レトモ當業者ト雖モ各人カ萬般ノ貨物ヲ輸入スルニアラスシテ或ル限ラレタル物品ノミヲ取扱フモノナルヘケレハ之レカ知悉ハ容易ナルヘク況ンヤ多クノ場合稅關手續ニ習熟セル貨物取扱人ノ手ニ依リテ取扱ハルルニ於テヤ茲ニ從量稅ヲ採用スルトシテ一ノ困難ハ前言ノ如ク物價ノ變動ニ依リ時々其ノ稅率ノ變更ヲ行ハサレハ負擔ノ公平ヲ期シ得サルニアリ此ノ故ニ價格ノ變動激シキモノ又ハ品柄又ハ品質ニ著シク差等アルモノニ付テハ例外トシテ從價稅トシ且他面ニ於テ從量稅換算ノ方法及時期等ヲ定ムルヲ得策トスヘシ

六、我國ノ制度ヲ觀ルニ改稅約書ニ於テハ從價稅率ニ依リ明治三十二年ノ第一次ノ定率法ニ於テハ從價ニ依ルモノ二百九十一種從量ニ依ルモノ三百八種ニシテ兩者ノ間ハ大差ナク次テ明治三十九年ノ第二次定率法ニ於テハ從價ニ依ルモノ二百八十七種從量ニ依ルモノ四百八十三種トナリ後者ノ數著シク増加セリ現行關稅定率法ニ於テハ從價ニ依ルモノ四百五十七種從量ニ依ルモノ千二十九種トナリ原則トシテ從量稅主義ヲ採用セルノ跡歴然タリ而シテ其ノ從價稅トセラレタルモノハ大體左記ノ事由ニ依ルモノナリ

(一) 稅表ニ特掲シ難キモノ

稅表ヲ物品ノ種類ニ依リ十七類ニ類別シ其ノ類別ニ困難ナルモノヲ其ノ末項ニ於テ「別號ニ掲ケサルモノ」トシテ從價稅率ニテ定メラレタリ而シテ最終ノ第六百四十七號ニ於テハ全物品ニ涉リ「別號ニ掲ケサル物品」トシテ從價稅率ニテ定メラレタリ

(二) 價格ニ著シキ差異アルモノ

第八八號釐甲製品第九十號珊瑚製品第九十一號眞珠第四一二號貴石第四一三號半貴石第四一五號琥珀製品第四二四號石膏製品第五二號幻燈器活動寫眞器及同部分品第五三號寫眞器第五五號蓄音器第五六三號自動車及其他一般の貴金屬ヲ鍍シタル金屬、貴石、半貴石、眞珠、珊瑚、象牙又ハ釐甲ヲ用ヒタル製品等ハ何レモ從價稅率ニテ定メラレタリ

(三) 輸入ノ寡額ナルモノ

第八號家禽類第十類蜜蜂第二一九號蠟取紙第二二三號線香第二三五號燐寸其他第二六三號第三〇八號第三二二號第三八五號第三九三號第五一七號第五二八號第五二九號第六一〇號第六一五號第六一六號等之レナリ

七、各國ノ立法例ヲ見ルニ原則トシテ從價稅主義ヲ採用セルハ英領印度埃及及大正九年迄ノ朝鮮關稅定率令ニ過キスシテ概ネ從量稅主義ヲ原則トセリ例ヘハ英、獨、佛、伊、澳、西、葡、露、支那等皆然リ米國ニ於テハ複合關稅制度 (Compound System) ト稱シ一定ノ貨物ニ對シ同時ニ從量從價ノ兩稅ヲ以テ課スル制度ヲ採ル之レ兩主等所ノ長所短ヲ補正センカ爲メナランモ課稅方法頗ル煩雜ナルノミナラス貿易上採算ニ困難ヲ與フルノ缺點アリ

八、茲ニ一言ヲ要スルハ從價稅ノ一態機トシテノ滑準關稅 (Sliding scale tariff Duties in the sliding Scale; Gleitende Zölle; Schelle glisante des charges) ナリトス

此ノ制度ハ物品ノ價格ノ變動ニ應シテ稅率ヲ上下スルモノニシテ輸入稅ニ對シテ行フモノト輸出稅ニ對シテ之レヲ

設クルモノトアリ前者ハ内國ニ於ケル價格ノ高キトキニ於テ稅率ヲ低下シ價格ノ下落シタルトキニ於テ稅率ヲ高メ之レニ依リテ一定ノ限度ニ存セシメ國內生産者及消費者ヲ保護セントスルモノナリ後者ハ外國市場ニ於ケル價格ノ高キトキニ稅率ヲ高メ價格ノ低キトキニ稅率ヲ低メ或ハ免除セムトスルモノニシテ收入關稅主義ヲ和ケテ輸出貿易ヲ認メムトスルモノナリ前者ノ立方例トシテハ英ノ穀物條例 (Corn Law 1821-1740) 及我國現行關稅定率法第六條朝鮮ニ於ケル大正九年法律第五三號第四條等アリ (註一六四) 後者ノ例ハ一九〇〇年馬來半島ノ諸保護國ニ於テ之レヲ見タリ

(註一六四) 關稅定率法第六條及大正九年法律第五三號第四條ノ場合ハ何レモ凶作等ノ場合ニ低減又ハ免除セルノミニシテ豐作

等ニ因ル増率ノ場合ノ定メナキヲ以テ稍其ノ趣ヲ異ニスルモ其ノ立法ノ精神ニ於テハ異ナラス只凶作等ニ因ル米價暴騰ヲ防止

セムガ爲メノ方法ニシテ社會政策ノ見地ヨリ採用セラレタルモノナルヘシ此等ノ規定ニヨル低減ハ數々行ハレタリ (註一六五)

(註一六五) Gratzel, Grundriss der Wirtschaftspolitik Bd. IV, 1921, S. 107, 108, U. S. S. C. Dictionary of tariff inform-

ation, 1924, pp. 674-676.

九、課稅價格

從價稅率適用ニ關スル課稅價格ノ決定ニ關シ以下論述スヘシ

我現行法關稅定率法ニ於テハ輸入品中ノ從價稅品ノ課稅價格ハ其ノ第二條ニ於テ「輸入ノ際ニ於ケル到着價格ニ依リテ課稅ス」ト定メラレタリ (註一六六) 此ノ到着價格ハ必スシモ取引上ニ使用セラル、價格ト一致セス而シテ一般取引上ニ用ヒラル、價格ニハ次ノ如キモノアリ

(一) *Local* (現場渡價格) 取引ニ依ル貨物引渡ノ時ノ價格ニシテ之レヲ輸出スル場合ニハ荷造費等ハ買主ノ負擔トナルモノトス

(二) *F. O. B.* (*Free on board*) ノ略輸出港船渡沖渡 (又ハ本船渡價格) 原價ニ荷造費鐵道又ハ汽車運賃船積込ニ要シタル貯賃汽車積上屋敷料等ヲ含メル價格トス

(三) *C & F.* (*Cost and freight* ノ略運賃込價格)

(四) ノモノニ船荷證券費及海上運賃ヲ加ヘタルモノナリ

(五) *C. I. F.* or *C. F. & I.* (*Cost, freight insurance*) ノ略ニシテ運賃保險料込價格 (三) ノモノニ更ニ海上保險料ヲ加ヘタルモノ

(六) *Franco* (*Free; Portofrei; Rendu*) ノ略 (四) ノモノニ更ニ輸入稅運搬費等ヲ込メタル輸入港ニ於ケル引渡價格ナリ但シ之レニ引渡地名ヲ附シテ *Franco Moji* 等ト記スルトキハ *C. I. F.* ト同意義ニ解セラルルカ如シ

(七) 其ノ他 *landed terms* (輸入港ニ於テ陸揚スル迄ノ費用ヲ含ムモノ) *at station* (輸出港ニ於ケル停車場渡ノ價格) *in bond* (同貨車積費込價格) *in bond* (輸入港ニ於ケル保稅倉庫渡ニシテ輸入後消費稅未納ノ價格) *Duty paid* (輸入稅消費稅既納ノモノ) 等アリ

(註一六六) 關稅定率法第二條ハ大正十年四月法律第七八號ニヨリ改正セラレタルモノニシテ以前ハ「輸入港ニ到着シタルトキ

ノ價格云々」トアリタルモノトス此ノ改正ノ理由トシテ當時ノ當局者タル大藏省關稅課長ノ説明ハ左ノ如シ (大正十年稅關長

會議議事要録第七頁)

「第二條ノ改正ハ現行法ニ輸入港ニ到着シタルトキノ價格トアルヲ輸入ノ際ニ於ケル到着價格トシタルモノニシテ價格ノ標準ヲ到着價格ニ置クコトハ從前ノ通りナルカ唯其ノ貨物カ實際輸入手數ヲ爲ストキノ價格ヲ採ルコトト爲スモノニシテ其ノ結果同時ニ輸入ノ申告ヲセラルル同種ノ物品ニ對シテハ常ニ同一價格ニテ課稅セラルルコトトナルヘシ又貨物到着後遲滞ナク引取ラルル貨物ニ付テハ實際上從前ト何等ノ變化ナク引取迄ニ長キ日子ヲ要スル場合ニ始メテ改正ノ效果ヲ生スルモノナリ例ヘハ保稅倉庫庫入中ノ貨物ノ如キ物價ノ變動ニ依リ庫入ノ時ト輸入ノ時ト其ノ價格ニ差異ヲ生シタルトキハ輸入ノ際ノ價格ニ依ルコトトナルナリ然ルニ之レニ關シ保稅倉庫法第三條トノ關係如何ヲ問題トシ同條ニハ庫入ノ時ノ性質及數量ニ依リ徵收ストアルカ故ニ同條ハ定率法第三條ノ例外規定トシテ從

價税ノ標準モ庫入當時ノ價格ニ依ルモノナラムト解シ種々當業者ヨリ質問シ來レコトアリ然シ乍ラ解釋論トシテハ從來トモ同條ハ何等從價税ノ標準價格ヲ規定セルモノニ非ルカ故ニ從價税品ノ庫入セラルル場合ニハ其ノ庫入ノ時ノ價格ニ依ラス其ノ輸入港ニ到着シタル時ノ價格ニ依リタルモノニシテ即定率法第二條ノ例外規定トハ見サリシナリサレハ今回ノ改正ニ依リ定率法第二條改正セラレタル結果ハ當然保稅倉庫品ニモ及フヘキコト論ヲ俟タス而シテ到着價格トハ現行法ト同様ニ原則トシテ正當ニ作成セラレタル *C. I. I. Invoice* 價格ヲ云フナリ

以上ノ如ク商業取引上ニ使用セラルル價格ナルモノハ種類多クトモ是等ノ凡テテ關稅行政上ニ適用スルハ煩雜ナルヲ以テ或ル一定ノモノヲ採リテ課稅價格決定ノ標準トセサル可ラス我國ニ於テハ從來ヨリ此ノ *C. I. I.* 以テ大體ノ標準トセルコト既述ノ如シ諸外國ニ於テモ亦概ネ然リ(註一六七)而シテ市場價格ニハ卸賣相場ト小賣相場トアルモ後者ハ特定市場ニ於テモ調査困難ナルノミナラス一定セサルコト多ク參考ニ供シ難キヲ以テ普通ニ前者ヲ採ル市價ノ變動甚シキ場合ハ平常ノ市價ニ依ルモノトス我國ニ於テハ舊法ニテ仕入地若クハ生産地ニ於ケル原價ニ荷造費、運賃、保險料、其他輸入港ニ到着スル迄ノ諸費ヲ加ヘテ算出スル定メナリシカ其後第二次明治三十九年定率法ニ於テ原價及諸費ニ疑アル時ハ物品ノ輸入港ニ於ケル價格ヨリ輸入税ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トスト定メラレタリ(同定率法第六條但書)然レトモ右ハ原價ニ荷造費、運賃、保險料其他輸入港ニ到着スル迄ノ諸費ヲ加ヘタルモノトハ同一ナルヲ期シ難ク不公平タルヲ免レス何ントナレハ輸入港ニ於ケル價格ニハ輸入税ノ外輸入港到着後ニ要スル陸揚費、引取費、通關料、利潤等ヲ含ムモノナレハナリ

第三條(現行)定率法ニテハ輸入港ニ到着シタルトキノ價格ニ依リ課稅スルコトニ定メラレ(同第二條)更ニ大正十年ニ於テ輸入ノ際ニ於ケル到着價格ト改メラレタリ即チ右現行法ニ依ルトキハ到着價格ト稱スルヲ以テ原價ニ運賃諸掛費ヲ加算シタルモノ即チ *C. I. I. Invoice* ニ依ルヘキモノナラムモ實際ニ於テハ之レノミニ依ルコト能ハス逆ニ輸入港ニ於ケル同種又ハ類似物品ノ市價ヨリ輸入後ノ諸費ヲ控除シタルモノニ依リ決定セサル可ラサルコトアリ得ヘシ

(註一六八)而シテ輸入ノ際ニ於ケルトアルヲ以テ輸入港ニ到着シタル時ヲ標準トスルニ在ラスシテ現實ニ輸入申告ヲ爲ス時ニ於ケル到着價格ナラサル可ラス然ルカ故ニ同時ニ輸入港ニ到着シタル物品ニシテ其ノ輸入手數ノ遲速ニ依リ多少ノ差異アルヘキノ理ナリ亦陸路運送ニ依ル貨物モ現實ノ輸入申告ヲ爲ス際ニ於ケル到着價格ニ依ルヘキモノナリ(註一六九)

(註一六七) 北米合衆國及南米諸國ニ於テハ輸出港ニ於ケル價格ヲ以テス而シテ其ノ價格ノ真正ヲ得ル方法トシテ百弗以上ノ輸入貨物ニハ *consular invoice* (米國領事ノ證明アル仕入書)ヲ添付セシメ且諸外國ニ *treasury committee* ヲ派遣シテ諸物價ヲ調査報告セシメ居レリ尙比律賓群島ヨリスルモノハ同島ノ開港ニ於ケル稅關長又ハ副稅關長ノ證明アル原產地證明書及同條ノ仕入書添付スルコトニナリ居レリ (*Customs regulations of the United States, 1923, Art. 205 235, 236, & 247*)

(註一六八) 到着價格決定ニ當リ仕入書ニ依ル場合ト市價ヨリ推定スル場合ト著シク差異アルトキハ後者ニ依ル行政慣例ナリ

(註一六九) 大正十年ニ改正ノ以前ニ於テハ輸入港云々トアリタル爲メ陸路運送ニ依リ港ノ存セサル地ニテ輸入手續ヲ爲サムトスル場合ニツキ疑義アリタレトモ改正ノ結果此ノ事ナシ

仕入書ノ價格ニシテ輸入手數地ノ市價ヨリ高キ場合其ノ仕入書價格ニ依リ輸入申告ヲ爲シタルトキニ於テ稅關ハ如何ニ之レヲ取扱フカハ一ノ問題ナルヘシ關稅定率法第二條ニハ單ニ「貨物ノ輸入ノ際ニ於ケル到着價格」トアルヲ以テ如何ニ高キ申告價格ヲ以テスルモ敢テ不可ナキ如キモ元來法規ノ精神ハ可成同一時ニ輸入スル同種物品ノ課稅上ノ負擔ヲ公平ナラシムルニ在ルヘキヲ以テ之レヲ以テ課稅ノ基礎トスルハ失當ナラサルヘシ要ハ程度問題ニシテ少シ位高キ場合ニハ仕入書價格ニ依ルモ可ナルヘク餘リニ高キ場合ハ同種物出品ノ市價ヨリ推定シタル價格ニ引下クルヲ妥當トスヘシ(註一七〇)

(註一七〇) 此ノ點ニ關スル朝鮮關稅ノ取扱例ハ絕對ニ仕入書價格ニ依ル

課稅價格ノ定メ方ハ一國産業 重大ナル影響ヲ與フルコトヲ忘ルヘカラス即チ北米等ノ如ク輸出港ニ於ケル價格ニ

依ルトキハ自國ノ産業ノ消長ヨリスル物價ノ騰落ニ何等ノ影響ナキヲ以テ自國産業保護ノ實ヲ擧ゲ得サルノ缺點アルヘシ之レニ反シ到着價格主義ニ依ルトキハ能ク内國市場ノ消長ニヨリ稅額ヲ上下シ得テ内國産業ヲ保護スルコトヲ得ヘク且亦國庫收入ノ平潤ヲ保持スル上ニ於テモ利アルヘシ然レトモ輸入當業者ヨリスレハ課稅價格ヲ豫定シ得サルノ不便アリ一利一害ノ伴フモノナレハ何レカ是ヲリト斷スルコトヲ得ス要ハ國內産業等ノ狀態ニ依リ決セラルヘキモノナルヘシ(註一七一)

十、數量算定方法

從量稅ニ於ケル數量ノ算定方法ニ付テ以下研究スヘシ輸入物品ニ關シテハ其ノ内容品ノ純量(Net weight or measure: Nettogewicht; Poids net)ニ依リ課稅スルヲ理論上正當トスレトモ之レカ検査、秤量、看貫等ニ手數ヲ要スルノミナラス之レカ爲メニ内容品ヲ損傷、漏洩スル場合ナキニシモアラス稅關並ニ當業者ニ採リ不便不利アルヲ免レス從テ定率制定ニ當リテハ其ノ物品ノ性質及包裝等ニ鑑ミ容易ニ純量ヲ算定シ得ルモノハ之レニ依リ否ラサルモノハ包裝込ノ數量即チ總量(Gross weight or measure; Bruttogewicht; Poids gros au mesure)ヲ以テ制定スルヲ可トスヘシ

此ノ純量主義ヲ原則トスルハ獨リ我國ノ採用スル所ノミナラス亦獨、佛、埃、匈等ニ於テモ然リ其ノ總量主義ニ依ルモノハ瑞西等一二箇國アルノミ

茲ニ一言ヲ要スルニ或種ノ貨物ニ付テハ總量ヲ以テ純量ヲ算定シ得ルモノアリ即チ一定ノ包裝ノ貨物ハ其ノ總量ヲ測定シ之レヨリ其ノ包裝ノ重量若ハ容積ヲ控除シテ純量ヲ見出し得ヘケレハナリ而シテ此ノ包裝ノ重量若ハ容積ヲ既往ノ事蹟ニ依リテ一定シ置キ將來ニ備ヘ使用スルモノ即チ我國ニテ事實上慣行セルモノナリ一定ノ貨物ニ對シ其ノ包裝ノ割合ヲ決定シ之レヨリ推測スル純量ヲ法定純量(Legal net weight; Gesetzliches Nettogewicht; Poids net légal)ト稱ス是レ佛、獨等ニテ採用スル所ナルモ素ヨリ一切ノ貨物ニ之レヲ適用スルニアラス

(註一七一) 從價稅品ノ課稅價格ノ取扱ニ關スル各國ノ立法例

英國ニ於ケル從價稅ノ課稅價格ハ同國ノ關稅及内國稅委員ノ決定スル所ニシテ輸入者カ輸入スル時ニ支拂フヘキ運賃、保險料及輸入港ニ於テ保稅中ニ要スル諸費ヲ加算シタルモノヲ以テス(Finance No. 2 Act, 1915.)

佛國ハ從價稅品ノ課稅ヲ申告スルヲ要シ其ノ價格ハ到着價格(cif)ニ依リ例外トシテ鑑定官吏ノ鑑定ハル所ニヨル場合アリ(Couronian No. 4012; of July 16, 1913, sec. I, S. No. 25, p. 7)

葡國ハ輸入品ノ仕入國ニ於ケル最近ノ平均卸賣價格ニ運賃、保險、陸揚費、其他當該物品ノ通關ノ時迄ニ要スル一切ノ費用ヲ加算シタルモノヲ以テス(Arts 314, Portuguese tariff Act of April 20, 1923.)

白耳義國ハ輸入申告書ニ於テ輸入貨物カ現實ニ稅關ニ提供スル時其ノ場所ニ於テ有スル價格ヲ申告スルヲ要ス(但シ輸入稅ヲ合リス) (Triff law of June 10, 1920)

丁抹ハ輸入者ニ於テ仕入原價ニ運賃、保險料、其他ノ諸費ヲ加算シタル價格ヲ以テ課稅價格トス而シテ是等ハ當該船荷證券等ニテ證明スルヲ要ス若シ是等ノ書類ヲ有セス稅關監視官吏ニ於テ不當ト認ムルトキハ其ノ港ニ於ケル其ノ時ノ市價ヨリ關稅額ヲ控除シタルモノヲ稅關吏ニヨリ鑑定スルカ又ハ稅關ノ選任ニ係ル其ノ港ニ於ケル有志ノ判定シタル價格ニ依ルヘキモノトス(Law of Jan. 1, 1903)

澳洲、輸出時ニ於ケル輸出國ノ時價(荷造料海陸通賃等ヲ加フ)ニ依ルカ又ハ Australia 輸入業者ヘノ實際賣直ニ海上運賃等トシテ十%ヲ加ヘタルモノヲトルカ何レカノ高キヲ採ル

ニュージランドハ、輸出時ニ於ケル輸出國ノ主要市場ニ於テ普通商業狀態ノ公正ナル市價(Fair Market Value)ニ貨物ノ外裝費十%ト見テ加ヘタルモノヲ採ル(Custom regulations, June 29, 1914.)

英領印度ハ輸入時及輸入場所ニ於ケル同種同量ノ貨物ノ現金卸賣價格ヨリ輸入稅額ヲ控除シタル價額ヲ以テ課稅價格トス(商業割引等ノ減價ハ認メス)此ノ價格判然セサル場合ニハ其ノ地ニ於ケル同種同量ノ貨物ノ賣價ヨリ總輸入稅額ヲ差引タル價格ヲ採ル(Sec. 29 & 30 of the Sra Customs Act 1878)

加奈陀ハ直接加奈陀へ輸出サレタル時ノ其ノ國ノ主要市場ニ於ケル公正ナル市價 (Fair Market Value) ニ依ル市價ハ普通商業取引期間又ハ普通商業取引ニ於ケル貨物ノ公正ナル市價ナルヲ要ス而シテ課税ト現金取引額ハ二十五%ヲ起ユルヲ許サス且輸出業者カ輸入業者ニ對シ事實仕切書上ニ於テ減額シタルモノニアラサレハ之ヲ認メス (Ch. 48 of the Revised Statutes of Canada of 1906 & amending Act of 1907)

ニューファンドランドハ貨物カ直接此ノ殖民地へ輸出サレタル時ノ輸出國ノ主要市場ニ於ケル公正ナル市價ニ依ル課税價格ハ陸揚港ニ於ケル價格ニ保險料、運賃ヲ加ヘタルモノニ依ル市價ハ通常信用ノ普通商業引受期限ノ市場ナルヲ要シ現金價格ヲ採用セス但シ輸入貨物ニシテ一般慣例ニ依ル現金取引商品及斯カル商品ニ關シテ總テノ取引ニ於テ信用支拂 (Bo bona fide paid for) ナルカ如キ場合ヲ除ク現金價格ヲ表記スル總テノ Invoice ハ上記ノ特種ノ場合ヲ除キ税關長又ハ鑑定官吏ニ依リ公正ナル市價ニ訂正サルヘキモノトス (Customs Act of 1898)

南阿聯邦ハ貨物カ輸入サレタル當時ノ輸出國ノ主要市場ニ於ケル同種貨物ノ公ノ市場ノ時價ニ船積港マテノ運賃及荷造料ヲ加ヘタルモノヲ課税價格トス但シ間屋手数料カ其ノ時價ノ五%ヲ超エサル場合ハ加算セス而シテ此ノ課税價格ハ貨物ノ船積港ニ於ケル價格ヨリ低額ナラサルノトヲ要ス (Act No. 28 of 1924)

亞爾然丁ハ鑑定價格表ニ列舉セサル從價稅貨物ノ申告價格ハ仕切書ニ記載セラレタル輸出港ニ於ケル買値ト運賃保險料手数料及其ノ他通關手續マテニ荷揚地ノ税關倉庫内ノ藏置中ニ生シタル通常費用ヲ合シタルモノヲ採ル (Art 22. Customs Law of December 20, 1905)

伯刺西爾ハ輸出地ニ於ケル市價ニ其ノ買入後ノ總費用 (例ヘハ輸出税、運賃、保險料、手数料ノ如シ) ヲ加ヘタルモノヲ以テス但シ上記ノ申告ニ缺點アルカ又ハ其ノ總額ニ偽リアリト認メタル場合ハ輸入地市場ノ卸賣値ヨリ其輸入税金相當額ヲ控除シ之二十%ヲ附加シタルモノヲ以テ課税價格トス (Decree of March 19, 1910 Art 14)

智利ハ税關ニテ調査決定シタル最近卸賣ノ價格ニ從ヒテ鑑定官吏之ヲ評價スルモノトス若此ノ比較ノ根底ニ誤謬アル場合ハ評價ハ輸入税ヲ差引タル同種貨物ノ時價ヲトル而シテ此ノ確證ヲ得ル能ハサルトキハ鑑定官吏ハ其ノ商品ノ品質ニ從ヒ任意評

價シ得ルモノトス (Art. 69 of the customs ordinance)

瑞典ハ課税價格ハ原價ニ運賃、保險及荷造料ヲ加算シタルモノトス損傷セサル輸入貨物ニシテ其ノ關稅力其ノ貨物ノ價格ニ對スル率ノ定マンル場合其ノ價額ハ購入地ノ購入時ニ於ケル貨物ノ市價ニ依ル貨物ノ船積地ト購入發送地ト異ナル場合ハ船ニ依ルトスレハ仕向港或ハ陸揚港、貨物ヲ陸揚後更ニ仕向地へ送ルカ如キ貨物ノ陸揚港ノ意) マテノ全荷造料、保險料其ノ他諸費用ヲ價格ニ加ヘタルモノヲ課税價格トス又貨物カ船ニ依ラサル場合ハ貨物ノ到着セサル最初ノ税關マテノ諸費用ヲ市價ニ加算シテ課税價格ヲ定ムモノトス (Custom tariff Law Dec. 1, 1911)

モロッコ Algeria ノ協約ニ依レハ從價稅ハ關稅及上屋諸費用ヲ含マサル輸入貨物ノ其ノ國ニ於ケル現金卸賣價值ニ課セラレ而シテモロッコノ official valuation system ヲ採用セルヲ以テ從價稅ニ依ル重要商品ノ價格ハ毎年關稅評價委員 (Customs Valuation committee) Tangier 會シ上記現金卸賣價值ノ明細書ニ從ヒテ確定ス委員ハ次ノ如シ

- 一、三名ハ Morocco 政府ニヨリ指定ス
- 二、三名ハ Tangier ノ外交團ニヨリ指定ス
- 三、國立銀行代表者
- 四、一九〇四年ノ五歩利國債ノ代表委員代理

關稅評價委員會ニ於テ價格ヲ一定セムトスル時或ハ其ノ他必要アル場合ハ Morocco 居住民中ヨリ推薦シタル十二乃至二十人ノ名譽委員ニ協議スルヲ要ス之等名譽委員ニハ著名ノ士、各國公使館員及モロッコ同教代理等ヨリ成ル知名士表ノ人物中ヨリ撰定セラレ名譽委員ハ可成各國ノ通商上ノ勢力ニ應ジテ任命セラレ其ノ任期ハ三年間トス斯クシテ協議ニヨリ確定サレタル價格表ハ各税關ニ於ケル關稅事務執行上ノ評價ノ根底トシ兼テ稅關及 Tangier ニ於ケル公使館領事館ニ配付ス商品ノ價格ニ著シキ變化ヲ來タシタル時ハ六ヶ月目ニ之ヲ訂正ス委員ハ只事實上各種商品ノ最高最低價格ヲ決定スルノニ (Comite de la Re-velève, Les Energies Francaises an Morocco, Paris 1917, p. 382)

評價價格ナキ商品ハ相場表、仕切書及稅關官吏ノ知識ニヨリテ課税ス此ノ場合ノ鑑定ニ當リテハ輸入申告價格ヲ參考トス仕

切書ニハ申告價格ヲ主張スル爲メニ使用サレ得ルモ稅關監吏ナ拘束セス而シテ稅關吏ハ他ノ既ニ税金ヲ支拂ヒタル物品トノ均
衡上其ノ鑑定價格維持ヲ強要スルコトヲ得ルモノトス

葡領印度ハ課稅價格ハ運賃、保險料及手数料ヲ十%トシ之ニ仕入地ノ價格ヲ加ヘタルモノヲ以テス但シポルトガル殖民地ノ
Louda, Benguela, Mossamedes ニ於テハ仕入地ノ價格ニ二十%ヲ加ヘタルモノヲ以テス

ネザールラントハ課稅價格ハネザールラントノ時價ヲトル時價トハ輸入引取報告ノ日ニ於ケル價格ヨリ稅表ニ依ル輸入稅ヲ差引
タルモノトス商品ノ性質、目的、其ノ他當該物品ヲ取扱フモノ無キ爲メ價格ヲ知リ難キ等ノ理由ナル場合ニ於テハ其ノ商品ノ
仕入地ニ於ケル原價ニ荷造費、運賃、保險料、手数料等ヲ加算シテ定ム (Art. 130 of General Law of Aug. 26, 1892, as
Amended by the Law of April 20, 1895)

伊太利ハ公定價格ニ依ル

クリートハ輸入時ニ於ケル輸入地ノ市價ヨリ輸入稅ヲ控除シタルモノニ依ル

ジュゴスラウビアハ輸入稅ニ於ケル C. I. F. 價格ニ依ル

ラトウビアハ前ニ同シ

リサアニアハ前ニ同シ

那威ハ前ニ同シ

秘露ハ課稅價格ハ運賃ヲ關稅ノ二十%トシ之ヲ仕入地市價ニ附加シタルモノヲ採ル

ウエネストラハ課稅價格ハ申告仕切書ノ價格ニ依ル

我國ハ純量主義ヲ採ルコト前言ノ如シ蓋シ關稅法上「輸入貨物」ト稱シ關稅定率法上「輸入スル物品」トアルハ當
該品名ヲ指稱スルモノニシテ之レカ内外包装若ハ附屬物ヲモ含ム意ニアラサルナリ尙附屬稅表ヲ通覽スルモノ内外包装
ヲ含ムモノハ特記セルヲ以テモ之レヲ知り得ヘシ而シテ此ノ主義ハ舊關稅定率法ヨリ踏襲セルモノナリ

稅表中特掲セル總量ニ依ル貨物ハ「内裝共」又ハ「容器共」ト規定セラレ何レモ其ノ容器、内裝共ニ内容品ト同一

視シテ課稅スル意味ニシテ容器ヲ免除スルノ謂ニアラス只茲ニ問題トナルハ貨物運搬ノ爲メニ使用スル容器ヲ如何ニ
スルヤニ在リ理論上ヨリスレハ我國ノ如ク免稅制限主義及純量主義ヲ採レル法制ノ下ニハ容器ハ夫レ自身別ニ課稅ス
ヘキモノナルヘキモ (註一七二) 關稅定率法實施以來運搬容器ニハ課稅セサルノ行政慣例ナリ

(註一七二) 同說 太田正孝博士著關稅行政之研究第四一五頁

總量主義ニ依ル貨物ハ其ノ純量主義ヲ採用セサル理由トシテ開裝ニ依リ(一)物品ノ漏出、變質又ハ變味ノ虞アルヲ以テ之レカ
保存ノ爲メナルコト(二)危險ナル爲メナルコト(三)裝飾ノ目的ヲ以テ加ヘラレタル包裝美ヲ保持セムカ爲メナルコトトニ在リ
即チ附屬稅表ヲ通覽スルニ總量主義ニ依ルモノ二十七種品目アリテ内(一)ニ屬スルモノハ第三十一號、第三十九號、第四十四
號、第四十五號、第四十九號、第五十號、第五十五號、第九十八號、第一百八號、第一百九號、第二百二十五號、第二百二十
七號、第二百六十號、第二百六十二號、第二百六十五號、第二百六十六號、第三百八十六號、第四百七號、第六百二十九號及
第六百三十六號(二)ニ屬スルモノハ第二三十一號、第二三十二號(三)ニ屬スルニハ第一百十七號、第二百二十三號、第三百
五十七號及第六百三十二號トス

今我國關稅行政上容器及内裝ノ範圍ニ關スル行政慣例ヲ示セハ左ノ如シ(稅關監査官會議決議ヲ纏メタルモノニシテ
括弧内ハ決議ノ年度ヲ示ス)

稅表番號三一 罐詰ノ包紙ハ課稅斤量ニ如ヘス

砂糖ヲ以テ貯藏シタル運賃ヲ入レタル外箱(内裝ヲ有セサルモノ)ハ從來ノ通課稅斤量ヲ加フルコト

稅表ニ容器共トアルモノニシテ内裝ナキモノハ運搬ノ用ヲ兼ネタル外裝ヲ課稅斤量ニ加フルコト(以上四十五
年)

四五 半封度 錫箔ニ包ミ其ノ上ヲ印刷シタル米ニテ包ミタルモノ十二箇ヲ杉板ノ小箱ニ入レタ

ルモノハ小箱共ニ課稅ス

「ピスケット」ヲ一封度ツツ紙包トシ五包又ハ十包ヲ罐ニ入レ紙屑ヲ填充シタルモノハ罐入ノ儘(紙屑共)課税ス(以上二年)

五五 「コンデンスミルク」ノ包紙ハ課税斤量ニ加ヘス

一一七 石鹼三箇ヲ各紙ニ包ミ之ヲ紙箱ニ入レ更ニ之レヲ紙ニテ包ミタルノハ後段ノ包紙カ印刷シアルト否トヲ問ハス包紙共ニ課税ス

石鹼ヲ紙ニテ包ミ又ハ包マスシテ木箱ニ入レタルモノハ木箱ヲ課税斤量ニ加ヘス

一一八 紙筒入「コスメチック」六箇ヲ紙箱ニ之レヲ紙ニテ包ミタルモノハ包紙共ニ課税ス

一一九 木製ノ小箱ニ六箇ノ香水燭(紙ニテ包ミ又ハ包マスシテ)ヲ入シ海草ニテ填メタルモノハ木箱及海草ヲ課税斤量ニ加ヘス

香水燭ヲ廣告用小冊子ニテ巻キタルモノハ小冊子共ニ課税ス

香水燭一箇ヲ廣告用印刷物ト共ニ入レ綿ニテ填メタルモノハ紙箱共ニ課税ス

香水燭ヲ「ブラツシュ」ノ箱ニ入レ之ヲ紙箱ニ入レタルモノハ紙箱ヲ課税斤量ニ加ヘス但シ紙箱カ「ファンシーボツクス」ナルトキハ課税斤量ニ加フ

紙箱ニ香水燭三箇ヲ入レ綿ト紙切レニテ填メ紙箱ヲ紙ニテ包ミ線ニテ括リ「レベル」ヲ貼付シ之ヲ木ノ小箱ニ入レタルモノハ木箱ヲ課税斤量ニ加ヘス

木箱ニ香水燭ヲ「コルゲートツド」紙ニテ包ミタルモノ四箇ヲ入レタルモノハ木箱ヲ課税斤量ニ加ヘス

香水燭ヲ廣告用印刷物ト共ニ紙箱ニ入レ之ヲ木箱ニ入レタルモノハ木箱ヲ課税斤量ニ加ヘス(以上四十五年)

香水燭六箇ヲ紙ニテ包ミ「コルゲートツドストローボード」ノ箱ニ入レタルモノハ紙箱ヲ課税斤量ニ加フ(六年)

二二五 「フラスター」ヲ金屬製筒ニ入レ之ヲ紙箱ニ入レタルモノハ紙箱ヲ課税斤量ニ加ヘス(四十五年)

二二一ノ三 「デトネートル」百發入ノ小罐五箇ヲ入レタル紙箱ハ課税斤量ニ加ヘス(二年)

二六〇 靴臺ノ包紙ハ課税斤量ニ加ヘス

三三七 鈕釦ヲ取付タル紙及紙箱ハ内装トス

硝子製鈕釦ヲ入レタル金巾ノ袋ハ内装トス(以上四十五年)

支那服用眞鍮鈕釦(一)十粒紙包三十二包又ハ四十包ヲ紙箱ニ入レタルモノ(二)五粒入紙箱十箱ヲ紙箱ニ入レ其ノ五箱ヲ紙ニテ包ミタルモノ(三)五粒又ハ十粒紙包十包ヲ紙箱ニ入レ其ノ十箱又ハ五箱ヲ紙ニテ包ミタルモノ(四)十粒紙包十包ヲ紙ニテ包ミ其ノ十包ヲ紙ニテ包ミタルモノハ全部内装トス(三年)

三八三 「ストローボード」ノ箱ニ封筒數百枚ヲ入レタルモノハ其ノ箱ヲ課税斤量ニ加ヘス(四十五年)

三八六 寫眞用感光紙ヲ黑色ノ紙ニテ包ミ之ヲ鐵力罐又ハ紙箱ニ入レタルモノハ罐又ハ紙箱ヲ課税斤量ニ加フ(八年)

四〇七 泥狀ノ「メタルポリシユ」カ直接樽入トナレルモノハ樽共課税ス(六年)

四九六 「ストツク」及「ダイス」ヲ「ボール」箱ニ入レ之ヲ薄キ杉板ノ箱ニ入レタルモノハ箱共ニ課税ス(二年)

「ストツク」及「ダイス」ヲ一組ツツ「ボール」箱ニ入レタルモノハ「ボール」箱ヲ課税斤量ニ加算ス

「ストツク」及「ダイス」又ハ「スクリユープレート」ノ箱ニ對スル課税方

(一) 「ストツク」及「ダイス」又ハ「スクリユープレート」ヲ一組ツツ「ボール」箱ニ入レ更ニ木箱ニ入レ又ハ入レスシテ其ノ若干ヲ外装タル大箱若ハ木枠ニ入レタルモノハ「ボール」箱及木箱ニ對シテノミ課税ス

(二) 同品ヲ一組ツツ「ボール」箱ニ入レ又ハ入レスシテ之ヲ木箱(蝶付)ニ入レタルモノ(該木箱カ外装ヲ兼ヌルモノ)ハ「ボール」箱及木箱共ニ課税ス(以上五年)

「ストツク」及「ダイス」ヲ取揃ヘ直ニ運送箱ニ入レタルモノハ其ノ運送箱ヲ課税斤量ニ加ヘス(七年)

六三六 寫眞用「フィルム」(現象シタルモノ)ヲ鐵製ノ卷心ニ卷キ罐ニ容レタルモノハ卷心及罐共内装トス(四年) 特殊ノ容器及内装ノ課税ニ關スル件

從量税品ノ容器ニ對シテハ別ニ課税セス但シ左ニ記載シタル容器及之ト同程度ノモノハ其ノ材料ニ應シ課税ス(四十五年)

稅表番號	品名	容器ノ種類
三二四	手巾	金屬製(押形ヲ付シタルモノ、裝飾ナ)ノ箱
四九九	柄ニ象牙、眞珠貝若ハ龜甲ヲ用ヒ又ハ玳瑁ヲ施シタル「テーブルナイフ」	木、革、布帛ノ「ケース」
五〇五	手縫用針	金屬製振出筒
五二六	懷中時計	木、革、布帛等ノ「ケース」
五三三	雙眼鏡及雙眼鏡	革、布帛等ノ「ケース」
五三四	望遠鏡	同
五六〇	小銃	同
二三	罐入「オートミール」ノ罐ハ課税斤量ニ加ヘス(罐ニ對シテモ別ニ課税セス)	
三二	研茶ノ壺ニハ課税セス(以上四十五年)	
一九二ノ二	「ラヂウム」ヲ白金製ノ容器ニ入レ更ニ之レヲ白金製ノ「ケース」ニ入レテ輸入スル場合ハ直接容器ニハ課税セサルモ外部ノ白金製「ケース」ニハ課税ス(五年)	
二九八―三二〇	織物ノ包紙及卷心ハ課税斤量ニ加ヘス	
三二四	手巾ヲ入レタル紙製「ファンシーボックス」ニハ課税セス	
三四五	「シャーツ」、「カラー」、「カフス」ヲ入レタル紙箱ハ課税斤量ニ加ヘス	

- 三六二―三七八 紙ハ實査シタル純量ニ依リ課税ス
- 但シ包裝ト爲シタル紙カ内部ノ紙ト同質ニシテ同一ノ用途ニ供セラルルモノハ其ノ包裝トモ課税ス
- 三八七 「カーボンペーパー」ハ隔ニ入レタル紙共ニ課税ス
- 四六二 葉鐵ノ内裝ハ課税斤量ニ加ヘス(以上四十五年)
- 四六七 亞鉛板ノ包裝桶ノ「ライニング」ハ課税斤量ニ加ヘス(五年)
- 四九九 貴金屬ヲ鍍シタル及物ヲ入レタル裝飾ヲ施シタル箱ハ内容品ト共ニ本號ノ一ニ依リ從價五割ヲ賦課ス(四十五年)

第四款 仕入書

廣義ニ於ケル仕入書(Invoice; Waarenrechnung oder Faktur; Factur)トハ貨物賣買又ハ委託ニ際シ普通賣渡人又ハ寄託人ヨリ買受人又ハ受寄者ニ交付シ當該賣買又ハ委託物品ノ内容ヲ明示スル値段書ニシテ一名仕切書、送り狀又ハ書出シトモ稱ス其ノ記載事項ノ内容及様式ニハ種々アリテ一定セサルモ取引計算ノ根據トナルヘキ物品ノ品名、數量、價格及其他取引上必要ナル事項ヲ記載スヘキハ其ノ使途ヨリシテ當然ナルヘシ然レトモ關稅行政法上ニ於ケル仕入書ハ前述ノ如ク廣汎ナラスシテ一定ノ條件ヲ定メラレタリ即チ現行關稅法施行規則第三十七條ノ二ニ於テハ「輸入申告書ニ添付スヘキ仕入書ハ貨物ノ仕入國ニ於テ作成シ貨物賣渡人ノ署名アルモノナルコトヲ要ス(「朝關施三十八條)トセラル右ニ依レハ(一)仕入國ニ於テ作成セラレタルコト及(二)賣渡人ノ署名アルコトノ二條件ノ具備スルヲ要シ其他ノ事項ハ普通廣義ノ仕入書ノ要項ヲ備フルモノタルヲ要スルハ言テ俟タス即チ(イ)買受人ノ氏名(ロ)品名(ハ)數量(ニ)單價(ホ)價格(ヘ)運賃其他ノ諸費(ト)仕入書作成年月日等ハ記入スヘキ事項ニ屬スルモノトス賣渡人ノ署名ヲ要スルヲ以テ單ニ賣渡人ノ頭文字ノミヲ記載シ又ハ會社名ノミニ止マルトキハ何レモ關稅行政法上ニ於テハ仕入書ト認

メラレサルモノトス然レトモ必スシモ賣渡人自署スルノ要ナク記名捺印ヲ以テ足ルトスル慣例ナリ
 以上記述シタル要項ヲ具備スル以上ハ假令其ノ内容カ不真正ノモノナリトスルモ關スル限リニアラス但シ關稅犯則
 ニ觸ルルコトアルハ別論ナリ苟モ右形式ヲ備フル仕入書ヲ添付シテ申告セラレタル以上ハ輸入申告書ハ稅關 適法ニ
 受理セラレ當該貨物カ不當ニ評價セラレ又ハ不法ニ擬率セラレタル場合ハ關稅法ノ定ムル所ニ從ヒ異議ノ申立權及訴
 願權ヲ附與セラルモノトス

之レニ反シ形式ヲ具備セサル仕入書ヲ添付シタルトキハ稅關ニ於テ仕入書ト認メサルノ結果異議訴願權ハ附與セラ
 レス以外ノ損失ヲ受クルコトナシトセス尙仕入書ニハ各包裝毎ニ詳細其ノ内容ヲ記入シ特ニ課稅ノ根基トナルヘキ數
 量、品柄、價格等ヲ明確ニ記載シタル場合ニハ稅關検査官吏ニ於テ一々開裝検査ノ要ナク時間勞力等ノ節約ハ勿論荷
 傷等ノ虞ナク利益ナルヘキモ若シ之レヲ爲ササルトキハ一々開裝検査ヲ行フノ已ムナキ結果前者ト反對ニ諸種ノ不利
 益ヲ受ケ延ヒテ商機ヲ逸スルナキヲ保セス故ニ貿易當業者トシテハ輸入稅表ニ分類セラレタル項目ニ準シ區分シテ仕
 入書又ハ明細書ニ記載シ輸入申告書ニ添付スルヲ得策トス

行政慣例トシテ本支店間ノ仕入書ハ其ノ形式及實質ノ如何ヲ問ハス之レヲ認メス(註一七三)仕入書ニ關連シテ述ブ
 ベキコトハ仕入書記載ノ貨幣ノ換算ナリ今我國ニ於ケル取扱ヲ示セバ次ノ如シ

外國貨幣ノ換算ニ關スル件(大正十四年大藏省稅關
 調査官會議決議)

- 一、正金銀行建相場ハ Demand ヲ採リ Demand ナキモノハ香港弗ヲ採ル
- 一、右建相場ノ前週六日分トシテ今週六日分ノ合計ヲ十二分シ平均數ヲ出ス但シ平均數ハ七倍ヲ四捨五入シテ六倍ニ
 止ム。

- 一、英貨又ハ佛貨ノ如ク一圓ニ對スル相場ニ付テハ右平均數ヲ以テ一圓ヲ除シ厘位以下ハ四捨五入シテ厘位ニ止ム
- 一、香港弗ノ如ク百弗ニ對スル相場ニ付テハ右平均數ヲ百分シ厘位以下ハ四捨五入シテ厘位ニ止ム

(註一七三) 北米合衆國ニ於ケル仕入書ノ取扱方 (C. R. of U. S. A. 1923. p. 164-169)

(A) 一九二二年關稅法第二四六條仕入書ノ要件

(a) 米國ニ輸入セラルル商品ノ仕入書ハ次ノ事項記入ヲ要ス

- (一) 商品ノ到達スヘキ輸入港
- (二) 商品ヲ賣却シ又ハ買賣サルヘキ人、場所及日時又ハ商品カ購買品ナル場合ニハ仕出港、仕出日時、荷受主及出荷
 主
- (三) 商品ノ詳細ナル種類、内容品、品質、容量、記號、番號又ハ製造人カ輸出國ニ於テ使用スル商標、商品ヲ容レタル
 包裝ノ記號個數
- (四) 輸入商品ニ付キ船積地方又ハ米國ニ於ケル其ノ重量及容積
- (五) 商品カ買賣又ハ買賣サルル契約ニ依リ積出サレタル場合ニハ其ノ時價タル其ノ仕出國ノ賣買價格
- (六) 商品ニシテ賣買又ハ買賣契約ニ依ラズシテ積出サレタル場合ニハ其積出日ニ於ケル普通ノ取引價格若ハ之レナキト
 キハ輸出國ニ於ケル取引上ノ通常ノ卸賣價格、製造人、賣主積出人又ハ所有者カ普通ノ取引狀態ノ下ニ受ケ若ハ受ケン
 トスル時價
- (七) 金銀貨幣又ハ紙幣等通貨ノ種類
- (八) 商品ニ對スル諸掛費ニシテ賣主又ハ積出人ニ於テ其ノ種類及總額ヲ知悉セル場合ハ之レカ類別及種類若シ其ノ總額
 ニシテ仕入書面ノ價格中ニ包含セラレ不明ナル場合ハ之レヲ手數料、保險料、運賃、包裝費、荷造費ニ種別記載スルコ
 ト
- (九) 商品ノ輸出ニ關シテ承認セラレタル總額ノ割引、拂戻金、獎勵金ハ各別ニ内譯スルコト
- (十) 商品ニ付キ其ノ鑑定、検査及類別上必要ナル事項ヲ分類スルコト

(b) 商品ニシテ製造人又ハ買受人以外ノ者ヨリ米國在住者ニ積出シタルモノナルトキハ其ノ仕入書中ニ買受ノ時及場所、買

受人及買受ノ爲メ支拂ヒタル金銀、紙幣ノ別ヲ記載スルコト

(B) 同法第二四七條、百弗以上ノ仕入書ニハ下記事項記載ヲ要ス

(a) 下記ヲ除ク外百弗以上ノ商品ニ對スル仕入書ハ其ノ商品ノ積込前又ハ積込許可アリシトキ下記米國領事館ノ證明ヲ得ルコトヲ要ス

(一) 商品ノ製造地、購買地又ハ商品ヲ引渡ス地方ノ領事館

(二) 商品ノ集散地又ハ領事館所在地以外ノ地ニ於テ購入セル場合ハ米國へ向ケ船積スル爲メ改装セル場所ノ領事館

(b) 仕入書ハ税關ニテ下記事項ニ付キ審査ヲ爲シ確實ナルモノハ之レニ裏書ヲ爲ス

即チ商品カ賣買又ハ其ノ契約ニヨルモノナルカ賣買又ハ其ノ契約ニ依リ積出サレタルカ仕入書作成ノ形式ニ異ナリタル點ナキカ仕入書記載事項ハ完全ナルカ確實ニシテ信用スルニ足ルモノナルカ等ヲ審査スルモノトス

(c) 仕入書ハ當該商品カ一九二二年關稅法第五二條ノ規定ニ依リ直接運送ヲ爲ス場合ニ於テ積出人ノ要求アルトキハ三通乃至四通作成スルヲ要シ之レニ荷主積出人又ハ是等ノ代理者捺印スルコトヲ要ス而シテ代理人ノ捺印スル場合ハ其ノ店主名ヲ記載スルコト

(d) 次ノ場合ハ仕入書ニ領事ノ證明ヲ必要トセス

(一) 百弗ヲ超エサル商品ニシテ郵便小包ニヨルモノ

(二) 商品カ火災若ハ海上遭難ニ依リ航海中損傷セラレタルモノ

(三) 難破船若ハ坐礁船ヨリ得タル商品

(四) 賣買又ハ賣買契約ニヨリ輸入セス又ハ販賣ノ意思ナキ自家用品若ハ個人用品

(五) 外國在住者ヨリ米國在住者ニ贈與スル物品

(六) 旅客携帶品又ハ米國在住者ニ宛テタル小荷物

(七) 北米ニ到着スル人ニ屬スル職業用品

(八) 外國ニテ死亡セル北米民ノ用品(遺産)

(九) 一九二二年關稅法第四六五條第四六八條ノ該當スル商品ニシテ最初ノ到着港ニ於ケルモノ

(十) 大藏大臣ニ於テ課稅スルコト能ハサルモノト認メタルモノ

(C) 同法第二四八條仕入書ノ證明様式

(a) 價格百弗以上ノ商品ニシテ前記ニ該當セサルモノハ現行法規ニ依リテ證明スヘキモノトス

(b) 米國ニ仕向ケル商品ニシテ在外領事館ノ管轄ヲ異ニスル地方ヨリ買入レ之等カ一箇ノ仕入商ニ總括記載セラレタル場合之レカ證明ヲ要求スルモノアリタルトキハ其ノ仕入書ニハ元ノ勸定書出荷人ヨリ受ケタル仕入書又ハ其ノ商品ニ對シ仕拂若ハ支拂フコトアルヘキ價格ヲ證明スヘキ寫ヲ添付スルコトヲ要シ之レカ證明ヲ要求セラレタル領事館員ハ其ノ元ノ勸定書又ハ商品購入地方ノ領事館員ノ作成セル證明書ノ提出ヲ強要スルコトヲ得ルモノトス

(c) 米國國務長官カ其ノ權限ヲ以テ破毀スル迄保存スル必要上證明シタル仕入書ノ原本ハ其ノ證明シタル領事館員ノ屬スル領事館ニ於テ保存スルモノトス輸出業者ハ通關上ノ爲メ四通ノ仕入書ヲ受ケ而シテ其ノ内三通ハ直ニ其ノ證明シタル領事館員ヨリ仕入書中ニ指定セラレタル陸揚港税關ニ送付ス

(d) 米國領事館ニ於テ證明シ難キ遠隔ノ地ヨリ船積モラルル商品ニ對スル仕入書ノ證明ハ米國名譽領事ニ於テ之レヲ爲スコトヲ得名譽領事ナキトキハ其ノ地ノ公證人、承認ノ權能ナ有スル地方官吏又ハ官印ヲ押捺スル權ヲ有スル官吏ニヨリテ證明スルコトヲ得但シフキリツピン諸島又ハ其他米國殖民地ヨリ米國ニ仕向ケラルル商品ニ對スル仕入書ハ積出地ノ税關長、税關長代理又ハ副税關長ニ於テ證明スルモノトス

(D) 同法第二四九條領事ノ意見 (Consular notation)

領事ハ仕入書ノ價格ニ付キ不正又ハ實際ノ市價ヨリ低廉ナリト思料スルトキ正當ト信スル訂正價格ヲ (Consular notation) ナル名稱ノ下ニ訂正スルコトヲ得ルモノトス此訂正價格ハ當該仕入書上ニ說明シ且正當ナル事ヲ證明シ輸入港ノ税關吏ニ親書トシテ送付ス此ノ手紙ハ三通ノ仕入書ト共ニ又ハ別ニ送付ス領事ハ亦當該商品ニ關シ其ノ關稅額、内國稅、消費稅又ハ輸

出拂戻金等ヲ記述スルコトヲ得ルモノトス

此ノ意見ヲ附シタル手紙又ハ三通ノ仕入書ヲ受ケタル税關吏ハ此等ヲ鑑定官吏ニ送付ス鑑定官吏ハ其ノ鑑定價格ト領事ノ意見ナル計數トノ差額ヲ通知ス領事ハ仕入書價格ヲ鑑定ニ依リテ増加シタル凡テノ場合通知ヲ受ケルモノトス

(E) 同法陸二五〇條貼付スヘキ手數料印紙

仕入書ニハ印紙ヲ貼付シ之レニ其ノ手數料支拂ヲ證スル爲メ領事館員ノ消印ヲ爲ササル可ラス
印紙無貼付ノ仕入書ハ無効ナルモ通關手續ノ爲メ本仕入書作成ノ基礎ト成リタル無印紙仕入書ト共ニ假仕入書ヲ使用シ得ルモノトス三通又ハ四通ノ仕入書カ全部無貼付ナルモノトセハ印紙貼付仕入書ト同様ノ效力ヲ認メス亦税關吏ハ印紙無貼付仕入書ヲ發見シタルトキハ之レヲ領事館ニ通知スルコトヲ要ス

(F) 同法第二五一條三通ノ領事館仕入書、積荷目録ノ處分

三通ノ仕入書ハ之レヲ受ケタル積荷目録ト共ニ其ノ到着港ニ於テ保存シ領事館規則第一四二條ニヨリ檢定後證明ヲ爲シ會計検査院 (General accounting office) 關務省 (State) 及他ノワシントンノ外交官領事館課ニ送付シ積荷目録ハ輸入港ニ於テ受領シ之レニ證明シタル上通知ノ爲メ輸出港ニ返送スルモノトス

(G) 同法第二五二條仕向地ノ變更

領事ノ證明後貨物ノ仕向先ヲ變更シタルトキハ貨物ノ到着地税關ニテハ此ノ三通ノ仕入書ヲ缺クテ以テ税關規則第三四四九號ニヨリテ其ノ仕入書ノ最初ノ仕向港 (仕入書面ノ仕向港) 税關吏ニ其ノ送付方ヲ要求シ得ルモノトス
右不能ノ場合ハ領事ハ輸出港税關吏カ保存スル仕入書ノ寫ヲ要求シ得ルモノトス

(H) 同法第二五三條單一船舶ニ依ル場合ノ仕入書

仕入書ハ出荷人又ハ荷受人ノ異ナル毎ニ作成スルヲ要シ又同一船舶ヲ貨切ル場合ト雖モ荷受人ヲ異ニスルトキハ別箇ニ仕入書作成スルコトヲ要ス不時ノ出來事又ハ小航海ノ爲メ貨物ノ一部不到着ナル場合ハ其ノ仕入書面ヨリ之レヲ除外シ其ノ後着貨物通關ノ場合ニ使用シ得ル様ニ税關吏ニ於テ證明セラルルモノトス

單一仕入書ノ貨物ヲ別箇船舶ニ分離積載シ又ハ少量宛ニ分チテ輸入シ其ノ價格ヲ百弗以下トシテ以テ領事館ノ手數料ヲ避クルコトハ之レヲ許ササルモノトス

(I) 同法第二五四條不完全仕入書

税關吏ハ規則ニ依リテ作成セラレサル證明仕入書ハ之レヲ拒絕ス然レトス斯カル仕入書ト雖モ正當ナル領事證明仕入書作成ノ誓書ヲ徴シテ假仕入書トシテ輸入ハ許サルモノトス
百弗若ハ百弗以下ノ價格ノ貨物ニ對スル不完全仕入書ハ其ノ貨物ノ類別、評價上ニ付キ收入ニ影響ナキ場合ハ受理セラルルモノトス

第五款 製產原地證明書 (Certificate of Origin;

Ursprungszeugniss. Certificat d'originalité)

輸入品ハ國定稅率ニヨリテ關稅ヲ課セラルルヲ以テ原則トスルモ通商國ハ概其ノ國際分業上ノ特點ニ因リ別ニ條約ヲ以テ協定稅率ヲ定ム而シテ其ノ協定稅率ノ適用ヲ受ケムトスルニハ特別協定ノ適用ヲ受クヘキ地域内ノ產出品又ハ製造品ナルコトヲ證スル製產原地證明書ノ提出ヲ要スルモノトス但シ郵便物及課稅課格百圓ヲ超エサル貨物ハ此ノ限ニアラス (註一七四) 此ノ證明ハ貨物ノ產出地、製造地、仕入地若ハ積出地ノ帝國領事館若ハ貿易事務館、帝國領事館及貿易事務館ナキトキハ其ノ地ノ税關其他ノ官廳公署又ハ商業會議所ノ證明シタルモノヲ以テシ之レニハ貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量及產出又ハ製造ノ地域ヲ記載スルヲ要ス但シ製產原地ノ證明ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルトキハ之レニ從フ旨定メラレタリ (註一七五)

證明ノ時期ニ關シテハ別ニ定ムル所ナキモ關稅カ輸入申告ノ日ニ於テ行ハハル法規ニ依リ課セラルルノ原則 (關三條) ニ從ヒ其ノ貨物ニ關スル輸入申告ノ際即チ申告日時若ハ遅クトモ課稅決定前ニ之レカ提出ヲ要スルモノト解ス

故ニ貨物引取後ニ於テ之レヲ提出スルモ協定税率ノ便益ヲ得ラルルモノニアラス是ヲ以テ製産原地證明書未着ノ場合ハ一時貨物ヲ保税倉庫又ハ保税工場ニ入レ置キ之レカ到着ヲ俟テ輸入申告ヲ爲スヲ便宜トスヘシ尤モ天災其他不可抗力ニ依リ輸入申告ト同時ニ之レカ提出不能ノ場合ニ於テハ其ノ旨税關ニ願出テ相當ノ猶豫ヲ受ケ免許前引取ノ申請書ヲ提出シ(關三四條但書)一時國定税率ニ依ル税金額ヲ供托シテ當該貨物ヲ引取り後日製産原地證明書到着ノ上協定税率ニ依ル利益ヲ享有スレハ足ル

(註一七四) 關一條但書、關施一條、朝關施一條

關稅法制定當時トハ經濟單位異ナルニ至リタル今日百圓トセルハ低クニ過ク金五百圓位トスルヲ可トスヘシ北米カ百弗トセルコト前述ノ如シ

(註一七五) 關施第二條、朝關施第二條

協定税率ノ適用ヲ受クヘキ範圍ハ產出品又ハ製造品ニ限ラル產出品ト云フハ其ノ地域ニ於テ原產スルノ謂ニシテ製造品ト云フハ其ノ地域ノ原料ヲ以テ製造シタルト他國ノ原料又ハ他國ニ於テ一定ノ工程ヲ經タル物品ニ工ヲ加ヘタルモノトアリ此ノ場合ニ於ケル加工ノ程度ハ保税工場法ニ所謂加工又ハ製造ヲ意味シ苟クモ其ノ貨物ニ變形變質ヲ與ヘ普通ニ他ノ條件加ハラサリセハ價值ノ増加スヘキ工程ノ謂ナリ製産原地證明書ノ有效期間ニ關シテハ何等定ムル所ナキヲ以テ疑義ナキニアラサルモ特ニ限定セサル點ヨリ推考スルニ恐ラク之レヲ無制限ニ有效ナラシムルノ法意ナリト解ス

證明官公署ニ付テハ在外帝國領事館又ハ貿易事務館タル原則トスルヲ以テ外國ノ官公署又ハ商業會議所ノ證明ハ其ノ地ニ帝國領事館又ハ貿易事務館ナキ場合ニ於テノミ有效ナルモノト解スヘク亦在外帝國名譽領事及公證役場ノ證明ハ茲ニ所謂官公署ニアラサルヲ以テ無效ナルモノトス外國官公署ノ發給シタル製産原地證明書ニシテ其ノ署名ノミアリテ官公署印ノ押捺ナキモノ及品名ニ汎稱ヲ用ヒタルモノ(例ヘハ單ニ食用油ト記入シタルカ如シ)モ當該輸入物

品ニ對スル證明書ナルコトヲ認定シ得ルモノニ限り有效ト認メラルル行政慣例アリ

茲ニ問題トナルハ價格日圓ノ解釋ナリトス即チ(一)一口ノ輸入ニ付定ムヘキカ(二)一包裝内ノ物品ニ付定ムヘキカ若クハ(三)稅表類別ノ單個ノ物品ニ付定ムヘキカニ關シテハ從來聊カ疑義アリタルモ現行ノ行政慣例トシテハ一口ノ輸入申告ニ係ル價格ヲ稅目番號別、產地別ニ區分シ其ノ各課稅價格百圓未滿ナリヤ否ヤヲ定ム而シテ同時ニ輸入シタルモノハ(積荷目錄ニ於テ一件トシテ記載セラレタルモノ)數口ノ輸入申告ニ分割スルコトヲ許ササルモノトス亦一個ノ輸入申告中ニ其ノ製産國ヲ異ニスル同種物品ノ價格ヲ合算スレハ百圓以上トナルモ製産地別ニセハ各々百圓未滿トナル場合ハ何レカ一方ノ製産原證明書ヲ徵シ他方ハ之レヲ製セサル慣例ナリ商取引上一口ノモノヲ特ニ協定税率ノ利益ヲ享有セム爲メ各々百圓未滿ノ數口ニ分チ之レカ輸入ヲ計ルモノアルトキハ明ニ關稅連脱ノ意思アルモノナルヲ以テ關稅法第七十五條ニ照シ犯則處分ニ附セラルヘキモノトス

郵便物ニ付キ此ノ證明書ヲ徵セサルハ其ノ發送地明瞭ナルヘキト比較的寡額ナルトニ因ルナルヘキモ一方ニ於テ旅客携帶品トノ權衡ヲ失スルノ嫌アリ而カモ郵便物ト雖モ相當多額ニ上ルコトアルヘケレハ一般貨物同様に制限ヲ附スヘキモノナルヘシ

一箇ノ製産原地證明書ヲ一ノ稅關ニ於テ數回使用シ又ハ數個ノ稅關ニ涉リ分割使用スル場合ニ於ケル取扱ニ關シテハ前者ノ場合ニアリテハ提出ニ係ル製産原地證明書ノ裏面ニ申告年月日、申告番號、輸入數量ヲ記入シ當該貨主ニ還付シ後者ノ場合ニアリテハ最初ニ提出ヲ受ケタル稅關ニ於テ其ノ原本ニ從ヒ寫テ作成シ之レヲ留メ原本ハ貨主ニ還付ス但シ製産原地證明書面ノ貨物カ同時ニ數稅關ニ分割運送セララル場合ニ於テハ其ノ寫書ヲ交付ス又其ノ原本ハ寫書ヲ還付スルコト能ハサル場合ニ於テハ製産原地證明書提出濟ノ證明ヲ爲スノ方法ヲ採ルモノトス而シテ其ノ寫又原本ニハ既ニ輸入手數濟ニ係ル數量、申告年月日、申告番號及稅關名等ヲ之レカ裏面ニ記載スヘキモノトス

製産原地證明承認濟ノ庫移貨物ヲ運送スル場合ニハ運送先稅關ニ送附スル運送申告書ニ製産原地證明承認濟ノ旨ヲ

標記シ其ノ證明書ノ原本ハ發送地稅關ニ於テ徵スルモノトス

關東州ノ生産ニ係ル物品ノ輸入稅免除ニ關スル法律ニ依ル製産原地證明書ハ大正十四年勅令第二三二號ノ定ムル所ニヨリ當該物品ノ產出地又ハ製造地ヲ管轄スル民政署長又ハ民政支署長ノ證明シタルモノナルヲ要シ其ノ有効期間モ之レカ發給ノ日ヨリ六箇月ト定メラレタリ而シテ其ノ様式ハ申請者ノ住所氏名、品名、數量、價格、記號及番號、包裝及個數、產出地又ハ製造地、仕出地、仕向地等ノ記入ヲ要ストセラル(註一七六)(註一七七)(註一七八)

(註一七六) 大正十四年法律五十一號、大正十四年勅令二三二號及昭和二年勅令九三號

(註一七七) 製産原地證明書ノ發行及手數料並ニ領事仕入書ニ關スル各國ノ取扱ヲ示セハ左ノ如シ

伊太利 製産原地證明手數料トシテ三百リラヲ超ユル貨物ニ對シテナリテ三百リラヲ超ヘサルモノハ六リラ製産原地證明書ハ

領事ノ發給スル場合查證(Visa)ヲ要シ尙英國商業會議所、英國自治體、英國稅關、在倫敦伊太利商業會議所ノ證明書モ有

效トス

佛國 手數料ハ英國、加奈陀、印度、セイロン等ハ十三志五片二分ノ一

米國、濠洲、ニュージランド、喜望峯殖民地等ハ一磅二志五片トス

國名ハ其ノ貨物ノ製造セラレタル地又ハ原料品ノ正確ナル原產地タルコト

製産原地證明書ノ形式ハ倫敦ニ於ケル英國又ハ佛國商業會議所ヨリ得タルモノタルコト

仕入書ノ公認ハ倫敦商業會議所ニテ爲ストキハ附加稅トシテ一・三%ヲ徵セラル

希臘 手數料ハ三志六片、倫敦商業會議所ニテ發行シ之レニ領事ノ裏書(Visa)ヲ要ス

和蘭 手數料ハ六志十片、但シ爲替相場ニヨリ變更アリ

匈牙利 仕入書價格ノ四分ノ一%但シ最低一志最高二磅迄トス

代理店、輸入者ヲ通シテブタベスト財務省ヨリ受ケルモノトス

歐那 一般ニ西國及蘭國ヨリ輸出スルモノニ之レヲ要シ手數料ハ六志七片トス

波蘭 仕入書面價格ノ一%但シ最低三志最高一磅十四志五片トス

ルーマニヤ 領事證明ノ仕入書ハ一磅、製産原地證明書ハ一磅トス

西國 領事證明仕入書ナルモノヲ認メサルモ製産原地證明書ノ查證ハ一件五志十片トス

瑞典 製産原地證明書ハ發行ニ付キ一件五志六片、領事ノ公認料四志五片トス

墨耳古 領事仕入書貨物ノ從價ノ五%トス

米國 領事仕入書ハ二弗五十仙但シ積長北米產品ニ對シテハ一弗トス

アルゼンチン 製産原地證明書ハ船荷證券一通ニ付キ三通ヲ要シ一通ハ十六志其他ノ二通ハ四志宛トス

ボリビヤ 領事仕入書ハ五通ヲ要シ各通五志トス

エクアドル 而シテ證明料十磅以下ハ六志十磅以上ハ貨物價格ノトス領事證明仕入書ハ五通ヲ要シ十磅以下ハ四志十磅以上ハ

從價四%トス

ブラジル 領事仕入書ハ四通ヲ要ス二百磅以下ハ四弗二百磅以上ハ百磅ヲ増ス毎二一弗ヲ加フ

智利 領事仕入書ハ四通トス四十磅及以下ハ二十志四十磅以上ハ一十%ヲ加フ

コロンビヤ 領事仕入書ハ四通トス手數料ハ價格ノ三%トス

パラグワイ 領事證明書仕入書ハ四通トス一通四志宛トス

秘露 領事證明仕入書ハ四通トス申告價格ノ二%トス

ウルグアイ 製産原地證明書ハ二通トシ貨物カ郵便ニ依ルトキハ三十仙船舶ニ依ルトキハ七十五仙トス

(註一七八) 露領沿海州地方ニ於テ漁獲採取シタル魚類又ハ其ノ他ノ水産物ニ付テハ生産原地證明書ノ外、露國稅官署ノ發給

スル稅關検査書又ハ通知書ニシテ產出地ノ記載ナキモ四圍ノ狀況ニ依リ沿海州產ナルコトヲ認メ得ル場合ニハ之レニヨリ免

稅ノ取扱ヲ爲ス行政慣例ナリ

第六款 損傷減稅

一、輸入品ニ對スル課稅處分ハ其ノ課稅價格又ハ數量ノ査定ニ次キ稅率ノ適用ヲ行ヒ之レカ決定ヲ見ルヘキヲ常態トスルモ輸入貨物ニシテ損傷シタル場合ハ輸入免許前ニ限リ相當ノ減稅ヲ爲スコトヲ得ルコト關稅法第二條ニ定ムル所ナリ之レヲ稱シテ損傷ニ因ル減稅又ハ損傷減稅ト云フ此ノ事タル稅率トハ直接ノ關係ナケレトモ事實ニ於テ稅率ノ變更ト同一ノ結果ノ伴フモノナルヘキモノナレハ便宜上茲ニ之レヲ説明スルコトトスヘシ此ノ立法ノ趣旨ヲ案スルニ輸入品ニシテ運搬ノ途中等ニテ損傷ヲ受ケ其ノ經濟的價值ノ減少シタル物件ニ對シ普通ノ狀態ニテ輸入セラレタル貨物ヲ標準トセル稅率ヲ其儘全額適用スルハ聊カ苛酷ノ嫌アリ之レニ對シ幾分ノ斟酌ヲ加フノ必要上認メラレタル制度ナルヘシ此ノ制度ヲ保護主義ノ見地ヨリスルモ實際ニ其ノ價值ノ減少セルモノニ對シテ減稅スルモ之レカ内地對抗品トノ競爭力ヲ強ムルノ虞ナシ

二、損傷減稅ヲ爲ス要件ヲ現行法ニ從ヒテ述フルコト左ノ如シ

(イ) 輸入貨物ニ損傷アルヲ要ス

損傷トハ天然力又ハ人力ノ作用ニ依リ當該貨物ノ正常ノ狀態ヲ變更シテ其ノ價值ヲ減少セシメタル狀態ヲ云フ故ニ不可抗力ニ依ルト故意ニヨルト過失ニ因ルトヲ問ハス亦其ノ程度ノ大小ヲモ問ハサルモノトス自己ノ貨物ヲ故意ニ自己カ破壊スルハ一見遁脫ノ意思アルヤノ疑問ヲ生スレトモ是レ自己ノ財産ヲ處分スルコトトナルニ依リ何等制裁ヲ加フルノ要ナク更ニ進シテ旅客カ煙草ノ重稅ヲ恐レテ放棄スルカ如ク所有權ノ拋棄ヲモ各人自由ニ爲シ得ヘキ性質ノモノナレハ關稅遁脫等ノ意思アリト見ル可ラサルモノナリ

損傷ノ程度ニ因リ變形若ハ變質ノ結果別種ノ貨物トナルコトアルヲ想像スルニ難カラス此ノ場合ニハ積荷目錄面ノ品名ヲ訂正シ其ノ變更後ノ貨物ノ名ヲ於テ課稅物件トスルモノニシテ損傷減稅ノ取扱ヲ爲スヘキモノニアラス

(ロ) 損傷ハ輸入免許前ニアリタルコトヲ要ス

損傷減稅ノ趣旨ハ引取ノ際現實ニ其ノ貨物カ有スル價值相當ノ關稅ヲ負擔セシメントスルニアルヲ以テ貨物ノ検査後ト雖モ實際免許前ニシテ稅關ニ於テ更ニ正シ得ル範圍ニアル限リ之レカ減稅ヲ爲スヘキモノトス貨物ノ検査ニ當リテハ一部検査ニヨリテ全部ヲ推定スル場合多ク實際ノ検査ニ於テ發見シ得サル損傷アルヲ慮リタルモノナルヘシ而シテ免許後ニ於テハ當該貨物ヲ査定スルコト困難ナルノミナラス稍々モスレハ奸商ノ乘スルコトモアルヘケレハ之レカ免許後マテ保護スルノ要ナカルヘシト認メタルニ依ルナリ、然レトモ輸入免許後ト雖モ之レカ引取免許前ニアリテハ尙再検査ノ餘地存スルニ依リ裁量ヲ以テ此點マテ認ムルヲ可トスヘシ

茲ニ問題トナルハ損傷ヲ生シタルトキヲ何時迄認容スヘキカニアリ即チ輸出國ニ於テ輸出前ニ損傷シタルモノ又ハ古物ニ對シテハ性質上減稅ノ限ニアラサルヘキモノ一般的ニ輸出國ニ於テ仕入レタル時ヨリ輸入免許前マテノ間ニ生シタル損傷ニ限リ認ムル行政慣例ナリ之レカ從價品ニアリテハ到着價格ニ依リテ課稅スルヲ以テ其ノモノノ現實ニ有スル價值ヲ市價及仕入書ニ照シ鑑定スレハ可ナルモ從量稅品ニアリテハ其價值減損ノ事由カ必スシモ數額ノ減少ヲ伴フモノニアラサレハ之レカ損傷發生ノ時ヲ限定シ能ハサルヘシ

(ハ) 損傷減稅ハ當事者ノ請求ヲ俟テ之レヲ爲スモノトス

此ノ減稅制度ハ國家ノ貨主ニ對スル一ノ恩惠ナルヲ以テ之レカ減稅ハ其ノ受益主休タル當事者ヨリノ請求ニヨリテ行ハレ國家ノ側ヨリ進シテ之レカ減稅ヲ爲スヘキモノニアラス減稅ハ當事者ノ請求ヲ俟ツヲ行フコト前言ノ如シ然レトモ國家カ其ノ請求アリタル場合ニ於テ之レニ拘束セラレ必ス減稅スヘキ筋合ノモノニアラス法文ニモ『減稅スルコトヲ得』トアリ其ノ減稅スルト否トハ稅關ノ事由才量ニヨルモノナリ何ントナレハ若シ之レヲ必然的ニ減稅セサル可ラサルモノトセハ稅關ト當事者間ニ爭議ヲ醸ス虞アルヘク斯クテハ恩惠的制度タル立法ノ趣旨ニ背反スルコトトナルヘケレハナリ而シテ其ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ損傷貨物ノ記號、番號、品名、數量、價格及請求ノ要領

ヲ記載シタル文書ヲ税關ニ提出スルコトヲ要ス(註一七九)

(註一七九) 關稅九條、朝關稅九條

三、損傷減稅ヲ行フ程度ハ左ノ如シ

減稅ノ程度ハ法文ニハ單ニ「相當」ト定メラレタリ相當トハ當該官吏ノ認定ニ依リ定マルヘキモノナリ何カ相當ナリヤ否ヤハ具體的ニ當該事件ニ付キ決定スヘキモノナルモ其ノ不相當ナル減稅カ行ハレタリトシ其ノ處分ニ不服ナルモノハ關稅法第六十一條以下ノ規定ニ從ヒ異議及訴願ノ權利ヲ行フコトヲ得ルモノトス減額ノ程度ハ從價稅品ニ付テハ其ノ課稅價格ヲ決定スルニ當リ當該貨物ノ損傷歩合ヲ査定シ之レヨリ算出シタル減價ヲ其ノ正常狀態ニ於テ占ムヘカリシ價格ヨリ控除スルハ足ル而シテ此ノ場合ニ於ケル運賃及其他ノ諸掛費ハ同様ニ其ノ貨物ノ損傷歩合同一率ニテ總額ノ内ヨリ控除スル慣例ナリ

從量稅品ニ於テモ減稅ハ價值減損ニ對スル恩惠ナルノ點ニ鑑ミ其ノ減少シタル價格ヲ認定シ之レヲ適當ニ數量ニ對比シテ定ムヘキモノトス例ヘハ茲ニ米カ浸水ニヨリ損傷シタル場合ニ於テ其ノ價值ヲ査定スルニ二割方格落セリトセハ其ノ總量ヨリ二割減ノ數量ヲ輸入數量トシテ査定スルカ如シ(註一八〇)

(註一八〇) 鑑査官會議ニ於ケル損傷貨物ノ檢査方法ニ關スルニ、三ノ決議事項ヲ示セハ左ノ如シ

一、潮濕ノ爲メ水分ヲ吸取シ増量セルモノ

(一) 一般貨物ニ付テハ其ノ儘重量ヲ査定スルコト但シ含有水分ノ割合ヲ檢出シ又品質損傷ノ割合トニ依リテ減稅歩合ヲ定

ム

一、砂糖ノ海水ニ溶解シタルモノ

解船ニ積取リタル砂糖力其ノ解船損傷ノ爲メ溶解シテ水溶液トナリタルモノニ對シテハ砂糖トシテ損傷減稅ヲナスコト

第七款 賦課權ノ確定

一、輸入貨物ニ對シ稅率ヲ適用スル行爲ハ法律行爲ノ行政行爲ニアラスシテ一ノ事實行爲ニ屬シ特定ノ輸入申告者ヲシテ納稅セシムル點ニ至ツテ始メテ賦課權ノ確定ヲ見ルナリ此ノ納付ヲ命スル爲メニスル通知ヲ告知ト云フ告知ハ稅關ノ意思表示ニシテ其ノ表示ニ依リテ效力ヲ完成ス即チ賦課處分タル行政行爲ノ效力ヲ完成スルニ必要ナルモノナリ告知ハ準法律行爲ノ行政行爲ナルヲ以テ其ノ表示ニヨリテ直ニ特定輸入申告者ニ義務ヲ負ハシムル等ノ法律的效果ヲ發生スルモノニ非ラス告知ノ前ニ於テ稅關ノ意思ハ賦課ノ調定ニヨリテ定マル從テ稅關ノ意思ハ調定ヲ以テ終リ告知ハ此ノ決定シタル稅關ノ意思ヲ特定申告者ニ表示スル事實行爲ナリ

此ノ故ニ調定ニ依リ賦課權カ確定シタル後ト雖モ之レカ特定申告者ニ告知スル意思表示アル迄ハ其ノ稅額ノ査定等ニ關シ錯誤等アルヲ發見シタルトキハ自由ニ取消變更スルコトヲ得ルモノトス

二、稅關ノ告知行爲アリタリトスルモ關稅納付義務ハ直ニ確定セス關稅ヲ調定シ輸入申告者ニ告知スルコトハ輸入ヲ爲サムトスル意思ヲ以テセルモノノ要求ニ對シテ爲セシモノナル故輸入申告者ヲ拘束スヘキコトハ言テ俟タス然レトモ國家ハ輸入申告者ニ對シ直ニ關稅ノ納付ヲ強フルモノニ非ラス又一定ノ期間内ニ納稅スヘキモノト法律ニ規定サレヌ只現實ノ輸入行爲ヲ爲ス場合ニ於テ始メテ徵稅シ得ルニ過キス即チ現實ノ納稅アルマテハ賦課權ハ不定ナル納稅期ノ到來スル迄ハ輸入申告者ヲシテ其ノ貨物ヲ自由ニ内地ニ引取り得サルコトヲ拘束スルニ過キス而シテ納稅ノ告知ヲ受ケタル後或ハ申告者ハ賦課ヲ不相當トシテ納稅ヲ肯セサルコトアルヘク或ハ死亡、行衛不明等ノ場合モアルヘク或ハ又永久ニ之レヲ拋棄スル場合モアルヘシ是等ノ場合ニ於ケル處分方法ニ關シテハ法文ニハ何等ノ規定ノ存スルナク只其ノ賦課ヲ不相當トスル場合異議訴願ヲ爲サシメテ之レヲ救濟セシムルノ方法アルノミナリ

第八款 異議及訴願

一、異議及訴願ハ税關長ノ關稅賦課ナル行政作用ニ對シ違法又ハ不當ナリトシ不服アルモノヲ救済スル方法トシテ設ケラレタル制度ナリ共ニ政府ニ對シ課稅處分ニ付キ反省若ハ監督權ノ發動ヲ求メントスル方法ナリ而シテ異議及訴願ヲ提起シタル場合ハ其ノ異議訴願權ノ拋棄又ハ其ノ判決裁決ニ依リテ賦課權確定シ關稅業務モ亦確定ヲ見ルナリ朝鮮ニ於テハ移入稅ノ賦課ニ關シテモ亦朝鮮總督ニ訴願シ得ルモノトス(註一八一)

(註一八一) 明治四五年三月制令二十一號朝鮮關稅令及明治四四年制令二號ニ基ク訴願ニ關スル件明治二三年法律百五號訴願法
 二、異議(Protest; Proteso)トハ關稅賦課處分ニ付キ不服ナルモノカ税關長ニ對シ反省即チ再審査ヲ求ムル爲メニ申立ツルヲ謂フ法律タル關稅法ニヨリ此ノ異議ノ申立權認メラレ而シテ官廳タル税關長ハ之ニ對シテ其ノ審査ヲ爲シ適當ナル判定ヲ與フヘキ法律上ノ拘束ヲ受クル點ヨリ見テ其ノ性質ニ於テハ正式ノ訴願ノ一種ナリ是等ノ點ニ於テ單純ノ請願ト異ナル訴願ニ對シ第一審ノ實質ヲ有スルモノナリ從ツテ關稅法規ニ特ニ規定ナキ限リ訴願法(明治二三年法律百五號)ニ準據シ處理セラルヘキモノトス

(一) 異議申立ノ要件
 不當又ハ不法ノ關稅賦課處分ニ對シ異議ヲ申立ツルト否トハ納稅義務者ノ自由ニ屬スルモノ之レカ申立ヲ爲スニ付テハ左ノ要件ヲ必要トス(關六一條)

(イ) 關稅ノ賦課ニ關スル税關長ノ處分ニ對シテ爲スヲ要ス
 關稅ノ賦課ニ關スル處分トハ其ノ處分ノ内容ヲ爲ス課稅價格、稅率、貨物ノ種類、數量、容積ノ査定等苟クモ賦課處分ニ關スル事項ヲ云フ正式訴願事項ナル以上ハ過古ノ事項ニ對シテ爲スヘキモノナレハ此ノ賦課ニ關スル行政處分ノアリタルコトヲ要シ處分前ノ事項ニ關シテハ申立ツルコトヲ得サルモノトス即チ通關手續ノ遲滯當該稅關吏ノ

不親切等ニ付テハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス亦處分ニ直接ノ關聯ナキ請願及課稅ニ關スル意見等ハ異議ノ觀念ニ含まレズ稅關支署長又ハ出張所長カ爲シタル賦課處分ニ對シテモ稅關長ノ處分ニ外ナラサルニ依リ稅關長ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スヘキモノトス

茲 問題トナルハ關稅法第二條ニ依ル損傷減稅處分ニ關シテ異議ノ申立ヲ爲シ得ルヤ否ヤニアリ餘ハ積極說ヲ採ルコト前言ノ如シ學者或ハ其ノ恩惠的ノ制度ナルコト及法文ニ『減稅ヲ爲スコトヲ得』トアルコトヲ理由トシテ消極說ヲ採ルモノ(註一八二)アルモ苟クモ損傷減稅モノノ關稅ノ賦課ニ關スル處分ナルニ相違ナク且減稅ヲ爲スト否トカ稅關長ノ自由才量ニ依ルトハ云ヘ其ノ才量ヲ誤レルコトヲ主張スルニ依リテ其ノ適法ナル理由ト爲スコトヲ得ルヲ訴願法上ノ原則トスルヲ以テ之レヲ積極ニ解スルヲ妥當ナリトス

(註一八二) 太田正孝博士著關稅行政之研究第四三三頁

異議ノ申立ハ其他申告ニ依ラサル課稅ノ場合ニモ之レヲ認メラル即チ郵便ニ依ル輸入ノ場合、運送及回送ニ依ル貨物不到着ノ場合、私設保稅倉庫及假置場ニ於ケル貨物粉失ノ場合、私設保稅倉庫 於ケル貨物藏置期間ノ經過セル場合(期日ノ起算及滿了等ニ付)及第八十三條第三項ニ依リ犯則物件ニ關稅ヲ賦課スル場合之レナリ公賣處分ニ對シテハ假令關稅ノ賦課トスルモ其賦課處分ヲ受クルモノ不明ナルヲ以テ異議ヲ申立ツルコトヲ得サルコトナルヘシ

(ロ) 異議申立者ハ賦課處分ヲ受ケタル者ナルヲ要ス
 關稅法第六十一條ハ單ニ『其ノ處分ニ對シ不明アル者』トアリテ異議申立ノ權利ヲ有スル者ノ何人ナルカ不明ナルニ無制限ニ何人ニモ申立ヲ許スモノニアラス唯其ノ處分ニ依リ直接ニ權利ヲ侵害セラレタリトスル直接ノ相手方即チ申告者ニ限ルト解スヘキモノトス法人モ其ノ名ヲ以テ異議ヲ申立ツルコトヲ得(訴七條二項)

(ハ) 異議ノ申立ハ處分ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ爲スヲ要ス
 處分ヲ受ケタル日トハ處分ヲ受ケタルコトヲ知悉シ得ル狀態ニ置カレタル日ナルヲ以テ納稅ノ告知ヲ受ケタル日ト

ス期間ノ計算ハ關稅法第百條ニ依リテ爲スヘク異議申立書ハ右期間内ニ當該稅關長ニ到着スルコトヲ要スルノ意ニ
アラスシテ發送スルヲ以テ足ルト解ス

右ノ期間ハ除斥期間ナルヲ以テ法定ノ不變期間ニシテ時効ノ如ク其ノ進行ヲ中斷スルコトナシ從ツテ期限經過後ハ
異議申立權ハ當然消滅スト雖モ稅關長ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ期間經過後ニ於テモ之レヲ受理シ
得ルモ單純ノ請願トシテノ效力ヲ有スルニ過キスシテ稅關長ハ之レニ對シ判定ヲ爲ス拘束ヲ受クルモノニアラスシ
テ又之レヲ受理スルト否トハ關稅長ノ自由才量ニ依ルナリ

(ニ) 異議ノ申立ハ文書ヲ以テ爲スヲ要ス

異議申立文書ニハ不服ノ要領、理由、要求及處分ヲ受ケタル年月日ヲ記載シ之レニ附屬書類又ハ物件アルトキハ之
レヲ表示スヘキモノトス(註一八三)

(註一八三) 關稅五二條、朝關稅五三條

(ホ) 異議ノ申立ハ輸入申告ヲ要スル場合ニハ仕入書ノ添付アリシコトヲ要ス(關三二條二項)但シ郵便物其他輸入申
告者ノ提出ヲ要セサルモノ及稅關官吏ニ於テ仕入書ヲ添付シ能ハサルモノト認メラレタルモノハ此ノ限ニ在ラサル
コト既述ノ如シ

(ヘ) 異議ノ申立ハ貨物ノ取引前ナルヲ要ス

貨物ヲ引取リタル後ハ其ノ繫争物件ニ付キ再審査ヲ行フコト困難ナルニ依ル而シテ貨物取引ノ關係ヲ生セサル運送
貨物ノ不到着等ノ場合ニハ要件トナラサルヘシ
引取ハ現實ニ保稅地域ヨリ引取ルヲ云ヒ引取免許ヲ受ケタル後ト雖モ事實上尙保稅地域ニ在ル以上ハ引取前ト解ス
ヘキモノトス

(11) 異議ノ判定(Decision; Entscheidung; Décision)

關稅第六十一條ニ依リ異議ノ申立アリタルトキハ稅關長ハ之レニ對シ判定ヲ爲ササルヘカラス、判定ハ反省ヲ捉サレ
タルニ對シ再審査ヲ爲シタル結果トシテ爲サル稅關長ノ意思表示ナリ判定ノ爲メノ再審査ハ原則トシテ書面審理ノ
主義ヲ採ル勿論稅關ニ於テ必要ト認メタルトキハ口頭審理ヲ爲スコトヲ得ト雖モ之レ法律上ノ必要ニ非ス唯稅關長ノ
自由才量ニ依ル例外タルノミ判定ノ内容ハ申立ノ却下カ賦課處分ノ變更カノ何レカナリ却下ハ申立ノ理由相立タスト
爲スモノニシテ變更ハ既ニ爲シタル賦課處分ヲ取消シテ更ニ新ナル處分ヲ爲スヘキ旨ヲ決定スルモノナリ判定ハ文
書ニ因リテ交付スルコトヲ要ス(關六二條)異議判定書ニハ異議者ノ住所又ハ居所、氏名、異議申立ノ要領、判定ノ理
由及判定主文ヲ記載スヘシ(註一八四)判定書ノ交付ハ使丁ノ送達又ハ書留郵便ヲ以テシ之レヲ送達セハ其ノ受領書ヲ
徴シ若シ住所、居所不明ナルカ又ハ其他ノ事故ニ因リ交付スル能ハサルトキハ其ノ要領ヲ揭示シ其ノ日ヨリ七日間ヲ
經過シタルトキハ判定書ノ交付アリタルモノト看做サル(註一八五)

(註一八四) 關稅五二條、朝關稅五四條

(註一八五) 關稅五三條、五四條、五五條、朝關稅五五條、五六條、五七條

(三) 異議申立ノ效果

異議ノ申立ハ稅關長ノ賦課處分ノ執行ヲ停止セス但シ稅關長ハ必要ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得蓋シ
既ニ爲サレタル行政處分ハ之レカ取消變更アル迄ハ一應ハ適法ニ行ハレタルモノトノ推定ヲ受クヘキモノナレハナリ
異議申立中ノモノヲ執行シタル場合ニ於テハ他日其ノ處分ノ取消變更ヲ見タル際ニ於ケル諸種ノ更正手續ノ煩雜ナル
モノアルヘキヲ以テ稅關長ノ自由才量ヲ以テ執行ヲ停止スルヲ可トスヘシ

稅關長ノ異議判定ニ對シテ尙不服アル者ハ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得ルモノトス訴願ニ關シテ別ニ詳述スル所アル
ヘシ

三、從價稅品ニ對スル異議

第四章 輸移入行政

第四節 關稅ノ賦課

以上ハ從量稅品ニ關スル場合ナリシカ從價稅品ノ課稅價格ニ關スル異議ニシテ稅關長ニ於テ不當ナリト認ムルトキハ上述ノ方法ニヨラスシテ其ノ貨物ヲ買上クルカ若ハ評價スルカノ何レカニ依ルヘキモノトセラレタリ(關六三條)

買上、評價共ニ手數ヲ要スルヲ以テ其ノ具體の場合ニ於テ稅關長ノ自由才量ヲ以テ便宜トスル所ニ從ヒ何レニカ決シ得ル様定メラレタルモノナリ而シテ買上評價ノ方法ノ何レニ依ルモ之レカ事前ニ於テ異議者ニ通告スヘキモノトス(註一八六)此ノ通告ヲ爲シタルトキハ後ニ於テ之レヲ變更スルコトヲ得ス然レトモ通知後異議ヲ相當ト認ムルニ至リタルトキハ通知及賦課處分ヲ取消シ得ルコトハ勿論ナリ

從價稅ノ課稅價格ニ關スル異議ニ付テハ買上又ハ評價ノ方法ヲ以テ確定的ノモノナルヲ以テ其他ノ場合ニ於ケルカ如ク訴願ヲ爲シ得サルモノトス(關六八條)

(一) 買上價格ハ申告價格ニ其ノ百分ノ五ヲ加ヘタル價格ヲ以テス

稅關ノ鑑定シタル課稅價格ニ不服ナルモノハ自己ノ申告價格カ虛偽ノモノニアラサル限りハ當該貨物ノ到着價格ナルヘキヲ以テ之レニ普通ノ利潤五分ヲ標準ト看做シ加算スルモノナルヘシ(關六三條)故ニ異議申立者ハ此ノ價ヲ以テ買上ケラルルヤモ計ラレサルコトヲ豫見シテ異議ノ申立ヲ爲ササル可カラス

(註一八六) 關五五六條、朝關五八條、河津博士著、商業政策綱要二〇ノ一一一頁參照

此ノ買上權(Vorverkaufrecht)ヲ認メタル趣旨ハ蓋シ買上ニ依リ申告價格ノ正鵠ヲ得ントスル一般豫防ノ目的ニ供シ併セテ異議ノ亂用ヲモ防止セムトスルニ在リ買上タル貨物ハ官有物トナリ而シテ此ノ場合ハ既ニ述ヘタル如ク關稅ヲ徵收セサルモノトス此ノ場合ト雖モ外國貨物カ關稅線ヲ超エ内國ニ入りタル事實ハ明カナルモ輸入行爲ニ對シ輸入免許ヲ爲スカ如キ處分ヲ爲ササルヲ以テナリ政府ノ輸入スルモノト雖モ特ニ國策上免稅ヲ必要トスルモノノ外ハ會計法上ノ技術分配ノ點ヨリシテ一般の免稅スヘキモノニアラサルモノナルモ此ノ場合ハ課稅價格ノ不折合ノ處置トシテ徵稅官廳タル稅關カ自身買上權ヲ行使スルモノニシテ別ニ會計法上ノ技術分配ノ問題ニ關セス之レニ何等ノ法文モ

ナク輸入手續モナキ理由ナルヘシ買上品ヲ拂下クルトキニ於テハ輸入稅ヲ込メタルモノヲ以テスヘキモノト信スレトモ之レ亦何等ノ法文ナシ

(二) 評價ハ買上ヲ行ハサル場合ノ方法ナリ

蓋シ買上ルトキハ國家カ不要ノ貨物ヲ處分セサル可ラサルノミナラス之レカ買上ニ要スル經費等豫算上ノ關係モアレハ評價ニ依ル方法ヲモ加ヘタルナルヘシ

(イ) 評價人

評價人ハ四人トシ二人ハ稅關長之レヲ命シ他ノ二人ハ異議者之レヲ選定ス稅關長ノ命スルモノハ官吏タルト否トテ問ハス異議者ノ選定ハ貨物評價ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ爲シ其ノ職業住所又ハ居所氏名ヲ申告シ稅關長ノ認可ヲ受クルモノトス此ノ七日ノ期間ハ法定ノ不變期間ニアラサルヲ以テ異議者ノ申請ニ依リ稅關長ニ於テ必要ナリト認メタルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得若シ異議者ノ選定シタルモノ不適當ナルニ於テハ更ニ期間ヲ指定シテ其ノ改選ヲ命シ幾回ニテモ適任者ヲ得ルニ至ルマテ改選ヲ命スルコトヲ得ルモノトス

評價人ハ稅關長ノ選任スルモノナルト異議者ノ選定スルモノタルトテ問ハス與ニ公正ナル判斷ヲ國家ニ供與スヘキ責務ヲ負擔スルモノナルヲ以テ其ノ資格ヲ嚴重ニ制限シ左ノ缺資格ニ非ラサルモノニ限ルト定メラレタリ(關六四條)

一、身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破產宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

二、輸入禁制品ノ輸入ヲ圖リ又ハ其ノ輸入ヲ爲シタルモノ關稅ノ逃脫ヲ圖リ又ハ關稅ヲ逃脫シタルモノ及以上ノ關稅上ノ犯罪ニ係ル貨物ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ニシテ處罰ヲ受ケ滿三箇年ヲ經過セサル者

三、六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權ヲ得サル者六年未滿ノ懲役又ハ

禁錮ニ處セラレタル者及舊刑法ノ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終ル迄ノ者又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

四、當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者

當該事件ニ付利害ノ關係ヲ有スル者トハ當該事件ニ付直接ト間接トヲ問ハス經濟的ノ關係ヲ有スル者ヲ意味ス蓋シ公平ナル評價ヲ爲サシメムトスル立法ノ趣旨ナレハナリ故ニ稅關長ノ命スル官吏ニ於テモ官吏自身ノ利益ニハ何等ノ關係ナシト雖モ公法的關係ニ於テモ公平ヲ缺クカ如キ立場ニアル者ヨリ命ヘルヲ避クルハ立法ノ趣旨ニ合致スル所以ナルヘク從ツテ當該事件ニ關係ヲ有シ又ハ有スヘキ官吏中ヨリ命シ得サルモノト解ス只當該事件ニ何等ノ交渉ナキ官吏ニ限リ評價人ヨリ得ル資格ヲ有スルモノトス(註一八六)

評價人ハ其評價タル行爲カ公務員ナルヲ以テ公務員ニアラサルヤノ疑ナキニアラサルモ單ニ局限サレタル一事務ノミヲ處理スルモノナルヲ以テ刑法其他ニ於ケル公務員トハ異ナル恰モ法廷ニ於ケル鑑定人ト同シク其ノ事實ニ對シテ自己ノ判斷ニ依リ意見ヲ述ヘ價格ノ見積ヲ爲スニ過キサルモノナリ

評價人ノ選定ニ對シ認可ヲ與ヘタルトキハ稅關長ハ評價ノ時機及場所ヲ指定シテ異議者ニ通知スルモノトス(註一八七)

(註一八六) 反對說、太田正孝博士著關稅行政之研究第四四〇頁

(註一八七) 關稅五八條、五四條朝關稅六〇條六一條

(ロ) 評價方法

評價人ハ評價ノ理由ヲ評記シタル評價書ヲ作り之ヲ稅關ニ提出ス(註一八八)各評價人ノ評價スル所相一致スルトキハ之レニ依リ若シ一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ評價價格トス(關稅六五條)評價人ハ凡テ公平ナル見地ヨリ始メノ課稅價格ニ關係ナク評價スヘキモノトス

(註一八八) 關稅六十條、朝關稅六二條

(ハ) 課稅價格

評價人ノ評價書ニ依リ各人ノ評價一致セル時ハ之レヲ以テ課稅價格トシ若シ一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ課稅價格トス但シ右評價價格ニシテ最初ノ申告價格ヨリ少ナキ時ハ申告價格ヲ以テ課稅價格トス(關稅六五條)蓋シ申告價格ハ最初ヨリ承服セルモノナレハ之レ以下ニ低下スルノ必要ナケレハナリ斯クシテ定マリタル課稅價格ハ稅關長ヨリ異議者ニ通知スルモノトス(註一八九)而シテ此ノ課稅價格ノ決定ハ終結的決定ニ屬シ更ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得サルノミナラス訴訟ヲモ提起シ能ハサルモノトス(關稅六八條)異議者ノ選定シタル評價人ニ關スル費用ハ異議者ノ負擔トス(關稅六六條)

(註一八九) 關稅六一條、朝關稅六三條

四、訴願

從價稅品ニアラサル物品ノ賦課處分ニ關シ異議ノ申立ヲ爲シ稅關長ニ於テ之レヲ是正シ異議者ノ満足スル所トナレハ何等進轉セサレトモ其ノ稅關長ノ判定處分ニ對シ不服ナル場合ニ於テハ茲ニ訴願ノ問題ヲ生ス最初賦課處分ヲ爲シタル稅關長ニ異議ノ申立ヲ爲シ其ノ判定ニ不服ニシテ更ニ大藏大臣(朝鮮ニアリテハ其ノ總督)ニ訴願スルモノナルヲ以テ此ノ訴願ハ裁決スル權アル機關ノ種類ヨリ言ヘハ行政上ノ覆審の爭訟トナル訴願事項ハ訴願法第一條ニ列舉セラレ關稅法ニハ更ニ其ノ訴願シ得ル場合ヲ關稅法第六十二條ノ稅關長ノ判定ニ不服アル場合ニ限ラレタリ即チ訴願ハ其ノ判定處分ヲ受ケタル後ナルヲ要シ直ニ訴願ヲ提起シ得ルモノニアラス本條ハ素ト稅關長ノ處分ニ對スルモノトシ且直接大藏大臣ニ對シ提起シ得ル規定ナリシモ(明治四四年法律四四號ニテ改正)斯クテハ訴願ノ範圍餘リニ汎範トナルニ依リ賦課處分ニノミ限リ而カモ從價稅ノ課稅價格ニツキテハ除外セラレタルナリ訴願提起前ニ一應處分聽タル稅關長ノ反省ヲ促スヲ妥當ナリト認メタルニ因ルナルヘシ訴願ニ關シテハ關稅法ニ於テ特ニ定メラレタルモノノ外ハ訴願

法ニ依ルヘキモノトス今關稅法及訴願法ノ規定ニ從ヒ詳説スルコト左ノ如シ

(一) 訴願要件

(イ) 訴願ハ文書ヲ以テスルコトヲ要ス此ノ書面即チ訴願書ニハ不服ノ要點、理由、一定ノ要求、訴願人ノ身分職業住所、年齢、氏名等ヲ記載シ之レニ署名捺印シ且之レニ證據書類並ニ稅關長ノ判定書ヲ添フヘシ訴願書ノ侮辱誹毀ニ涉ルモノハ受理セラレサルモノトス(訴五條六條)

多數共同ノ訴願ハ三名以下ノ總代人ヲ選ヒテ委任セシメ亦法人ニ付テハ其ノ名ヲ以テスルヲ得ヘシ(訴七條)

(ロ) 訴願ヲ提起スルニハ處分ヲ爲シタル行政廳タル稅關ヲ經由スルコトヲ要ス其ノ經由ニ當レル稅關ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ十日以内ニ辯明書及必要文書ヲ添ヘ大藏大臣(朝鮮ニアリテハ總督)ニ發送スルコトヲ要ス(訴二條一一條)

處分稅關ヲ經由スル結果トシテ訴願書ニハ被告タル稅關ヲ指定スルヲ要セス

(ハ) 訴願ノ提起ハ法定期間内ナルコトヲ要ス訴願期間ハ處分アリタル日ヲ起算日トシ六十日以内ニ爲スヲ要ス此ノ期間ハ法定ノ不變期間ニシテ時効ノ如ク進行ヲ中斷スルコトナシ唯郵便ヲ以テ訴願書ヲ發送セル場合ニ於テ郵便遞送ノ日數ハ其ノ期間内ニ算入セス(訴十條)期間ノ經過ニ依リ訴願權ハ當然消滅スト雖モ法律若シ行政廳ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ期間經過後ニ於テモ訴願書ヲ受理シ得ヘキモノト爲セリ(訴八條)然レトモ期間經過後ハ訴願權ハ最早存在セサルモノナルヲ以テ其ノ訴願ハ唯單純ノ訴願(請願)タル地位ヲ有スルニ過キス故ニ之レヲ受理スルト否トハ專ラ行政廳ノ自由才量ニ依ルナリ訴願ノ提起ハ原則トシテ處分ノ執行ヲ停止スルノ效果ヲ有セサルコト異議ノ場合ニ述ヘタルト同シ即チ之レカ提起アルニ拘ラス其ノ處分ハ何等ノ故障ナク完全ニ其ノ效果ヲ發生ス蓋シ稅關ノ賦課處分ハ一應適法ナルモノト推測セラルヘキモノニシテ單ニ訴願ノ提起アリタルノ故ヲ以テハ未タ其ノ推測ヲ覆ヘスニ足ラサレハナリ勿論稅關ニ於テ其ノ職權ニ依リ又ハ訴願人ノ願ニ依リ其ノ執行ヲ停止スル

ヲ適當ト認メタルトキハ之レヲ停止スルコト亦異議ノ場合ニ同シ

(二) 訴願裁決ノ機關

關稅ノ賦課處分ニ關スル訴願裁決ノ機關ハ關稅法第六十九條ニ依リ委員會ヲ設クル旨定メ以下數條ニ於テ其ノ權限ヲモ定ムル所アルヲ以テ單ニ其ノ組織ニ關シテノミ勅令ヲ以テ定ムルコトトセリ(註一九〇)委員會ハ關稅訴願審査委員會ト稱シ會長一名委員九名ヲ以テ組織ス會長ハ大藏次官委員ハ大藏省高等官三人帝國大學教授三名商工省高等官二人司法省高等官一人ヲ以テ之レニ充テ尙必要アル場合ニ於テハ右定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得ルモノトス委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之レヲ命ス會長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシメ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理スル爲メ幹事一名ヲ置キ大藏省高等官通常ハ關稅課長ヲ以テ之レニ充テ庶務ニ從事スル爲メ大藏屬中ヨリ書記二名ヲ命スルモノトス

朝鮮ニアリテハ稍々其ノ趣ヲ異ニシ朝鮮訴願審査委員會ト稱シ朝鮮ニ於ケル關稅及移入稅ニ關スル訴願ヲ審査ス而シテ委員會ハ會長一名委員五名ヲ以テ之レヲ組織シ會長ハ政務總監委員ハ財務局長、殖産局長法務局長事務官二人ヲ以テ充テ委員中臨時委員及事務官ヲ以テ充ツルモノハ總督ノ奏請ニヨリ內閣ニ於テ之レヲ命ス其他内地ニ同シ臺灣ニアリテハ明治三十年二月勅令第九號「臺灣ニ於ケル政務中大藏大臣ノ主管事務ニ關スル件」ニ依リテ關稅事務ニ付テハ臺灣總督ハ大藏大臣ノ監督ヲ承クルヲ以テ關稅訴願事項ハ大藏大臣ノ所轄トス

(註一九〇) 關七三條(内地)明治三三年六月勅令二四九號關稅訴願審査委員會規則(朝鮮)明治四五年四月勅令八四號朝鮮關稅訴願審査委員會官制

關稅訴願審査委員會ハ其ノ設置及權限ニ關シ法律ヲ以テ定メ單ニ其ノ組織ニ付テノミ之レヲ勅令ニ讓レリ而カモ其ノ勅令ヲ以テ法律タル關稅法ニ定メタル權限ノ變更ヲ爲シ其ノ規定ノ事項ヲ實行シ得ヘカラサラシムルカ如キ方法ヲ取ルコトヲ得サルハ憲法上ニ於ケル官制大權ヲ法律ニ依リ制限セルモノト解セラル關稅訴願カ他ノ訴願事項ト異ナリ

行政訴訟ヲ許ササルハ關稅爭訟事項ハ主トシテ輸入物品ノ品質ニ關スル問題ニシテ技術上ノ知識ヲ要シ行政裁判所ニ於テ處理スルニ適セスト爲セルニヨル(註一九一)

(註一九一) 明治二三年法律第一〇六號行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件ニ於テ「關稅ヲ除ケ外租稅云々」トセルニ依リ行政訴訟事項ニヨラサルコト明カナリ

(三) 訴願ノ審理

訴願ノ審理ハ委員會カ處分廳タル稅關ノ地位ニ代リテ再ヒ同一事件ヲ審理スルモノニシテ原則トシテ書面審理主義(Written principle; Schriftlichkeitsprinzip; Principes par écrit)ヲ採ル委員會ニ於テ必要ト認メタルトキハ口頭審理(Mündlichkeit)ヲ爲スコトヲ得ト雖モ是レ法律上ノ必要ニアラス唯委員會 自由裁量ニ依ル例外タルノミ(訴一六條)委員會ハ職權ヲ以テ必要ナル證據材料ヲ集メ事實ヲ認定スルヲ得ヘク訴願者ハ又何時ニテモ新ナル理由及ヒ證據書類ヲ呈出スルコトヲ得ヘシ而シテ審理ノ範圍ハ訴願者ノ申立テタル不服ノ理由ノミニ付テ其ノ當否ヲ審査スルニ止マラス其ノ以外ノ理由ニ基キテモ裁決ヲ爲スコトヲ得ルモノトス即チ職權審理主義(Prosecution Maxim; Untersuchung-maxime; Maxime de poursuite)ヲ採ル委員會ハ委員過半數出席スルニ非ラサレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス決議ハ出席ノ委員ノ過半數ニ依リ之レヲ爲ス可同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル委員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ參與スルコトヲ得ス委員會ニ於テ審査ヲ了シタルトキハ其ノ結果ヲ大藏大臣(又ハ朝鮮總督)ニ具申スルノミ(註一九二)大藏大臣(又ハ朝鮮總督)ハ其ノ委員會ノ審査ノ結果ニ拘束セラルルコトナシ然レトモ大藏大臣ハ此ノ委員會ノ決議ヲ經スシテ直ニ裁決スルコトヲ得ス何ムトナレハ法律上委員會ノ審査ヲ必要トスレハナリ

(註一九二) 關七〇條七一條七二條

(四) 訴願ノ裁決

訴願ノ裁決ハ原則トシテ訴願者ノ要求ノ範圍ニ拘束セラレ其ノ以外ニ亘リテ審理シ裁決スルコトヲ得ス訴願者ノ不

利益ノ爲メニスル變更ハ亦之レヲ許ササルモノトス訴願ノ裁決ハ大藏大臣又ハ總督ノ名ヲ以テ文書ヲ以テ之レヲ爲シ其ノ理由ヲ付スルコトヲ要ス而シテ裁決ハ下級行政廳タル稅關長ヲ拘束スルモノニシテ當該事件ニ付テハ異ナリタル處分ヲ爲スコトヲ得ス但シ他ノ同一事件ニ及フモノニアラス(註一九三) 其ノ裁決ノ種類ニハ左ノ三種アリ

(イ) 却下

其ノ訴願ヲ以テ法律上ノ要件ヲ具備セサルモノト爲シ本案ノ審理ヲ拒絕スルモノナリ即チ訴願ノ要件ノ欠缺適法ノ手續ニ違背セルモノニ對シテ爲スモノナリ單ニ訴願書ノ方式ヲ缺クカ如キニ止マルモノハ期限ヲ指定シテ還付スルモノトス(訴九條)

(ロ) 變更

適法ニ訴願セラレタルモノニ付本案ノ審理ヲ爲シ稅關長ノ處分ヲ取消シ更ニ新ナル處分ヲ爲スヘキ旨ヲ決定スルモノナリ

(ハ) 棄却

訴願ヲ理由ナシトシ稅關長ノ爲シタル判定處分ヲ是認シ其ノ效力ヲ維持スルモノナリ此ノ場合ニ於テハ繫争ノ處分ハ恰モ其ノ訴願ナカリシト同シク其ノ效力ヲ繼續ス但シ之レニ依リテ其ノ處分ニ實質的確定力ヲ生スルモノニ非ラス裁決ハ只其ノ訴願ヲ理由ナシトシテ棄却シタルニ止マリ賦課處分其レ自身ノ效力ハ之ニ依リ毫モ重ヲ加フルコトナシ其ノ裁決以後ニ於テモ其ノ處分ハ依然トシテ稅關長ノ處分トシテ效力ヲ有スルモノニシテ稅關長ニ於テ必要ニ依リ之レカ取消變更スルコトヲモ爲シ得ヘキモノトス

(註一九三) 訴十四條十五條十六條

序ヲ以テ關稅ノ賦課處分ニ對スル以外ニ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲シ得ルモノアリヤ否ヤニツキ一言スヘシ
關稅ノ徵收ニツキ後述スル如ク犯則物件ニ對シ關稅ヲ賦課徵收スル場合(關八三條四項)及關稅又ハ噸稅等納付ノ爲

メ提供シタル證券ニシテ支拂ナカリシトキニ於テ爲ス強制徴收ノ場合(註一九四)即チ是等ハ國稅徴收法(朝鮮ニテハ國稅徴收令)ヲ準用スル場合ニシテ所謂滯納處分ヲ行フモノトス而シテ租稅ノ滯納處分(財産ノ差押及公賣ヲ含ミ其ノ前提トシテ行ハルル督促ヲ包含セス)ニ付テハ訴願シ得ルモノトセラレタルヲ以テ(訴一條二號)此ノ場合ニ於テハ稅關長ノ爲シタル滯納處分ニ對シ大藏大臣又ハ朝鮮總督ニ訴願シ得ルモノトス

(註一九四) 大正五年三月法律第十號證券ヲ以テスル輸入納付ニ關スル法律第二條第二項

行政訴訟ヲ提起シ得ルモノノ中ニモ「租稅ノ滯納處分ニ關スル件」ヲ掲ケタレトモ(註一九五)既ニ大藏大臣ニ訴願ヲ爲シタル以上ハ行政訴訟ヲ提起シ得サルモ行政裁判法第十七條第二項ニ依リ稅關ハ地方上級行政廳ナルヲ以テ直ニ行政訴訟ヲ提起シ得ヘキモノト解ス(註一九六)

(註一九五) 明治二十三年十月法律第一〇六號行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件

(註一九六) 反對說、太田正孝博士著關稅行政之研究第四四八頁ハ稅關ハ行政裁判法ニ所謂上級行政廳ニアラスト解ラセ

第五節 關稅ノ徴收

關稅ノ徴收ハ賦課ニ次テ爲サルル國家ノ行爲ニシテ私人ノ一財産權ノ剝脫ナルヲ以テ之レカ徴收ニ當リテハ法律ニ根據ヲ有セサル可ラサルコト明カナリ(憲法二一條)而シテ之レカ徴收ハ法律ノ定ムル所ニ依リ爲ス可キモノトス(會一二條)徴收ハ國家ノ課稅權ノ作用トシテ見タル方面ニシテ之レヲ個人ノ義務方面ヨリ見タルトキハ即チ納稅ト稱ス

今研究ノ便宜上(一)納稅義務者(二)徴收方法(三)擔保(四)納稅義務ノ消滅ニ分テ論述スヘシ

第一款 納稅義務者

關稅ノ納稅義務者ハ原則トシテ貨物ノ輸入申告者ナリ(關四條)而シテ輸入ノ方法若ハ輸入ノ事實ニ種々ノ態樣アルヲ以テ其ノ義務者モ各場合ニ應ジテ異ナルモノトス

(イ) 輸入申告者普通ノ場合ニ於テハ貨物ノ輸入ハ輸入申告ニ依リ免許ヲ受ケテ爲スヲ以テ其ノ輸入申告者ヨリ關稅ヲ徴收スルモノトセラレ輸入申告者トハ貨物ヲ輸入セムトスルモノナレハ足り貨物ノ所有權不又ハ占有者タルヲ要セス而カモ其ノ占有カ不法ノ原因ニ基ク場合ト雖モ差支ナク竊盜等ニ因ル贓物タルモ妨クス只贓物タルヲ知りナカラ通關セシムルハ不穩當ナル處分トシテノ謗ヲ免レス又其ノ貨物カ共有ノモノタルモ可ナリ稅關貨物取扱人カ貨主ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テ申告ヲ爲ス場合ハ當然稅關貨物取扱人カ申告者ナリ而シテ申告ノ方法カ文書ニ依ルト口頭ニ依ルトヲ問ハサルヲ以テ旅客携帶品ヲ輸入スルトキモ此ノ場合ニ入ルヘキモノナリ亦海底埋沒品ノ拾得者ハ之レヲ公海ニテ拾得セルト領海内ニテ拾得セルトヲ問ハズ外國產品ナルコト明カナルモノハ其カ拾得者ニ於テ輸入申告ヲ爲スヘキモノトス

(ロ) 郵便物ノ名宛人

郵便物ニツキテハ名宛人ニ於テ郵便局ヨリ通知ノ稅額ニ應ジテ之レヲ受取ラムトスル場合即チ名宛人ニ郵便物ヲ交付スル場合ノ外之レヲ課セサルモノトス郵便物ノ名宛人ニシテ其ノ郵便物ヲ受取フムトスルモノカ納稅義務者トナル(註一九七)

(ハ) 運送申告者

運送貨物ニシテ相當期間内ニ運送先ニ到達セサルトキハ輸入サレタルモノト看做シテ運送申告者ヨリ關稅ヲ徴收スル規定(關三九條ノ三)ナルヲ以テ此ノ場合ニ於ケル納稅義務者ハ運送申告者ナリ

(ニ) 保税倉庫ノ庫主

私設保税倉庫ニ保管中ノ貨物ニシテ其ノ庫入ノ日ヨリ滿三箇年ヲ過クルトキ又ハ盜難ニ罹リ若ハ紛失シタルトキハ

其ノ保管貨物ニ關スル一切ノ責任ハ庫主ニ負ハシメタルヲ以テ此ノ場合ニ於テ庫主カ納稅義務者トナル(註一九七)

(ホ) 保税倉庫ノ貨主
外國貨物ヲ他ノ保税倉庫ニ運搬セムトシテ稅關長ノ指定期間内ニ仕向地ニ到達セシメサルトキハ貨主ヨリ關稅ヲ徵收ス(保九號二項)ルノ規定ナルヲ以テ納稅義務者ハ貨主ナリ

此ノ場合ニ於テハ多ク庫出ニ際シ預證券ヲ要スルヲ以テ貨主ハ運送申告者タルモ貨主ノ知ラサル内ニ運送手續ヲ爲スモノアル時モ貨主ニ對シ課セシムルコトナルヘキヲ以テ運送ノ場合ト同様ニ律スヘキモノニ非ラスト解ス

(ヘ) 保税工場被特許者
私設保税工場ニ於テ其ノ藏置中ノ貨物カ盜難ニ罹リ又ハ紛失シタルトキハ之レカ輸入アリタルモノト看做シ私設保税工場ノ被特許者ヨリ關稅ヲ徵收スルモノトス(工施二三條、朝工施二四條)

(ト) 犯則ニ依リ沒收スヘキ貨物カ犯則者以外ノモノニ屬シ又ハ消費其他ノ事由ニ依リ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ關稅ハ犯則當時ノ貨物ノ所有者ヨリ之レヲ徵收ス之レ犯則當時ノ貨物ノ所有者ハ關稅未納ニ依ル利益ヲ得タルモノト推定スル法意ナリ「犯則者以外ノモノニ屬シ」トハ所有權ノ移轉ハ勿論ニシテ其地占有權等ノ物權ノ目的トナリタルコトヲ意味ス然レトモ貨物カ所有者ノ占有ニ歸セサル間ニ減失シ又ハ第三者ニ歸屬シタルトキ尙ホ犯則當時ノ所有者ヨリ徵收ノ道理ナキヲ以テ斯ル場合ニハ犯則者ヨリ徵收スヘキモノトセリ(關八三條三項)

茲ニ問題視スヘキハ犯則物件ノ沒收不可能ナル場合ニ於テ爲ス追徵ハ當該事件カ司法裁判所ニ繫屬スル場合ニ於テモ稅關ハ之レト獨立シテ行政處分ニテ爲シ得ルヤ否ニアリ犯則事件カ司法裁判所ニ關係ナク稅關ノ行政處分ニテ結了スル場合ニアリテハ追徵シ任意追徵ニ應セサルトキハ國稅徵收權ニ依リ強制徵收ヲ爲シ得レトモ一度稅關ノ手ヲ放シ司法裁判所ニ繫屬シタルトキハ行政廳タル稅關 司法裁判所ニ獨立シテ追徵處分ヲ行フヘキモノニアラスシテ當該事件ノ審理終結シ追徵スヘキ旨ノ判決アリタル後ニアラサレハ徵收シ得スト解スヘキモノトス何ントナレハ當

該事件ハ果シテ司法裁判所ニ於テ有罪ノ判決ヲ爲スヤ否ヤ不明ナル間ニ有罪ナルヘシトノ斷定ノ下ニ於テ追徵處分ヲ爲スハ甚タ穩當ヲ缺クハナリ而シテ行政慣例トシテハ關稅ノ賦課ハ行政處分ナルヲ以テ司法裁判所ノ決定ト獨立シテ爲ス素ヨリ判決ノ如何ニヨリテ賦課處分ヲ取消シ得ト主張スルモ此ノ賦課處分ハ違法ナルヘク從テ異議及訴願ノ目的トナリ得ルモノナルヘシ

(註一九七) 關四三條一項四四條

(註一九八) 保二十條、二三條、保施三八條

第二款 關稅ノ徵收方法

一、關稅ノ徵收ハ原則トシテ關稅法ノ定ムル所ニ依リ國稅徵收法ニ依ルヘキモノニアラス(國一條)只例外トシテ其ノ適用ヲ見ルノミ國稅徵收法ニ依レハ稅金ヲ完納セサル場合ハ督促シ次テ滯納處分トシテ納稅義務者ノ財產ヲ差押ヘ之レヲ公賣シテ稅金ニ充當スル等強制徵收ヲ爲スモノナルカ關稅ノ徵收ニ付テハ斯ル方法ニ依ラス其ハ大體左ノ理由ニ基クカ如シ

(一) 稅關徵收權ノ行使ノ確實ナルコト

稅關ハ輸入ナル事實ニ對シテ課スルモノナルヲ以テ他ノ國稅ニ比シ其ノ實行容易ニシテ且確實ナリ之レヲ法文ニ見ルモ關稅法第五條ニ依レハ「關稅未納ノ貨物ハ其ノ關稅ノ擔保トス」亦第六條ニ「徵收スヘキ關稅ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之レニ充ツ」ト定メラレ國家ノ徵收權ハ恰モ私法上ニ於ケル留置權ト類似ノ作用ヲ爲シ得ル様ニ定メラレタリ私法上ノ留置權カ其ノ物ニ關シテ生シタル債權ノ辯濟アルマテ其ノ物ヲ占有スルニ在リテ占有ヲ離脱シタルトキハ留置權ノ行使ハ出來サルト同様關稅法上ニ於テモ公ノ債權タル關稅ノ納付アルマテ占有ニハアラサルモ占有ト類

似ノ作用アル税關構内其他ノ保税地域ニ於テ強制藏置ヲ爲サシメ之レカ納付アリテ始メテ引取ラシムルニ在リ而シテ一度税關ヨリ引取ラレタル以上ハ其ノ物ヲ追及セサルモノナリ斯カル私法上ニ於ケル留置權ニ類似セル作用ヲ有スルヨリ之レヲ公法上ノ留置權 (Öffentlich-rechtliches Zurückbehaltungsrecht) ト稱ス故ニ關稅法第五條ニ所謂「擔保」ナル意ハ私法上ニ於ケル擔保權ノ謂ニアラスシテ此ノ意味ニ於ケルモノトス即チ關稅ヲ納付セサルトキハ輸入スルコト能ハサルコト恰モ物カ債權ノ擔保ニ於ケルト同様ノ状態ニアルモノト解スヘキモノナリ徵收猶豫免許前引取等ノ場合ニ於テ關稅ニ相當スル擔保ヲ提供スル制度アルカ是等ノ場合ニ於テ徵收スヘキ關稅ヲ納付セサルトキハ其ノ擔保ヲ充當シ得ルコトト定メラレ其ノ徵收權ハ極メテ確實ナルモノナリ

(二) 貨物ハ輸入後自由ニ轉輸シ得ルモノナルコト

貨物ハ輸入後ニ於テ取引市場等ニ於テ自由ニ轉輸スヘキ性質ヲ要スルニ係ハラス之レカ輸入後ニ於テモ之レヲ追從シテ關稅徵收權ヲ行フトセハ取引社會ヲ攪亂スル虞ナシトセス之レ關稅ノ徵收ニ關稅徵收法ヲ適用セサル第二ノ理由トス關稅徵收權ニ付テハ輸入前ニ於テ容易ニ行使シ得ルヲ以テナルヘシ此ノ法意ハ之レカ直接ノ規定ナケレトモ關稅法規全體ヲ通シテ推斷スルニ難カラス即チ課稅處分ニ對スル異議カ貨物引取前ナルヲ要シ貨物引取後強制徵收ヲ爲シ得サル事情ニ鑑ミテ諸般ノ關稅取締ノ方法ヲ設ケタルヲ以テモ知り得ヘシ又各國ノ關稅法ニ於テ強制徵收ヲ認メサルモノ此ノ理由ニヨルモノノ如シ

以上ハ原則ナルモ例外トシテ關稅ノ徵收ニ關シ關稅徵收法ヲ適用スル場合ニアリ

(イ) 犯則貨物ヲ沒收シ得サルトキ

此ノ場合ハ事實上輸入引取後ニ於テ犯則事實ノ發覺シ關稅徵收權ノ發動ノ時期ニ於テハ既ニ納稅ヲ確保スベキ貨物存在セサルヲ以テ已ムヲ得ス強制徵收ニ依ラサル可ラサルニ因ル

(ロ) 證券納付ノ關稅又ハ噸稅ノ支拂ナカリシトキ

此ノ場合ニ於テモ證券ニテ關稅(又ハ噸稅)ヲ納付シ當該貨物ハ引取ラレ其後支拂期ニ於テ納稅義務者ニ於テ納付セサルモノナレハ既ニ其ノ時ニ於テハ納稅ヲ確保スヘキ貨物存在セサルヲ以テナリ

二、關稅ハ原則トシテ關稅徵收法ヲ適用セサルモ國家ノ債權ナル點ニ於テハ他ノ國稅ト同一ナルヲ以テ之レカ強制徵收ノ場合ニ於テ是等ノ間ニ順位ノ問題ヲ生ス關稅徵收法第二條ニ於テ「國稅ノ徵收ハ總テ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス」トセラレ亦關稅法第五條第二項ニ於テ「關稅ノ徵收ハ總テ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス」トセルヲ以テ同一用語ヲ使用セルニ依リ疑問ナシトセサルモ關稅法ハ徵收ニ關シテ關稅徵收法ノ特別法タル性質ヲ有スルヲ以テ「特別法ハ普通法ニ優先ス」トノ原則ニヨリ關稅徵收權カ他ノ凡テノ公課ニ優先スルモノト解スヘキモノトス從テ關稅ヲ完納スル迄ハ他ノ租稅等ノ公課ヲ徵收シ得サルハ勿論一般債權破產管財人等ト雖モ關稅義務者ニ對シ其ノ權利ヲ行ヒ得サルモノトス

三、關稅ノ徵收手續ニ關シテハ關稅徵收法ニ比シ極メテ簡單ナリ

(一) 告知

關稅徵收ニ入ル第一ノ行爲ハ稅關ノ内部ニテ決定シタル意思ニ從ヒ之レヲ輸入申告者ニ對シ表示スルニ在リ此ノ表示ノ爲メニナス通知行爲ヲ告知ト謂フ納稅ノ告知ハ歲入徵收官若クハ其ノ指揮ヲ受クル分掌者ヨリ納稅人ニ對シテ其ノ稅額及納付ノ場所ヲ通知スルモノナリ

(イ) 歲入徵收官トハ會計法第十二號第二項ニ所謂「法令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ノ資格アル者」トセル官吏ノ謂ニシテ關稅ニ付テハ稅關長トス而シテ各所屬支署、出張所ニハ其ノ分掌者ヲ置クコト亦同法ノ定ムル所ナリ(註一九九) 歲入徵收官ト併ヒ收入官吏ナル名稱アリ(註二〇〇) 前者ハ關稅ノ納付ヲ命スルモノナルモ後者ハ實際ニ納稅事實ヲ確認スルモノナリ

稅關ニ於テハ稅關長ヲ主任收入官吏トシ稅關支署長ハ所屬稅關主任收入官吏トシ稅關長ハ必要ニ應シ部下ノ官吏ニ

分任收入官吏ヲ命スルコトヲ得(註二〇一)朝鮮ニ於テハ稅關長自ラ主任收入官吏タラスシテ其ノ廳ノ官吏中ヨリ之ヲ命シ支署ニ於テモ其ノ部下職員ヨリ補スルコトナリ居レリ(註二〇二)國家ノ收入事務執行ニ當リテハ其ノ公正ヲ期スル爲メ徵收官ト收入官吏トノ二大系統ニ別ツテ原則トス内地稅關ノ現制ハ右分立ノ原則ニ反スルカ如キモ實際上稅關長ノ發スル納付命令ニ依リ現金ヲ收納スルハ多クノ場合日本銀行ニシテ稅關長カ直接收納事務ニ當ル場合ハ稀レナルヲ以テ分立ノ原則ニ對シテ例外ヲ認メタルモノナルヘシ而シテ收入官吏ハ其ノ責任ニ屬スル收入ニ付キ自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其ノ責任ヲ免ルルヲ得サルモノナレトモ(會三五、三六條)各省大臣カ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ代理官又ハ分任官ヲ命シ之レヲ分掌セシメタル場合ハ其ノ行爲ニツキテハ其ノ責ヲ負ハサルモノトス(會三七條)此ノ代理官ハ事務ノ全部ヲ代理シ分任官ハ其ノ一部ヲ分掌シ分任收入官吏ト稱ス

(註一九九) 會十二條二項但書會規二八條

(註二〇〇) 會三五條會規三三條大正十一年一月大藏省令第二號出納官吏事務規程第十三條

(ロ)納稅人ノ何人タルカハ輸入ノ狀態ニ依リ異ナルコト既述ノ如シ而シテ納稅告知ハ納稅人以外ニ爲ス方法ヲ認メス從テ關稅徵收ニハ內國稅ノ如ク納稅管理人ナル制度ヲ認メサルモノトス(國四條ノ六)

(註二〇一) 明治三十五年大藏省訓令條五五號收入官吏任命方明治三十三年大藏省訓令第一六號稅關及稅務監督局收入官吏配

置方第一條

(註二〇二) 大正三年朝鮮總督府訓令會計事務章程第九條第十條第十二條

(ハ)通知事項ハ稅額及受領者ナリ受領者ハ收入官吏若ハ分任收入官吏又ハ其ノ指定シタル日本銀行(本店、支店又ハ代理店)ト郵便物ノ關稅ハ郵便局トス(關四三條)大正十一年三月三十一日迄ハ日本銀行ヲ金庫ニ指定シ國庫金ノ保管出納ヲ取扱ハシメタルモ大正十一年四月一日ヨリ新會計法及會計規則施行セラルルニ至リテ金庫制度ヲ廢シ預金制度ニ改メ會計法第五條ニ於テ日本銀行ヲシテ國庫金出納ノ事務ヲ取扱ハシムルコトナレリ國庫ハ一切ノ收

支ヲ司トルモノニシテ國家ノ財政的方面ヨリ見タル用語ナリ即チ國家ノ官廳ハ多少トナク法律命令ヲ以テ規定シタルモノヲ除クノ外特別ノ資金ヲ有シ得サルモノニシテ國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘク直ニ之レヲ使用スルヲ得ス亦其ノ所管ノ定額ヲ使用スル爲メハ現金ノ交付ニ代ヘ日本銀行ヲ支拂入トスル小切手ヲ振出スコトトシテ國庫統一主義ヲ保持スルモノトス(會四條、十四條)國家カ自ラ金庫ヲ設ケ(固有金庫制度)官吏ヲシテ收支ヲ取扱フコトトスルニ於テハ其ノ取締等ニツキ不便アルヲ以テ中央銀行タル日本銀行ヲシテ取扱ハシムルコトトセルモノナリ收入官吏ノ事務ニ關シテハ大正十一年一月大藏省令第二號出納官吏事務規程ヲ以テ詳細ニ定メラレタリ

(ニ)納稅ノ告知ハ文書ニ依ル場合ト否ラサル場合トアリ其ノ何レニ依ルヘキカハ歲入徵收官ノ決定スル所ナルカ法律ハ只日本銀行(本店支店又ハ代理店)ニ納付セシムル場合ノ外告知書ヲ要セスト規定セルノミ(註二〇三)然レトモ實際ハ告知書主義ヲ採ル

(イ)文書ニ依ル場合、納付金額、時期及納付スヘキ日本銀行本店、支店又ハ代理店ヲ指定シ之レヨリ納付セシム(註二〇四)告知書送達ニ付テハ國稅徵收法ト異ナリ何等規定スル所ナシ(註二〇五)告知カ納稅義務者ニ對スル稅關ノ意思表示ナルヲ以テ意思表示ノ受領ニ關スル一般原則ニ依リ相手方ヲシテ了知シ得ル狀態ニ置クヲ以テ足ルヘク即チ到達主義ヲ可トスヘシ又關稅ニ付テハ國稅徵收法ヲ準用スル場合ノ外內國稅ニ於ケルカ如ク公示送達ノ方法ヲ認メス告知書ノ様式ハ内地ニアリテハ大藏省訓令ニテ朝鮮ニアリテハ朝鮮總督府訓令ニテ夫々定メラレタリ

(註二〇三) 關稅三條但書 朝關稅三條但書

(註二〇四) 關稅三條四條、朝關稅三條四條

(註二〇五) 國四條ノ七第四條ノ八

(b)文書ニ依ラサル場合、日本銀行本店、支店又ハ代理店ニ納付スルヲ不便トスル場合ニシテ例ヘハ旅客携帶品ニ對ス

ル納税及關稅法第三十一條但書ニ掲ケタル遭難等ニ依ル貨物ニ對スル徵稅若ハ日本銀行本店支店又ハ代理店ノ所在地外ノ稅關支署、出張所等ニ於テ徵稅スル場合ニ於ケルカ如シ

郵便物ニ關シテハ既述ノ如ク其ノ告知ニ關シテ特別ノ規定アリ則チ郵便物中關稅ヲ賦課スヘキ物品アルトキハ稅關ハ其ノ稅額ヲ郵便局ニ通知シ郵便局ハ更ニ郵便物交付前ニ之レヲ名宛人ニ通知スヘキモノトセラレタリ(註二〇六)

(註二〇六) 關四二條、關施六條、朝關施六條

(二) 關稅ノ納付

關稅納付ハ既ニ發生セル公義務ノ履行ノ爲メニ爲サルル行爲ニシテ法律行爲ニアラス從テ無能力者ト雖モ有效ニ爲シ得ルモノトス

(イ) 納付ハ貨幣又ハ信用證券ヲ以テスルコトヲ要ス物品又ハ勞力ニ依リテ爲ス納付ハ近世貨幣經濟組織ノ下ニ於テ見サル所ニ屬ス貨幣ハ日本ノ通貨(硬貨兌換券)ヲ以テスルヲ要ス(會規三一條) 輒近信用取引ノ盛ナルニ伴ヒ貨幣ニ代フルニ證券納付ヲ認ムルニ至レリ租稅納付ニ證券ヲ認メタルハ英國ヲ嚆矢トシ我國ニ於テモ大正六年一月一日ヨリ之レカ制度ヲ認メラルルニ至レリ(註二〇七) 證券納付ヲ認メラレテ以來貿易上ノ大取引ニハ之レカ利用多キニ上レリ今證券納付ノ制度ニ付キ說明セムトス

(a) 證券納付ヲ認メラルル範圍

證券ヲ以テ納付シ得ヘキ歳入ノ種目ハ夫々命令ノ定ムル所ニシテ内地ニアリテハ大藏省令ニ依リ大藏省主管ノ歳入ニハ總テ爲シ得ルモノトセラル(註二〇八) 故ニ關稅ハ當然其ノ範圍ニ入ルモノトス但シ關稅法第九十四條即チ關稅犯則ニ依ル納金ニ付テハ政府以外ノ者ノ振出シタル小切手又ハ爲替手形ハ其ノ納付ニ使用スルコトヲ得ス(註二〇九) 蓋シ直ニ換價シ得サルヤモ計ラレサル如キモノヲ犯則ノ納金トシテ許スハ寬大ニ過クルモノナレハナルヘシ

(註二〇七) 大正五年法律第十號證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル件大正五年大藏省令第三十二號證券ヲ以テスル歳入納付ニ

關スル法律施行規則大正五年勅令第二五六號歳入納付ニ使用スル證券ニ關スル件大正五年大藏省令第三十號歳入納付ニ使用スル證券ニ關スル件第六條第一項ニ依リ證券ノ納付ニ關スル制限證券ヲ以テ納付シ得ル歳入ノ種目、制限及場所ニ關シテハ(内地)ハ同年大藏省令第三十一號(朝鮮)大正六年朝鮮總督府令第二十二號(臺灣)大正五年府令第七十一號(關東州)大正六年府令第七號ニ依リ定メラレタリ

(註二〇八) 大正五年勅令第二五六號第五條同年大藏省令第三十一號第一條

(註二〇九) 前掲大藏省令第三十一號第二條第三號

(b) 證券納付ヲ認メラルル證券ノ種類

關稅納付ニ使用シ得ル證券ハ左ニ掲クルモノニシテ其ノ金額ノ納付金額ヲ超過セサルモノニ限ル(註二一〇)

(一) 小切手又ハ一覽拂ノ爲替手形ニシテ無記名式又ハ記名持參人拂ノモノニシテ左ノ制限アリ

(甲) 政府ノ振出シタル小切手ハ其ノ振出日ヨリ一年ヲ經過セサルモノニシテ且裏書禁止ノ旨ノ記載ナキモノナルコトヲ要ス

(乙) 前項以外ノ小切手ハ左ニ掲クル銀行ニ宛テタルモノニシテ且振出人ニ於テ支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除シタルモノナルコトヲ要ス

- 一、特別ノ法律ニ依リ設立セラレタル銀行(本店及支店)
- 二、手形交換所ニ加入シタル銀行(當該本店若ハ支店ニ限ル第三號乃至第五號之レニ倣フ)
- 三、國庫金出納事務ノ取扱ニ付キ日本銀行ノ代理店タル銀行
- 四、道府縣本庫ノ事務ヲ取扱フ銀行
- 五、朝鮮ノ道金庫、臺灣ノ州金庫廳地方費金取扱所又ハ關東州ノ地方費現金取扱所ノ事務ヲ取扱フ銀行
- 六、第二號乃至第五號ニ該當スル銀行ノ所在地ニ在ル同一銀行ノ支店

尙ホ右各號ノ小切手ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外其ノ一通ノ金額又ハ一口ノ歳入納付ニ使用スル其ノ合計金百圓以上ナルトハキ支拂銀行ノ支拂保證アルモノナルコトヲ要ス

一、日本銀行本店、支店又ハ國庫金出納事務ノ取扱ニ付キ日本銀行ノ代理店タル銀行ニ宛テタルモノニシテ之ヲ日本銀行ニ納付スルトキ

二、歳入納付ノ告知ヲ爲ス官署ニ於テ支拂保證アルコトヲ要セサル旨ノ承認ヲ與ヘタルトキ歳入納付ノ告知ヲ爲ス官署ハ保證人又ハ擔保物アル歳入ニシテ其ノ告知額ヲ納付スルモ直ニ保證證書又ハ擔保物ノ返還ヲ要セサルモノニ限り右ノ承認ヲ與フルコトヲ得

(丙)爲替手形ハ日本銀行本店、支店又ハ國庫金出納事務ノ取扱ニ付日本銀行ノ代理店タル銀行(當該本店若ハ支店ニ限ル)ニ宛テタルモノニシテ振出人ニ於テ支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタルモノナルコトヲ要ス爲替手形ハ日本銀行ニ歳入ヲ納付スル場合ノ外之レヲ使用スルコトヲ要ス

(一)無記名國債證券ノ利札ニシテ仕拂期ノ到達シタルモノ(資本利子税納付ニ付)

(三)官内省ノ仕拂命令又ハ保管金引出切符ニシテ納人ノ爲メ發行シタルモノ

(四)郵便通常爲替證書ニシテ歳入ヲ納付スヘキ官署、日本銀行、市町村ヲ受取人ト爲シタルモノ又ハ郵便小爲替證書ニシテ歳入ヲ納付スヘキ官署、日本銀行、市町村ヲ受取人ト指定シ若ハ受取人ヲ指定セサルモノ

右ノ證券ニシテ呈示期間若ハ有效期間ノ滿了ニ近ツキタルモノ又ハ支拂不確實ナリト認ムルモノハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村其ノ受領ヲ拒絕スルコトヲ得證券ノ支拂場所カ受領者ノ所在地ニ在ラサルモノニ付亦同シ但シ支拂場所カ受領者ノ拂込又ハ送付ヲ爲ス日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ノ所在地ニ在ルモノハ此ノ限りニ非ラス

(註二一〇) 前掲勅令第一條第二條第三條第四條

朝鮮、臺灣、關東州ニ於テハ別ニ夫々命令ヲ以テ其ノ證券納付ノ種目制限及場所ヲ定メラレタリ(註二〇七參照)

郵便物ノ關稅ニ付テハ必ス收入印紙ニ依ルヘキヲ以テ貨幣又ハ證券納付ノ方法ハ認メラレス(關四三條二項)

(c)證券納付ノ效果

納付シタル證券ヲ呈示期間内又ハ有效期間内ニ呈示シ支拂ヲ請求シタル場合ニ於テ支拂ノ拒絕アリタルトキハ歳入ハ初ヨリ納付ナカリシモノト看做シ出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ納人ニ對シ遲滞ナク書面ヲ以テ證券ノ支拂ナカリシ旨及其ノ證券ノ還付ヲ請求スヘキ旨ヲ通知スヘキモノトス而シテ右通知ヲ受クヘキ者其ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ住所居所不明ナルトキハ通知者記載ノ要旨ヲ公告スヘシ右通告書ヲ發シタル日又ハ右公告ヲ爲シタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ納人ハ證券ノ還付ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス(註二一一)此ノ支拂拒絕ノ場合ニ於テ裁判上ノ行爲ヲ必要トスルトキハ出納官吏在勤官署ニ在リテハ民事訴訟ニ付國ヲ代表スル所屬官廳ニ、日本銀行ニ在リテハ大藏大臣ニ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シテ之レカ處理ヲ申請スルヲ要スルモノトス亡失シタル證券又ハ呈示期間若ハ有效期間ヲ經過シタル證券ニシテ支拂又ハ債還ヲ受クルコトヲ得サリシモノノ金額ニ付テハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ避クヘカラサル事由ヲ證明スルニアラサレハ其ノ責任ヲ免カルルコトヲ得サルモノトス(註二一二)

(註二一一) 前掲勅令第二條第三條

(註二一二) 大正五年大藏省令第三二號第十條第十一條

(ロ)納付ハ法定ノ受領者カ領收スルコトヲ要ス
納稅義務者ノ履行アリテ政府側ニ於ケル法定ノ受領者ノ受領スルコトニ因リテ納稅義務及徵收權ハ終了ス而シテ領收者ノ異ナルニ因リ其ノ規定及方法ヲ異ニス

(a)收入官吏ニ於テ關稅ヲ領收スル場合ハ其ノ領收證書ヲ納人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歳入徵收官ニ報告スルモノトス
(註二一三) 歳入國庫統一主義ニ依リ收入官吏ハ其ノ領收シタル金額ヲ毎月一回若ハ數回之レヲ日本銀行(本店、支店又ハ代理店以下之ヲ略ス)拂込ムモノトス(註二一四) 出納員又ハ分任收入官吏ノ受領シタルモノハ會計規則第百

二十九條ニ依リ所屬收入官吏ニ拂込ミ收入官吏ハ更ニ之ヲ日本銀行ニ拂込ムヘキ順序ナリ收入官吏ノ入金拂込ニ關シテハ大正十一年一月大藏省令第二號出納官吏事務規程第十八條乃至第二十三條ノ定ムル所ニシテ左ノ如シ
 日本銀行所在地ニ在勤スル收入官吏其ノ在勤地ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ現金拂込書ヲ添ヘ現金領收ノ日又ハ其ノ翌日日本銀行ニ拂込ムヘシ但シ領收金額百圓未満ナルトキハ毎十日分ヲ取纏メ日本銀行ニ拂込ムコトヲ得ルモノトス日本銀行所在地外ニ在勤スル收入官吏其ノ在勤地ニ於テ現金ヲ受領シタルトキハ左記期限内ニ現金拂込書ヲ添ヘ日本銀行ニ拂込ムヘシ但シ第二號乃至第四號ノ場合ニ於テ最初ノ現金領收ノ日ヨリ起算シテ十五日間ヲ超ユルコトヲ得サルモノトス

- 一、領收金高百圓未満ナルトキハ最初ノ現金領收ノ日ヨリ起算シテ十五日内
- 二、領收金高百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シテ十日内
- 三、領收金高五百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シテ五日間
- 四、領收金高千圓以上ニ達シタルトキハ其ノ翌日限

朝鮮ニ於テハ逓信官署現金受拂規則(大正十一年四月府令五七號)所定ノ納付書ニ依リ右列記ノ期間内ニ其ノ地又ハ最寄ノ郵便局所ニ拂込ムヘキモノトス

運輸交通ノ不便ナル地方ニ在勤スル收入官吏ニシテ右期間内ニ拂込ミ難キ場合ニ於テハ所管大臣、大藏大臣ト協議シ之レカ特例ヲ設クルコトヲ得ルモノトス外國ニ於テ現金ヲ領收シタルトキモ右ニ準スルモ外國貨幣ニテ拂込ミノ場合ハ現金拂込書ニ邦貨額ヲ記載シ外國貨幣額ヲ傍記スルヲ要シ而シテ之レカ現金送付不能ノ場合ハ一箇月分ヲ取纏メ爲替券ニ換ヘ現金拂込書ヲ添ヘ日本銀行ニ拂込ミ得ルモノトス

(註二二三) 會計規則三十三條領收證書及歳入徴收官ニ對スル收納清報告書ノ様式ハ大正十一年三月大藏省令二十號諸帳簿等ノ様式ニ依ル(註二一四)大正十一年一月大藏省令二號出納官吏事務規程十三條乃至十七條

旅客携帶品ノ關稅及關稅法第三十一條但書ニ掲ケタル貨物等ノ關稅ハ貨物ヲ檢査シタル官吏カ直ニ關稅ヲ徴收スルトキハ他ノ官吏若ハ公吏ノ立會アルヲ要シ其ノ立會者ノ證明ヲ受ケテ稅關ニ報告スヘキモノトス(註二一五)此ノ場合ハ概テ告知書ヲ發行スルコトナク口頭告知ニ依ルヘキヲ以テ違誤ナカラシメンカ爲メ設ケラレタル規定ナリ

(註二一五) 關稅五條、朝關稅五條

(b) 日本銀行ニ於テ歳入金ヲ收納スル場合ニ於テハ二途アリ一ハ直接納人ヨリ拂込ミテ受クル場合他ハ收入官吏ヨリ拂込テ受クル場合ナリ此ノ何レノ場合タルヲ問ハス其ノ拂込テ受ケタルトキハ領收證書ヲ納入又ハ拂込人ニ交付シ領收済ノ旨ヲ歳入徴收官ニ報告スヘシ(註二一六)

(註二一六) 會規三五條(朝鮮)大正十一年四月訓令第二二號關稅噸稅及稅關雜收入取扱規程

(c) 收入官吏又ハ日本銀行ニ於テ證券ノ納付ヲ受領スル場合其ノ受領方及受領後ノ整理保管ニ關シテハ大正五年大藏省令第三十二號『證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律施行規則』ニテ定メラレタリ

(d) 郵便物ニ關シテハ名宛人ハ郵便局ヨリノ稅付郵便物到着通知書ニ依リ貨物ヲ受取ラムトスルトキハ其ノ税金ニ相當スル收入印紙ヲ該通知書ニ貼付シテ郵便局ニ提出シ郵便局ハ之レヲ當該貨物ニ對シ課稅シタル稅關ニ送附スルモノトス(註二一七)

(註二一七) 關稅七條八條、朝關稅六條七條八條

(ハ) 歳入徴收官ハ徴收報告書ヲ作成スルコトヲ要ス

歳入徴收官ニ於テ徴收シタル關稅ハ以上所論ノ如クニシテ國庫ニ入ルモノナルカ歳入徴收官タル稅關長ハ徴收簿ニ依リ徴收報告書(註二一八)ヲ調製シ歳入金月計對照表ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ歳入事務管理廳(歳入事務管理廳内地ニアリテハ直ニ大藏大臣ナルモ朝鮮、臺灣、關東州、南洋群島ニアリテハ夫々其ノ長官トス)ニ報告スヘキモノニシテ之レニ依リ歳入徴收官ヲ監督スルモノトス(會規三七條)而シテ歳入事務管理廳ハ徴收報告書ニ依リ毎月徴收總

報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添へ其ノ翌月中ニ之レヲ大藏大臣ニ送付スルモノトス(會規三八條)歳入徴收官ハ徴收簿ヲ添へ歳入ノ測定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スルコトヲ要ス。歳入事務管理廳ハ歳入簿ヲ備へ歳入ノ豫算額、測定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スルヲ要ス(註二一九)

(註二一八) 様式ハ大正十一年三月大藏省令第二十號『會計規則及特別會計規則ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ様式及記入ノ方法並書類ノ様式』ヲ以テ定メラレタリ

(註二一九) 會規一五四條一五五條

(二)日本銀行ハ國庫金ノ出納報告書ヲ大藏大臣ニ提出スルヲ要ス。亦會計検査院ノ検査ヲ受クル爲メ國庫金ノ出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ之レヲ大藏大臣ニ送付シ大藏大臣ハ此ノ計算書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スルヲ要ス。而シテ政府ノ爲メニ取扱フ現金又ハ有價證券ノ出納保管ニ關シ政府ニ損害ヲ與ヘタル場合ニ於ケル日本銀行ノ賠償責任ニ付テハ民法及商法ノ規定ニ依ルモノトセラル(註二二〇)

(註二二〇) 會規一四八條乃至一五一條

日本銀行ノ備フヘキ帳簿ニ付テハ會計規則第六十條ノ定ムル所ナリ

第三款 關稅ノ擔保

一、關稅ハ貨物引取ノ際納付スルヲ原則トスルコト既述ノ如シ然レトモ關稅行政上關稅未納ノ狀態ニ於テ輸入貨物ヲ引取ルシメ其ノ貨物ノ關稅ニ代ルヘキ擔保 (Security; Sicherheit; securité) ヲ提供セシムル制度存ス而シテ將來關稅不納ノ場合ニ於テ之レヲ以テ充當セムトスルニ在リ之レ玆ニ論セムトスル所ナリ。

二、關稅ノ擔保ヲ認ムルニ二個ノ態樣アリ一ハ現在發生セル關稅納付義務ニ對應スルモノニシテ他ノ一ハ將來發生スルコトアルヘキ關稅納付義務ニ關スルモノナリ後者ノ例ハ私設保稅倉庫及稅關貨物取扱人ニ關シテ認ララル此ノ法律

上ノ性質ヲ案スルニ納稅義務發生ノ原因タルヘキ事實ハ未タ存在セサルモ納稅義務カ發生スヘキ原因即チ貨主ニ代リテ關稅ヲ納付スヘキ責任關係カ既ニ客觀的ニ存在シ將來生スルコトアルヘキ公ノ債權タル關稅ノ擔保ノ爲メニ擔保權ヲ設定スルモノナルニ因リ私法上ノ根抵當ニ相當スルモノナリト云フコトヲ得ヘシ稅關ニ提供スル擔保物ハ現在スル又ハ將來スルコトアルヘキ關稅ノ擔保ノ爲メセラレ而シテ之レハ供託局又ハ政府ノ指定スル倉庫業者カ政府ニ代リテ占有スルモノナル點ヨリ私法上ノ擔保權ト何等異ナル所ナシ故ニ余輩ハ之レヲ公法上ノ質權 (Public Legal Pledge; Öffentlich-rechtliches Pfandrecht; Loi de) ナリト解セムトス。

三、擔保ヲ提供シテ關稅未納ノ貨物ヲ引取ル場合左ノ如シ。

(一)關稅法第二十四條但書ノ場合

輸入貨物ハ關稅ヲ納付シ之レカ輸入免許ヲ得タル後ニ非ラサレハ引取ルコトヲ得サルモノナルカ稅關官吏ノ認許ヲ得テ稅金ヲ擔保トシテ金錢ヲ提供シタルトキハ其ノ引取リヲ爲スコトヲ得ルモノトス而シテ其ノ如何ナル場合ニ認許スヘキカニツキテハ法規ニ之ヲ定メサルヲ以テ全ク稅關官吏ノ認定スル所ニ依ルヘキモノナルモ行政慣例トシテハ左ノ如シ

(イ)異議申立ヲ爲シタル場合(第四章第四節第八款)

(ロ)鑑査上日時ヲ要スル場合即チ輸入品ノ品質鑑定上分析ヲ要スルモノ又ハ數量價格ノ査定若ハ擬率ノ爲メ時日ヲ要スルカ如キ場合ニシテ多クハ稅關内部ノ都台上引取リ能ハサル事由存スルヲ以テ免許前ノ引取ヲ認ムルモノナリ

(ハ)天災其他不可抗力ニ因リ製産原地證明書未着又ハ同證明書ノ不備ヲ補足スル爲輸入申告ト同時ニ之レヲ提出スル

コト能ハサル場合

(ニ)一箇ノ機械ヲ構成スヘキ部分品カ輸入ノ時ヲ異ニスルモノニ對シ一個ノ機械トシテノ稅率適用ヲ受ケムトスル場合

(ホ)其他税關ニ於テ已ムテ得サル事由アリト認メタル場合

之ヲ要スルニ是等ノ場合ハ輸入申告者ニ於テ正規ノ課税ヲ受ケムトスルモ課税上ニ疑義アルカ課税上ノ参考トナルヘキ物ノ欠缺シ而カモ迅速ニ引取ヲ要スルカ如キ場合ナリ而シテ是等ノ場合ニハ必然的ニ課税サルヘキモノナレハ之レカ擔保モ金錢ノミニ限ラレ直ニ關稅ニ充當シ得サル國債證券ヲ認メサルモノナリ

(二)關稅法第三十九條保稅運送ノ場合

輸入手數未濟外國貨物ヲ保稅運送スル場合ニ於テ税關ハ必要ト認ムルトキハ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得ルモノトス輸入貨物ニ付キ行ハルル通關手續ハ可成當該貨主ノ所在地若ハ最寄地ノ税關ニ於テ爲スヲ便利トスヘク從ツテ其ノ貨物ノ陸揚地ニテ必スシモ輸入手數ヲ爲サス他ノ保稅地域又ハ保稅倉庫若ハ保稅工場ニ輸送セラルルモノトス是等ノ場合ニ於テ陸揚地ノ税關ニ於テ納稅セシムルハ當事者ニ執リ不便若ハ不利ナリ殊ニ輸入ノ意思ヲ變更シテ更ニ外國ニ積戻サムトスル場合ニハ然リトスル斯ル場合ニ處スル爲メニ認メラレタルモノカ則チ保稅運送制度トス而シテ之レカ運送ノ途中ニ於テ輸入サレ或ハ當該貨物ヲ差換ヘ或ハ數量ヲ減少セシムル等ノ虞アル場合ハ税關官吏ノ認定ニ依リ擔保ヲ提供セシムルコトトナシタルモノトス

擔保ヲ提供セシメ得ルハ輸入有稅品ノ場合ナルヘシ何ントナレハ此ノ場合ニ於ケル擔保ハ關稅未納ニ備ヘルモノナレハ無稅品ニ對シテ爲スノ要ナケレハナリ然レトモ有稅無稅ノ區別ハ運送先税關ニ於テ檢査ノ上確定スヘキモノナレハ發送地税關ニ於テ之レヲ豫定スルハ妥當ナラサル嫌アリ故ニ發送地税關ニアリテハ前述ノ如キ輸送途上ニ於ケル紛失、減量、差換等ノ虞アリト思料スル場合ハ其ノ豫定スル所カ有稅タルト無稅タルトヲ問ハス擔保ヲ提供ヲ爲サシムルヲ可トスヘシ

此ノ擔保提供ノ問題ハ關稅法第三十九條ノ五ニ掲ケタル難破貨物等ヲ不開港ヨリ運送スルコトヲ警察官吏ニ於テ認許スル場所ニハ適用ナキモノト解ス何ントナレハ關稅法第三十九條ノ場合ニ於テノミ『税關ハ...提供セシムルコトヲ得』トセルニ係ハラス第三十九條ノ五ノ場合ニ於テハ此ノ定メナケレハナリ

(三)保稅倉庫法第九條ノ場合

輸入手數未濟貨物ヲ保稅倉庫若ハ保稅倉庫ヨリ運搬スルトキハ同様輸入税ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得ルモノトス

(一)ノ場合ニ於テハ必然的ニ課税サルヘキ運命ヲ有スルヲ以テ其ノ擔保ハ金錢ニ限ラレタルモ(二)及(三)ノ場合ニアリテハ積戻又ハ再度ノ庫移等ノ場合ヲモ含ムヲ以テ運送先ニ於テ輸入引取ヲ爲スヤ否ヤ不確定ナルヘク從テ其ノ擔保ハ金錢ノ外國債ヲモ認メラル(註三三三)

(註三三三) 關稅十條、朝關稅十條

(四)關稅定率法第八條ノ場合

既ニ述ヘタル如ク輸入ノ日ヨリ一年以内ニ再ヒ輸出スルモノニハ輸入税ヲ免スルモノナルカ此ノ場合ニ於テモ其ノ輸入ノ際ニ税金ニ相當スル擔保ヲ提供スルコトヲ要スルモノトセリ

本條ノ場合ニハ法文ニハ『提供セシムルコトヲ得』トセルモ行政慣例ハ絕對ノ提供ヲ要ストス蓋シ本來ナレハ課税サルヘキ物品ヲ國內ニ於テ一箇年間モ免除ノ状態ニアラシムルヲ以テ相當取締ヲ要スヘキモノナレハナリ

(五)關稅定率法第九條ノ場合

既ニ述ヘタルカ如ク輸入原料品ニシテ命令(勅令)ヲ以テ指定シタル輸出品ノ製造ニ使用スルモノニハ其ノ輸入税ノ全部又ハ一部ノ免除又ハ拂戻ヲ爲スモノナルカ此ノ場合ニ於テモ拂戻ノ場合ヲ除キ原料品ノ輸入ニ當リ税金ニ相當スル擔保ヲ提起セシムルコトト定メラレタリ而シテ此ノ場合ニ於テ必ス擔保ヲ提供セシムルノ慣例ナリ

(六)保稅倉庫法第二十一條ノ場合

私設保稅倉庫ノ庫主ハ其ノ保管スル貨物ノ輸入税ニツキ一切ノ責任ヲ有スルモノナルヲ以テ(保二〇條)其ノ營業